

50

50-9カ



1200501262865



始



50-94

別庫

2E65

藥學博士下山順一郎纂著

改正

增補

生藥學



梅嶺書院藏版



大正
2. 3. 12
購求

叙言

生藥學トハ何ソ、醫療ノ目的ニ供用セララル、天產物ヲ論スルノ學ニシテ專門藥學ノ各科中最モ緊要ノ位置ヲ領スル者ナリ。抑モ人類在テヨリ已來其疾病苦患ヲ免レントスル天然ノ性情ハ人類周邊ノ天產物ニ就テ治病回生ノ效アルモノヲ發見セリ、是レ實ニ生藥學ノ由來スル所ニシテ醫學藥學全般ノ基始ト稱スルモ不可ナラス、秦漢羅馬ノ古昔ヨリ科學勃興ノ今日ニ至ル迄儼然有要ノ一科トシテ醫理兩學科ノ間ニ介立スル者ハ生藥學ヲ措テ他ニ類例アルヲ見サルナリ。神農本經ブリニウス自然史ノ世ニ出テシヨリ後現今森嚴精密ノPharmakognosieヲ講究シ得ルニ至レル迄學統脈々トシテ東西ニ絶エス、歐洲自然科學ノ隆興スルニ當テハ動植金石ノ諸科及化學ノ一大部分ハ我生藥學ヨリ支分シテ各盛大ノ獨立學科ヲ形成セリ、曩ニ生藥學ノ支流タリシ、博物理化ノ諸學ハ今復タヒ其原泉ニ還注シテ益深

渾ノ勢ヲ増大セシム其關係亦奇ナラスヤ。人或ハ云ハン今日化學ノ
 進歩ハ生藥有效分ノ抽出ニ躡踏セス且人工ヲ以テ無數ノ良藥ヲ製
 出ス、生藥學ノ如キ復タ講究ノ價值ナシト、是レ所謂瞎視者ノ言ノミ。
 吐根、阿片、ヂギタリス、ベラドンナノ如キ至貴至要ノ藥物ト雖トモ或
 ハ有力成分ノ不明ナルモノアリ、或ハ化學成分ヲ以テ之カ醫效ヲ全
 表シ能ハサルモノアリ、其他第二流ノ生藥ニ至テハ到底化學品ヲ以
 テ代用スルヲ得サルモノ蓋シ數フルニ違アラス、況ンヤ宇内ノ交通
 益、開ケ近來東亞南米ノ遐陬ヨリ醫藥社會ニ現ハル、新生藥ノ數未
 タ必スシモ化學者ノ實驗場ヨリ出ツル新化學藥ノ數ニ讓ラサルニ
 於テヲヤ、故ニ吾藥學ヲ専門トナスノ士ハ甲ニ偏セス乙ニ倚ラス此
 生藥學ノ一科ノ如キ最モ精密ノ研究ヲ遂ケサル可カラス。本書ヲ刊
 行スルニ臨ミ聊カ燕言ヲ附シテ後進者ノ注意ニ供ス。

藥學博士 下山順一郎 識

生藥學

例言

一本書ハ藥學生徒ヲシテ生藥學講習ノ指導ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ著作セル者ナ
 リ、而シテ生藥學ハ專ラ植物自然分科ノ系統ニ憑據シテ論述スル者アレトモ本書ハ
 講習上ノ便宜ニ由リ植物部分ノ區別ニ據テ生藥ヲ類列ス、即チ本書ヲ上下二卷ニ分
 チ更ニ上卷ヲ七章トナシ隱花植物ノ生藥類、根類、球根類及葱根類、根莖類、木類、皮類及
 草卉類ヲ舉ケ下卷ニハ葉類、花類、果實類、種子類、護謨類、樹脂類等ノ各章ヲ論シ最終ノ
 一章ニハ源ヲ動物界ニ資ル所ノ生藥類ヲ掲ク。

一本書ハ恩師フリョッキーゲル氏著述生藥學ヲ標準トシ傍ラマルメー、ヨット・メルレル、ハ

Fritschiger

Marras

J. Moeller

ーゲル、マイエル等諸氏ノ著書ヲ參照シテ纂著シタルモノナリ、其所說專ラ簡明ヲ主

Hager

Mayer

トシ各藥顯微鏡的構造ヲ成ルヘク之ヲ記載シ顯微鏡ヲ使用法指導ノ注意ヲ施セリ
 而シテ本邦及支那ニ産スル生藥即チ和漢藥ニシテ日本藥局方ニ掲クルモノハ盡ク
 之ヲ記載シ其他藥局方規定ノ生藥ト親密ノ關係アル和漢藥類ハ當該生藥ノ下ニ附
 記セリ。

一本書ノ目的ハ専ラ日本藥局方規定ノ生藥類ヲ論述スルニ在レトモ新規ノ生藥類其
他藥局方ニ掲ゲサルモ目下尙ホ醫藥ニ供用セラル、者或ハ工業上樞要ナル生藥類
ハ成ルヘク之ヲ登載スルノ注意ヲ取レリ。

一各生藥ニ對シ其上欄ニ於テ獨英佛三國ノ通名ヲ掲ケ、又人名ノ右側ニハ一線、地名ニ
ハ二線ヲ附シ傍ラ原字ヲ記シテ音讀ノ誤謬ヲ避ケシム且ツ化學的的成分中必要ナル
モノニハ原名及記號ヲ附記セリ。

一各章生藥類ノ首メニハ各、其普通ノ標徵ヲ概論セリト雖モ本書ノ目的ハ素トヨリ簡
明ヲ主トスルカ故ニ其意義ヲ曲盡セサルノ點ナキニアラス讀者若シ植物學上ノ疑
點アラハ下山ノ藥用植物學、丹波高橋柴田三氏ノ普通植物學等ノ如キ植物書ニ就テ
之ヲ質スヘシ(明治二十二年十一月)。

改正増補第二版緒言。

一本版ニ於テハ全篇周密ノ改訂ヲ施シタル上、ラミナリア・ラクムス・アングリカ根・白芷・オノニス根・ラタニア根・
さいはい蘭(本邦產サレップ)・ヒドラスチス根・黃連・黃芩・アルニカ根・キラヤ皮・カスカラサゲラゲ・メリロート草セ
ンタウリウム草・當藥・チームス草・セルピル・ム草等ノ新條ヲ補入シ又改正日本藥局方ニ適應スルノ注意ヲ
施シ新圖畫ヲ増加シ茲、此學ヲ講究スルノ便宜ヲ與ヘンコトニ注意セリ(明治二十五年二月)。

訂正第三版緒言。

一最ニ充分ノ改正増補ヲ經タル本書第二版頃口販了ヲ告ケ書肆第三版ノ發行ヲ請フ依テ全書丁寧ノ訂正ヲ
施シ茲ニ再ビ世ニ問フ(明治二十七年十月)。

訂正第四版緒言。

一本版ニ於テハ全書ノ體裁ヲ改良シテ頁面ヲ擴大シ文字圖式ヲシテ一層鮮明ナラシメ以テ益々講習本タルノ
効果ヲ完ウ・センコトヲ期シ又卷尾ニ於テハ和漢藥ノ畧目ヲ附シテ本邦ニ於ケル生藥學ノ區域ヲ開拓スル
ノ端緒ヲ示セリ(明治二十九年十月)。

訂正第五版緒言。

一本版ニ於テハ特ニ藥學士大島太郎君ニ託シテ全篇ノ訂正及増補ヲ遂ケ本書ヲシテ益々新學講習ノ目的ニ副
ハシメンコトヲ期シ就中必要ノ圖畫ヲ増補シ構造上ノ説明ヲ擴充セリ(明治三十四年五月)。

訂正第六版緒言。

一本版ニ於テハ全編周密ノ校訂ヲ經タル上卷末ニ稀用生藥即チ稀ニ應用セラル、新舊生藥ノ概目ヲ加入シ
テ學着參考ノ便ニ供セリ前版發行後年月比較的ニ短キヲ以テ本文ニ於テ著大ノ改正ヲ加フルノ必要ヲ見
サリシナリ(明治三十六年十一月)。

改正第七版緒言。

一本版ニ於テハ各章丁寧ノ改訂ヲ遂ケ原名ニ音便ノ漢字ヲ充用シタル者ハ盡トク假名ニ改メ必要ノ圖畫ニ
十餘箇ヲ増補又ハ改正シ二三重要ノ生藥ヲ添加シ改正増補第七版トシテ發行セリ(明治三十八年十月)。

改正第八版緒言。

一 客歲第三改正日本藥局方發行セラル、ヤ殊ニ多數ノ生藥ヲ收録シ且ツ各生藥ノ顯微鏡的性徴ヲ記載セラル
レタレバ本版ノ發行ニ際シ靈トク之ニ適合スベキ著大ノ改訂ヲ施シ頁數三十餘ヲ増シ茲ニ改正第八版ト
シテ世ニ問フ(明治四十年四月)。

改正増補第九版緒言。

一本版ニ於テハ全篇精密ノ訂正ヲ經タル上重要ナル生藥ニハ粉末ノ顯微鏡的検査ノ記事及圖畫(エル、コッホ
氏ノ卓絶ナル著書ニ據ル)ヲ加ヘ仍ホ若干ノ本邦產生藥ニ其肉眼的及顯微鏡的記載及圖畫ヲ増補シテ益々本
書ノ完全ヲ期セリ(明治四十一年三月)。

改正増補第十版緒言。

一本版ニ於テハ特ニ生藥標品ヲ撮影シテ其寫眞圖ヲ附加シ仍ホ全篇周蜜ノ訂正ヲ施シ更ニ二三本邦產生藥
ノ顯微鏡的記述ヲ増加セリ此第十回ノ改版モ亦生藥學講習書タル本篇ノ價值ヲ添フルニ足ランカ(明治四
十二年八月)。

改正増補第十一版緒言

一本版ニ於テハ二三ノ生藥ヲ増加シ本年一月發行獨逸藥局法第五版ニ倣ヒ必要ナル
生藥類記載ノ改訂ヲ施シ且ツ周蜜ニ誤謬ヲ訂シ大ニ本篇ノ面目ヲ改メタリ。

明治四十四年十二月

著者識

生藥學上卷目次

第一章 隱花植物類ノ生藥

カラゲーン 愛蘭苔	一
ラミナリア	七
麥角	九
瘡蕈	一六
落葉松茸	一八
イスランド苔	一八
ラクムス	二二
石松子	二五
綿馬根	二九
第二章 根類	
サルサ根	三六
サツサフラス木 サツサフラス根木	四〇

コロソバ根	四三
アルテア根	四七
黃蜀葵根	五三
蜀葵根	五五
セネガ根	五六
遠志	六〇
アングリカ根	六二
白芷	六五
オノニス根	六九
甘草 西班牙甘草	七一
露西亞甘草	七五
支那産甘草	七六
ラタニア根	七七
ペラドンナ根	八〇
ゲンチアナ根	八二
龍膽	八六

吐根……………九〇

ゲルゼミウム根……………九九

蒲公英……………一〇二

第三章 球根類及葱根類

ザレップ根……………一〇七

さいはい蘭父母菜……………一一一

アコニット根 烏頭、雙鬘菊根……………一一三

草烏頭……………一一八

白川附子……………一一九

勝山附子……………一二一

川烏頭……………一二一

大附子……………一二一

ヤラッパ根……………一二二

牽牛子……………一二七

オリウアバ根……………一二八

スカンモニア根……………一二八

海葱……………一二九

第四章 根莖類

白藜蘆根……………一三四

黑藜蘆根……………一三七

菖蒲根……………一三八

イリス根……………一四二

菘蓐 ツェドアリア根……………一四五

生薑 薑根……………一四八

良薑……………一五二

薑黃 鬱金……………一五五

大黃 支那産大黃……………一五七

唐大黃……………一六四

英國産大黃……………一六四

埃國産大黃及匈牙利産大黃……………一六五

佛國産大黃……………一六六

日本産大黃……………一六六

ポドフィルム根……………一六七

ヒドラスチス根……………一七〇

黄連……………一七三

莨菪根……………一七六

纈草根……………一八〇

アルニカ根……………一八六

セルペンタリア根……………一八九

高陸……………一九〇

牛皮消 いげま……………一九四

第五章 木類

瘡瘡木……………一九五

クワツシア木……………一九九

ジャマイカクワツシア木……………一九九

スリナムクワツシア木……………二〇一

日本クワツシア木 黄楸樹……………二〇二

紫檀 赤檀木……………二〇四

白檀 檀香……………二〇六

沈香……………二〇六

伽羅……………二〇七

フェルナンブッコ木 ブラジル木……………二〇七

蘇方木 蘇木……………二〇九

カムペシア木 ロックワード……………二〇九

第六章 皮類

桂皮 支那桂皮……………二一三

東京桂枝……………二一六

廣南桂枝……………二一六

土州桂皮……………二一七

錫蘭桂皮……………二一八

フラングラ皮 ラムヌス皮……………二二〇

カスカラサグラダ皮 ラムヌスアルシヤナ皮……………二二四

カスカリラ皮……………二二六

コバルヒ皮	二二八
石榴皮	二二九
クエブラチョー皮	二三四
コンヂュランゴ皮	二三六
キラヤ皮	二四〇
キナ皮	二四二
黄色キナ皮(王キナ皮)	二五七
灰色キナ皮	二五七
赤色キナ皮	二五八
白瑞香皮	二六三
沒食子 アレゴ産沒食子	二六五
五倍子	二六八
枹 コルク	二七〇
印度大麻草	二七四
コニウム草	二七八

第七章 草卉類

メリロート草	二八〇
セントウリウム草	二八一
當藥 せんぶり草	二八三
蕒若草	二八五
ヒヨス草	二八七
チームス草 立癖香草	二九〇
セルピル、ム草 百里香	二九一
ロベリア艸	二九三
苦艾 アフシント草	二九五
カルドベネヂクト草 苦薺	二九七
サピナ	二九九
和漢藥略目	三〇二
稀用生藥(上)	三一九
植物系統ニ從フ生藥ノ序列	三二五
生藥學上卷目次終	

附録

生藥學 上

第一章

隱花植物類ノ生藥

Drogen der Kryptogamen.

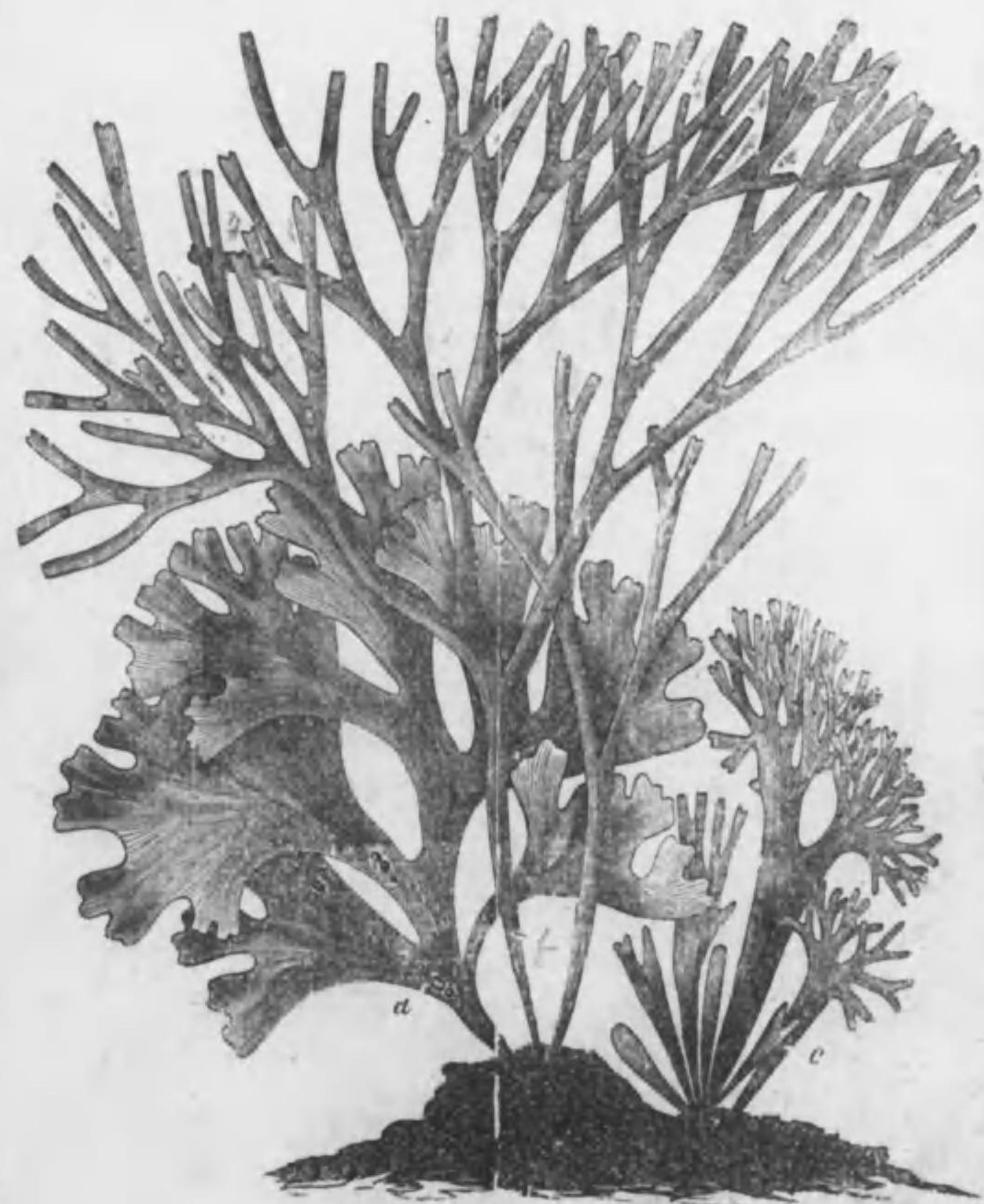
●カラゲーン Carrageen.

東京帝國大學醫科大學教授藥學博士ドクトル 下山順一郎 纂著

藥學士 大島太郎 増補

(獨) Carrageen. Irländisches Moos.
 (英) Carragen.
 (佛) Goémon.

(基原) カラゲーンハ愛蘭國タブリン市ニ於テハ一千八百三十一年、獨乙ニ於テハ一千八百三十七年ヨリ醫藥ノ用ニ供セリ、藻族 (Algae) 紅藻類 (Rhodophyceae) ニ屬スル植物ニシテ主トシテ Chondrus crispus L. 及 Gigartina mamillosa Agardh ノ二種ヨリ成ル、此二種ノ植物ハ大西洋北部ノ海岸ニ産シ殊ニ愛蘭英



第一圖

國ブリマウス及北米マサチューセツ州地方ニテ採集セラル、モノトス。

(形状) カラゲーンハ新鮮ナルニ當リ紫紅色(其色素ハ *Phykoerythrin*) 或ハ暗

綠色ヲ有シ其質粘滑膠様ニシテ之ヲ洗浣シ日光ニ晒白乾燥スルノ際淡黄色

半透明トナリ角質様ニ變ス、淡泊粘漿様ノ味及著シキ海臭ヲ有ス。

坊間ニ販賣スル品ハ多クハ *Chondrus crispus* ヨリ成ル此海藻ハ形状甚タ種々ニ

シテ海中ノ岩石ニ固着セル堆阜様

ノ擬根部ヨリ發生ス而シテ其全體

ハ扁平、廣サ十cmニ過キス長サ往々

之ニ二倍セルモノアリ、反復叉狀ニ

分岐シ其端齧ハ殊ニ之ヲ鹽水中ニ

第二圖



浸漬スルトキハ波動狀ノ卷縮ヲ現ハシ細微ニ缺裂シ或ハ睫毛狀ヲナス而シ

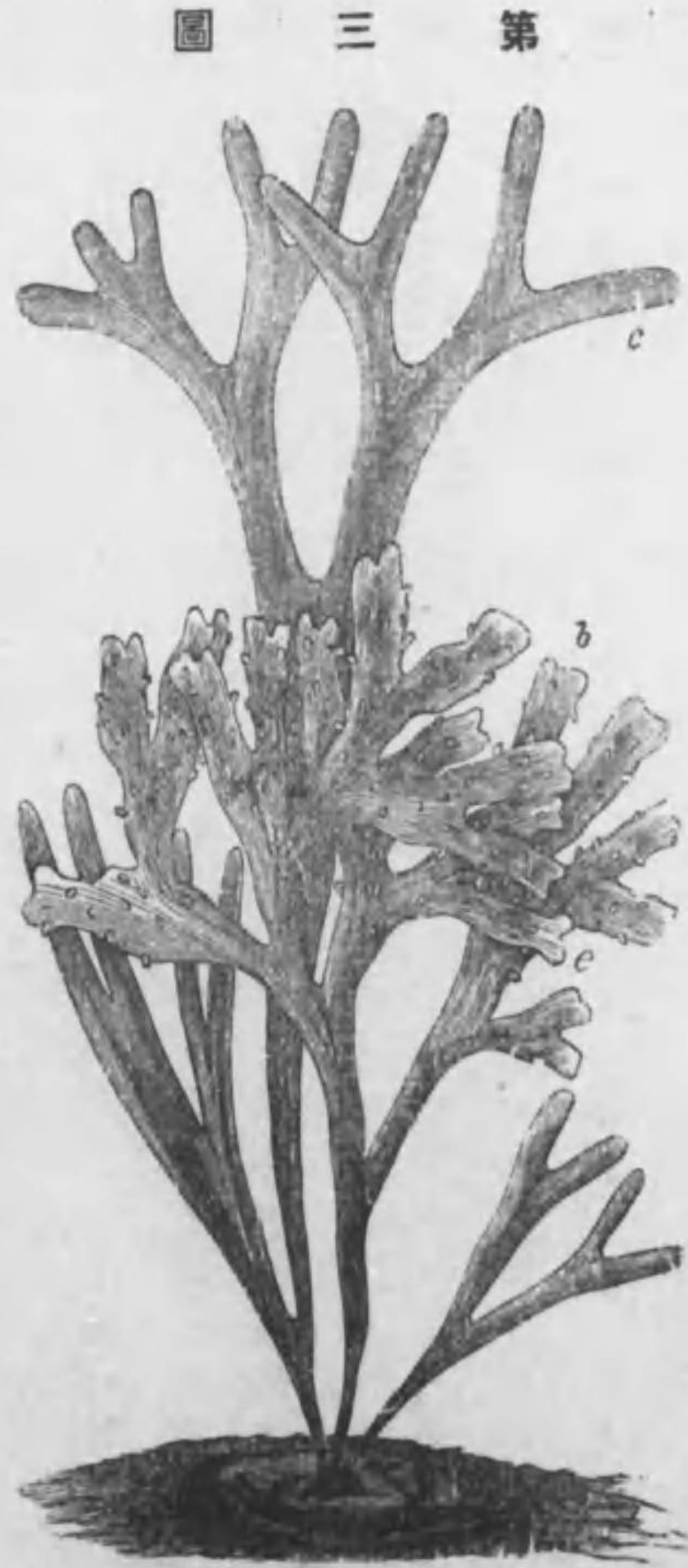
テ此海藻特異ノ微候ハ其胞果體(*Cystokarpion*)ノ形状ニ在リ即チ胞果體ハ *Chon-*

drus crispus ニ在テハ稍延長セル扁平疣贅狀ノ隆起物トナリ *Gigartina mamillo-*

ニ在テハ乳嘴狀ノ隆起物トナリテ無莖體ノ分枝ニ着生シ其裏面ハ之ニ應ス

ル部位ニ細小圓形ノ凹窩ヲ現ハス。

第一圖ハ Chondrus crispus ノ全體ニシテハ胞果ヲ帶フル本植物、a 及 c ハ幼稚ナル Chondrus 屬ノ植物トス、第二圖ハ其胞果體ヲ示スモノナリ。
Gigartina manillosa ハ其形狀稍 Chondrus crispus ト異ニシテ端齒ハ或ハ廣ク或ハ



第三圖

狭ク下面ハ大抵槌狀ヲナス、果實即チ胞果體モ亦其形ヲ異ニス右ニ述ブル如ク乳嘴狀ヲナス第三圖ハ Gigartina manillosa ニシテ第四圖ハ其胞果體ナリ。カラゲーンハ其一分ニ水三十分ヲ注ケハ粘滑トナリ更ニ煮沸スレバ冷後頗

ル濃稠ナル粘漿ヲ生ス。

(成分)

カラゲーンハ Pararubin (C₆H₁₀O₆) ト稱スル粘液八十%ヲ含有ス此粘液

ハ眞性粘液素ニ屬シ硝酸ヲ以テ之ヲ酸化スレバ少量ノ捲酸ノ外多量ノ粘液酸 (Schleimsäure) ヲ生シ硫酸及ヨードニ逢フモ藍色即チ植物纖維素ノ反應ヲ呈セス本粘液ハ其水溶液ヨリ酒精又ハ鉛糖ニ由テ沈澱シ乾燥セシムレバ角質様ノ物質トナル、カラゲーンハ蛋白質ノ含量六

第四圖



三%チャーチ氏ニ據レバ九三八%ニ至ル、其他少量ノヨード及ブロームヲ含ム、灰分ノ量十五%ノ多キニ至ル、又脂肪ヲ含有スレトモ僅少ニ過キス、澱粉ハ含有セラレス。

本邦ニハてんぐさト通稱シ寒天及まごころてんノ製造ニ使用スル紅藻類 Gelidium 屬ノ海藻 Gelidium cartilagineum Gree. 其他約四種アリてんぐさ類ハ、バルアラピンヲ含有スルコト本條ノ「カラゲーン」ト異ナルコト無キヲ以テ之ヲ代用スルヲ得ベシ、而シテてんぐさ類ヨリ製造スル

寒天ハ本植物ノ主要ナル成分タル「カルアラジン」ノ乾燥セルモノニシテ粘滑性包攝薬トシテ
應用スルニハ本條ノ生薬ニ懸レリ寒天ハ歐洲ニ於テハ糊劑等トシテ用ユルノ外 *Agar-Agar* ト
稱シテ細菌ノ培養基トナス。

(試験) 本品一分ニ水五分ヲ加ヘテ平等ニ濡ホシ濾過シテ得タル液ハ「ラク
ムス紙ヲ赤變ス可カラス(遊離酸)」。

本品五グラムヲ内容約百五十立方センチメートルノ廣頸硝子壺ニ容レ水三
十立方センチメートルヲ加ヘ初メ室温ニ於テ後重湯煎ニ上セ微温ヲ施シテ
膨脹セシメ磷酸五グラムヲ注加シ枹杵ノ下端ニ「ヨード酸カリウム」澱粉紙ノ
濕潤セル條片ヲ挿メルモノヲ以テ寛ク硝子壺ノ上口ヲ塞キ注意シテ屢々搖動
シツ、重湯煎上ニ熱スルニ十五分時間以内ニ一時的或ハ持續的ノ藍色ヲ呈
ス可カラス(亞硫酸ヲ以テ脱色セシメタルモノナル可ラサルヲ證ス)本品ヲ灰
化スルニ百分ニ付キ十六分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラス。

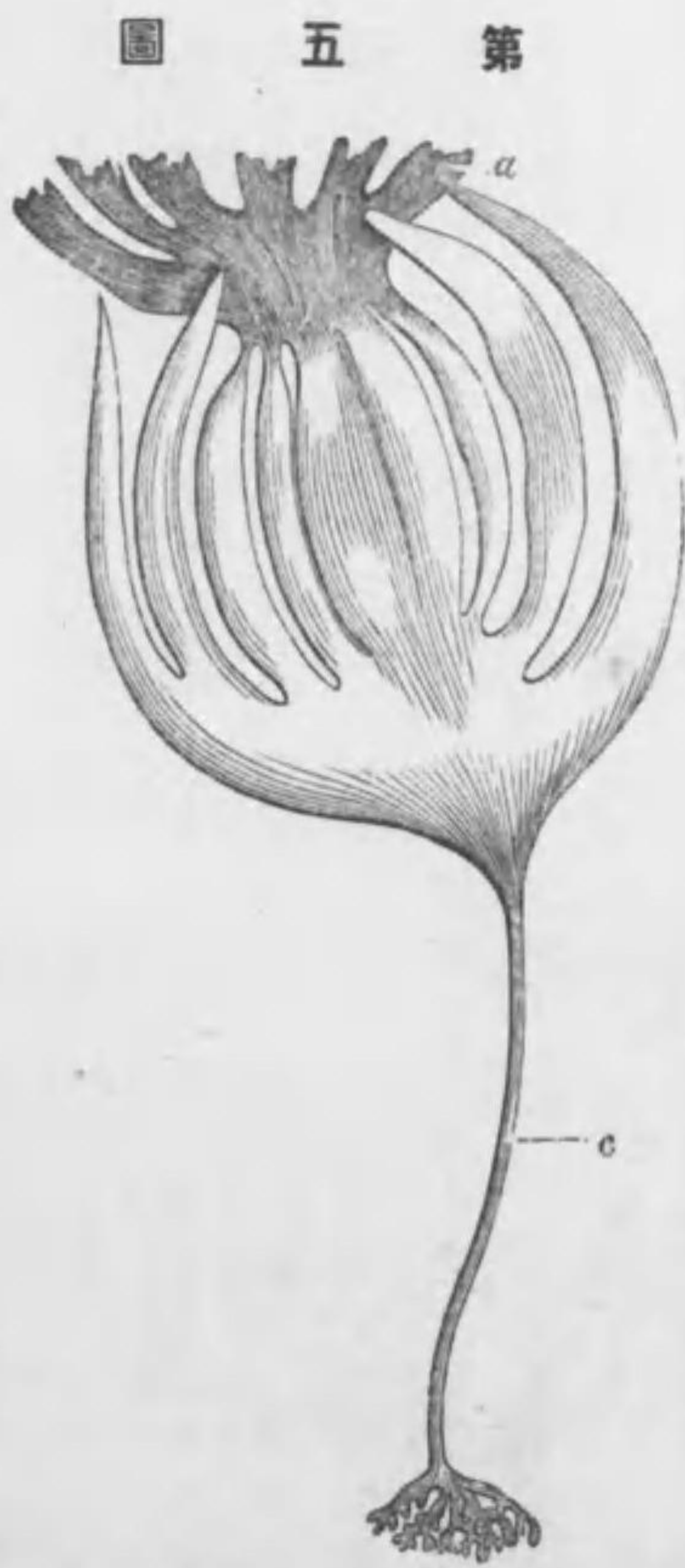
(應用) カラゲーン「ハ粘滑薬トシテ用ユ普通ハ煎劑 (C. 120) 又ハ凝漿トナシテ與フ砂糖牛
乳又ハ葡萄酒ト共ニ用ユ工業上糊劑トナシ又ハ酒類ヲ澄明ナラシムルニ用ユル等其用途甚々
汎シ。

(獨) Laminaria.
(英) Thong-fucus.
(佛) Laminaire.
ラミナリア

● ラミナリア *Laminaria. Stipites Laminariae.*

(基原) ラミナリア「ト稱シテ醫療ニ供スルモノハ主トシテ褐藻類 (Phaeophy-
ceae) ニ屬スル昆布ノ屬海藻 *Laminaria Cloustoni Ekenston* (*Laminaria digitata Lamour.*)
ナリ此海藻ノ醫療ニ供スル部分ハ其軸部トス此軸部ハ其組織間ニ大ニ水ヲ
吸收シテ膨大スル性アルニ由リ外科及婦人科ニ於テ狹窄部及創孔ヲ擴張セ
シムルニ用ユ本海藻ハ大西洋及太平洋ノ岩石性海岸殊ニ英國、冰洲、諾威、グ
ーランド等ニ産ス。

(形状) *Laminaria Cloustoni Ekm.* ナル海藻ハ長サ二mニ至リ下部ハ太サ四cm
ニ至ル莖狀ノ長軸ヲナシ上部ニ至レバ扁平ニ擴展シ葉狀ヲナシ「オリブ」様
綠色ナル不定數ノ瓣片ニ分レ、次年ニ至レバ軸部ノ上擴張部ノ下ヨリ新葉
ヲ生シ仍ホ暫時ハ其頂ニ枯死セル舊葉ノ暗褐色ナルモノヲ戴ク、**第五圖**ハ大
ニ縮小セル該海藻ノ全形ニシテaハ古葉ノ殘基、bハ新葉、cハ其軸狀部ヲ示
ス、而シテ「ラミナリア」ノ名ヲ以テ外科術ニ供用スル者ハ此海藻ノ軸狀部ニシ
テ圓環形ヲナシ或ハ稍壓扁セラレ長サ數dm太サ一cm餘ニ至リ其色ハ暗褐色



第五圖



第六圖

外面ニハ著ルシキ縦皺ヲ有シ鹽類ニ基因スル粉霜ヲ帶ヒ角質様ナリ。
 第六圖ハ乾涸ラミナリアノ一片ヲ現ハス。
 ラミナリアハ之ヲ水ニ浸漬スレバ其原容ニ復シテ大約四倍大ニ膨脹シ軟骨
 狀トナリ類綠色ヲ呈スルニ至ル、又ラミナリアヲグリセリン及アルコホルニ
 浸ストキハ其組織中無數ニ支分セル罅裂ヲ現ハシ之ニ水ヲ附加スレバ其細

第七圖



胞内容物ニ由テ褐色ヲ呈スル皮部ヲ現ハシ中ニ粘液細胞
 ノ環列アリ、堅硬褐色ニシテ光澤アル髓様部ハ水ニ由テ最
 モ甚ダシク膨脹シ管狀厚壁性ノ細胞ヲ呈ス、第七圖ハ水ニ
 浸軟セルモノ、横截面ヲ現ハス細胞膜ハ總テ無色ニシテ
 内層ニ於テハ植物纖維素ノ反應ヲ呈シ外層及其細胞内容物ハ主トシテ粘液
 ヨリ成ル。

(成分) 其主成分ハ粘液ニシテ未タ其本性ヲ詳ニセス蓋シ「カラゲーン」ノ粘
 液ト同性ナラン、灰分ハ硫酸鹽、ブローム鹽、ヨード鹽ヨリ成リ比較的「ヨード」ニ
 富ム。

(應用) ラミナリアハ水ニ由テ著ルシク膨脹スルノ性ニ基ツキ生理的管狀部又ハ瘻管ヲ擴
 大スルノ目的ヲ以テ裁テ適宜ノ細片トナシ消息子、アノシ、等ニ供用ス。

本邦陸奥、陸中及北海道等ニハ多數ノ「ラミナリア」(昆布)ヲ産ス、即チ此等諸國ノ海濱ニ産スル
Laminaria japonica Arach. (あわこんぶ)・*Laminaria angustata Kjellm.* (みついしこんぶ)等ノ軸部モ亦右ノ用
 ニ供スルヲ得ベシ。

● 麥角 *Secale cornutum, Ergola.*

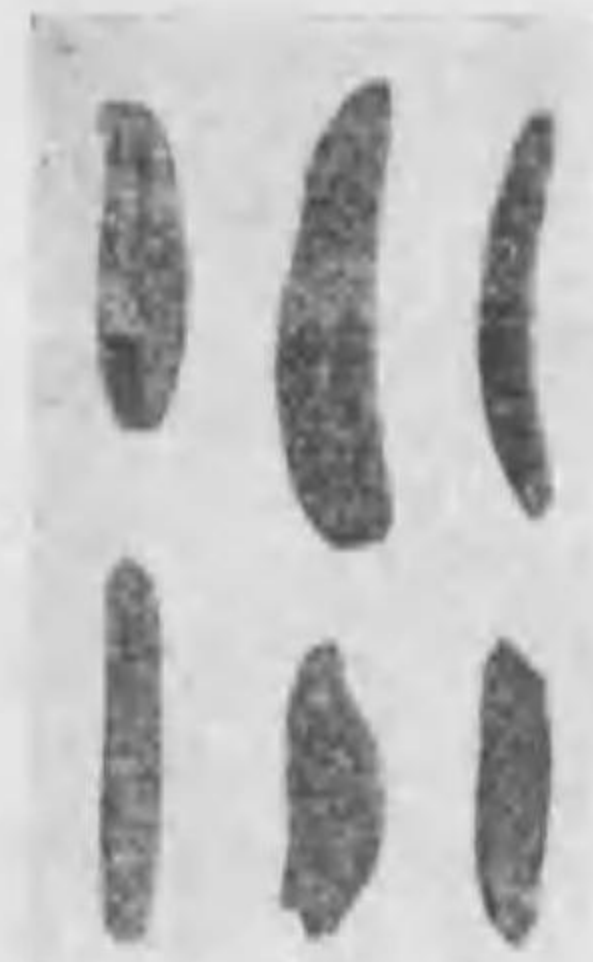
(獨) Mutterforu.
(英) Ergot.
(佛) Ergot.

(基原) 麥角ハ其由來最モ遠ク支那ニ於テハ已ニ古代ヨリ產科ノ目的ニ應用セリト云フ而シテ獨乙ニ於テハ近ク一千五百年代始メテ其止血ノ効力アルコトヲ知リ一千六百年代ノ末ヨリ之ヲ醫藥ニ供セリ。

麥角ハ子囊菌類 (Ascomycetes) ノ分科核菌科 (Pyrrenomyces) ノ菌 *Claviceps purpurea Tulane* ノ保積性菌體即チ菌核 (Sclerotium) ニシテ禾本科植物殊ニライ麥 (*Triticum cereale L.*) ニ寄生シ好ンデ雨露ノ多キ年ニ發生スルモノナリ而シテ露西亞南部、ガリチエン、西班牙西北部、マロコ等ノ諸國ハ最モ多ク之ヲ產ス。

(形狀) 麥角ハ其形狀畧、松魚節ニ類シ長サ十乃至三十五ミリメートル其最モ大ナルモノハ長サ六十ミリメートルニ至ル太サ二・五乃至五ミリメートル鈍三稜ヲ有シ多クハ少シク弧曲シ横裂ヲ現ハス、外面ハ暗紫色内部ハ白色ナリ往々其一端ニ分生芽胞ノ殘餘ヲ附着ス新鮮ナルモノハ弾力性ヲ有シ稍、屈撓スヘシ、乾燥スルニ從ヒ堅脆トナリ粉碎シ易キニ至ル其粉末ニ熱湯ヲ注加スレバ一種特異ノ臭氣ヲ發生シ又之ニ苛性アルカリヲ加フレバ醜

圖 八 第



醜

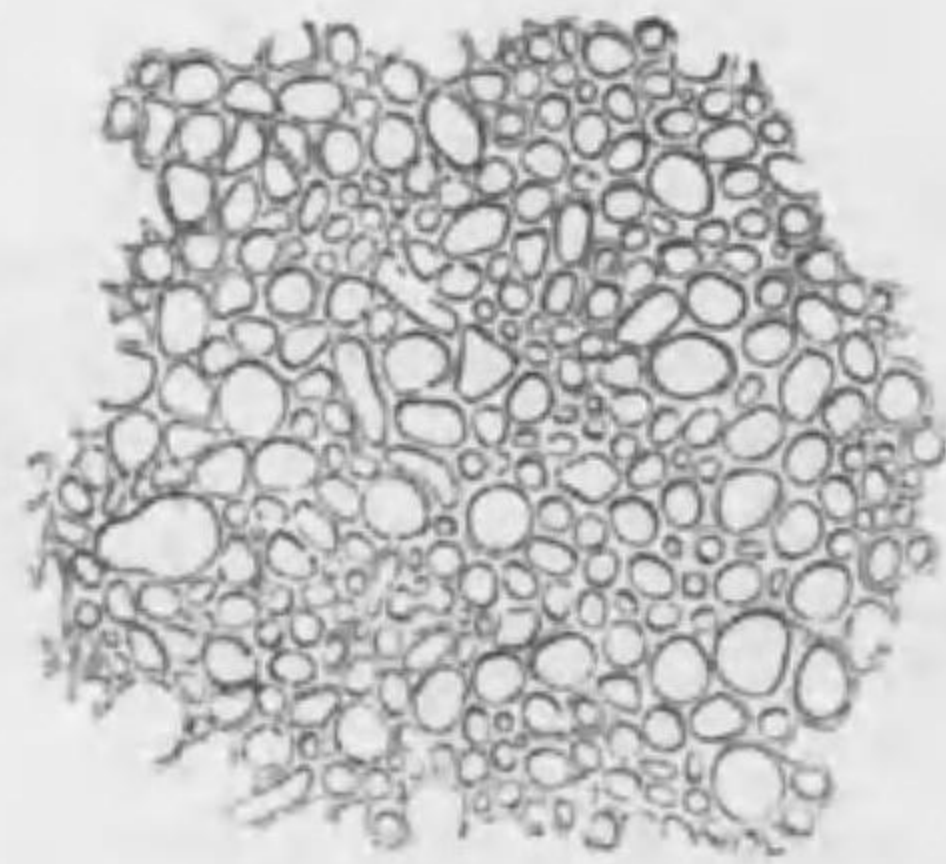
藏鯨魚ニ類スル臭氣(トリメチールアミン)ヨリ來ルヲ發生ス、味ハ初メ少シク甘ク後稍、苛烈ナリ、**第八圖**ハ其天然大寫真圖ニシテ種々ノ形狀ヲ有スルモノヲ示ス。

(顯微鏡的構造)

麥角ハ之ヲ横斷スルトキハ其皮部ハ暗紫色ノ外層ヲ現ハシ白色(或ハ淡紫色)ノ組織ヲ圍繞ス其横斷面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ内部ハ無色圓形ノ細胞ヨリ成リ夥シク油滴ヲ包有シ其細胞ハ甚々種々ニ彎曲セル皮膜ヲ具ヘ密ニ連接シテ胞間ヲ現ハサス(**第九圖**縱斷面ニ於テハ稍、延長シ著シク縱列ヲナシテ聯合スレトモ本來菌絲ノ觀ヲ呈セス而シテ外皮部モ亦圓形細胞ノ數列ヨリ成リ顆粒狀ノ物質ヲ包有ス。

麥角ハ其形狀ノ大小ニ由リ有効成分アルカロイ

圖 九 第



ドノ含量ヲ異ニス特ニ大ナルモノハ其含量寡ナシ、即チツエザール及ローレツノ兩氏ハ一千八百九十四年大ナル澳國產麥角中ニ於テアルカロイド〇・一七四%ト、〇・一九二%ヲ發見シ其小ナル者ニ於テハアルカロイド〇・二%ヲ發

見セリ、又此兩氏ハバツリア產麥角ノ大ナル品ニハ「アルカロイド〇・一〇八乃至〇・一三五ヲ檢出シ其細小ナルモノヨリハ「アルカロイド〇・一五〇乃至〇・一五三ヲ檢出セリ、ムジエン氏ハ大ナル諾威產麥角ニ於テ「アルカロイド僅ニ〇・〇〇九二%ヲ發見シ其小ナルモノニ於テハ〇・〇八七%ヲ發見セリ。

麥角ハ粉末トシテ貯フルキハ變敗シ易シ然レモ壓搾シ或ハ「エーテル等ニテ浸出シ脂肪油分ヲ除去シ又ハ石灰上ニ乾燥シテ貯フルキハ久シク之ヲ保貯スルコトヲ得、日本藥局方ノ規定ニ據レバ麥角ハ粉末トシテ貯フ可カラス。

麥角ハ上文ニ述ブルガ如ク禾木科植物(殊ニ「ライ麥)ノ穗中ニ發生スルモノニシテ藥用品トシテハ「ライ麥ニ寄生スル者ヲ取ル、他ノ禾木科植物ニ生スル麥角モ亦概テ同一種ニシテ其形状ニ大小アリ余ハ未ダ本邦ニ於テ本邦固有ノ大麥、小麥等ノ如キ穀類ニ於テ麥角ヲ發見セザリシト雖モ外國種ヲ用ヒテ本邦ニ栽麥セル「ライ麥及 *Brachypodium* (鶯穀) 屬及 *Phleum* (あわがへり) 屬ノ植物ニハ屢々之ヲ發見セリ。

往時ハ此生藥ヲ麥奴ト誤稱セリ、麥奴ハ俗ニくろんぼト唱ヘ麥角ト異ニシテ *Ustilago* 屬ノ菌類ヲ指スノ名アリ。

凡ソ麥角ノ發育ハ菌絲ノ發生ヨリ始マルモノニシテ麥角ノ芽胞ガ禾木科植物殊ニ「ライ麥ノ實體ニ寄生スルキハ茲ニ發芽シ菌絲漸ク發育スルニ從ヒ實體ヲ纏絡シ又其内部ニ侵入ス之

第十圖



ニ因テ實體ハ柔軟ナル白色ノ絨衣(菌絲ヨリ成ル)ヲ被ムリ此時尙ホ其頂端ニ蕊柱ヲ保存スルヲ常トス而シテ其絨衣即チ菌組織ノ上面ハ多數ノ罅溝ヲ現ハシ直徑線上ニ排列セル胚莖(Basidium)ニ分生芽胞(Konidium) (無雌雄性生殖ニ由テ生シタ芽胞)ヲ絞斷シ出スモノナリ(第十圖)從前ハ此發育期ニ於ケル麥角菌ヲ全ク一種ノ菌ト誤認シ之ニ *Sphaeria segetum* ナル名稱ヲ附セリ分生芽胞ノ結生漸ク終了スルトキハ實體ノ下部ヨリ漸次緻密ナル組織ヲ編成スルニ至ル之ヲ菌核(Sclerotium) Kelnerstein

第十一圖



(即チ本條ノ麥角)發育ノ始メトス而シテ其生長スルニ從ヒ暗紫色トナリ終ニハ上文ニ掲ケル觀ヲ呈スルニ至ル(第十一圖)ハ全ク生長セシ麥角ノ「ライ麥ニ着セル狀ヲ示ス此際前期ノ菌體即チ波ノ *Sphaeria segetum* ハ枯死シ麥角ノ頂端ニ冠帽狀ヲナシテ附着ス、茲ニ生育セル麥角ハ秋季ヨリ翌年春季ニ至ル迄ハ其發育ヲ休止ス此時ニ當リ之ヲ淺ク砂ニ埋メ時々水ヲ灌キ

圖二十第



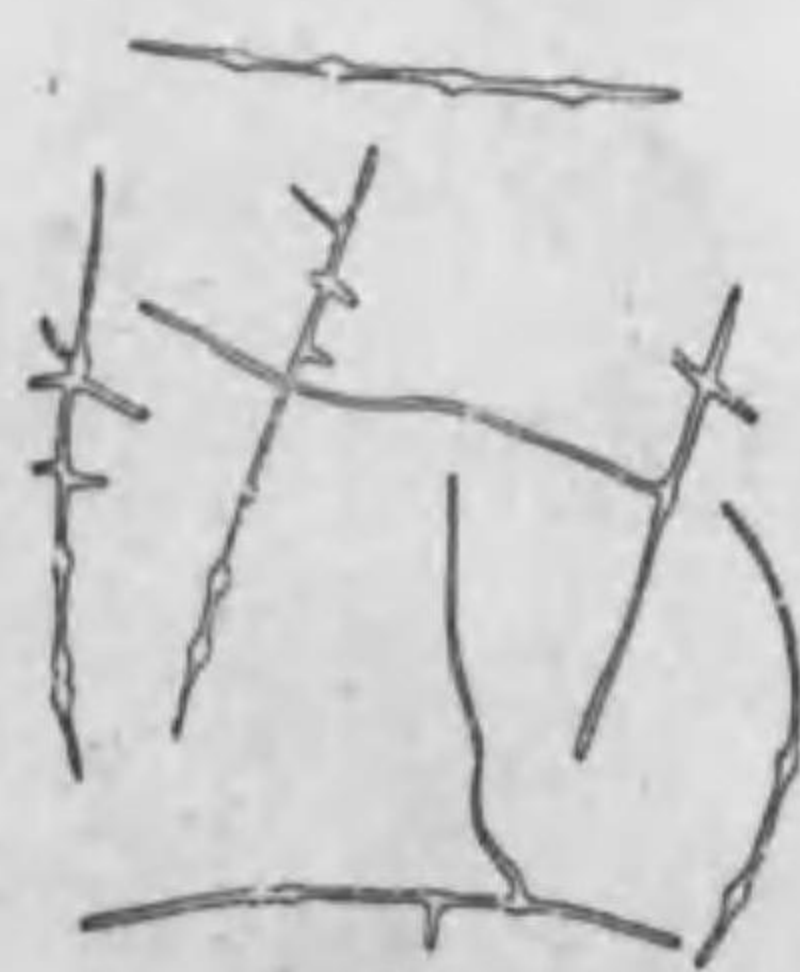
圖三十第



圖四十第



圖六十第



圖五十第



テ常ニ濕氣ヲ保タシムルトキハ麥角ノ皮下ヨリ菌莖ヲ出シ
(第十二圖)其頂端ニ小頭ヲ生シテ其頭中ニ壘子形ヲナセル芽
胞囊ノ多數ヲ包藏スル所ノ芽胞囊室(Perithecia)ヲ發生ス第
十三圖Aハ菌莖ヲ著シテ廓大セルモノニシテBハ其割面
Cハ芽胞囊室ヲ示ス而シテ第十四圖ハ芽胞囊室ヲ廓大視セ

ルモノニシテ芽胞飛散シテ、ライ麥ニ附着スルトキハ更ニ發芽ヲ催ホシ前圖ノ生活ヲ保持ス、
第十五圖ハ絲狀ノ芽胞及之ヲ充填スル芽胞囊、第十六圖ハ其芽胞ノ發芽セル狀ヲ示ス。

(成分)

麥角ハ脂肪ノ含量三十五%ノ多キニ至ル有効成分ニ關シテハ其說
未タ一定ナラス有効成分ハ蓋シテノエトキシン(Sphaerotoxin)或ハノエト
キシン酸(Sphaerotoxinic acid)トナルモノナリ(Chemist)ナルオヤカロイドナルガ如キ
面シテ又本生薬中ニ含有セラル、ニエルゴチン酸(Ergochinin)トシテクロスクレ
ロキチン(Piktosklerotidin)ニナルモノナリ(Alkaloid)ニエルゴクリン(ergochrysin)及セカ
リン(Sclerotin)等ハ本生薬ノ藥効ニ何等ノ關係ナキガ如シ。

麥角ハ右ニ掲クル諸成分ノ外 Strychnin 等ノ如キ色素ヲ含有スルモノニシ
テ穀物ノ粉末中ニ混有ヲ鑑別スルニ適ス。

麥角ハ有毒性物質ニシテ之ヲ混有スル穀物類ヲ食スルトキハ中毒ヲ來スノ
恐レアリ故ニ目下歐米諸國ヨリ輸入セル麥粉等ニ就キ化學上ニ麥角ヲ試驗
スルノ必要アルトキハ其麥粉ニアルカリ性ノ水ヲ加ヘテ浸出シ其浸液ニ鹽
酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪スベシ麥角ノ含量些少ナラ
サルトキハ其エーテル液ニ赤色(陳舊ナル麥角ニ在テハ橙黄色)ヲ呈ス右ノ浸

Argatinin
Ergotain
Betaaminostichilglioxalin
Palaazpuenilatilamin

出液ヲ酸性トナスニ當リ成ルベク少量ノ硫酸ヲ使用スルノ注意ヲ施シ後チ其エーテル液ニ少量ノ重炭酸ナトリウム溶液ヲ加フルトキハ「エリトリン」ヲ溶出スルヲ得ベシ麥角ノ夾雜分僅ニ〇・〇〇〇五グラムニ過キスシテ「エーテル」液ノ無色ナルトキト雖トモ其重炭酸ナトリウム溶液ニハ著ルシキ類赤色ヲ呈スベシ。

其他麥角ハ粘液糖及ミコーセ(即チ「トセ」)ヲ含ム。

(應用) 麥角ハ血壓ヲ旺進スルニ由テ子宮脈管殊ニ動脈ノ收縮ヲ來ス其主要ナル應用ハ陳痛ヲ振起スルノ目的ト内部諸器官ノ出血ヲ制止スルニ在リ。

●瘡蕈 *Fungus chirurgorum.*

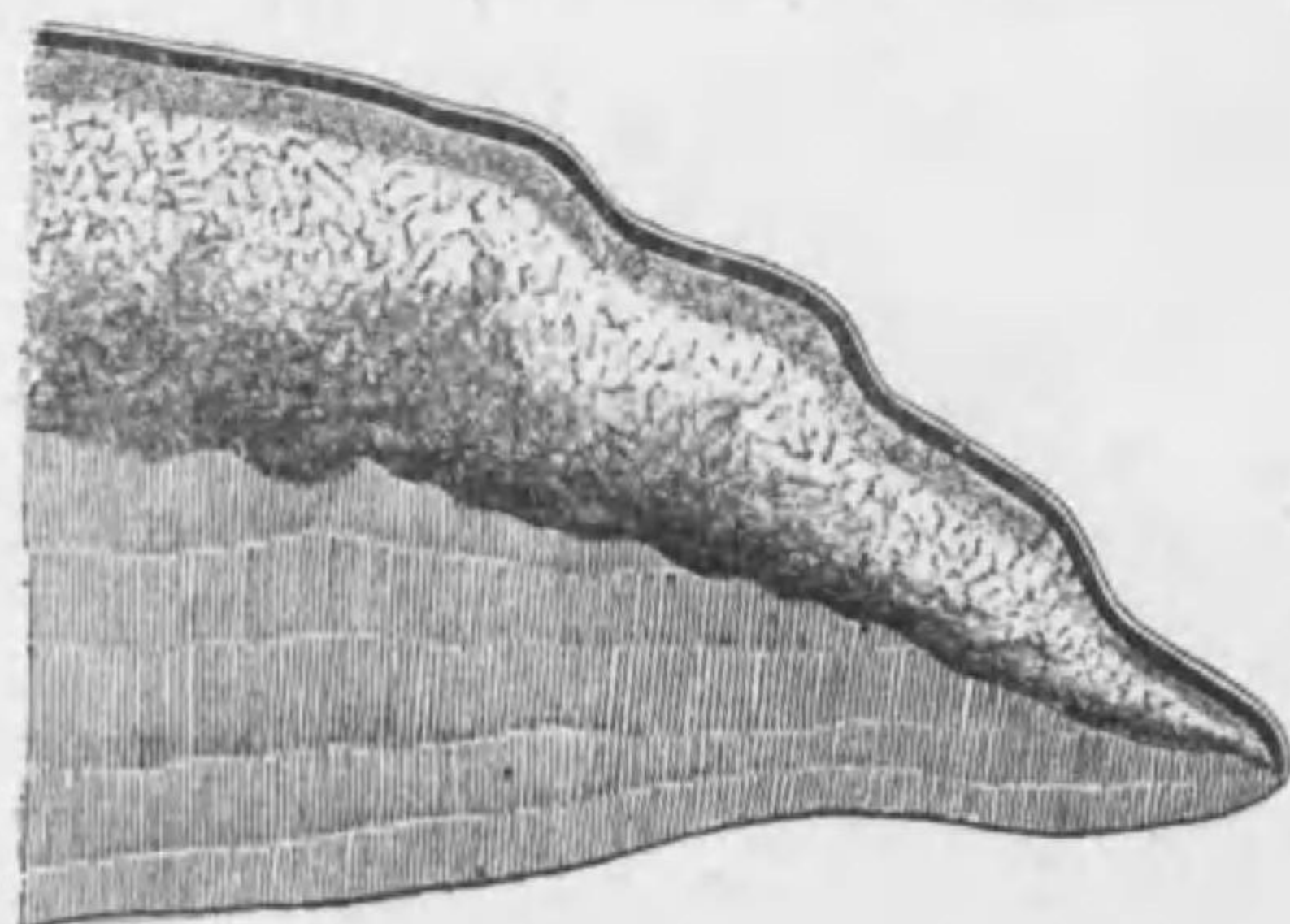
(基原) 瘡蕈トハ多孔菌科(Tolypodaceae)所屬 *Fomes fomentarius* (L.) Fries ナル蕈ノ中心ニ於ケル柔軟部ノ指稱ニ考テ此蕈ハ樹幹殊ニ山毛榉樹幹部ニ發生シ殆ト全歐洲殊ニ獨逸ノジーベンビルゲン其チューリンゲン匈牙利瑞典等ニ産ス。*Fomes fomentarius* ナル蕈ハ莖ヲ欠キ畧ホ半月形ヲナシ直徑三十センチメートルト厚サ二十センチメートルニ至リ上部ハ同心性ニ列置セル肋線ヲ現ハス所

(獨) Mundwamm.

(英) Surgeon's Agaric.

(佛) Agaric de Chêne

第 十 六 圖



ノ堅キ皮層ヲ被ムリ下部ハ管狀ノ實層(即チ芽胞ヲ發生スル層)ヨリ成リ此兩層ノ間ニ存スル中層ハ厚サ一五センチメートルニ過キサル柔軟ナル組織ヨリ成ル本條ノ生薬ハ即チ其中層ヲ剪取シ槌ヲ以テ搗打シ更ニ柔軟鬆疎ナラシメタルモノナリ。

(形状) 瘡蕈ハ黄褐色、柔軟、延長性鱗片ヲナシ甚タ柔弱ナル褐色緻密ノ菌糸組織ヨリ成ル此組織ハ迅速且ツ容易ニ水ヲ吸收スルコトニ倍量ノ多キニ至ル。

(應用) 往時ハ止血薬トシテ用ヒラレタレトモ現時ハ殆ト其應用ヲ絶ツニ至レリ。

目下尙ホ山間僻地ニ於テハ本生薬ニ硝石溶液ヲ浸シテ乾燥セシメ引火絮トナシテ使用ス薬用ニハ硝石ヲ含有スルモノハ供用ス可ラサルハ茲ニ贅スルヲ待タス。

●落葉松茸 エブリコ、トウボシ Fungus Laricis.

(獨) Lärchenschwamm.
(英) Larch agaric.
(佛) Agaric blanc.

(基原) 本生薬ハ Polyporus officinalis (Vill.) Fr. ナル茸ノ果體ニシテ本茸ハ Larix decidua Mill. 及 Larix sibirica Ledeb. (本邦落葉松ノ類)樹幹ニ發生シ歐亞諸地ニ産シ最モ多ク露國アルハンゲル地方ヨリ輸出シ本邦北海道ニモ産ス。

(形状) 市販品ハ多クハ半圓錐體形或ハ半球形ヲナシ重サ數キログラムニ至リ上面ハ粗糙ニシテ灰色、帶黃白色乃至類褐色ヲ有シ内部ハ白色ニシテ碎ケ易シ味ハ初メ微ニ甘ク後不快ニシテ甚タ苦シ臭氣ハ不快ナリ。

(成分) 主要成分ハ Agaricin (C₁₆H₃₀O₅ + H₂O) ト稱スル樹脂酸トス其他軟樹脂、脂肪類似質等ヲ含ム。

(應用) 殊ニ健胃、下劑トナシ又肺勞患者ノ盜汗ニ用ユ、アガリチンヲ製スルノ原料タリ。

●イストランド苔 Lichen islandicus. Cetraria.

(基原) イストランド苔即チ Cetraria islandica Ach. ヲ、歐洲最北部ノ諸國ニ於テハ已ニ古代已來凶年饑歲ニハ間、食料ニ供シタルコトアリ、獨乙ニ於テハワ

(獨) Isländisches Moos od. Flechte.
(英) Iceland moss.
(佛) Lichen d'Islande.

レリウス・コルツス氏始メテ「イストランド苔アルコトヲ知レリ而シテ其瀉下薬トシテ醫藥上ニ之ヲ應用セルハ一千六百年代丁抹國ニ始マルモノトス。イストランド苔ハ其所在頗ル汎ク温帶地方ニ於テハ海拔三千mニ至ルノ部位ニ産シ寒帶地方ニ於テハ已ニ海岸ニ産ス而シテ之ヲ採集スルノ地ハ殊ニ獨乙ノハルツ及フイヒテン山地方、瑞西國ノ北部前アルペン、チロール、スカンヂナウイヤ、西班牙等ニシテ却テイストランド(氷洲)ヨリハ輸出セズ、本邦ニハ御嶽山、加賀白山等ノ如キ高山ニ産ス。

(形状) イストランド苔ハ地衣類(Lichenes) 殊ニ異層地衣科(heteromere Flechte) ニ屬スル葉狀起立性ノ聚胞體植物(Thallophyta) (第十七圖) ニシテ擬根ニ由テ樹木苔類、巖石等ニ着生ス長サ十五センチメートルニ至リ太サ〇・五ミリメートルニ過キス不整又狀ニ分岐シ或ハ廣ク或ハ狭ク槌狀或ハ殆ト扁平ニシテ時トシテハ皺收セル瓣葉ヲ具有シ基部ハ槌狀ヲナス、一面ハ帶綠褐色或ハ褐色他ノ一面ハ灰類白色或ハ淡類褐色ヲ有シ陷在セル白色ノ斑點ヲ散在ス兩面共ニ毛茸ヲ帶ヒス邊緣ハ精胞房ニ因スル睫毛アリ、又往々褐色皿狀ノ盤子器(Apothecia) (第十八圖) ヲ具有ス乾燥ノ狀ニ於テハ破碎シ易ク濕潤ナラシムルト

圖七十第



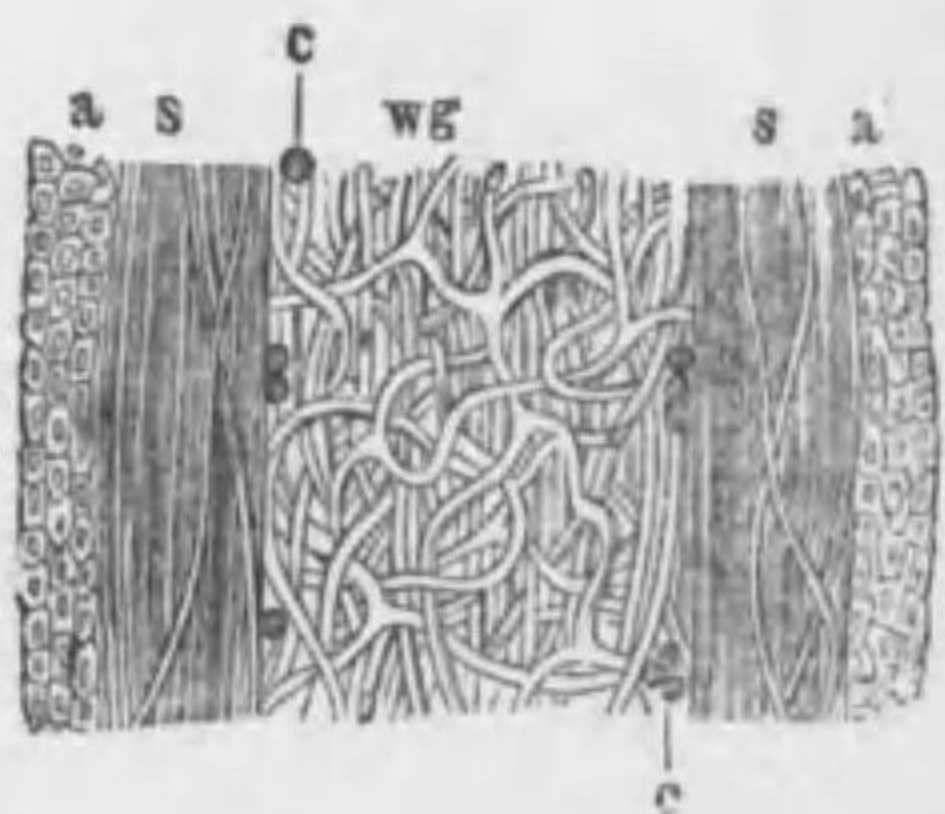
圖八十第



キハ柔軟靱草様トナル臭氣ハ微弱特異ニシテ味ハ苦シ。
本生薬ニ二十分ノ水ヲ和シ煮沸スレハ苦味ヲ有スル粘漿ヲ生シ其粘液ハ冷
後固結シテ凝膠トナル。

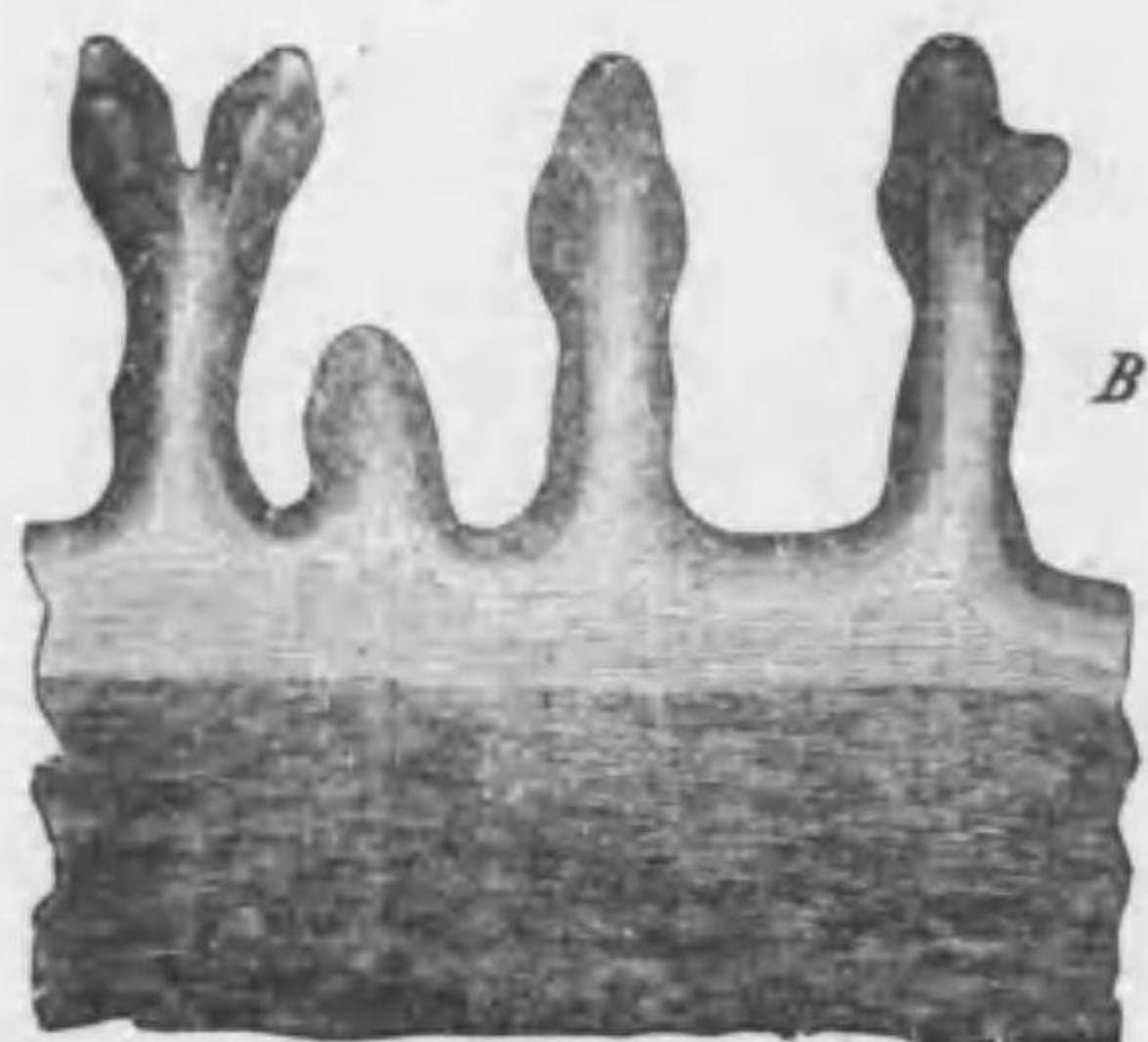
(顯微鏡的構造) イスランド苔ハ之ヲ縦斷シテ顯微鏡下ニ照視スレバ種
々ノ組織ヲ見ルヘシ即チ其外層ハ甚タ緻密ニ接合セル細小ナル細胞ノ列ヨ
リ成ル(第十九圖a)此細胞ハ「ヨード」ニ由テ着色セス其第二層(s)ハ絲狀ヲナシ

圖九十第



觸線(主軸)ノ方向ニ延長シ無色緻密ノ細胞(菌絲)ヲ
以テ組成セラレ、「ヨード」ニ逢ヘバ紫色ヲ呈シ沸湯
中ニ於テ膨脹ス、第三層即チ髓層ハ種々ニ分岐シ
疎鬆ニ錯雜セル絲狀細胞ヨリ成レル組織(wg)ヲナ
ス而シテ此組織中ニハ單一ナル綠色ノ細胞(c)ヲ
散在ス、從前ハ此細胞ヲ「イスランド苔」ノ分生芽胞
(Koidien)ト誤想セシガ近來ニ至リ其 *Cystococcus*

圖十二第



*humicola Nagele*ト名クル藻類植物ナルコトヲ
檢明セリ、イスランド苔ノ瓣端ニ具フル睫毛
ハ精胞房(Spermatium)ニ係リ甚タ多數ノ梘
子狀細胞即チ精胞(Spermatia)ヲ包藏ス而シテ
其精胞ハ胚胎ヲ遂クルノ作用ヲ有スルナル

圖一十二第



ベシ(第二十圖B)ハ精胞房(第二十一圖sp)ハ精胞房ノ縦断面ニシテ精胞ヲ包藏スル狀ヲ示ス。

(成分) イスランド苔ハ *Cetrarin* ($C_{10}H_{16}O_{12}$) 又ツエトラー酸 *Cetrarsäure* (ト名ク) ナル苦味質大約二%ヲ含有ス、本苔ノ主成分ハ *Lichenin* (苔澱粉)ナル粘液様物質ニシテ其含量七十%ニ至ル此粘液ハ蓋シ植物纖維素ノ變形體ニシテ「ヨード」ニ由テ藍色ヲ呈セス其集成ハ $(C_6H_8O_4)_n$ トス此粘液ノ傍ラ同質異性體タル *Dextralichenin* 大約十一%ヲ含有ス此粘液ハ「ヨード」ニ由テ藍色ヲ呈ス其他リヘステアリン酸 (*Lichenstearinsäure* $C_{18}H_{34}O_{17}$)ナル酸ヲ含有ス此酸ハ二鹽基性酸ニ屬ス。

(應用) イスランド苔ハ粘滑性健胃苦味薬トシテ應用セラレ而シテ健胃苦味ノ効力ハ専ラ「ツエトラー酸即チ「ツエトラーリン」ニ存シ粘滑性ハ「リヘニン即チ苔澱粉」ニ屬ス。

● ラクムス *Lacca musci*

(基原) ラクムスハ歐洲ニ於テ紀元已前ヨリ色素トシテ採用セラレ千二百年代ヨリ「オウルセ

(獨) *Lafmus*.

(英) *Litmus*.

(佛) *Tournesol*.

「ユ及ベルシオ」ナル染料ノ製造ニ供セラル、地衣類 (*Lichenes*) 即チ *Roccella tinctoria* D. C. *Roccella phycopsis Achur.* (共ニ地中海濱及福島ニ産ス) *Roccella fusiformis Achur.* (印度ニ産ス) 類白色又ハ類黄色ノ叢狀チナス) *Laonoma tinctoria Achur.* (*Ochrolechia tartarea Körber.* (瑞典「諾威」等ニ産ス) 類灰酒石様ノ層片チナス)ノ粉末チ「アルカリ」ニ和シ醗酵セシメテ化生セル藍色ノ色素ニシテ容量分析上ノ標指薬トナシ又試験紙チ染ムルノ用ニ供セラル、モノナリ。

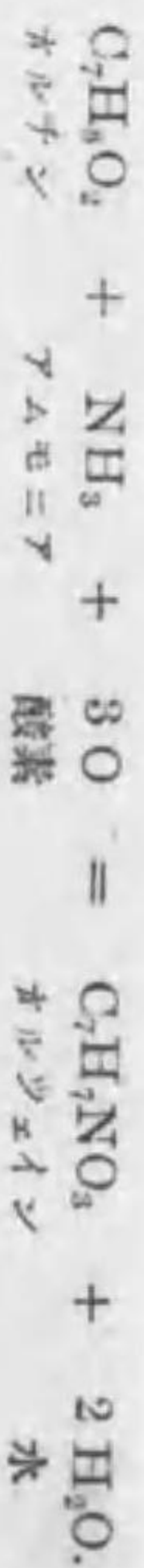
ラクムスハ前記各種ノ地衣類ヨリ殊ニ和蘭ニ於テ製造ス、其法ハ彼ノ「オウルセ」ユ *Orsellin* 及ベルシオ *Picro*ナル色素ノ製法ニ畧、同シク善ク乾燥セル *Roccella* 等ノ地衣チ細末トナシ其百分ニ付キ五十分ノ炭酸カリウム及過剰ノ腐敗尿若クハ炭酸アムモニウム溶液チ加ヘテ大氣ノ流通中ニ數週日間放置シ自然ニ醗酵ヲ受ケシム、然ルトキハ其物質初メ褐色次ニ堇紫色最後ニ藍色トナル斯クシテ得タル藍色ノ粥狀塊ニ白堊或ハ石膏末チ混和シ之チ以テ小骰子形又ハ小板片等チ作リ「ラクムス」ノ名チ以テ市場ニ販賣ス。

(性状) ラクムスハ暗藍色ノ小骰子塊又ハ小板片ヲナシ其一部分ハ水ニ溶解シテ藍色ノ液ヲナス、此藍色ハ前記ノ地衣ヨリ得タル色素ト「アルカリ」トノ化合物ニ由テ生スルモノナリ、故ニ稀硫酸ヲ滴加シテ其アルカリ性ヲ失フニ至レバ其溶液紫色トナル是レ「ラクムス」色素固有ノ色ナラン而シテ初メテ酸ノ過剰ヲ得ルヤ否ヤ赤色トナリ又「アルカリ」ヲ加ヘテ之ヲ中和スレバ藍色ニ

復ス、酸ト「アルカリ」トニ對スル變色ハ本品ノ溶液又ハ酸ヲ以テ赤色トナセル溶液ヲ以テ藍色若クハ赤色試験紙ヲ染成シ物質ノ酸性或ハ「アルカリ」性ヲ檢シ又其溶液自己ヲ容量分析(測酸法及測鹼法)ノ標指藥トナス所以ナリ。

試験藥ニ供スルラクムス溶液 (Liquor Laccae Musci) ナ製スルニハ先ツ「ラクムス」ノ粉末ヲアルコホルニテ浸出シ赤色及黄色ノ螢石彩ヲ呈スル色素ヲ除キ其殘留物ニ五乃至六倍ノ冷水ヲ加ヘテ能ク沈定セシメテ後濾過シ深藍色ノ溶液ヲ得之ニ稀硝酸ヲ滴加シ其一部分ヲ取り甚ダシク稀釋スルニ恰モ堇紫色ヲ呈スルニ至リ光ヲ遮テ貯フ藍色試験紙 (Charta exploratoria caerulea) ナ製スルニハ此液ニ僅微ノ稀アルカリ油液ヲ加ヘ藍色トナセルモノニ濾紙ノ細片ヲ浸シ蔭處ニ乾燥ス、赤色試験紙 (Charta exploratoria rubra) ハ僅微ノ稀硝酸ヲ以テ赤色トナセル溶液ヲ以テ同様ニ製ス。

(成分) ラクムス並ニ「オルセー」色素等ノ原成分ハ一部ハ「已」ニ地衣中ニ現存シ一部ハ「オルセルリン酸 (Orsellinsäure)」「エーウエルン酸 (Evernsäure)」「エリトリン酸 (Erythrinsäure)」等ノ如キ所謂地衣酸ヨリ化生スル「オルチン Orcin」即チ二酸化トルオル $C_6H_6CH_2(OH)_2 + H_2O$ ニシテ此「オルチン」ノ大氣及「アムモニア」ニ逢フヤ「オルツェイン Orcin $C_7H_7NO_2$ 」ナル色素ト水トヲ化生ス。



ホルチン

アムモニア

酸素

ホルツェイン

水

此「オルツェイン」ハ「オルセー」色素ノ主成分タルモノニシテ茲ニ炭酸カリウム(前文ラクムス製法ノ項ヲ見ヨ)ノ存在ニ於テ此「オルツェイン」ノ酸化ニ由リ「ラクムス」ノ藍色素ヲ生成ス、ラクムス「ノ藍色ハ未タ詳カナラサル酸ト「アルカリ」トノ化合物ニ基ツクコト前文ニ記スルガ如シ。

(應用) 容量分析ノ標指藥トナシ試験紙ノ染色ニ應用スルコト前項ニ述フルガ如シ。

● 石松子 *Lycopodium*.

(獨) Bärlappfamen.
(英) Earth-moss seeds.
(佛) *Lycopode*.

石松子

(基原) 石松子ハ石松屬植物 *Lycopodium clavatum* L. (ひかげのかづら)ノ芽胞ニシテ獨乙ニ於テハ「已」ニ一千五百年ノ中葉ヨリ廢爛部ニ撒布スル等ノ目的ニ之ヲ應用セリ而シテ石松屬ハ寒帶及温帶ノ諸國ニ産シ又本邦ニモ産出ス、石松子ハ露國、獨乙及瑞西ニ於テ多ク採集ス。

(性状) 石松 *Lycopodium* ハ石松科 (*Lycopodiaceae*)ニ屬スル植物ニシテ其他ノ石松屬ト異ナルノ點ハ直立ノ枝ヲ出シ其頂端ニ一箇乃至二箇間、又四箇ノ穗ヲ着クルニ在リ(第二十二圖 1ノs)而シテ其穗ハ長サ五cm太サ六mmニ至リ屋瓦狀ニ列置

圖 二 十 二 第



セル葉片(實葉)ヨリ成ル其各實葉ハ裏面ノ基礎部ニ心臟形ノ芽胞房第二十二圖2ノsヲ具有シ芽胞即チ石松子ヲ

包藏ス獨乙ニ於テハ七八月ノ候芽胞成熟シ芽胞房ハ自カラ其邊緣ヨリ破綻ス此時ニ當リテ石松ノ穂ヲ採集シ日乾シ之ヲ敲打スルトキハ輒ク其芽胞ヲ採集スルヲ得ベシ。

石松子ハ甚タ搖動シ易キ淡黃色ノ粉末ニシテ比重一〇六ニ有シ之ヲ水ト共ニ振盪スルモ煮沸スルノ後ニ非サレバ沈下セズクロ、フォルム中ニ投スレバ其液面ニ浮遊ス。

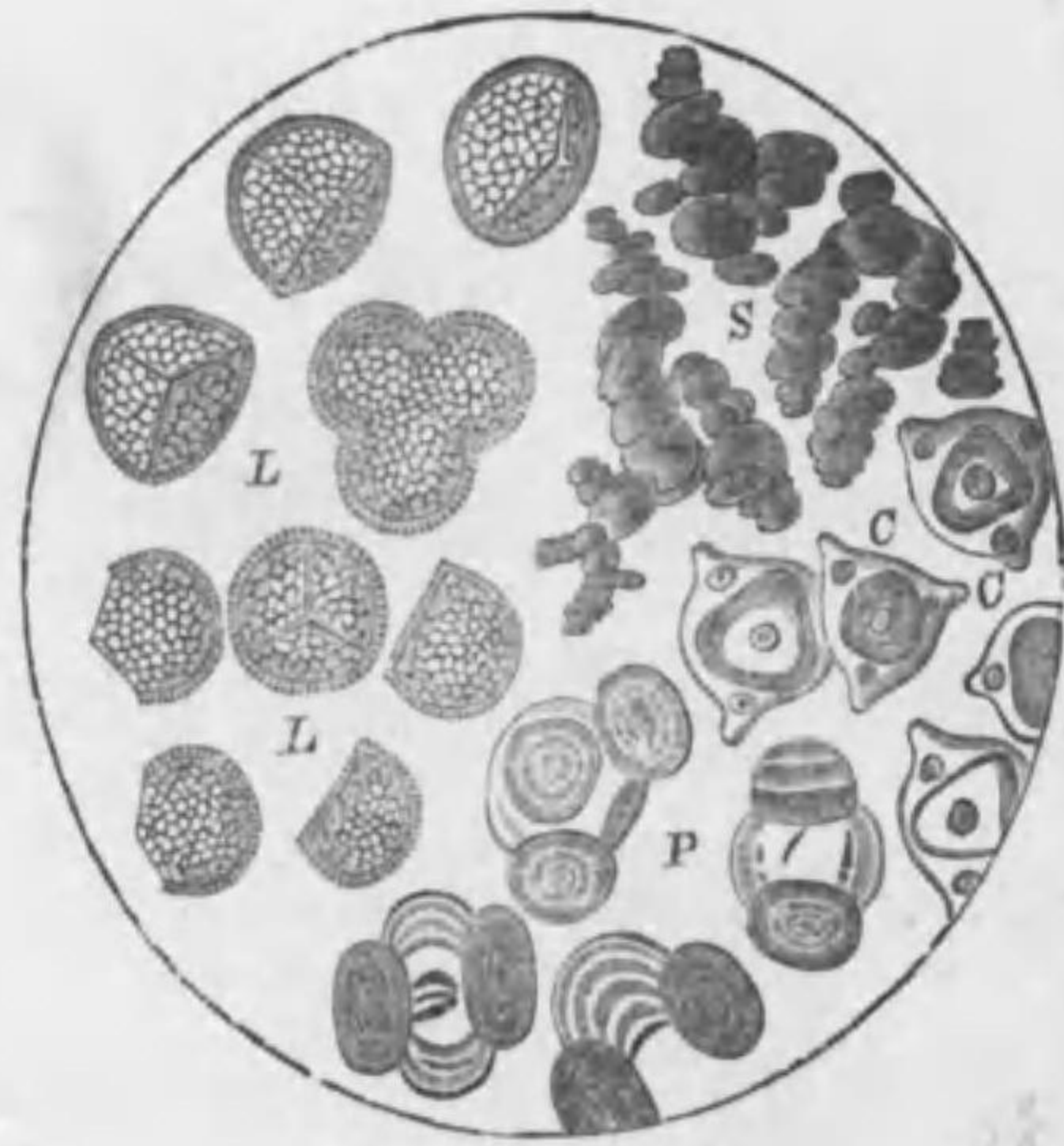
石松子ハ之ニ水ヲ加ヘ久シク攪拌スルトキハ稍濕潤スルトモ曾テ水分ヲ攝取セス點火スレバ徐々ニ燃燒スルトモ急ニ之ヲ火焰中ニ吹入スルトキハ爆

然鳴響ヲ發シ電光ノ狀ヲナシテ燃化ス。

(顯微鏡的構造)

石松子ハ顯微鏡下ニ檢視スレバ直徑〇〇三五mmニ至ル透明ノ細胞ヲナシ其細胞ハ外皮及内皮ノ二皮ヲ被ムリ外皮ハ硬厚ニシテ網

圖 三 十 二 第



ハ石松子ニシテ傍ラ往々賈僞ノ目的ヲ以テ之ニ混糅セル松樹ノ花粉(P)榛ノ花粉(C)硫黃華(S)ヲ示ス。

眼樣ノ皺紋ヲ現ハシ内皮ハ稍柔薄ナリ而シテ四面ヲ以テ成形シ一面即チ底面ハ穹窿狀ヲナシ他ノ三面其上ニ連合シテ畧三面稜錐體ノ觀ヲ呈ス此故ニ石松子ハ之ヲ看視スル方面ノ異ナレルニ由リ種々ノ形狀ヲナシ其上面ヨリ臨メバ三面稜錐體ヲ呈シ側面ヨリ見レバ一邊ニ穹窿セル三角形ヲナシ底面ヨリ見レバ圓板狀ヲナス第二十三圖(L)

圖四十二第



石松子ハ之ヲ質造スルコト甚々多ク而シテ偽造ニ應用セラル、モノハ殊ニ松樹ノ花粉其他
 硫黄華・石膏・炭酸カルチウム等ナリ、松樹ノ花粉ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢視
 スレバ楕圓形ヲ呈シ左右兩側ニ耳狀ニ膨脹セル附着物(飛翼)ヲ具フル
 チ以テ鞅ク判別スルコトヲ得、第二十三圖P及第二十四圖(硫黄華)ヲ混
 有スルモノハ點火スレバ藍色ノ火焰ヲ放チ燃焼シ且ツ亞硫酸ノ臭氣
 チ發生シ又石膏等ヲ夾雜スルモノハ之ヲクロ・フォルムト共ニ振盪
 スレバ器底ニ沈降スベシ、本邦ニ於テハ小糠黃粉(大豆粉)ヲ以テ石松子
 チ擬造スルコトナシトセズ此等ノ雜物ハ顯微鏡ヲ用ユルトキハ直チニ之ヲ發見スルヲ得ベ
 シ。

本邦ニハ石松(ひかげのかづら)ノ外石松(Lycopodium)屬ノ植物約二十種アリ而
 シテ石松ヲ以テ歐洲ニ産スル Lycopodium clavatum ニ充ツルハ不當ナラン蓋シ
 本植物ノ莖軸ハ分岐セサレトモ石松ノ莖軸ハ分岐スレバナリ、本邦ニ産スル
 諸種ノ石松類ハ概ネ石松子ノ採收ニ利用シ得ヘシト雖トモ殊ニ之ニ適當ナ
 ルモノハ玉柏(まんねんすぎ) Lycopodium obscurum (L.) トス蓋シ本植物ハ他ノ同
 種植物ニ比シ多ク實穂花ヲ生スレバナリ。

(成分) 石松子ハ最近ノ試験ニ據レバ糖ヲ含有ス其主成分ハ脂肪油ニシテ

其含量大約五十%ノ多キニ居ル、^{Boedeker}バドケル氏ハ石松草中ニ Lycopodin $C_{27}H_{42}N_2O_2$
 ナル[アルカロイド]ヲ發見セリ、^{Pfleger}フリッペル氏ニ據レバ石松子ニハ其痕跡ヲ
 含有ス灰分ノ量四%ニ超エス。

(應用) 石松子ハ濕氣ヲ吸收セズ且ツ外氣ノ侵襲ニ抗スルノ性アルガ故ニ丸藥ニ撒布スル
 ニ應用セラル。

● 綿馬根 Rhizoma Filicis, Filix mas.

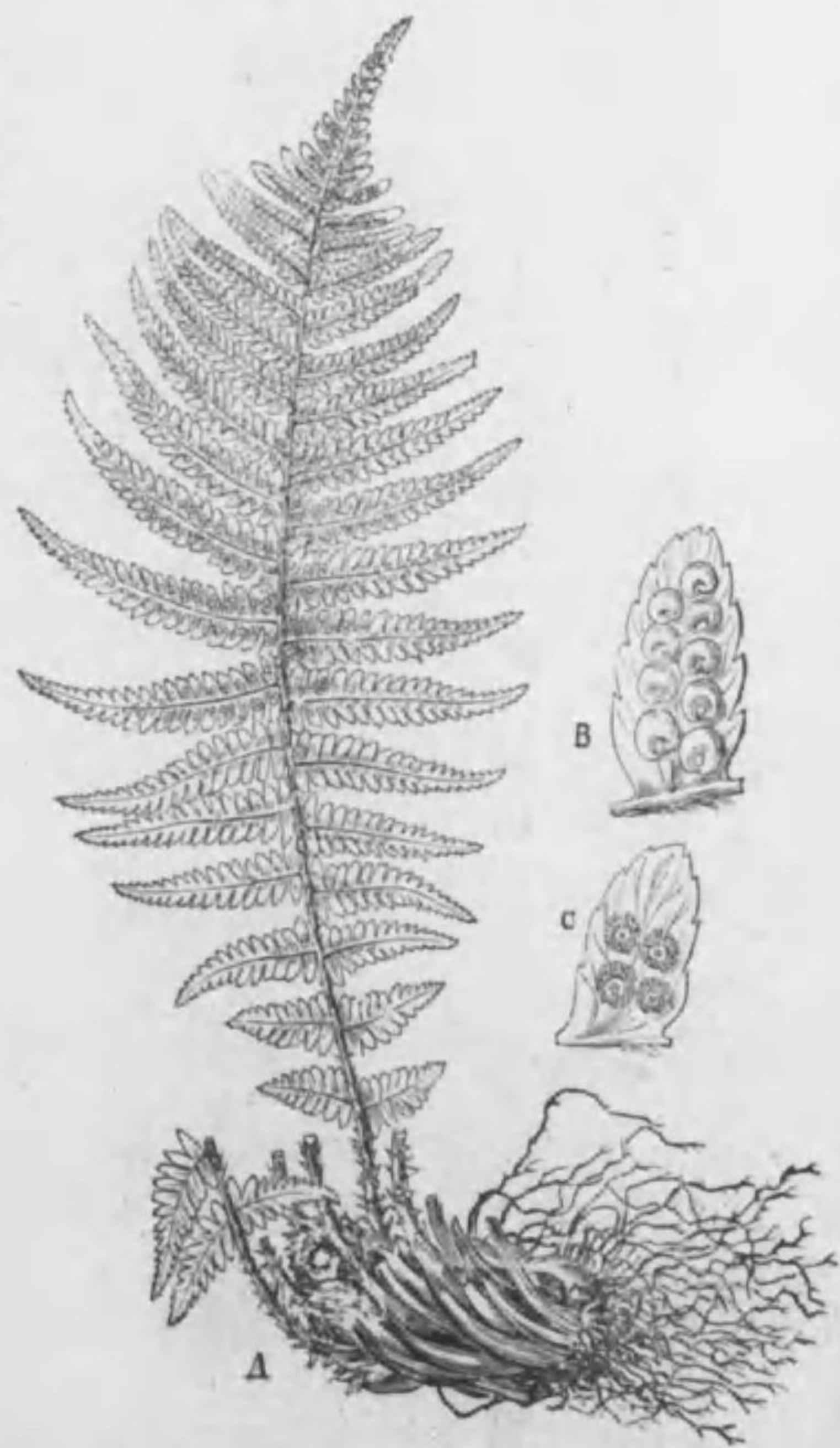
(基原) 綿馬根ハ羊齒類(Filicinae)ノ植物 *Asplenium filix mas* ^{Stewart} (綿馬)(第二十
 五圖A)ノ根莖ニシテ世人ハ已ニ太古ノ時代ヨリ之ヲ殺蟲藥トシテ應用シタ
 レトモ後世ニ至リ一トタビ其殺蟲藥タルノ價值ヲ失ヘリ而シテ一千八百二
 十五年 ^{Peschier}ペシエー氏ガ所謂エーテル製綿馬越幾斯ナルモノヲ製出セシヨリ以
 來再ビ醫藥ニ入レリ。

綿馬ハ最モ汎ク地上ニ播布セル羊齒類植物ノ分科水龍骨科(Polyodiaceae)ニ屬
 シ殆ント温帶諸國ノ各地ニ産シ又本邦殊ニ北海道ニ産出ス。
 綿馬ノ他ノ羊齒類ト異ナルノ點ハ主トシテ其葉ノ裏面ニ存スル房簇ヲ被覆

- (獨) Wurmfarmwurzel.
- (英) Male fern rhizome.
- (佛) Rhizome de fougère mâle.

綿馬根

圖 五 十 二 第



セル苞膜ノ腎臟形ヲナスニ在リ第二十五圖B及第二十圖ノA而シテ第二十五圖ノ(C)ハ已ニ苞膜ヲ

脱シタル房簇ナリ。
(形状) 綿馬根ハ通常長サ約十センチメートル往々三十センチメートルニ至リ太サ一乃至二センチメートル弓状ニ昇立シ長サ三センチメートル太サ一センチメートルニ至ル黒褐色有稜性ノ葉基ヨリ密包セラレ多クハ亦疎ラ

圖 六 十 二 第



圖 七 十 二 第

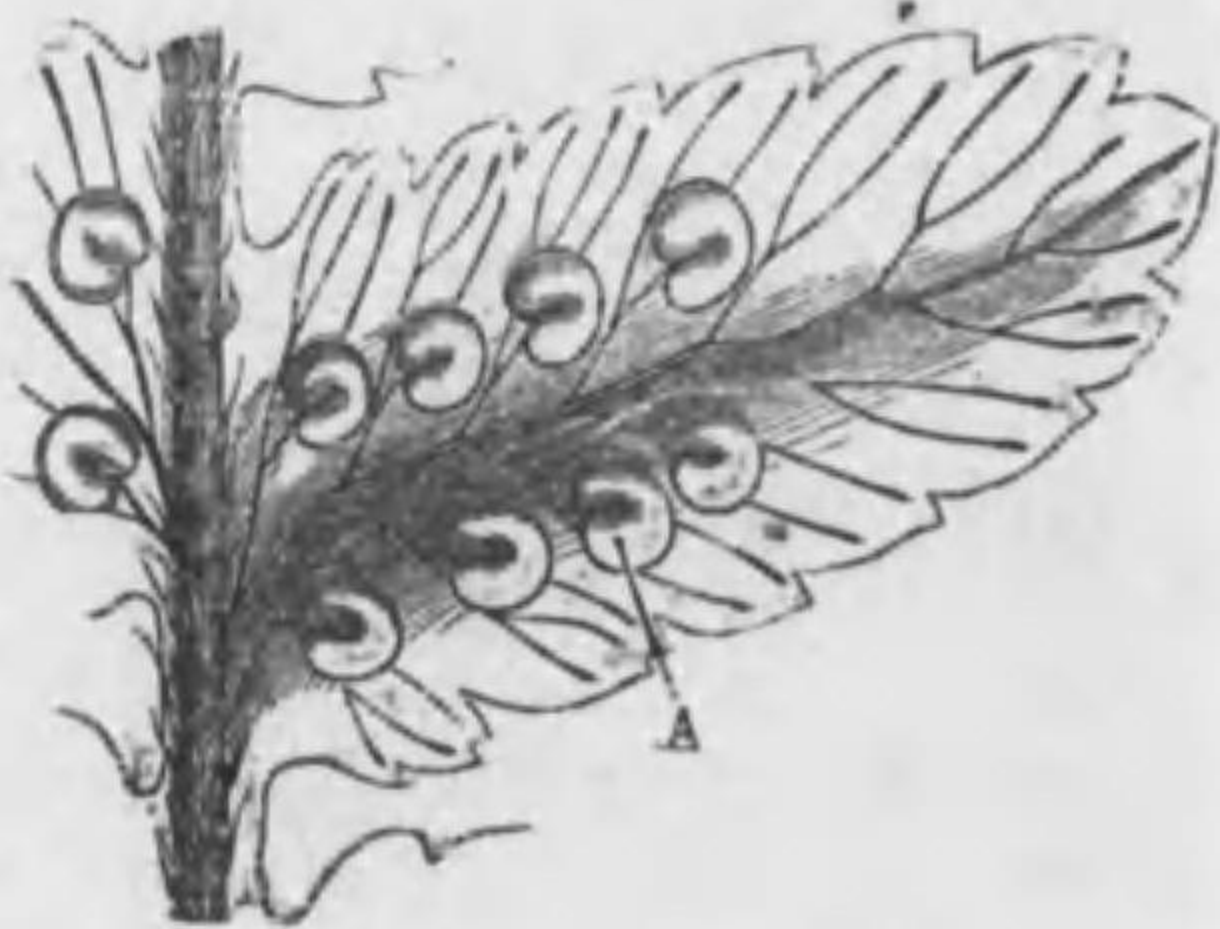
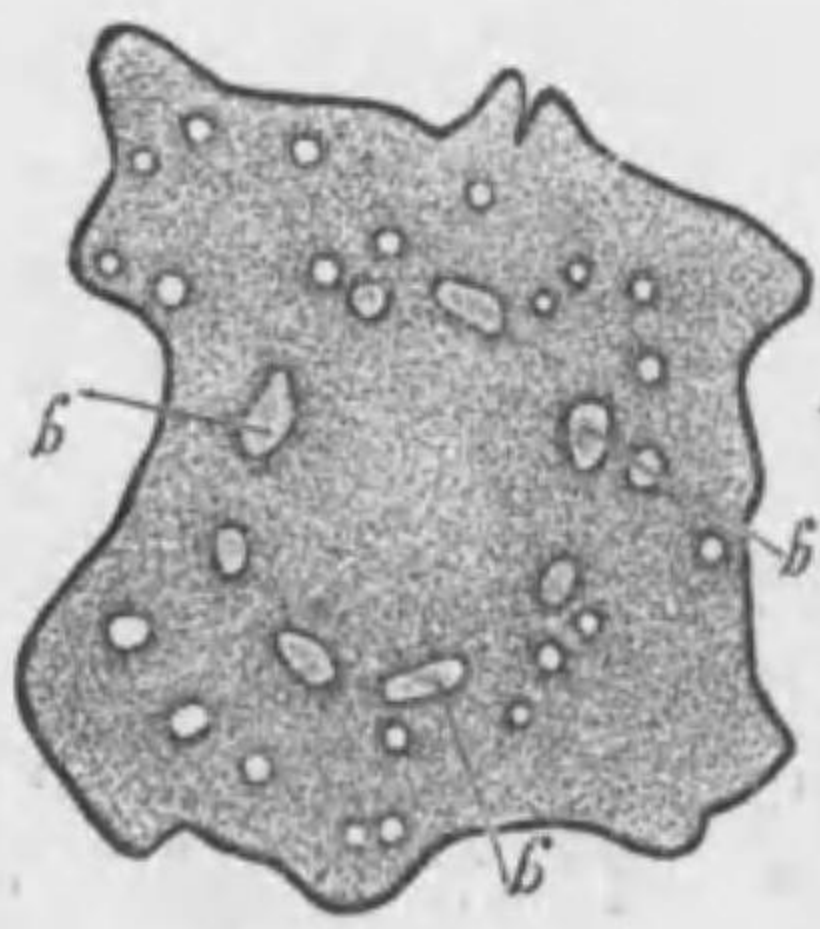
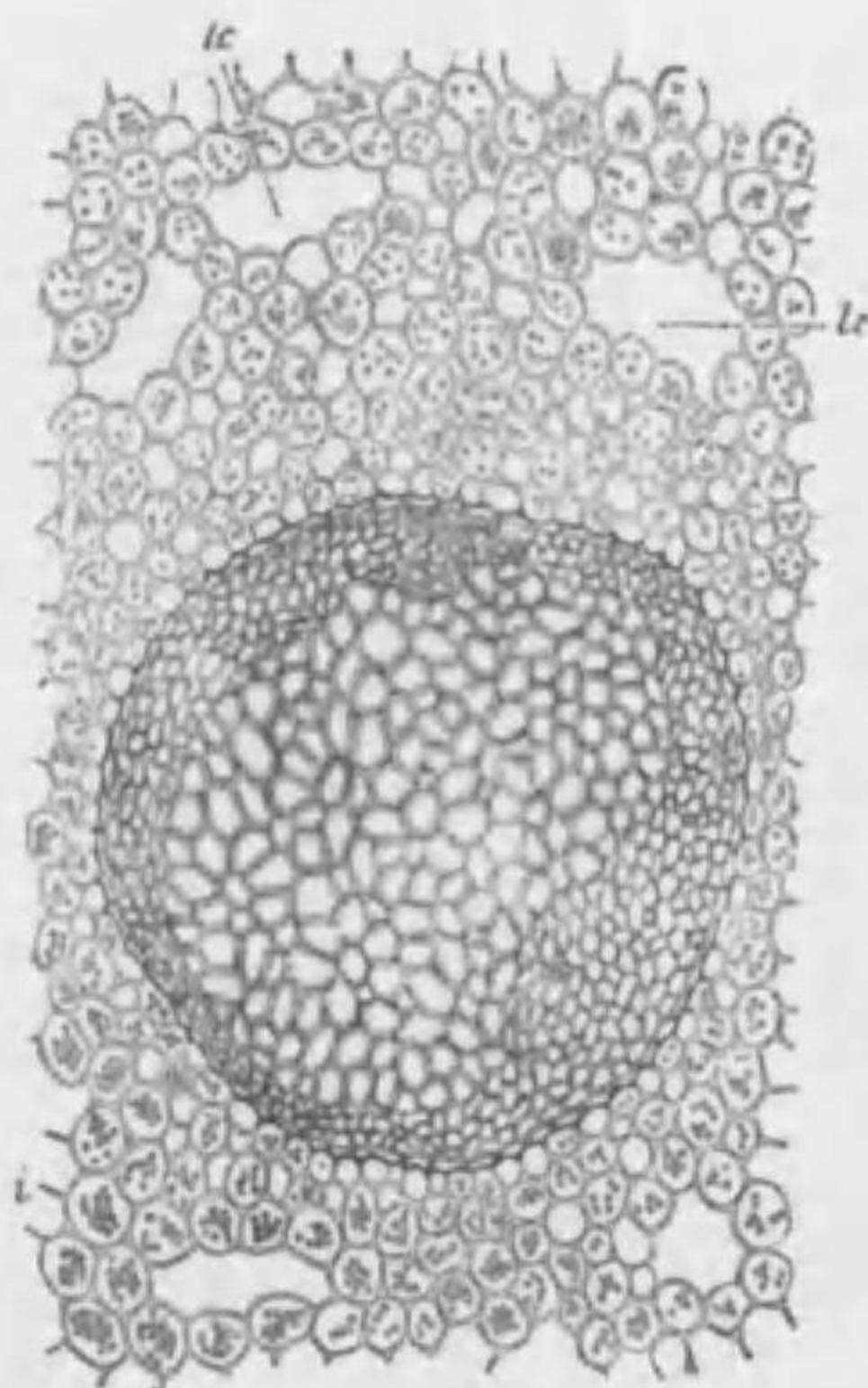


圖 八 十 二 第



ニ薄キ皮膜様ヲナセル褐色乃至黄褐色ノ鱗葉ヲ着ク根莖ハ其横断面多角形ニシテ類綠色ヲ有シ八乃至十二箇ノ髓心ノ周圍ニ輪列セル大ナル脈管束等ヲ現ハシ其外邊ニ之

圖九十二第



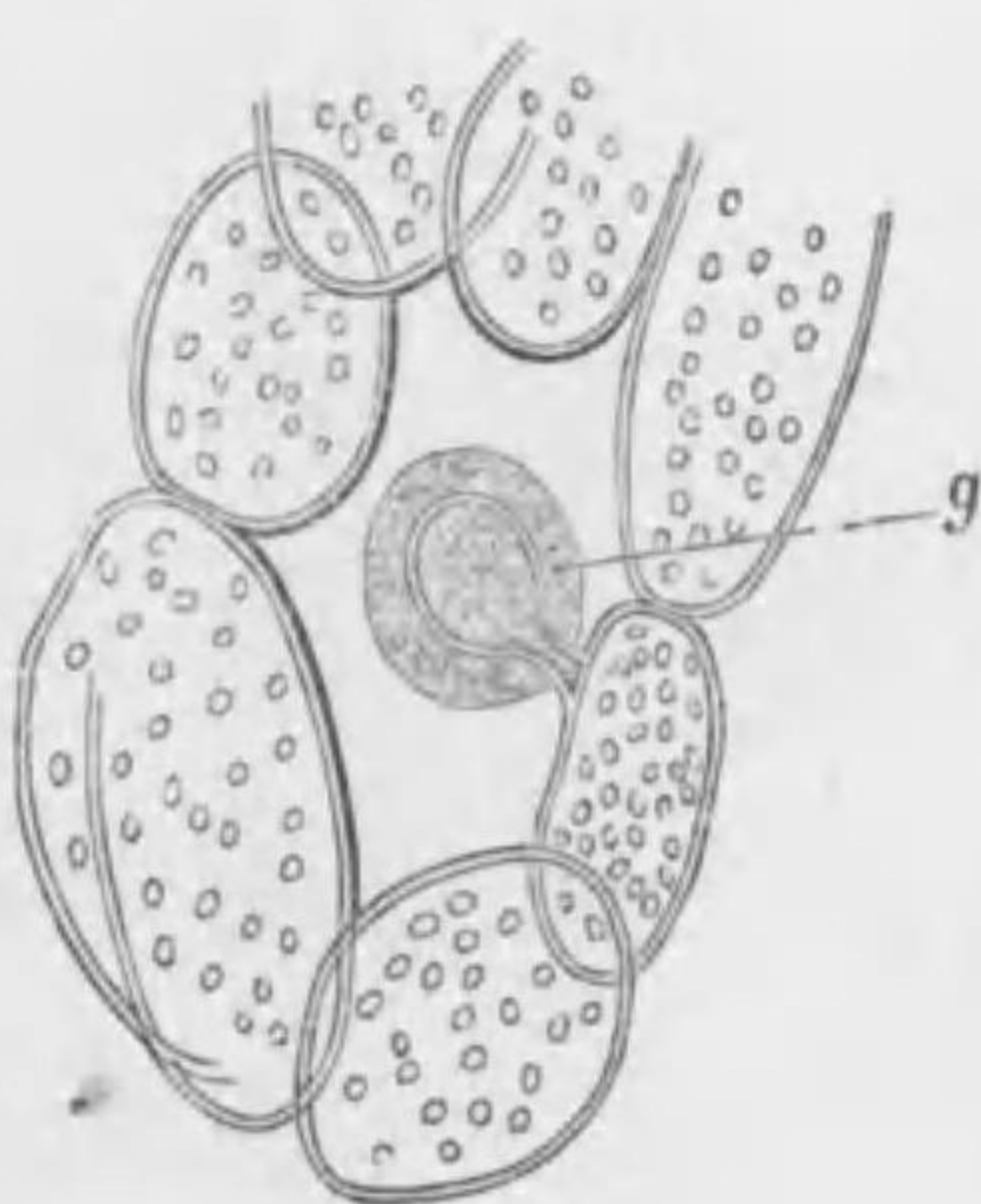
ヨリモ多數ナル小脈管束ヲ散在
ス、亦類綠色ナル葉基ノ横断面ハ
畧蹄鐵形又ハ半輪形ヲナセル脈
管束ノ五箇乃至九箇ヲ箱在スル
ニ過キス、實體組織ハ「ルーペ」ヲ以
テ之ヲ檢視スレハ海綿様多孔性
ヲ呈ス。

本生薬ノ臭氣ハ微弱、味ハ微ニ甘ク稍、收
斂性ニシテ苛辣ナリ。

(顯微鏡的構造) 根莖及葉基ハ殆ト

全ク其顯微鏡的構造ヲ同ウス、薄壁性上
皮ノ下部ニハ褐色厚壁性纖維様ノ細胞
ヨリ成ル多層性上下皮アリ、全實體組織
ハ廣ギ胞間(第二十九圖)ヲ存スル薄壁
性パレンヒムヨリ編成セラレ其細胞ハ

圖十三第



其油成形體中ニ大サ三乃至十八ミクロミメートルニ至ル多數ノ澱粉粒ヲ
包藏ス、胞間ノ周圍ニ存在スルパレンヒム細胞ヨリ胞間中ニ至細ニシテ梗ヲ
具ヘ球圓形ノ小頭ヲ頂キ綠褐色ノ分泌物ヲ包有スル所ノ線毛ヲ出タス(第三
十圖)脈管束ハ實體組織ヨリ薄壁性内上皮ニ由テ區劃セラレ同心性ノ構造
ヲ有シ横断面ニ於テ橢圓形ヲナシ其階段紋擬脈管ヨリ成レル木體ハ其各方
面篩管組織ヨリ被包セラル、鱗葉ハ邊緣ニ尖鋸齒ヲ帶ヒ基礎部ニ時トシテハ
二箇ノ腺體ヲ着ク、本品ハ黃綠色ナラサル可カラス(第二十六圖綿馬根ノ寫真
圖ニシテaハ其儘bハ剝皮セルモノナリ)。

他ノ羊齒類ノ地下莖ハ綿馬根ニ比スレバ途ニ細小ニシテ其横断面ニ現ハル、脈管束ノ數僅
々二三箇ニ過キザルヲ以テ綿馬根ト錯誤セラル、コト絶テ無カルベシ面シテ綿馬根ハ秋季
ノ終リニ採掘シ其朽腐セル部分、鱗葉及外皮ヲ除去シ内部ノ綠色ヲ有スル部分ノミヲ用ユヘ
シ、綿馬根ハ時日ヲ経ルニ從ヒ其効力ヲ失ヒ一年以上ヲ経タルモノハ用ニ堪ヘズ然レトモ外
皮ヲ剝除セズレテ貯フルトキハ稍、永久ニ保存セラレ得ルモノトス。

(成分)

(一)綿馬酸 (Filixsauric) (C₁₂H₁₆O₁₁)ハ殺蟲ノ効力アル成分トス、白色、無味、無
臭、無晶形ノ粉末ニシテ冷酒精アルカリ及脂肪油類ニ能ク溶解ス、熔融點ハ百
二十五度ナリ、綿馬酸ハ此無晶形ノ狀ニ於テノミ殺蟲ノ効力ヲ有ス普通時日

ヲ經タル綿馬越幾斯中ニ見ル所ノ結晶性綿馬酸 (C₁₁H₁₆O₄) ハ全ク殺蟲ノ効力ヲ有セス此結晶性綿馬酸ハ蓋シ上記綿馬酸ノ無水物トス本酸ハ殆ト酒精ニ溶解セス又水ニモ溶解セス時日ヲ經テ結晶物ヲ含有スル綿馬越幾斯ノ殺蟲効力ヲ有セサルハ右ノ事實ニ據ル。

くまわらび *Aspidium f. m. var. Inoerum Christ.* 中ニモ綿馬酸ヲ發見セリ故ニ此植物ハ驅蟲藥トシテ綿馬根ニ同シク應用スレテ得ヘキガ如シ。

其他綿馬根ノ成分ハ(一)揮發油〇・〇二五乃至〇・〇五%(此揮發油ハ綿馬ニ固有スル峻烈ノ香氣ト芳香性ノ味ヲ有ス)(二)脂肪油五乃至六%(三)鞣酸大約十%(此鞣酸ハ配糖體ニ屬シ稀薄酸類ト共ニ煮沸スルトキハ砂糖ト綿馬紅 *Ellix-Roth* C₂₆H₃₂O₁₂ トニ分解ス又此色素ハ現ニ綿馬根中ニ其物トナリテ含有セラル陳舊綿馬根ノ褐色ヲ有スルハ蓋シ之ニ因ル)四綿馬蠟樹脂等(此樹脂ハ蓋シ綿馬鞣酸ノ分解成績物トス)(五)水分大約十四%(六)灰分一・四乃至三・〇%等トス。

本生薬ノ殺蟲ノ効力ヲ代表スル主要ノ成分ハ前記ノ如ク綿馬酸ニシテ其第二ノ有効成分ハ揮發油ナリ而シテ此揮發油ハ蓋シ脂肪油ト混和物ヲナスカ將タ緊密ナラザル化合物ヲナスベシ鞣酸モ亦殺蟲ノ効力ニ與カルモノト如シ。

(應用)

綿馬根ハ蠶蟲ヲ驅除スルニ用ユ大抵エーテル製越幾斯トシテ應用ス。

第二章 根類 Radices. Wurzeln.

凡ソ根トハ植物本軸ノ一部ニシテ幹莖ト反對ノ方向ニ長育シ葉ヲ生スルノ機能ナク多クハ葉綠素ヲ缺如シ其末端ニハ特異ノ細胞組織所謂根帽ヲ着ケ植物ヲ地境ニ固定シ地中ヨリ無機性ノ滋養物及水分ヲ攝取シ以テ植物ヲ榮養スルノ任ヲ負フルノ器官トス而シテ少シク其末端ヨリ隔タリタル位置ニ根毛ナルモノヲ附着ス此根毛ハ根ニ伴フテ成長シ土質ニ固着シ地中ヨリ營養物ヲ攝取シ之ヲ主根ニ輸致スルノ器官ナリ。

主根ハ直ニ幹莖ノ基部ニ連接シ常ニ下方ニ向テ成長シ往々分岐シテ岐根或ハ枝根トナリ其甚タ微細ニシテ絲狀ヲナスモノヲ纖維根ト云フ例之バ、スカンモニラム根、蒲公英根等ハ主根ニ屬シラタニア根ハ岐根ニシテ、アンゲリカ根ハ纖維根ナリ。

副根ハ主根或ハ幹莖ノ側方ニ分出スルモノニシテ屢々主根萎縮シ副根之ニ代リ唯然主根ト副根トノ區別ヲナシ難キコトアリ此場合ニ於テハ單ニ之ヲ根ト稱ス例之バ、アンゲリカ根、レグイスチタム根等ニ於ケルガ如キ是ナリ。

根ハ又種々ノ根莖ニ於ケル如ク皮層ヲ被ル藥用ニハ往々之ヲ剝除シテ用ユルコトアリ(例之バ、アルテア根、甘草根、イリス根等)而シテ皮部ノ有効成分ニ富メルモノニ在テハ之ヲ除去セズシテ用ユ(例之バ、葛蒲根)加之ナラス皮部ノミヲ供用スルモノアリ(例之バ、前日本藥局方ノ石榴根皮藥用ニハ主根及副根ヲ混用スルヲ常トスレトモ同ク又副根ヲ撥用スルコトアリ。

(甲) 單子葉植物ノ根類 Wurzeln der Monokotyledonen.

● サルサ根 Radix Sarsaparillae. Sarsaparilla.

(獨) Sarsaparillwurzel.
(英) Sarsaparilla.
(佛) Sarsaparil.

(基原) Narza parilla トハ本來西班牙語ニシテ歐洲ノ南部ニ産スル Smilax aspera (菝葜ノ屬ヲ指稱スルモノナリ、而シテ一千五百年ノ中葉墨西哥及エクアドール地方ニ於テ西班牙人初メテ「サルサ根ヲ認知シ爾後幾許モナクシテ之ヲ歐洲ニ齎致セリ、サルサ根ハ南米及中央亞米利加ニ産スル土茯苓科 (Smilacaceae) ニ屬スル植物ノ根ニシテ其母植物ハ仍ホ稍不明ニ屬ス而シテ略之ガ原植物ト認定スルキモノハ Smilax officinalis Humboldt, Bonpland et Kunth 及 Smilax medica Schlechtendal et Chamisso ノ二種ニシテ甲ハ南米ノ北部及中央亞米利加ニ産シ乙ハ墨西哥東部コルデレル山脈地方ニ産ス然レトモ目下坊間ニ販賣スル「サルサ根類ハ前記植物ノ何レニ基原スルカラ確定スルコト困難ナリトス。

(形状) サルサ根ハ根莖及莖ノ殘基ヲ具有シ或ハ之ヲ除去セル乾燥根ヨリ成リ多クハ其絲狀ノ副根ヲ截除シ重サ十キログラムニ至ル種々ノ把束トナ

第三十一圖



至褐色ニシテ根莖ト共ニ束條トナセリ第三十一圖ノa

シ或ハ牛皮袋ニ充テ重サ一百五十キログラムニ至ル大包トナシテ市場ニ出タス而シテ方今坊間ニ販賣スル品ニ二種アリ。

(甲) ホンデラスサルサ根 (Honduras-Sarsaparilla) ハ之ヲ粉性サルサ根ト稱ス日本藥局方ニ規定セルモノ是レナリ、此サルサ根ハ中央亞米利加ノホンデラス及グアテマラ地方ヨリ輸出セラレ充實圓筒形ノ根ヨリ成リ外面ハ帶

ハ本品ヲ約三分ノ一ニ縮小セル寫眞圖ナリ、本サルサ根ハ甚タ長ク圓柱形ニシテ多クハ分岐セス太サ三乃至五ミリメートル帶灰類褐色乃至帶赤黄色ニシテ緊張性ヲ有シ扁形ノ縱溝ヲ現ハシ僅ニ纖維根ヲ着ケ屈撓性ヲ有シ破折

スレハ粉塵ヲ散ス、横断面ニ於テハ白色或ハ時トシテハ類赤色ヲ有シ厚サ約一ミリメートルノ皮部及類黄色或ハ灰類黄色ニシテ白色ノ髓ヲ圍繞スル所ノ中央圓環ヲ認ム、本生薬ノ水浸液ハ之ヲ振盪スレハ大ニ泡起ス。

(顯微鏡的構造)

上皮ハ處ニ由リ存在スルノミ其下部ニ位スル下上皮(外木鞘第三十二圖E)ハ二乃至四細胞層ヨリ成リ其皮壁ハ殊ニ外方ニ向テ厚化シ孔紋ヲ現ハス、本來ノ皮部ノ細胞(第三十四圖F)ハ薄壁性ナリ、中央圓環ハ内上皮(内木鞘同圖J)ニ由テ皮部ト區別セラル其内上皮ハ褐色ヲ有シ纖維様ニ延長シ横断面ニ於テハ畧、正方形ニシテ各方面ニ殆ト平等ニ厚化シ木化セル細胞ヨリ成ル(第三十四圖K)中央圓環ハ多放線性ニシテ横断面ニ於テハ橢圓形ヲナセル篩脈管(同圖L)及スケレ、ンヒム纖維ヲ具有ス、パレンジヒムハ單顆粒並多クハ二乃至四箇ノ分粒ヨリ成レル複合顆粒ノ狀ニ於ケル澱粉ヲ包藏ス、單顆粒ハ直徑十八ミクロンメートルニ至ル、或ル細胞ハ「カルチウム蔗糖酸鹽ノ束鏡品ヲ含有ス。

(Z) ヴェラクルツサルサ根 (Vera-Cruz-Sarsaparilla) ハ墨西哥ノ東都ウエラクルツ及タンピコ地方ヨリ輸出セラル、モノニシテ之ヲ莖狀サルサ根ト云フ

圖二十三第



圖三十三第



圖四十三第



此品ハ深溝ヲ有スル莖狀ノ根ヲナシ赤褐色或ハ黄褐色ヲ有シ屢、土塊ヲ附着シ其外見潔カラス常ニ根莖ヲ帶有ス而シテホンヂュラスサルサ根ヨリハ多ク市場ニ出ツルモノトス、第三十一圖ノハ本品ヲ約三分一ニ縮小セル寫真圖ナリ。

第三十二圖ハホンヂュラスサルサ根ノ横断面ヲ三倍ニ廓大シタルモノニシテEハ下上皮、外木鞘、Rハ皮部、Jハ内上皮(内木鞘)、Gハ脈管束輪、Mハ髓心ナリ、而シテ第三十三圖ハウエラクルツサルサ根ノ三倍廓大横断面ヲ示ス。

第三十四圖ハホンヂュラスサルサ根ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セル形狀ニシテFハ皮部、Kハ内上皮(内木鞘)、Lハ脈管、Mハ篩管トスウエラクルツサルサ根莖狀サルサ根ニ在テハ外木鞘ト内木鞘ノ間ニ位スル組織ハ鬆疎海綿狀ヲナシ殆ント空虚ナリ。

- 1. Parillin
- 2. Sarsapallidin
- 3. Sarsaponin
- 4. Saponin

總テサルサ根ノ味ハ初メ粘滑ニシテ後辛辣ナリ。
(成分) サルサ根ハ Parillin $C_{16}H_{14}O_4 + 2H_2O$ 及 Smilacin $C_{10}H_{10}O_6 + 2H_2O$ ナル
 (サポニン又之ニ類スル化合物ノ少量ニ乃至三%)ヲ含有ス此化合物ハ結晶性
 ヲ有シ冷水ト共ニ振盪スレバ著シク泡起シ之ニ稀鹽酸ヲ加ヘテ煮沸スレバ
 鱗片狀ノ結晶(Parillin)ヲ析出ス、其他サルサ根ハ澱粉樹脂等ヲ含有ス。
(應用) 毒ヲ梅毒療法ニ用ユ而シテ多クハ第一回日本藥局方ノ複方サルサ舍利別及複方サ
 ルサ煎ノ狀トシテ之ヲ應用ス。

(乙) 雙子葉植物ノ根類 Wurzeln der Dicotyledonen.

● サッサfras木 サッサfras木

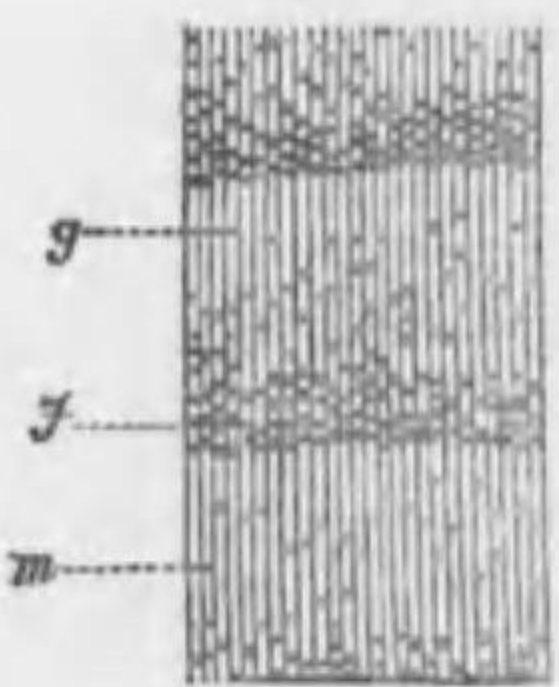
Lignum Sassafras. Lignum Radicis Sassafras.

(基原) サッサfras木ハ Sassafras officinalis Nees ナル喬木ノ根木ナリ而シテ此
 植物ハ樟科(Lauraceae)ニ屬シ北米ノカンサス州及フロリダ州ヨリ加奈陀ニ亘
 ルノ諸地ニ産シ一千五百六十五年佛人初メテフロリダ州ニ於テ之ヲ藥用ニ
 供シ、獨乙ニ於テハ同世紀ノ終リヨリ之ヲ醫藥ニ供スルニ至レリ。

(形状)

サッサfras木ハ巨大ノ根木ニシテ其外面ハ灰褐色ヲ有シ著シキ皮
 鱗ヲ着ケ藥用ニハ外皮ヲ剝除シテ用ニ、坊間ノ品ハ大抵削屑トナシ或ハ骰子
 形ニ細割セリ皮部ハ赤褐色ヲ有シ破折面ハ平坦ナリ其内部ニモ亦枹層帶ヲ
 現ハス、木部ハ輕嫩ニシテ割裂シ易ク其横断面ハ灰色乃至淡類赤色ヲ帶ヒ廣

圖五十三第



サニ乃至四mmノ歲輪ヲ有シ歲輪ハ至細多數ノ髓線
 ニ由リテ通過セラル而シテ木部ハ鉛直ナル纖維ヨ
 リ編成セラレ巨孔ヲ有スル脈管ヲ散在ス、皮部及木
 部ハ共ニ油室ヲ包有シ皮部ハ遙ニ之ニ富メリ故ニ
 皮部ノ香氣ハ木部ヨリモ現著ナリ、**第三十五圖**ハサ

ッサfras木ノ横断面ニシテgハ脈管、fハ歲輪、mハ髓線ナリ。

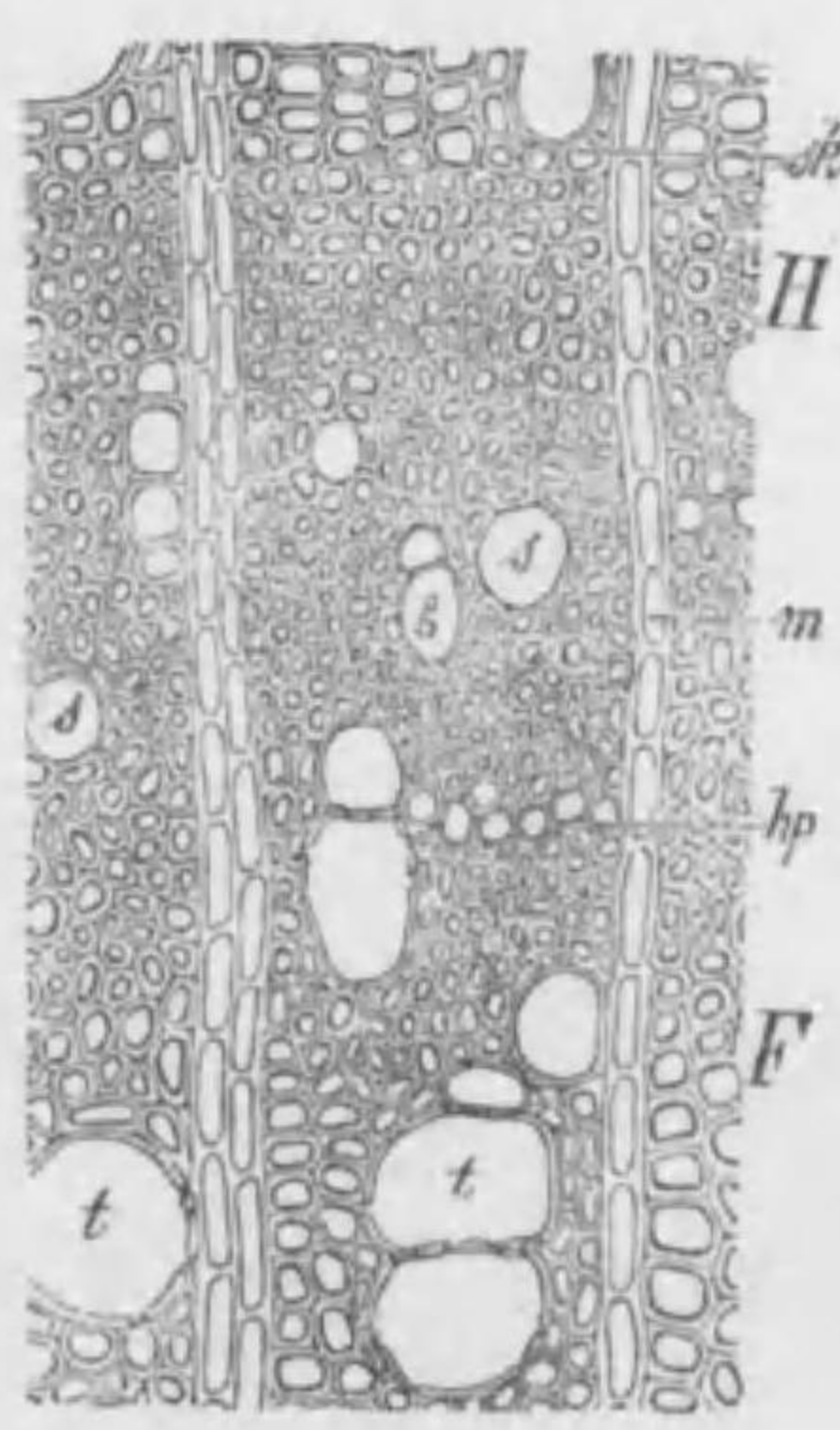
サッサfras木ハ佳快ノ香氣ヲ有シ其味ハ芳香性ニシテ微ニ甘シ。

(顯微鏡的構造)

本木ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ髓線ハ一乃至四
 列ニシテ其髓線ノ間ニ於ケル組織ハ木纖維ヨリ成リ木纖維ハ春木ノ部位第
 三十六圖Fニ於テハ比較的僅ニ厚化シ秋木ノ部位同圖Hニ於テハ遙ニ緻密
 ニシテ其組織中ニ脈管ノ存在スルヲ見ル而シテ此脈管ハ春木ノ外邊ニ於テ

ハ往々兩髓線間ノ全積ヲ占メ他ノ部位ニ於テハ概シテ該髓線間全積ノ三分ノ一ヲ占有スルニ過キス小脈管ハ單獨ニ或ハ二乃至四箇相伴フテ存在ス横

圖六十三第



断面ニハ脈管ノ外亦分泌器(同圖s)ヲ箝在シ而シテ脈管ノ附近ニ之ヲ髓線ト聯結スル所ノ木パレンヒーム(hp)ヲ見ル此細胞ハ木纖維ヨリ遙ニ非薄ナルヲ以テ容易ニ之ト鑑別スルヲ得ヘシ。

第三十六圖ハ本木ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ(m)ハ髓線、(F)ハ春木ノ部位、(H)ハ秋木ノ部位、(t)ハ脈管、(sk)ハ木纖維、(hp)ハ木パレンヒーム、(s)ハ分泌器トス。

(成分) 木部及皮部ハ重要ナル揮發油即チ「サツサフラス油 (Oleum Casafrae)」ヲ含有ス、根本ハ揮發油〇・九%ヲ含ミ皮部ハ頗ル揮發油ニ富ミ其含量七五ノ多キニ至ル、本揮發油、Safrol (C₁₀H₁₀O₂) (80%)^{シキス} Pinen 及 Phellandren (共 C₁₀H₁₆) (10%)^{樟腦} Eugenol (C₁₅H₁₄O₂) (5%)⁶⁾ 一半テルペン等ヨリ成ル、其它又赤色ノ色素ヲ含ム此

色素ハ「キナ赤色素及ラタニア赤色素ニ於ケル如ク一種ノ鞣酸ノ分解ヨリ生成スルモノナラン。

(應用) サツサフラス木ハ發汗藥及利尿藥トナシ常ニ類似ノ藥品例之バ「サルサ根等」ト伍用セラレ第一回日本藥局方ノ聖方サルサ舍利其佐木煎類等ノ中ニ入ル然レトモ「サツサフラス木ハ其香氣秀絶ナルガ故ニ藥用ヨリハ多ク粉粧藥トシテ供用セラル又サツサフラス油ヲ製スルノ原料ナリ。

Jateorrhiza palmata
● **コロムボ根** Radix Colombo.

- (獨) Kolombowurzel.
- (英) Calumba-root.
- (佛) Racine de colombo.

コロムボ根

(基原) コロムボ根ハ防已科 (Menispermaceae) ノ植物 *Jateorrhiza palmata* Meers ノ根ニシテ一千六百年ノ下葉始メテ歐洲ニ渡來セリ此植物ハ亞弗利加ノ東岸マダガスカル島ニ對スル地方モサンビク、ツァンジパール等ニ産ス。

(形狀) 本植物ハ蔓生植物ニシテ不整ノ形狀ヲ有スル短キ根莖ヲ出タシ球根形ノ副根ヲ着ク、コロムボ根ハ即チ其副根**第三十七圖**ニシテ通常ハ之ヲ横截シテ市場ニ出タス、坊間ノ品ハ直徑約三乃至八cm厚サ〇・五乃至二cm直徑八cmニ超エザル圓形或ハ橢圓形ノ横截根片**第三十八圖**ヲ多少反曲シ其質堅固ナレトモ輕シ而シテ粉塵ヲ着ク、外部ハ灰褐色ニシテ皺紋多キ袍層ヲ被ムリ

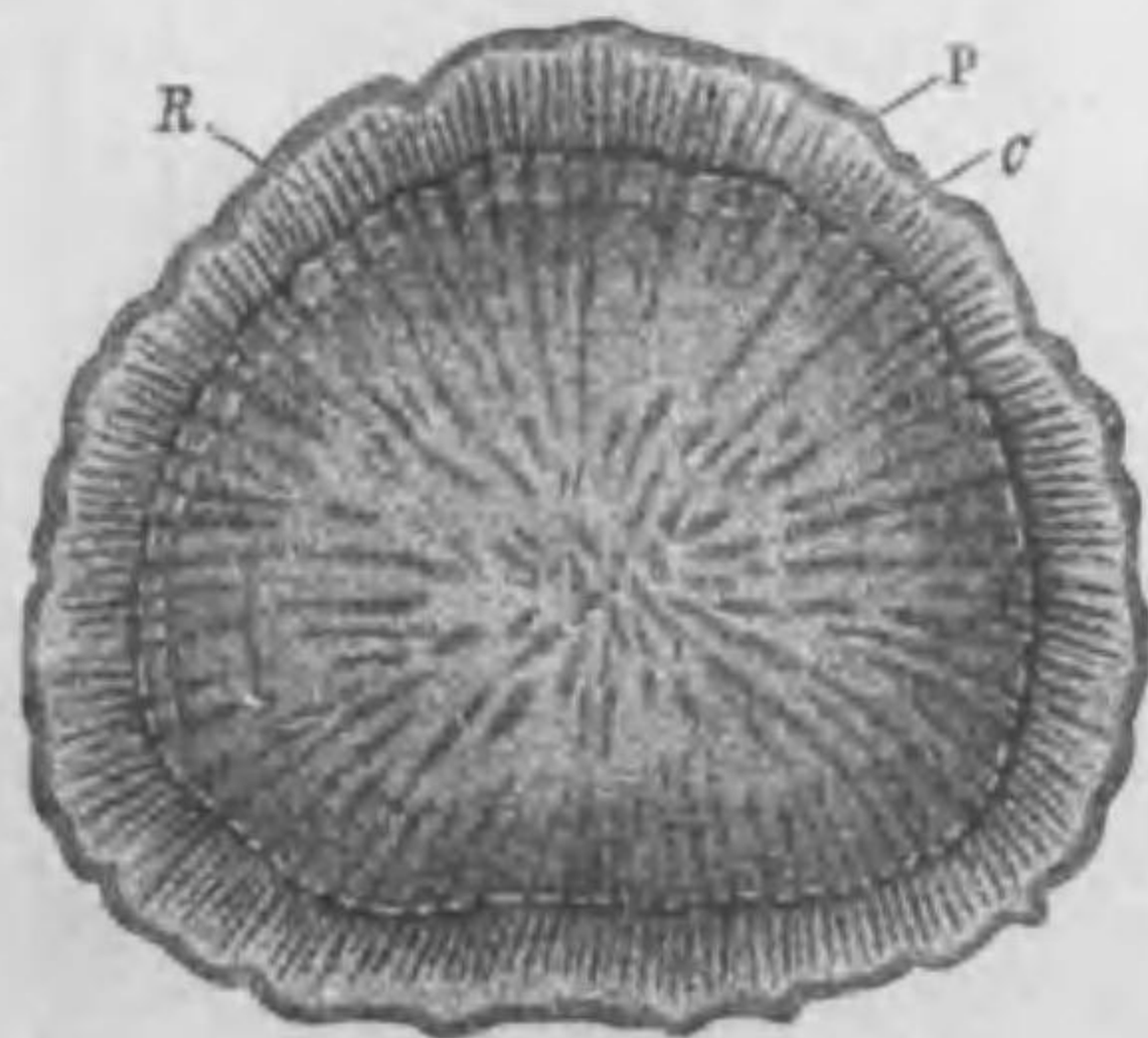
圖七十三第



圖八十三第



内面(横断面)ハ帶綠黄色或ハ帶褐黄色ヲ有シ皮部ハ暗色ノ新生組織輪ニ由テ木部ト分割セラル、其新生組織輪ヨリハ多クハ凹陷セル



中心ニ向テ線條ヲ發生ス而シテ其中心ニハ髓ナク只二三ノ脈管ヲ散在ス、皮部ハ褐色黄色、木部ハ淡黄色ヲ有ス

第三十七圖ハ「コロムボ根ノ縮小圖ニシテ(a)ハ地上ニ挺出セル莖軸、dハ副根ノ肥厚セル部分、(g)ハ其横断面ヲ示ス、第三十八圖ハ生薬トシテ行ハル

、横截根片ノ寫真圖ニシテ第三十九圖ハ横断面ノ概型ナリ、其(R)ハ皮部、(C)ハ新生組織輪、(P)ハ胞層、(H)ハ木部トス。

(顯微鏡的構造) 本生薬ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレハ胞層ハ扁形細胞ト不整形細胞ト交互ニ排列セル細胞層ヨリ成ル、皮部ハ主トシテ「パレンヒ

圖十四第



圖一十四第



ム」ヨリ成リ其外邊ニハ木化セル「スケレ、ンヒーム」(石核細胞、第四十圖)ヲ散在シ其

圖二十四第



石核細胞中ニハ尿酸鹽結晶ヲ包有セルモノアルヲ見ル、皮部ノ内邊ニハ頽敗セル篩脈管ヲ存ス、木部ニハ短節性網紋脈管アリ六乃至二十箇相伴フテ存ス而シテ此脈管ニハ補充纖維ノ隨伴スルヲ見ル、コロムボ根ノ組織ハ澱粉ヲ包藏ス其澱粉ハ概シテ單澱粉ニ屬シ球

圓形卵圓形乃至短橢形ヲナシ同心性或ハ外心性層紋ヲ現ハシ其大サ二十五乃至五十ミクロミリメートルナルヲ常トシ稀ニハ八十ミクロミリメートルニ超エ屢多放線性核ヲ具有ス本品中ニハ亦大サ普通十乃至十五ミクロミリメートルノ小顆粒ヲ發現ス。

第四十一圖ハコロムボ根ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノヲ示ス、(f)ハ脈管、(c)ハ新生組織、(p)ハ補充纖維、(r)ハパレンヒーム、(s)ハ篩脈管トス。

第四十二圖ハコロムボ根中ニ含メル澱粉ヲ示ス。

(成分) コロムボ根中ニハ從來無窒素性ノ苦味素コルムピン Kolumbin ($C_{21}H_{21}O_7$)、コロムボ酸 ($C_{21}H_{21}O_8$) 及アルカロイド、ベルリン Berberin ($C_{20}H_{17}NO_9$)ヲ含ムトシ

テ知ラレタリシガ近來ニ至リゴルデン氏其ベルベリンニ非ザルコトヲ檢明シガダーメル及ギンツェルノ兩氏ハ「コロムボ根中ノ鹽基ヲコルムバミン

Kolumbaminト命名シ其集成ヲ $C_{21}H_{21}NO_8$ ト定メタリ、次テ最近ニ至リフェイスト氏ハ「コロムバミン」ノ外ヤテオルリチン Jateorhizin $C_{20}H_{19}NO_5$ 及パルマチン Palmatin $C_{21}H_{21}NO_8$ ノ二種ノ新アルカロイドヲ發見セリ「コロムボ根ハ其他澱粉ヲ含有ス。

コロムボ根ト錯誤シ易キモノハ米國産コロムボ根トス此根ハ *Passora carolinensis* ニシテ眞正ナル「コロムボ根」ニ比スレバ其色淡白ニシテ暗色ノ新生組織ヲ現ハサス澱粉ヲ含有セス而シテ眞正ナル「コロムボ根」ヨリド丁幾ニテ潤ホセバ藍色ヲ呈スレバ本根ハ褐色ヲ呈ス其他米國

コロムボ根ハ鞣酸ヲ含有スルニ由リ其煎汁ニ過クロール鐵ヲ加フレバ類黑色ノ沈澱ヲ生スレドモ眞正ナル「コロムボ根」ハ然ルコト無シ蓋黃ヲ以テ黃色ニ染色セル「アリオニア根 Radix Bryoniae」ハ稍「コロムボ根」ニ類スレトモ輪層ヲ現ハシ且ツ放線狀ニ破壊シ易シ。

(應用) 收飲性苦味藥トシテ通例一五〇チニ〇〇〇ノ煎劑トナシ與フ、又慢性下痢ニ用ユ、藥局方ノ製品ハコロムボ根越幾新トス。

●アルテア根 Radix Althaeae.

(基原) アルテア根ハ錦葵科 (Malvaceae) 所屬ノ草 *Althaea officinalis* L. ノ根ニシテ己ニ太古ノ時代ヨリ醫用ニ供セリ、此植物ハ殊ニ歐洲地中海濱ニ接スル地方ニ産シ又亞細亞及歐洲ノ内地鹽分ニ富メル諸地ニ産ス而シテ獨逸ノニー

ルンベルヒ、バムベルヒ及シウインフルト近傍ニ於テ多ク培植ス。

(形状) アルテア根ハ大約二年ヲ經タル植物ノ木化セザル根ヲ其著大ノ枝根ト共ニ掘採シ帶黃灰色ノ袍層及纖維根ヲ除去セルモノナリ而シテ坊間ニ

- (獨) Eibischwurzel.
(英) Marshmallow-root.
(佛) Racine de guimauve.

販賣スル品ハ多クハ太サ大約二cm長サ三十cmニ至ル單根ヲナシ外面ハ類白色ニシテ縱皺紋ヲ帶ヒ纖維根ヲ剪取セル類褐色ノ痕ヲ現ハシ處々ニ自

ラ脫離セル小纖維ヲ着ク破折スレハ粉塵ヲ散ス木部ハ短ク顆粒狀ニ折レ全部ハ柔軟長纖維性ニ折ル。

圖三十四第



圖四十四第



横断面ハ類白色ノ狭キ皮部ヲ現ハシ其皮部ハ波動狀ニ彎曲セル淡類褐色ノ新生組織ニ由テ類白色ニシテ大ナル木體ト區別セラル本品ノ横断面ハ殊ニ之ヲ水中ニ軟化セシメタル後ルーペヲ以テ檢視スルトキハ皮部ハ圓輪狀ノ層紋ヲ現ハシ木部ニ放線狀ヲ呈ス本品ノ截断面ハアムモニア水ヲ以テ之ヲ濡ホセハ黄色ヲ呈ス。

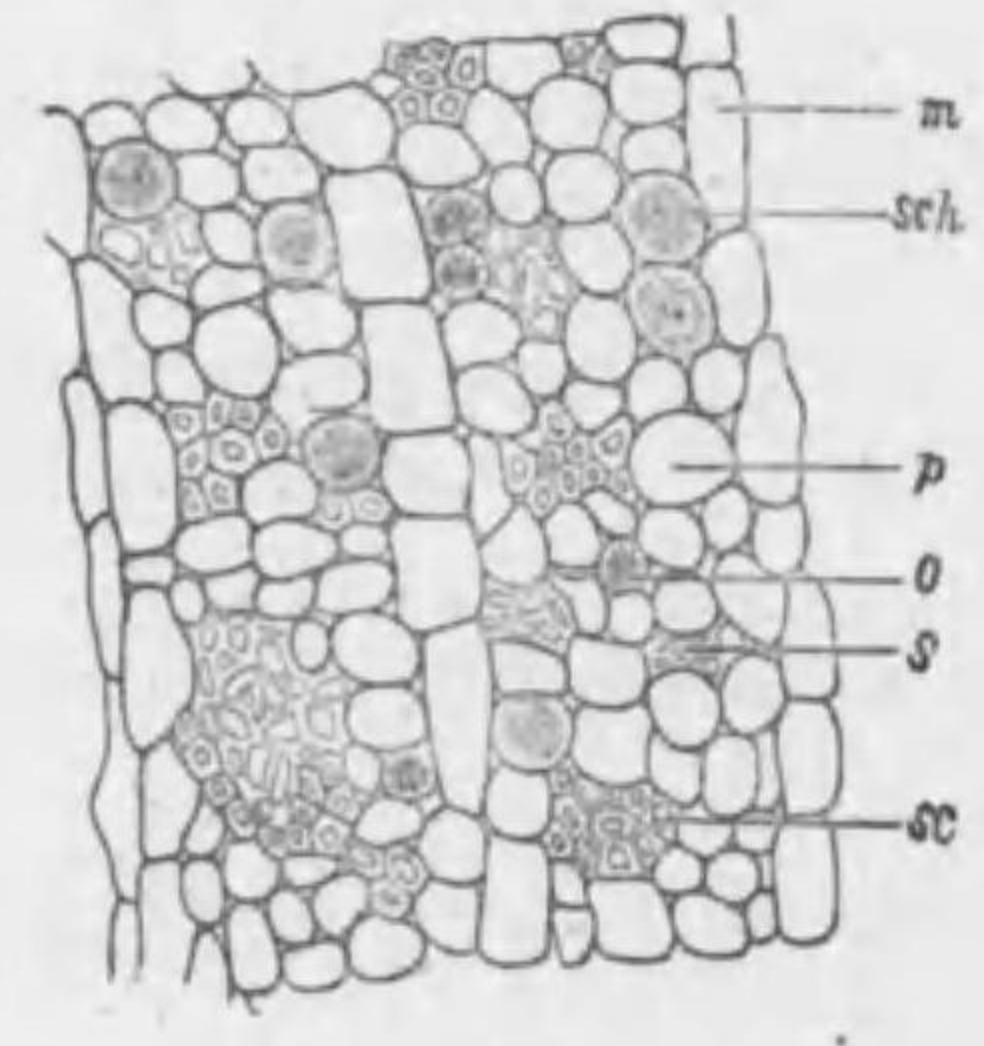
第四十三圖ハアルテア根自然大ノ寫真圖ニシテ第四十四圖ハ其横断面ヲ二

倍ニ廓大シテ示セルモノナリ。

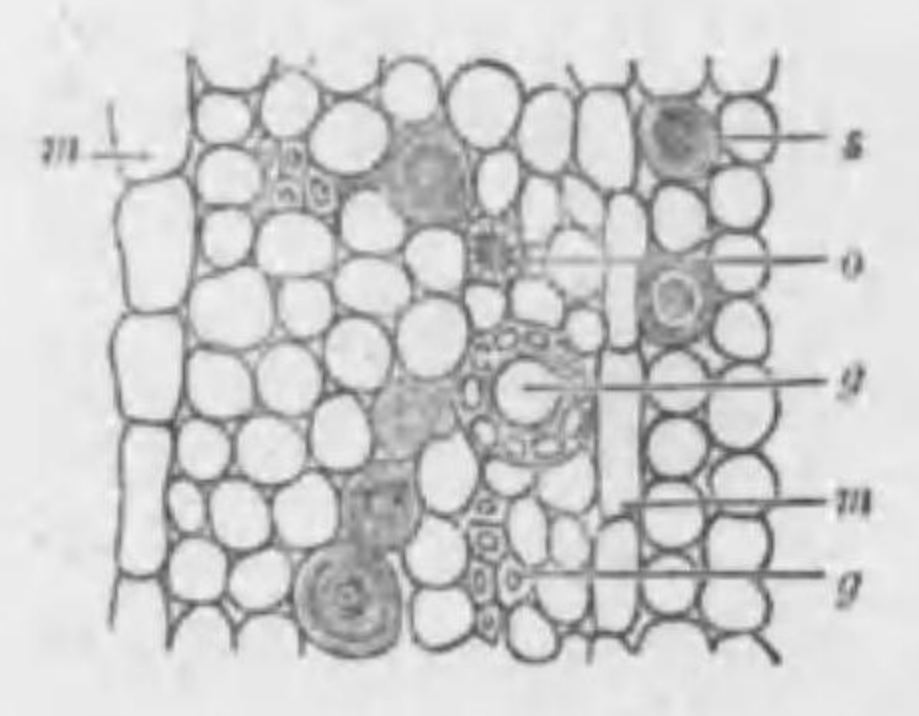
(顯微鏡的構造)

アルテア根ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ胞層ハ略穀子形ヲナセル細胞ノ大約十列ヨリ成リ漸次僅ニ觸線性ニ延長セル大ナル

圖五十四第



圖六十四第



細胞ニ移行セリ皮部ハ澱粉ヲ包有セルパレンヒムヨリ成リ中ニ甚クシク厚化セザル内皮纖維(第四十五圖sc)ノ存在スルヲ見ル此纖維ハ甚ク長ク往々分岐セルモノアリアルテア根ノ横

折面ニ纖維性ヲ現ハスハ該纖維ニ基因ス内皮纖維束ハ内方ニ到ルニ從ヒ漸次其數ヲ増加シ且ツ巨大トナリ明カニ篩脈管(圖s)ト交互ニ配置セラル髓線(圖m)ハ一乃至二列ヨリ成リ其細胞ハ稍半徑性ニ延長セルノミニシテ其左右ノ組織ト異ナルコト無シ皮部ハ明カニ新生組織ニ由テ木部ト區別セラ

ル、木部モ亦皮部ト同一ノ物質ヨリ成リ只篩脈管ノ代リニ擬脈管及脈管ヲ有スルノ差アルノミ。

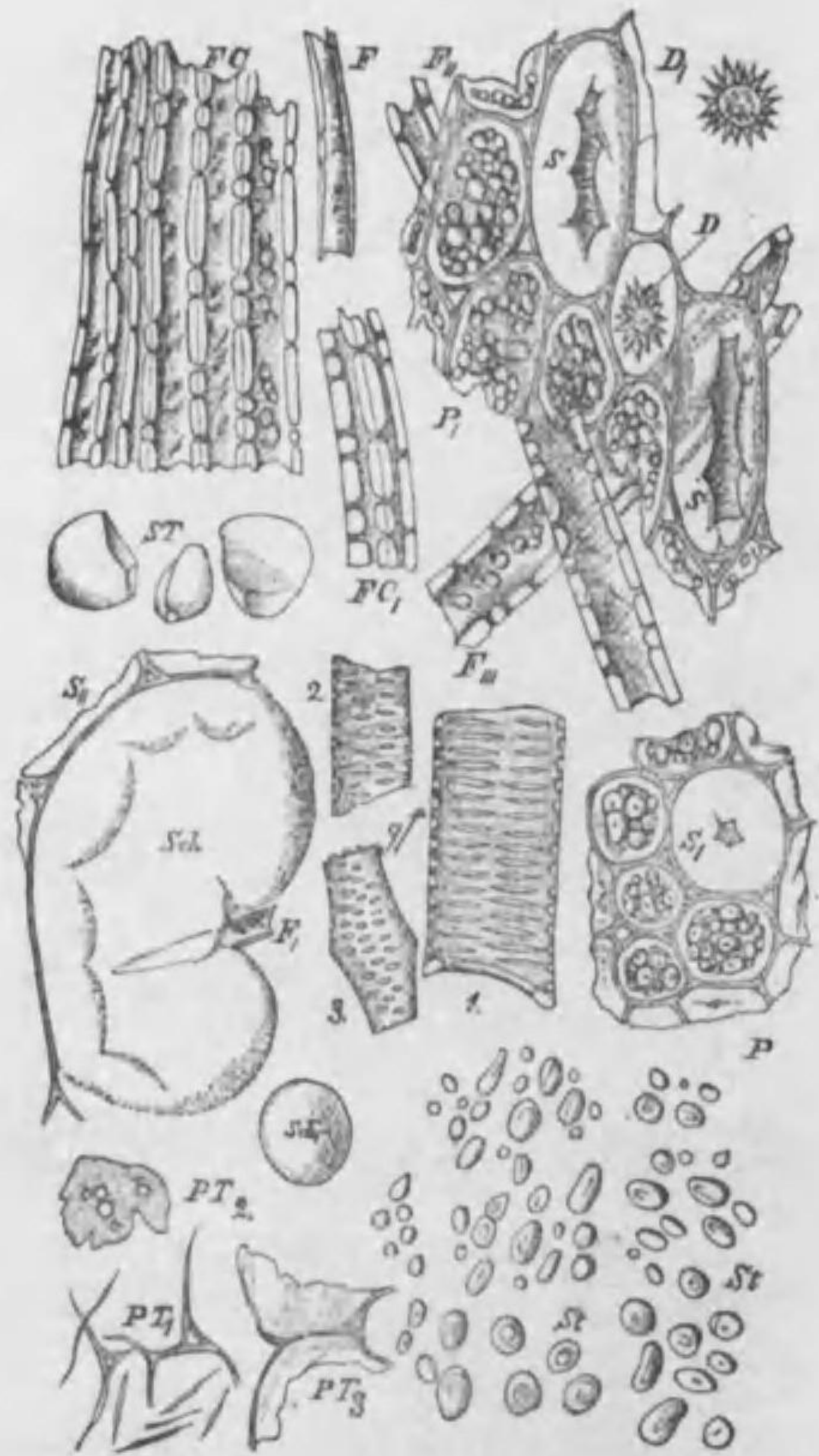
皮部及木部ノ組織ハ澱粉ニ富ム其澱粉ハ長形乃至腎臟形ヲナシ短キ縦裂ヲ現ハシ其大サ二十三ミクロミリメートルトス又處々ニ棧酸鹽簇晶ヲ包藏セル細胞ト亦比較的大ナル粘液細胞(第四十五圖sch)及第四十六圖(s)ヲ見ル。

第四十五圖ハアルテア根皮部ノ横斷面ヲ示ス(m)ハ髓線(sch)ハ粘液細胞(p)ハパレンヒム(s)ハ篩脈管(sc)ハ纖維束トス。

第四十六圖ハ本根本部ノ一小部分ヲ示ス(g)ハ脈管(m)ハ髓線(o)ハ棧酸鹽簇晶(s)ハ粘液細胞トス。

第四十七圖ハアルテア根ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セル狀ニシテ(p)ハ澱粉ヲ包藏セル組織ノ表面(p)ハ其側面(s)及(s₁)ハ粘液細胞ノ表面及側面(ST)ハ粘液細胞ノ碎片(D)ハ棧酸鹽簇晶(D₁)ハ棧酸鹽簇晶ノ粉末中ニ散在セルモノ、(PT)ハ細胞組織皮壁碎片ノ纖維形ヲナセルモノ(表面ヲ示ス)、(PT₁)ハ其板狀ヲナセル碎片側面ヲ示ス、(PT₂)ハ上記二種碎片ノ連合物、(gf)ヨリ3ニ至ル)ハ脈管ノ碎片側面、(FC)及(FC₁)ハ大小種々ナル纖維碎片側面、(F₁)ヨリ(F_{III})ハ纖維碎片ノ單

第四十七圖



(L. Koch 氏ニ據ル)

在セルモノ (st)ハ粉末中ニ散在セル澱粉(sch)及(sch₁)ハ粘液球(二)ハ百倍但シ膨脹セルモノ(並ニ其碎片)ヲ示ス。
アルテア根

ハ淡泊粘液性ノ味ヲ有シ臭氣ハ較著ナラサレトモ特異ナリ。凡ソ良好ノアルテア根ハ汚白色ヲ有ス可カラス又著シク木化(硬化)セルモノハ藥用ニ堪ヘス、本品ノ粉末ニ十倍量ノ冷水ヲ加ヘテ得タル浸液ハ粘滑ニシテ微ニ黃色ヲ帶フルニ過ク可カラス其著シク黃色ヲ有シ酸性或ハアムモニア性ノ臭氣ヲ放ツモノハ變敗セルノ證トス本品ハ間、其外見ヲ裝ハンガ爲メ

白聖粉ヲ塗擦セルモノアリ斯ノ如キ根ハ之ヲ水中ニ浸ストキハ白色ノ粉末ヲ沈降スベシ。

第一回日本藥局方ニ於テハ蜀葵根下文黃蜀葵根ノ附録ヲ見ヨテ以テ藥用品ト規定シタレトモ此根ハ其實堅硬ニシテ粘液ヲ含有スルコト少ナシ故ニ第二改正ヨリ已後之ヲ剔除シアルテア根ヲ以テ之ニ換ヘタリ更ニ第三改正藥局方ニ至リテハ更ニ黃蜀葵根ヲ收載セリ亦本條ノ品ニ代用シ得ベキモノナリ。

(成分) 主要ノ成分ハ粘液ナリ其含量三十五%ニ至ル本粘液ハ硫酸及ヨードニ由テ藍色ヲ呈セス只黃色トナルノミ、硝酸ニ由テ粘液酸ヲ生シ酸化銅アルムモニアニ溶解セス故ニ纖維素ノ本性ヲ有セス眞性粘液ニ屬ス其他 *Asparagin* (アスパラギン) 二%澱粉三十七%砂糖等ヲ含ム。

(應用) 胃腸ノ刺戟ヲ緩解セシムルノ目的ヲ以テ粘滑藥トナシ胃腸ノ加害兒ニ應用ス其十分ヲ百分ノ冷浸劑トナス又丸劑錠劑等ノ賦形劑トナスコトアリアルテア煎ハ常ニ冷水ヲ以テ製ス是レアルテア根ハ大ニ澱粉ニ富ミ沸湯ニ浸フトキハ其澱粉糊化シニ澄明ノ煎劑ヲ得難クレバナリ。

(貯法) 本品ハ乾燥シテ貯フルノ必要アリ之ヲ乾燥スルニハ具微温ヲ施スベシ熱度高キニ過クルトキハ黃色ヲ呈スルノ虞アリ。

● 黃蜀葵根 *Radix Hibisci.*

(基原) 黃蜀葵根ハアルテア根ニ換用シ得ベキ生藥ニシテ黃蜀葵(俗ニゴロハ又ゴロハ、あふひと稱スル植物)ノ根ヲ採集セルモノナリ、本植物ハ錦葵科 (*Malvaceae*)ニ屬スル *Hibiscus japonicus* *Miq.* (*H. Manihot. L.*)ニシテ其根ヲ製紙ノ糊ニ用ユルノ目的ヲ以テ本邦諸地例之バ静岡縣下岐阜縣下東京附近ニハ埼玉縣下比企郡小川町附近ニ培養セラル。

(形狀) 黃蜀葵根ハ紡錘形ニシテ多少分岐シ下部ハ漸次甚タ狹細トナリ長

圖八十四第



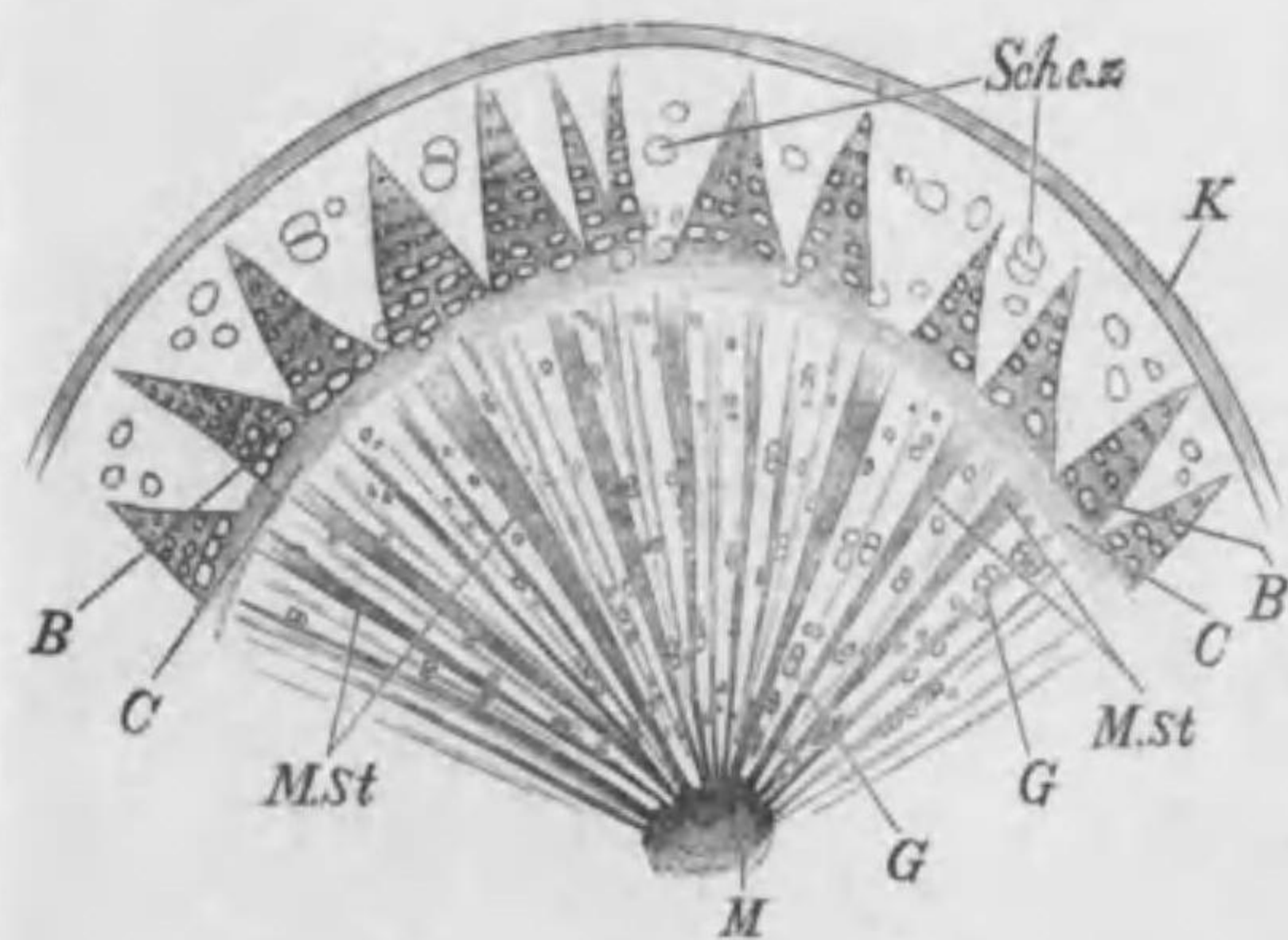
サ一dmニ超エ太サ〇五乃至一cmニシテ外見ハ灰白色ニシテ副根ノ痕痕ヲ着ク、横斷面ニ於テハ皮部ハ明カニ暗色ノ新生組織ニ由テ木部ト區別セラル、ル

黃蜀葵根 (獨) *Hibiscuswurzel.*
(英) *Hibiscus-root.*
(佛) *Racine d'Hibiscus.*

一ペヲ以テ檢スルトキハ皮部ノ外邊ニ類白色ヲ呈シ内邊ハ暗色ヲ有シ内皮纖維ヲ認メ本部ハ淡黄色ヲ有シ脈管孔ハ半徑性ニ排列シ髓線ノ其間ヲ通過スルヲ見ル、第四十八圖ハ本根ノ寫真圖ナリ。

(顯微鏡的構造) 顯微鏡ヲ以テ黃蜀葵根ノ橫斷面ヲ檢スルトキハ粘液細胞ハ唯外皮部ニ散見シ内皮部ハ纖維簇ヨリ占有セラレ其間ニ僅ニ篩脈管ト澱粉ヲ含メル「バレンヒーム」ノ存在スルヲ見ル、木部ハ殆ト全ク脈管ト木纖維ヨリ形成セラレ髓線ハ一乃至二列(概シテ一列)ヨリ成ル「バレンヒーム」ハ唯僅ニ存シ澱粉ヲ包藏ス、

第九十四圖



木部ニハ粘液細胞ヲ發見セス。

第四十九圖ハ黃蜀葵根ノ橫斷面ヲ廓大視セルモノニシテ(K)ハ外皮層(Sche.)ハ粘液細胞(B)ハ纖維簇(C)ハ新生組織(G)ハ脈管孔(M, Sc)ハ髓線(M)ハ髓トス。

第十五圖



ス、橫斷面ノ皮部ハ稍厚ク白色ヲ呈シ木部ハ放射狀ヲ現ハス、第五十圖ハ蜀葵根ノ寫真圖ニシ

(成分) 藥學博士石津利作氏ノ研究ニ據ルトキハ本生藥中ニ含有スル粘液

ハ歐產アルテア根中ニ含有スルモノト同一ナリ。

(應用) 本品ハ「アルテア根」ニ換ヘテ應用スルヲ得ベキモノトス宜シク同條ヲ見ルヘシ但シ

主トシテ丸劑ノ賦形藥ニ供ス。

●蜀葵根 Radix Altheae roseae

蜀葵根ハ錦葵科(Malvaceae)ノ草本植物たちあふひ又はなあふひ Althea rosea Cur.ノ根ナリ而シテ此草ハ多ク花ヲ賞センガ爲メ本邦各地ニ培植ス、生藥トシテ市場ニ行ハル、蜀葵根ハ帶黃白色ノ袍層ヲ剝除シタル長キ手指大ノ根ニシテ外面ハ粉白色ヲ有シ内皮層ハ長纖維性ヲナ

チ自然大ノ半バニ縮示セリ。
蜀葵根ハ味淡泊ニシテ粘滑性ナリ然レトモ此品ハ前記セル如ク其實堅韌ニシテ粘滑性少ナ
キガ故ニ歐産アルテア根ニ代用スルニ堪ヘス一トタヒ日本藥局方ニ收載セラレタレトモ第
二回改正ノ際ニハ其製劑蜀葵舎利別ト共ニ削除セラレタリ。

●セネガ根 Radix Senegae.

(基原) セネガ根ハ北米ニ産スル遠志科 (Polygalaceae) ノ草 *Polygala Senega L.* (ひ
めはぎノ屬) ノ根ニシテ北米ニ於ケル「セネガ」ス人種及他ノ「インヂヤ」人種ハ
古來ヨリ之ヲ毒蛇ノ咬傷ニ應用セリ而シテ歐洲ニ渡來セシハ一千七百三十
五年ニ在リ。

(形状) セネガ根ハ往々著大ノ殘
莖及赤色ノ葉鱗ヲ着タル根頭ヲ有
シ屢振轉シ長サ二dm 太サ十五mmニ
過キザル根ヲナス而シテ此根ハ細
小ノ枝根ヲ着ケ或ハ略大サヲ同ウ
スル二箇或三箇ノ枝根ニ分岐ス其



圖一十五第

(獨) Senegamurzel.
(英) Senega-root.
(佛) Racine de Sènéga.

圖二十五第



體ノ扁平トナルヲ見ル、木體ノ直徑ハ大抵皮部ノ厚サニ超エ其横断面ハ完キ
圓形ヲナスコト稀ニシテ多クハ罅隙ヲ存ス而シテ此缺陷部ハ狭キ楔狀ヲナ
シ或ハ缺入セサル部分ヨリ大ナルコトアリテ髓線ニ類スル組織ニ由テ充填
セラル、第五十二圖ハ「セネガ根」ヲ寫真圖ニシテaハ米國西部ニ産スルモノ、b
ハ南部ニ産スルモノナリ。

外面ニハ類黄色或ハ灰色
乃至類褐色ヲ帶ヒ縱皺ヲ
有シ處々ニ隆起アリ、畧螺
旋狀ヲナシテ其軸ヲ纏繞
スル稜線ヲ有スルモノア
リ、第五十一圖ハ天然大ノ
「セガ」根ニシテ(A)ハ其根
頭(B)ハ稜線トス而シテ此
稜線ニ背ケル方面ニハ往
々深キ横裂ヲ有シ間、又木

圖三十五第

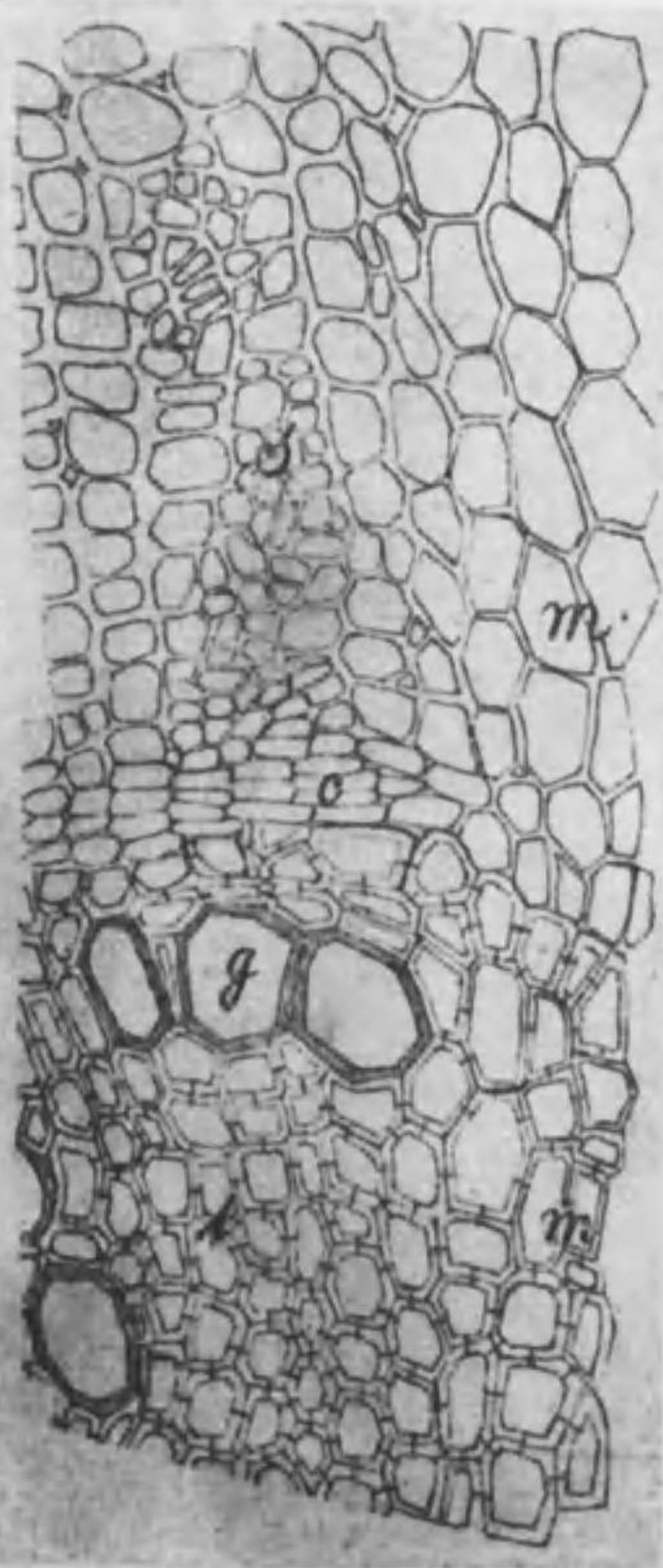


第五十三圖ハセネガ根ノ各異ノ位置ニ於ケル横断面ニシテ (a)ハ皮部、(b)ハ内皮部、(c)ハ木部トス。

(顯微鏡的構造) セネガ根

ノ横截面ヲ鏡檢スルニ皮部ハ新生組織第五十四圖ノ(c)ニ近接セル狭キ層ニ於テ多數小細胞性ノ篩管部(同圖g)ヲ見ル其間ニ比較的巨大ナル細胞ヨリ成レル髓線ヲ存シ(同圖m)一乃至三細胞ノ廣幅ヲ有ス、然ルニ稍廣キ皮部ノ外部ニ於テハ髓線ハ(パレンヒム)ト區別

圖四十五第



スルコト難シ、木部ニ於テハ孔紋脈管アリテ其各節短ク互ニ環狀ニ穿通セル横壁ヲ有ス(g)、又之ヨリモ細ク且ツ少數ノ孔紋ヲ有スル擬脈管アリ、木部ニ於ケル髓線ハ多少放線狀ニ排列シ或ハ薄壁ヲ有スルヲ以テ特徴トス前圖ハ(カールステン氏ニ據ル)。

セネガ根ノ組織中ニハ油滴ヲ含有シ、脂肪酸カルチウム及澱粉ヲ闕如ス而シテ「セネガ根ハ敗油性ノ臭氣ト峻烈苛辣性ノ味ヲ有ス。」

一千八百六十六年ヨリ以來米國ヨリ一種ノセネガ根ヲ輸出ス、是レ北米ニ産スル佗ノ Polygalda 屬ノ根ニシテ外形畧ニ眞正ノセネガ根ニ類スレトモ其色稍淡洎ニシテ木心ニ缺裂ヲ存セズ皮部ニ稜線ヲ闕如ス。

(成分)

セネガ根ハ有效成分トシテ「セネギン (Senegin C₁₈H₂₄O₁₁)」ナル中性配糖體ト酸性ノ「ポリガラ酸 (Polygalactinsäure)」ヲ含有ス此二種ノ化合物ハ「サポトキシニン (Sapotoxin)」及「キラヤ酸 (Quillajasäure) (キラヤ皮ノ條ヲ見ヨ)ト殆ト同一物ニシテ同一ノ生理的作用ヲ有スレトモ「セネギン」ハ「サポトキシニン」ニ比シ其效力ノ弱キコト十倍ナリトス、其他「フリニキ」キーゲル氏ハ過半ハ遊離脂肪酸ヨリ成レル八・六八%ノ褐色脂肪油ヲ發見セリ、又「ロイテール」氏ニ據レバ脂肪油六七%、樹

遠志

脂〇・九%、メチールエステルトナリテ存在スル「メチールサリチール酸及癩草酸平均〇・三%ト葡萄糖七%ヲ含有ス。

(應用) 氣管枝加答兒ニ對スル祛痰藥トナシ多クハ五〇乃至一〇〇ヲ二〇〇〇ノ浸劑トシテ二日間ニ服ス、藥局方ノ製品ハセネガ含利別ナリ。

●遠志 Radix Polygalae japonicae.

漢藥トシテ用非ラル、所ノ遠志ハ往々之ヲ以テセネガ根ニ充ツル者アレトモ非ナリ此生藥

圖五十五第



ハ恐クハ Polygala tenuifolia ノ根ナラン此品ハ多數ノ殘莖及根頭ヲ着クル根ニシテ種々ニ彎曲シ多クハ二箇或ハ多數ノ枝根ニ分岐シ太サ大約一cm、長サ一半dmニ至ル外面ハ灰褐色處々ニ副根ノ切痕ヲ存シ不整ニ皺縮シ深キ横裂ヲ現ハス、皮部ハ粗健ニシテ剝離シ易ク木心ハ堅硬

圖六十五第



ナリ、其質頗ル柔軟ニシテ破折面ハ平坦ナラズ皮部ノ横断面ハ類黃色ニシテ厚サ木體ノ半ニ過ギス殊ニ其新生組織ニ近接セル部位ニ於テハ放線狀ニ壞裂ス、木心ハ淡黃色ニシ、放線狀ヲ現ハサズ髓ヲ闕如ス、第五十五圖ハ遠志根ノ自然大寫眞圖ナリ。

ルーペニテ遠志ノ横断面ヲ檢視スレバ菲薄ナル胞層(第五十六圖ノP)類黃色ノ皮部(R、B)及類白色緻密ノ木部(H)ヲ區別シ得ベシ髓(M)ハ細小ニシテ間、空洞ヲナス、皮部中ニハ圓線及半徑線

ノ方向ニ數多ノ大ナル組織間隙(S)ヲ存ス又時トシテ木部中ニ箱入セル多少廣キ、パレンヒム(M)ヲ見ル、又顯微鏡下ニ之ヲ檢視シ順次ニ外部ヨリ擧グレバ數層ノ細胞ヨリ成レル胞層(第五十七圖ノP)圓形細胞ヨリ成レル皮部(B)、小形ノ細胞ヨリ成レル内皮部(B)及其中ニ點在スル篩管群(S)、菲薄ナル新生組織(C)及木部(H)ヲ見ル而シテ皮部ノ細胞中ニハ大小ノ脂肪球ヲ含ム、木部ニハ脈管(G)、木纖維細胞(P)及髓線(M)ヲ存ス、第五十七圖ハ遠志根ノ皮部及木部ノ一部ヲ示ス。

遠志ハ其臭氣顯著ナラズ、セネガ根ニ類スル苛辣性ノ味ヲ有ス、遠志ハ余之ヲ實驗ニ徴シ果シテ「ホリガラ酸及セネギン」ヲ含有スルコトヲ詳カニセリ故ニ遠志ハ「セネガ根」ニ代用スルヲ得ベシ余ハ又遠志中ニ一種ノ中性化合物ヲ發見シ之ニ Onisichin ナル名稱ヲ附シ其集成ヲ標スルニ $C_{21}H_{31}O_5$ ナル記號ヲ以テセリ此



化合物ハ之ヲ酒精ヨリ結晶セシムルトキハ疣贅狀ノ結晶ヲ成シ味ガク全クサボニント異ニシテ水ニ溶解セズ酒精ニモ亦溶解シ易カラス其他遠志ハ一種ノ樹脂ヲ含有ス。

● アンゲリカ根 Radix Angelicae.

(基原) アンゲリカ根ハ北歐ニ於テハ古代ヨリ食品ノ附加物トシテ千五百

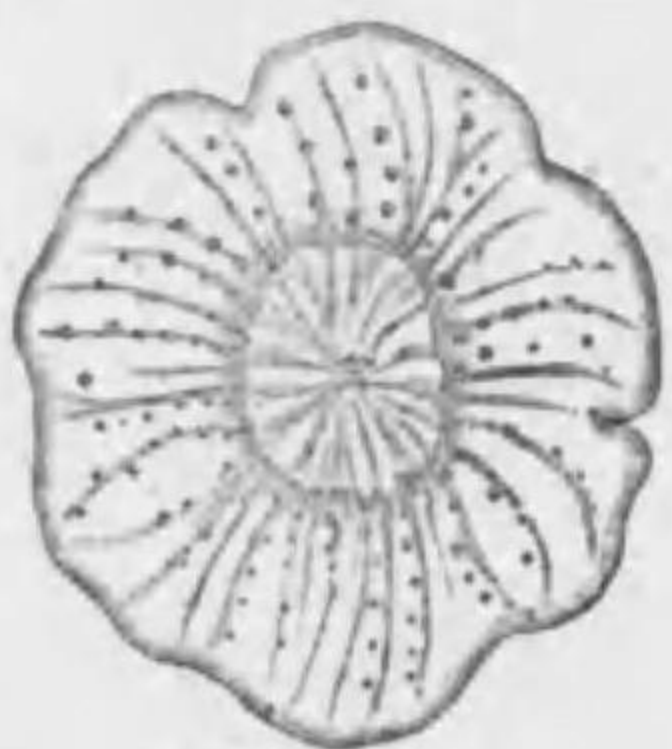
(獨) Engelwurzel.
 (英) Angelica-root.
 (佛) Racine d' angelique.

圖八十五第



年代ヨリ醫藥ニ應用セラレ、モノニシテ歐洲北部ニ天生シ獨逸中部佛國等ニ培植スル織形科 (Umbelliferae) ノ草 *Archangelica officinalis Hoffmann* (*Angelica Archangelica L.*) ノ地下莖ニ根ヲ附生セルモノナリ。根ハ葉鞘ヲ戴キ輪節ヲ有スル短厚ナル地下莖ヲ沿匝シテ生スル多數ノ根ニシテ太サ略羽翹ニ均シク起

圖九十五第

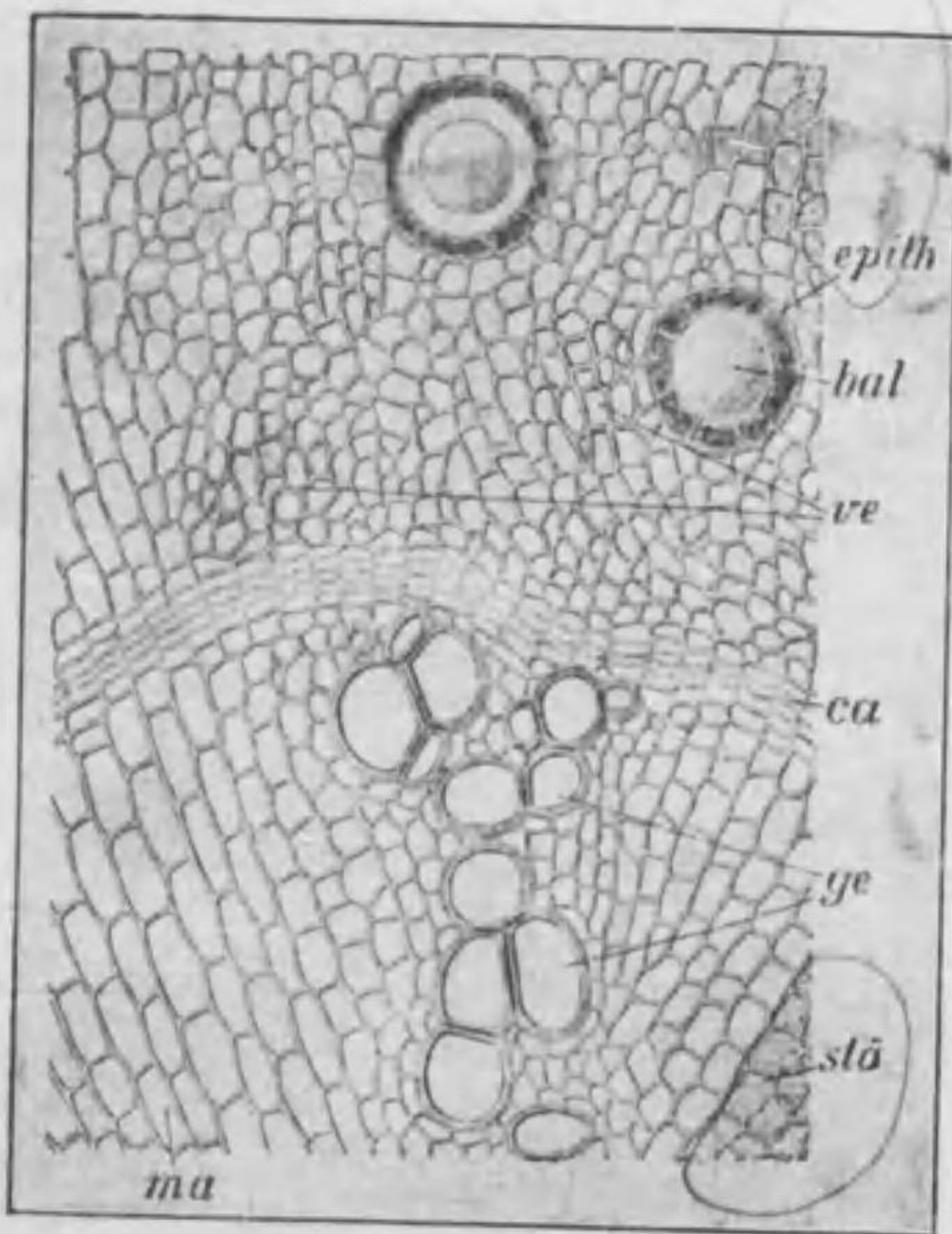


始ニ於テ一 cm ニ至リ支分セス、通例採集ノ際之ヲ捲束シ束鬚狀ヲナシテ市場ニ出タス、此根ハ縱皺及横徑ノ隆起ヲ帶ヒ地下莖ト共ニ褐灰色乃至類赤褐色ヲ有シ、外面ニ赤褐色ノ樹脂粒ヲ附着スルコトアリ、第五十八圖ハアンゲリカ根ノ少シク縮小セル寫真圖ナリ。

アンゲリカ根ノ横截面ニ於テハ皮部ノ廣サハ木心ノ直径ニ超エス皮部ニ於テハ放線狀ニ單線ヲナシテ駢列セル極メテ著大ノバルサム竇ヲ現ハス木心ハ海綿狀鬆疎黃色ニシテ廣キ髓線ヲ有ス而シテ地下莖ノ髓中ニモ亦散在性ノバルサム竇アリ。

第五十九圖ハアンゲリカ根(即チ副根)ノ三倍廓大横截面ヲ示ス。

第十六圖



(Gilg 氏ニ據ル)

(顯微鏡的構造) アンゲリカ根ノ横截面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ厚キ胞層アリテ外面ヲ包圍ス皮部ハ鬆疎ニシテ第二期ノ發生ニ屬シ髓線列往々亦パレンヒム細胞モ相離開シテ空洞ヲ生ス、多數ナル分泌物容器ヲ含有シ其截面ハ圓形或ハ橢圓形ニシテ新生組織ニ近キモノ

ハ小ナレバ外部ニ存スル者ハ大ナリ篩管部ハ不明ナレバ其周圍ニ孔紋アル厚壁性ノ纖維性原基補充纖維アルヲ以テ其特徴トナス、髓線ハ二乃至三細胞ノ幅ヲ有シ半徑線的ニ伸延シ(常ニ小澱粉粒ヲ含ム)木部ハ(パレンヒム)ニ富ミ分泌器ヲ有セス脈管ハ薄壁性且ツ階段性ニシテ補充纖維ヨリ包圍セラル。アンゲリカ根ハ其香味共ニ峻烈特異ニシテ強キ芳香性ヲ有ス。

歐洲ニ於テ汎ク播種セル *Angelica silvestris* L. ノ根ハ往々本生藥ト誤認セラル、コトアルモ木質性ニシテ細ク且ツ其バルサム竇モ亦細小且ツ少數ニシテ隨テ香氣少ナシ。

(成分) 揮發油ノ含有量ハ一%ニシテ右旋性テルペンヨリ成ル、樹脂ハ多量ニシテ六%ニ至ル、其他結晶性ノ Hydrokarotin (往時 Angelicin ト稱ス) $\text{C}_{15}\text{H}_{20}\text{O}$ 及アンゲリカ酸 Angelicasäure $\text{C}_9\text{H}_{10}\text{COOH}$ ヲ含有ス。

(應用) 興奮藥トシテ其三乃至十分ヲ百分ノ浸劑トシテ與フ又浴湯料ニ供ス但シ今ハ多ク用非ス。

●白芷 *Radix Angelicae anomala*.

本邦藥舖ニ販賣スル白芷ハアンゲリカ根ノ一種ニシテ *Angelica anomala* Pall. ナル楕形科植物ニ基原シ大和地方ヨリ出タス、主根ハ直径大約四cmニ至リ輪節ヲ有シ又隆起アリ上部ニ葉基ヲ載キ下部ハ分岐シテ多數ノ副根トナレリ是レ藥用上ノ主要部トス、副根ハ直径二cm長サ二十

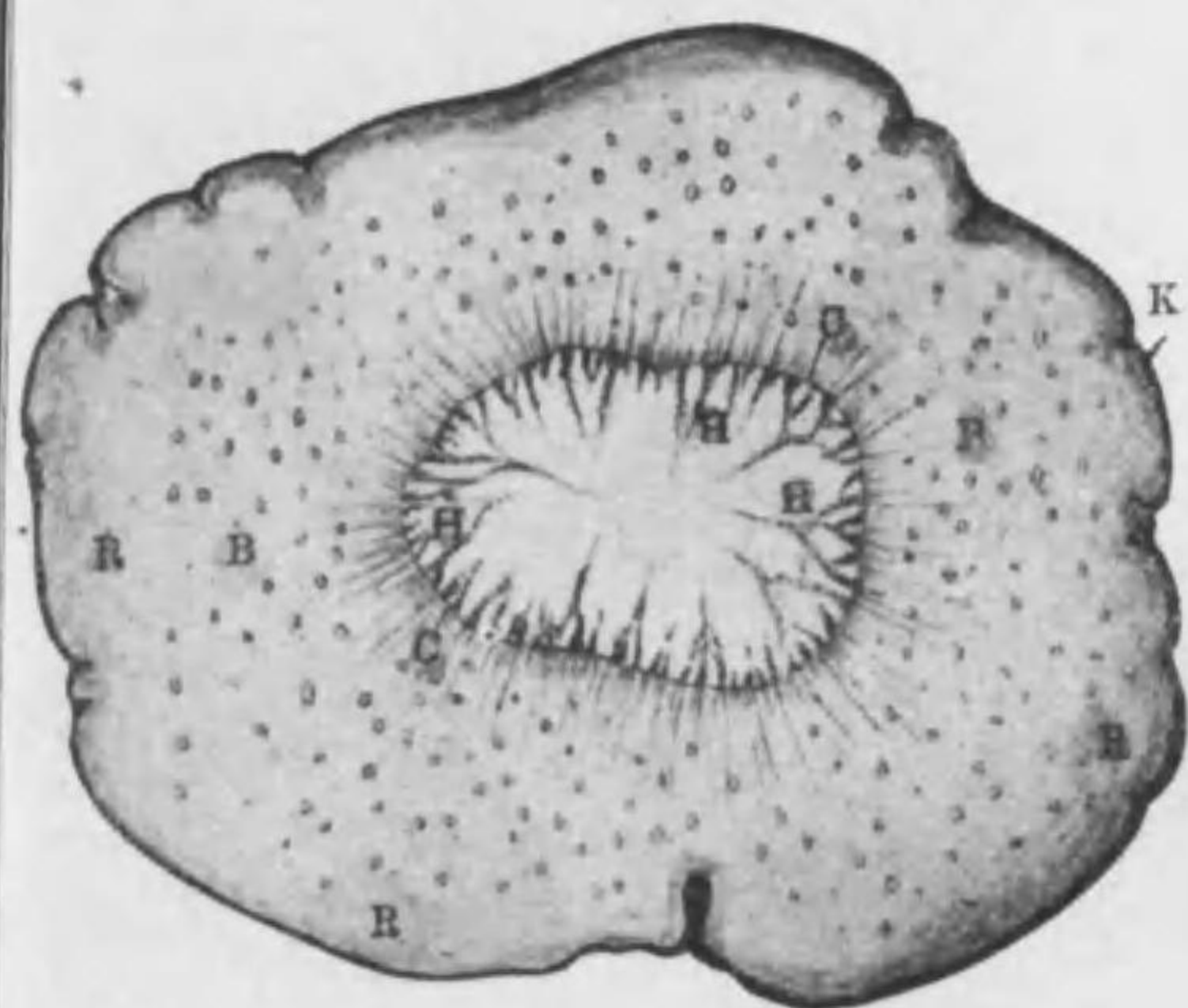
白芷

圖一十六第



cmニ至ルモノアリ、外面ハ汚灰褐色ニシテ縱斷チ現ハシ横形ノ隆起(小根ヲ除去セル痕)アリ上部ノ處々ニ小根ヲ着ク白芷ハ其質柔軟ニシテ

圖二十六第



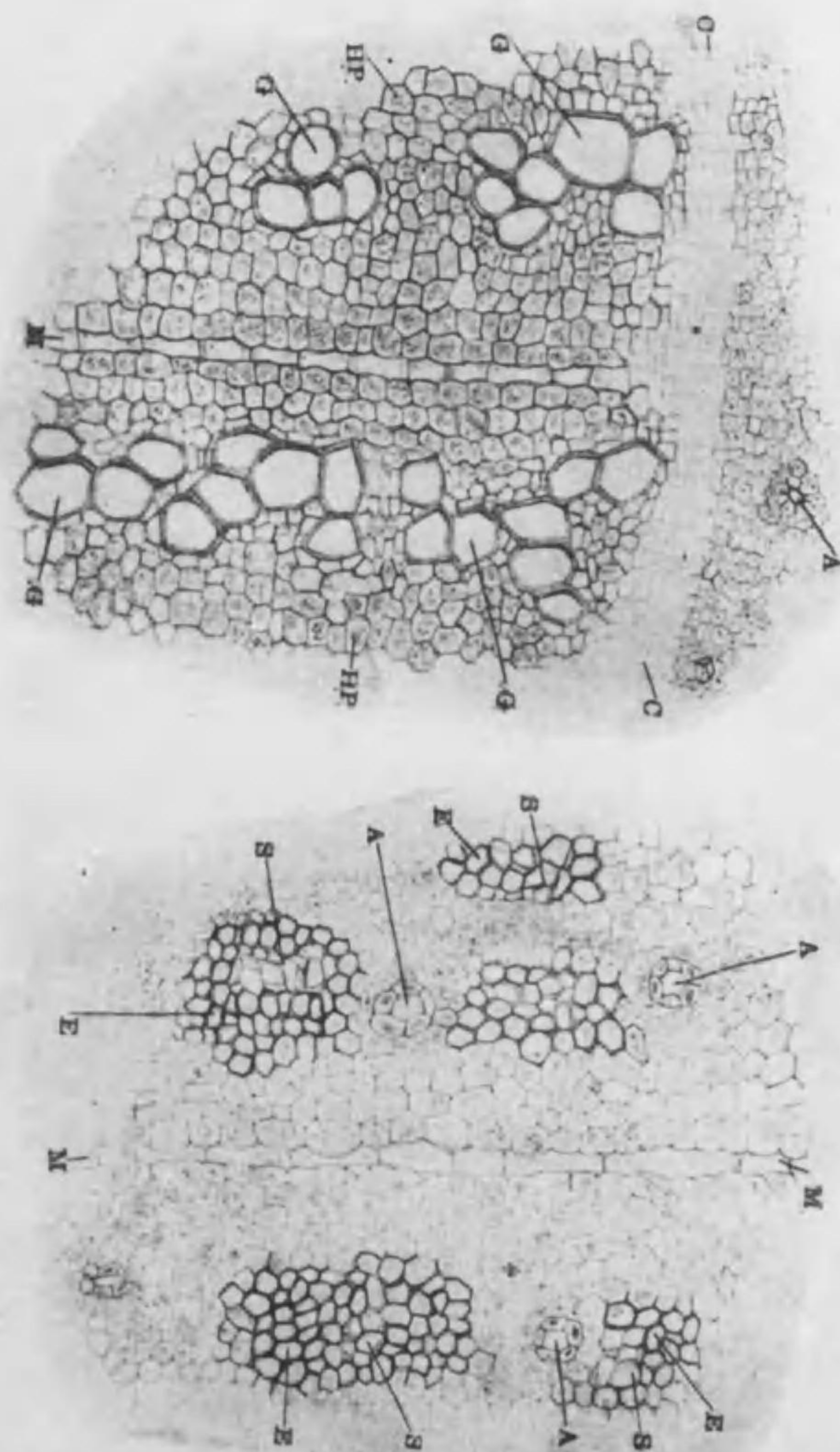
切斷シ易シ副根ヲ横斷スルトキハ皮部ハ白色ニシテ褐色ノ木層第六十二圖ノ(K)ヲ被ムリ内方ノ後成皮部ハ褐色ヲ帶フ内皮部(B)中ニハ數多ノ黄色ヲ散在ス是レ分泌物貯蓄器(油室)ナリ木部(H)ニハ分岐放射狀ノ脈管群ヲ見ル比較的小ナリ木部ト内皮部トハ新生組織(C)ニ由リ明白ニ區別セララル。白芷ノ横斷面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ外面ニ數層ノ木細胞(第六十三圖ノK)アリ、次ニ皮部パレンヒム(RP)ハ稍闊線ノ方向ニ延長セル細胞ヨリ成リ漸次内方ニ赴クニ從ヒ小形トナル、篩管群(S)ハ少シク肥厚セル膜壁ヲ有スル補充纖維(Endothelium)(E)ノ多數

圖三十六第



ナ件フ、皮部組織中ニ散在セル分泌物貯蓄器(油室)ハ一層ノ分泌細胞ニ由テ圍繞セララル、新生組織(第六十五圖ノC)ハ非薄ニシテ四五層ノ細胞ヨリ成ル、木部ニハ脈管群(第六十五圖ノG)及木細胞組織(H)ノ交錯スルアリ、髓線(M)ハ皮部ト木部トニ亘リテ通走ス、皮部及木部ノ細胞中ニハ數多ノ澱粉粒ヲ包藏ス。

白芷ハ其氣味最モ本條ノ生藥ニ類ス其成分ハ未ダ精密ナル化學的ノ検査ヲ經サレトモ本條ノアンデリカ根ト大差ナカルベシ。



支那産白芷ハ未タ其基本植物ヲ詳ニスルコト能ハサレトモ前記ノ生薬ト同種屬ノ植物ニ基原スルヤ疑ヲ容レサル所ニシテ支那ノ江蘇殊ニ吳ノ地方ニ最も多シト云フ此生薬ハ長サ大
約十二cm、直径二・五cmニ至レル葉廣形ノ主根ヨリ成リ稀ニ二股ニ分岐スルモノアリテ甚タ丁
寧ニ裝成セリ頂端ニハ間葉基ヲ帶ヒ下端ハ大抵截去セリ外面ハ褐色ヨリモ寧ロ灰色ニ類シ
少シク粉塵ヲ帶フ横形ヲナセル副根ノ痕多ク數ヲ具有シ又縱斷ヲ現ハス其解剖學的構造ハ
概シテ前述ノ生薬ニ類スレトモ大ニ澱粉ニ富ミ其質甚タ堅シ。

● オノニス根 Radix Ononidis.

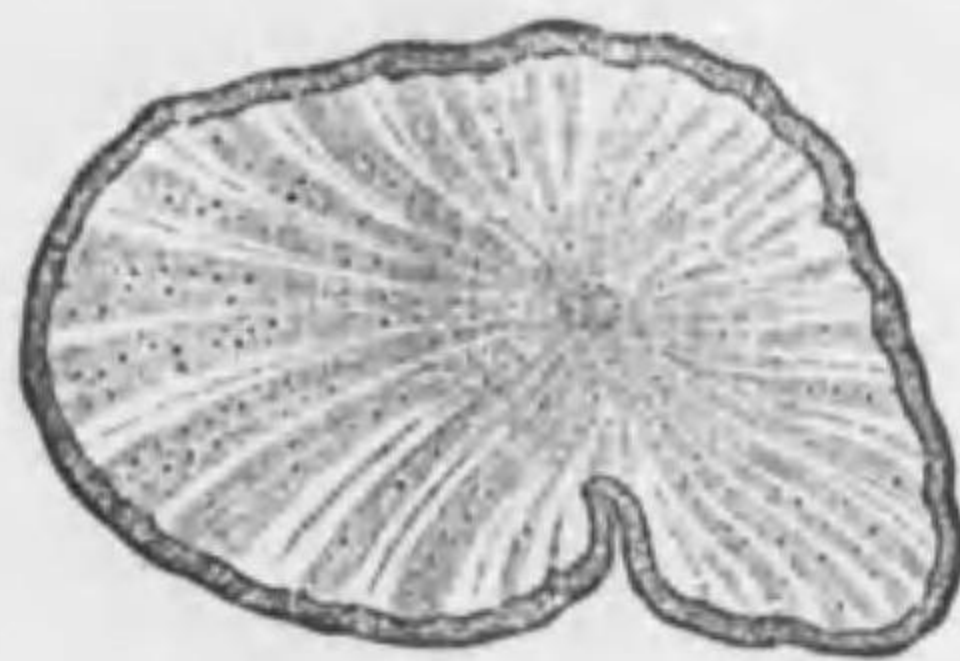
(基原) オノニス根ハ千五百年代ノ中葉ヨリ醫藥ニ供セラル、モノニシテ
歐洲ノ大部分ニ天生スル蝴蝶形科 (Papilionaceae) ノ草本又ハ半灌木 *Ononis spinosa*
Linn. ノ根莖及根ヲ乾燥セルモノナリ。

(形状) 根莖ハ短ク通常ハ多數ノ頭ヲ頂キ下部ハ主根ニ移リ其主根ハ灰褐
色乃至黒褐色ニシテ長ク太サ二cmニ超エス僅ニ分岐ス、此主根ハ木質様ニシ
テ極メテ柔軟性ヲ有シ轉捩シ彎曲シ屢縦裂ヲ現ハシ縦直或ハ彎曲セル縦稜
ヲ帶ヒ間、扁平セラレタルモノアリ、横斷面ハ多クハ甚タ不整ニシテ通常ハ外
心性ノ構造ヲ現ハス**(第六十六圖)**皮部ハ厚サ一mmニ過キス木部ト固着シ木部

(獨) Sauchelwurzel.
(英) Petty white root.
(佛) Racine d'arreté-boeuf.

オノニス根

第六十六圖



ハ類黄色ヲ有シ年輪ヲ現ハシ白色ニシテ廣サ甚タ不同ナル髓線ニ由テ美麗ナル區劃放線狀ヲ呈ス、本生藥ハ「アムモニア水ヲ以テ之ヲ濡ホセハ鮮黄色トナル、本生藥ハ纖維性ニ折ル、香氣ハ微弱少シク甘草ニ類シ味ハ苛辣稍、收斂性ニシテ微ニ甘シ。

第六十六圖ハ其横截面ノ三倍廓大圖ヲ示ス。

顯微鏡的構造 皮部ハ厚壁性スケレ、ンヒム纖維及區劃セラレタル細胞中ニ「カルチウム磷酸鹽單晶

ヲ含蓄ス、本條ハ多クノ「バレンヒム」ノ傍ラ稍、多數ナル脈管ヲ現ハシ主トシテ「スケレ、ンヒム纖維ヨリ成リ」カルチウム磷酸鹽ノ單晶ヲ有スル區劃纖維ヲ含蓄ス、バレンヒム殊ニ髓線ノ「バレンヒム」ハ澱粉ヲ包藏ス。

成分 主成分ハ結晶性ノ「グリコシード」ニシテ Ononin $C_{10}H_{10}O_{11}$ ト名ク其氣味ハ無晶形酸性ノ Ononid $C_{10}H_{10}O_{11}$ ニ基因ス、又無力性結晶性ノ蠟質 Onozerin $C_{12}H_{16}O_2$ ヲ含有ス。

應用 往時ハ茶劑中ニ加ヘテ緩和藥トナシタレトモ今ハ多ク用非ズ。

甘草 西班牙甘草 Radix Liquiritiae. Radix Glycyrrhizae.

基原 甘草ハ東西兩洋ニ於テ已ニ太古ノ時代ヨリ藥用ニ供セララル、蝴蝶形科 (Papilionaceae) ノ草 Glycyrrhiza glabra L. ノ根ニシテ伊太利、西班牙及小亞細亞ニ多ク培植ス。

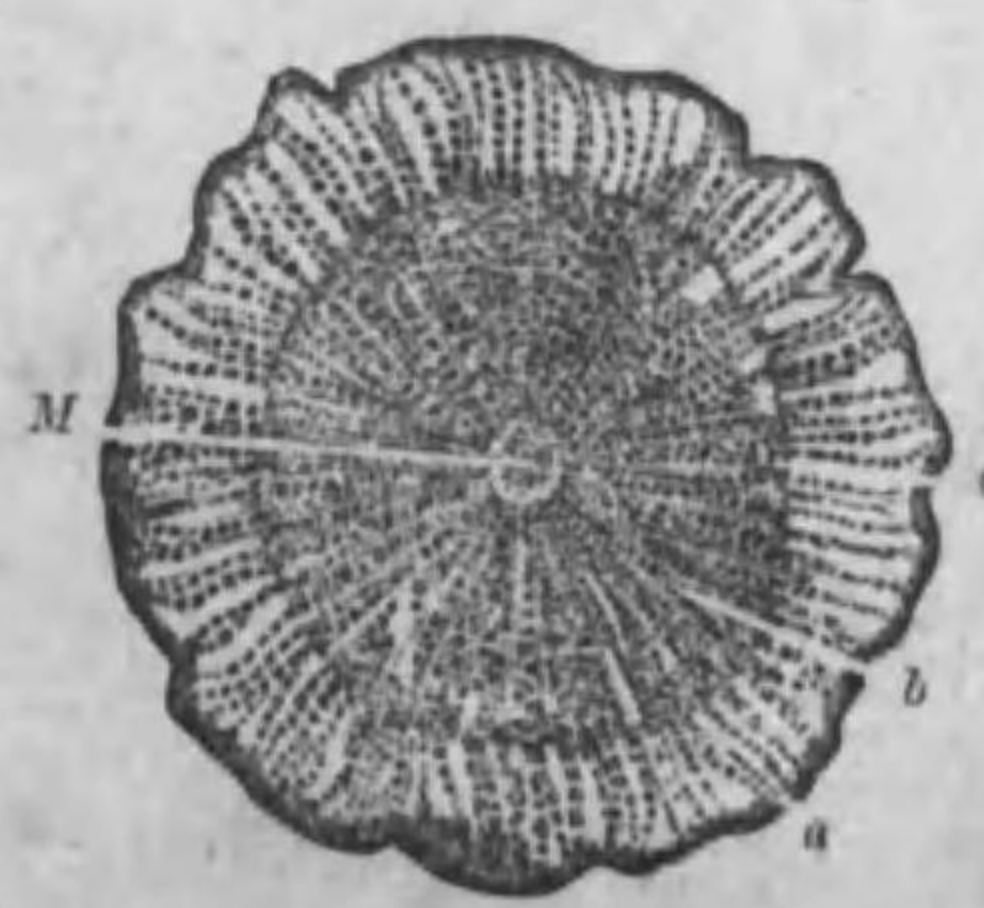
形狀 甘草ノ最良品ハ西班牙カタロニヤ州ノトルトサ市ヨリ輸出セララル而シテ此品ハ多クハ走根ヨリ成リ長サ一mニ超エ太サ4cmニ至リ其外部ハ褐色ヨリモ寧ロ灰色ニシテ皺紋ヲ有シ皮孔 (Lenticellen) ヲ存シ處々ニ細小ナル莖芽ヲ着ク、他ノ西班牙產甘草ハ其外觀上記ノ品種ヨリ稍醜惡ニシテ且ツ太キ木様ノ根ヲ多ク混有スルヲ常トス而シテ甘草ノ皮部及木部ハ長纖維形ノ横折面ヲ現ハセドモ其質韌強ニシテ殆ント角質ニ類ス、第六十七圖 (a) ハ西班牙トルトサ產甘草ノ自然大ナル一片及横截面ノ寫真圖、(b) ハ同國アリカンテ產甘草ノ同上、(c) ハ支那甘草ノ同上、(d) ハ露西亞甘草ノ同上ナリ、第六十八圖ハ西班牙產甘草ノ走根ヲ著シク廓大セル横断面ニシテ、(a) ハ皮部、(b) ハ木部、(c) ハ新生組織 (M) ハ髓心ヲ示ス。

甘草 (獨) Süßholz.
(英) Liquorice root.
(佛) Racine de réglisse.

圖七十六第



圖八十六第

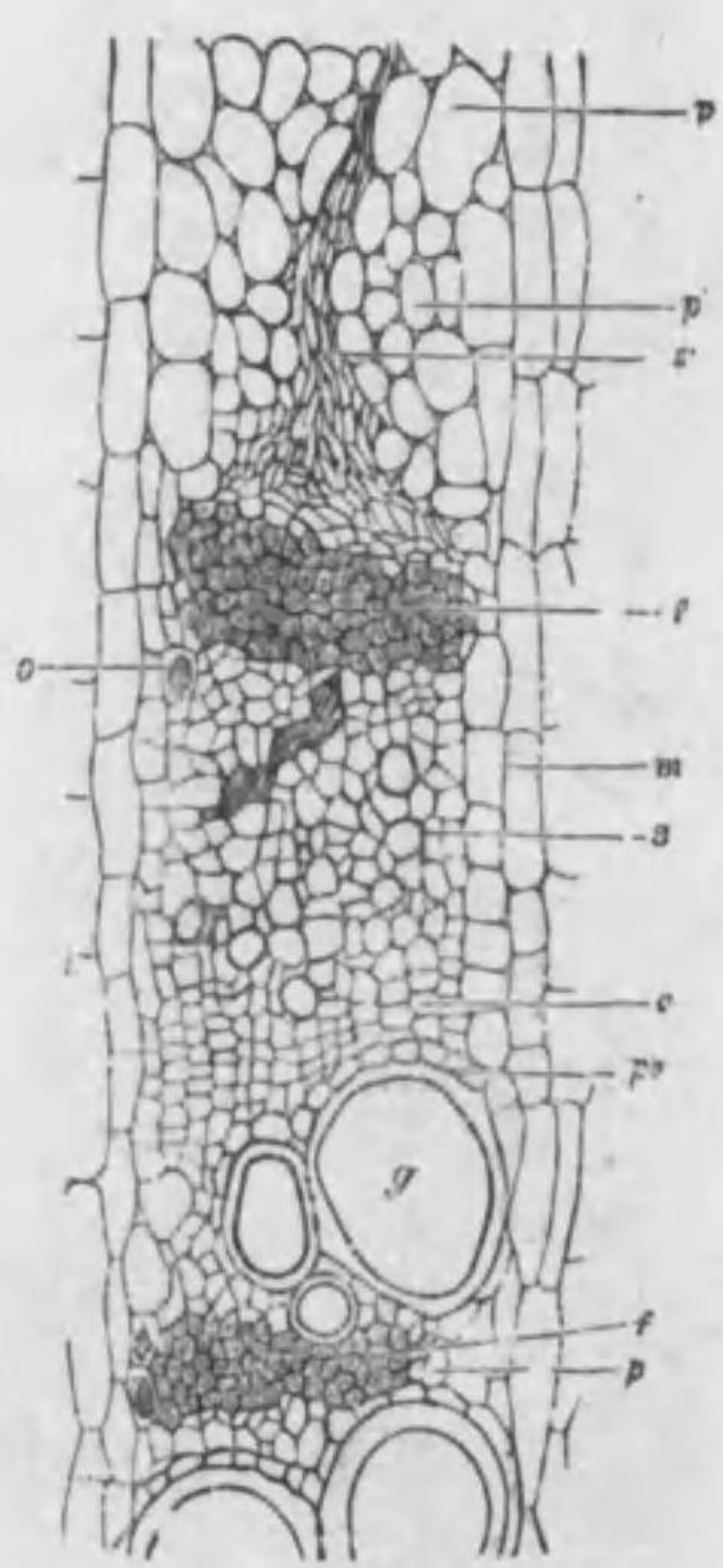


甘草ノ横断面ハ放線狀ノ薄キ皮ヲ被リ其皮部

ト分割セラル而シテ木心ハ根ニ在テハ髓ヲ闕如シ走根ニ在テハ圓形三角形或ハ五角形ノ髓第六十八圖Mヲ圍擁ス木部ニハ狭キ髓線ヲ現ハシ皮部ニハ顯著ナル内皮條ヲ見ル而シテ此内皮條ハ結晶(糖酸カル)ヲ包藏セル細胞ヨリ圍匝セラル、纖維束及頰敗セル篩管ヨリ成ル木部ニモ亦太キ脈管ノ傍ヲ夥

由テ黃色放線狀ノ木心ハ暗色ノ新生組織輪ニ

圖九十六第



(f)ハ内皮纖維束(c)ハ新生組織(s)ハ篩管簇(m)ハ髓線(s)ハ頰敗セル篩管(p)ハ皮部組織(o)ハ糖酸カルチウム結晶(g)ハ脈管トス。

第七十圖ハ露西亞甘草ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテP及P₁ヨリP₁₁₁ニ至ルハ澱粉ヲ包有セル皮部組織片(PT)ハ細胞皮壁ノ碎片ニシテ其(1)ハ板狀其(2)ハ纖維形ヲナセルモノ、St₁ヨリ(5)ハ種々ノ形狀ヲ存スル澱粉(StB)ハ澱粉ノ團塊(SfC)及SfC'ハ纖維ヲ縱視セル者(Sf)ヨリ(Sf')ニ至ルハ單一ナル諸纖維(SfT)ヨリ(3)ハ纖維ノ碎片(KfC)ハ糖酸鹽晶ヲ包藏セル纖維片ヲ縱視セルモノ、(Kf)ハ其

シク細胞組織中ニ併在セル纖維束ヲ見ル、甘草ノ横断面ヲヨリ下ニ檢視スルトキハ前述ノ諸組織ヲ明別シ又澱粉ヲ認ムルヲ得ヘシ第六十九圖ノ

サハ四mmニ過キズ皮部ニハ内皮線アリテ輕微ナル外縁ノ組織ニ錯入ス而シテ木心ニ於ケル
髓線モ亦露疏ナルヲ以テ木心ヲ分割シテ單一ノ板片トナスコトヲ得是故ニ露西亞甘草ハ西
班牙産ニ比スレバ輕微ニシテ纖維性ヲ呈シ柔靱角質様ヲ爲サズ藥種商ニ於テ外皮ヲ剝除シ
テ販賣スルヲ慣習トナセルガ故ニ愛スベキ外觀ヲ有ス露西亞甘草ハ西班牙甘草トハ只其輕
器ナルノ差異アルノミニシテ諸組織ノ構造化學的成分等ニ至リテハ毫モ異ナルコトナシ味
ハ苦味ヲ帶ヒ佳良ナラス。

●支那甘草 Radix Licijitiae chinensis.

●支那甘草ハフリュウケゲル氏ニ據レバ亦 Glycyrrhiza glabra var. glanduliferaニ基因シ本邦ニ於テハ古
來ヨリ之ヲ藥用ニ供シ日本藥局方モ亦之ヲ採レリ支那甘草ハ走根ニアラス又主根ニアラス
恐クハ莖幹ニ屬ス長サ一m、太サ二cmニ超ユ多クハ分岐セス外部ハ赤褐色ニシテ皺紋ヲ有シ
甚タ著大ナル裂口ヲ有シ雜莖ニ在テハ處々ニ雜芽ヲ着ク破折面ハ長條維形ヲ爲シ汚黃色ヲ
呈シ皮部ノ厚サハ木心ノ大約四分一二居リ暗色ノ新生組織輪ニ因テ木心ト區別セラル木心
ハ比較的ニ著大ナル圓形ノ髓ヲ圍繞シ髓心ヨリ起リテ皮部ニ連ナレル放線狀ノ缺裂ヲ現ハ
ス是レ其髓線ノ組織頗ル菲薄ニシテ破壞セラレ易キニ由ルナリ支那甘草ハ最モ露西亞甘草
ニ類スレトモ其實途ニ輕微ニシテ殊ニ濕潤スルトキハ容易ク壓縮セシムルヲ得ベシ然レト
モ其諸組織ノ構造ハ概シテ露西亞産ニ異ナルコト無ク只稍薄弱ナルノ差ヒアルノミ第六十
七圖ノ(c)ハ支那甘草ノ一片ノ自然大寫眞圖ナリ支那甘草ハ苦味ヲ帶フルコト露國甘草ニ均

(獨) Ratanhiawurzel.
(英) Rhatany root.
(佛) Racine de ratanhia.
ラタニア根

●ラタニア根 Radix Ratanhiae.

(基原) ラタニア根ハ古ク南米秘魯土人ノ間ニ齒牙保護藥トシテ用キラレ
千七百年代ノ末西班牙ニ入り千八百八年始メテ獨逸ニ行ハル、ニ至リシモ
ノニシテ秘魯ノ山地ニ産スル決明科 (Caesalpinaceae) ノ小灌木 *Krandonia triandra*
Ruiz et Pavon ノ根ナリ而シテバイタニ出ツルモノヲ最モ良品トス。

(形状) ラタニア根ハ木質様ニシテ頗ル長ク大サ三cmニ至リ圓柱狀ヲナシ

縦直或ハ少シク彎曲シ多クハ長距離ニ涉リ太サ殆ト平等ニシテ僅ニ分岐シ
強直ニシテ堅シ皮部ハ厚サ約一乃至一五mmニシテ帶赤褐色乃至類黄色ノ部
ヲ圍繞ス皮部ハ老根ニ在テハ暗褐赤色ヲ有シ少シク皺紋ヲ帶ヒ鱗片ヲ着
ケ横裂及縦裂ヲ現ハシ疣贅狀ナラス幼稚ナル部分ハ淡褐赤色ニシテ殆ト平
坦ナリ皮部ハ容易ニ木部ト分離シ短纖維性ニ折レ紙上ニ摩擦スレハ褐色ノ
條痕ヲ留ム皮部ハ強キ收斂性ノ味ヲ有シ木部ハ殆ト無味ナリ。
本品ノ細切セルモノニ酒精ヲ加ヘ浸出シテ得タル液(一十)ハ酒精製醋酸鉛

溶液ノ過剰ヲ加フレハ赤色ノ沈澱ヲ生シ之ヲ濾別シテ得タル液ハ著シク赤色ヲ有ス。

(顯微鏡的構造) 枹ハ薄壁性細胞ヨリ成リ赤褐色ノ色素ヲ含有ス、皮部ノ内邊ニハ多クハ甚タシク厚化セス不整ノ横断面ヲ有シ放線狀ニ列置セル「スクレ、ンヒム纖維團」ヲ箝在シ(第七十二圖b)又此内皮部ニハ「カルチウム糖酸鹽」ノ柱狀晶及砂晶ヲ認ム、髓線ハ一細胞列ナリ、木部ハ甚タ脈管ニ(同圖b)富ミ年輪ヲ現ハサス、皮部及木體ノ「パレンヒム」ハ單顆粒及複合顆粒ノ狀ニ於ケル澱粉(同圖)ヲ包藏ス。

圖一十七第



第七十一圖ハ「ラタニア根」自然大寫眞ニア根横断面ニシテ其「r」ハ皮部「h」ハ木部トス。

圖二十七第



圖三十七第



第七十三圖ハ木根皮部ノ横截面ノ顯微鏡

圖ニシテ「k」ハ薄壁性枹層「b」ハ擬枹層「p」ハ澱粉ヲ包有スル「パレンヒム」(g)ハ糖酸ヲ包有スル細胞トス。

(成分) 主成分ハ「ラタニア糖酸」ニシテ其含量二十%ニ至リ其分解產物トシテ「ラタニア赤色素」(C₂₀H₁₆O₁₀)ヲ含ミ又「クロジン」ノ同列體タル結晶性ノ「Ratanhin」(メチールクロジン) C₂₀H₁₆(CH₃)NO₂ヲ含有ス。

本條ノ「バイタ産ラタニア根」即チ日本藥局方規定ノ「ラタニア根」ニ限リ上文ニ述フル如ク其一分ニ酒精十分ヲ和シ冷浸シテ得タル澄明液ニ醋酸鉛ノ酒精溶液ヲ過剰ニ加フレバ赤色ノ沈澱ヲ生シ他ノ種ノ「ラタニア根」ハ多少紫灰色ノ沈澱ヲ生シ又其濾液ハ「バイタ産」ニ限リ著シク赤色ヲ有シ他ノ種ニ在テハ無色トス。

サヴァニルララタニア一名グラナダラタニアハ *Kammeria Ixia L.* に出ツ、本條ノ生薬ニ比スレバ外面稍紫赤ヲ帯フ、之ニ含有スル鞣酸ハ藍靛性ニシテ本條ノ品ノ如ク綠鐵性ナラズ又バララタニアハ *Kammeria argentea Mart.* に出ツ、サヴァニルララタニアニ類スレトモ紫赤ヲ帯ヒスシテ事口暗褐色ナリ而シテ綠鐵性鞣酸ヲ含有ス、共ニ本條ノ品ト併セ用ユルコトヲ得ス。

(應用) 本品ハ收斂性強壯薬トナシ消化機衰弱慢性下痢赤痢内部出血等ニ用ユ一日數回〇・五—一〇ヲ粉末煎劑等トシテ與フ又其煎劑ヲ洗口水トナス。

●ベラドンナ根 *Radix Belladonnae.*

(基原) ベラドンナ根ハ恐クハ太古ヒッポクラテス氏ノ時代ヨリ世ニ知ラレ歐洲ノ南部並ニ中部及亞細亞洲ニ播布セル茄科 (*Solanaceae*) 植物 *Atropa Belladonna L.* ノ根ナリ而シテ春期或ハ秋期ニ於テ其野生植物ヨリ採掘シ毎年新根ト交換スルヲ要ス。

(形状) 坊間ニ販賣スル品ハ通常外皮ヲ剝除セサル主根及枝根ヨリ成ル層、縦割セリ長サ大約十五乃至二十cmトス、分割セサル根ハ多クハ圓筒形ヲ爲シ太サ一乃至二cmニ至リ彎曲シ或ハ卷轉シ外部ハ淡灰褐色ヲ呈シ深キ縱溝ヲ有シ又縱皺ヲ具ヘ上部ニ於テハ少シク輪節ヲ具有ス之ヲ屈撓スレバ平坦ニ

- (獨) Tollfirschenwurzel.
- (英) Belladonna-root.
- (佛) Racine de belladonne.

ベラドンナ根

第七十四圖

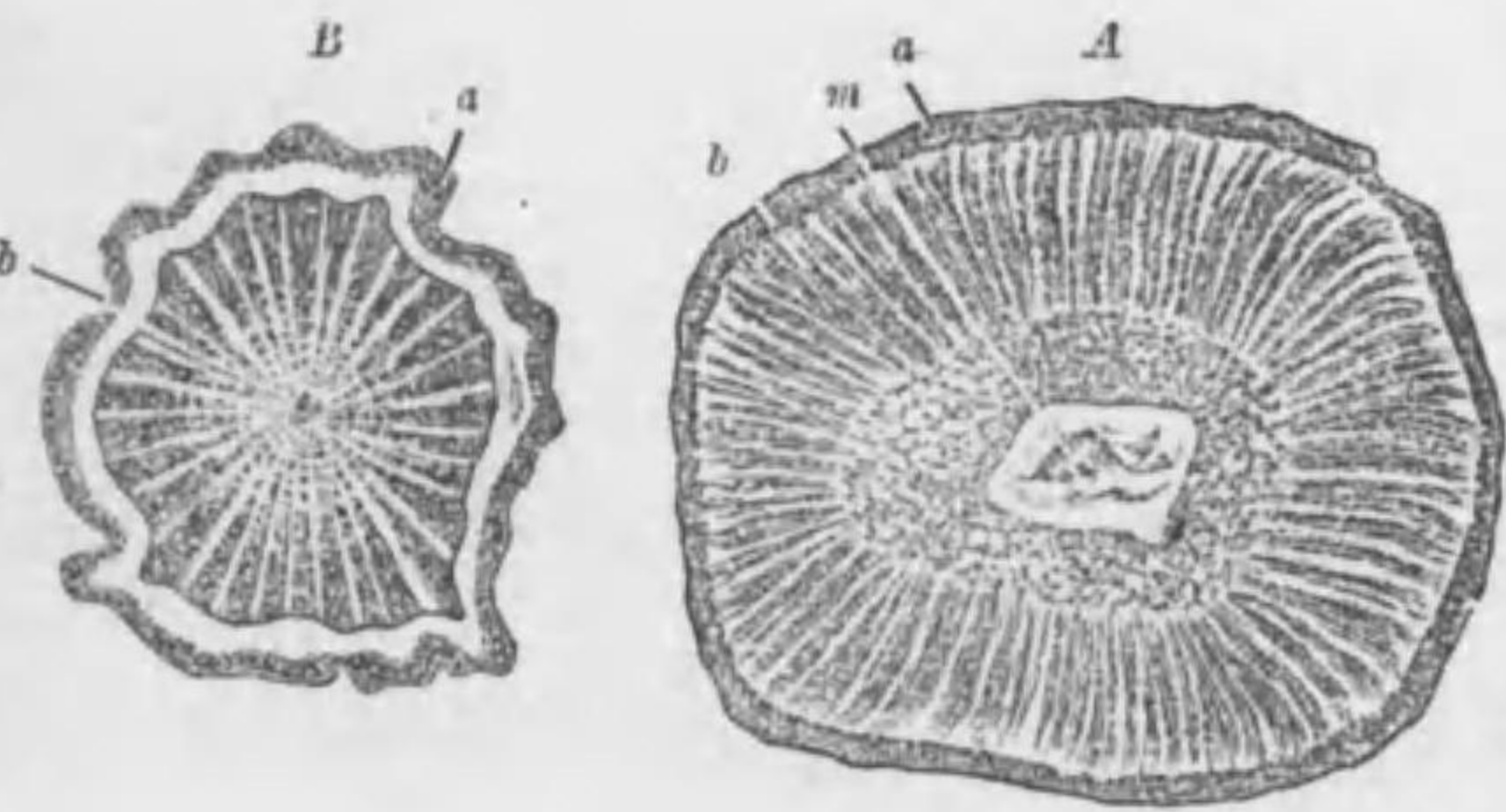


折レ其際粉塵ヲ飛散ス破折面ハ灰白色ナリ、第七十四圖ハベラドンナ根ノ自然大寫眞圖ナリ。老植物ヨリ採集セル主根ハ其下部腐朽シ上邊ノ一小部

分ヲ餘スノミ而シテ其横断面ハ屢中央ニ鬆疎ナル髓心ヲ具有スルヲ以テ枝根ト異ナレリ皮部ハ灰褐色ノ袍層ヨリ圍擁セラレ汚白色ヲ呈シ其質粉性ニシテ放線狀ヲナス新生組織ニ由テ木心ト分割セラル、主根ハ髓心ヲ具ヘ只其邊緣ニ木線ト髓線トノ交互ノ排列ニ由テ放線狀ヲ呈スルノミ、枝根ハ髓心闕如シ其放線狀ノ紋理ハ木部ノ外邊ニ於テハ甚タ緻密ニシテ其間ニ摺入スル組織ニ由テ斷歇セラレ中心ニ至ル迄接續ス而シテ木部ノ中心ニハ著大血管ヲ筈在ス。

根類 ベラドンナ根

第七十五圖



セラル本條ノ生薬ニ換用スヘキ所ノ莖根ハ次ニ本條アリ。

● ゲンチアナ根 Radix Gentianae.

第七十五圖ノ(A)ハ主根、(B)ハ枝根ノ横断面ニシテ(a)ハ皮部、(b)ハ木部、(m)ハ髓心トス。

(成分) 有効成分ハ猛毒性ヲ有シ瞳孔ヲ散大スルノ作用アル結晶性ノ「アルカロイド」アトロピン Atropin $C_{17}H_{23}NO_3$ ナリ而シテ其含量ハ生薬ノ老幼ニ由リ〇・二乃至〇・五%ノ間ニ居ル又少量ノ Hyosyanin $C_{17}H_{23}NO_2$ 及無形品ノ「アルカロイド」 Belladonnin $C_{17}H_{21}NO_2$ ヲ含有ス、其他ベルラドンナ根ハ澱粉及 Skopolein 即チ「クリサアトロパ酸」 Chrysatropasäure $C_9H_9O_4CH_3$ ナル藍色螢石彩ヲ呈スル物質ヲ含有ス。

(應用) ベラドンナ根ハ殊ニ「アトロピン」ノ製造ニ應用

(獨) Engianwurzel.
(英) Gentian root.
(佛) Racine de gentiane.

第六十七圖



(基原) ゲンチアナ根ハ已ニ上古耶蘇紀元前ヨリ薬用ニ供セラレ歐洲中部ノ山中ニ産スル龍膽科 (Gentianaceae) ノ宿根草本植物 Gentiana lutea L. 根ナリ。
(形状) 坊間ニ販賣スル「ゲンチアナ根」ハ甚タ短キ莖根ヨリ出ツル副根ニシテ長サ往々一dmニ超エ太サ六cmニ至ルモノアリ多クハ縦割セリ其質柔軟ニシテ蠟ノ如ク破折シ易シ、外面ハ赤褐色ヲ呈シ深キ縦皺ヲ有ス、第七十六圖ハ其精撰品ノ自然大寫真圖ナリ。

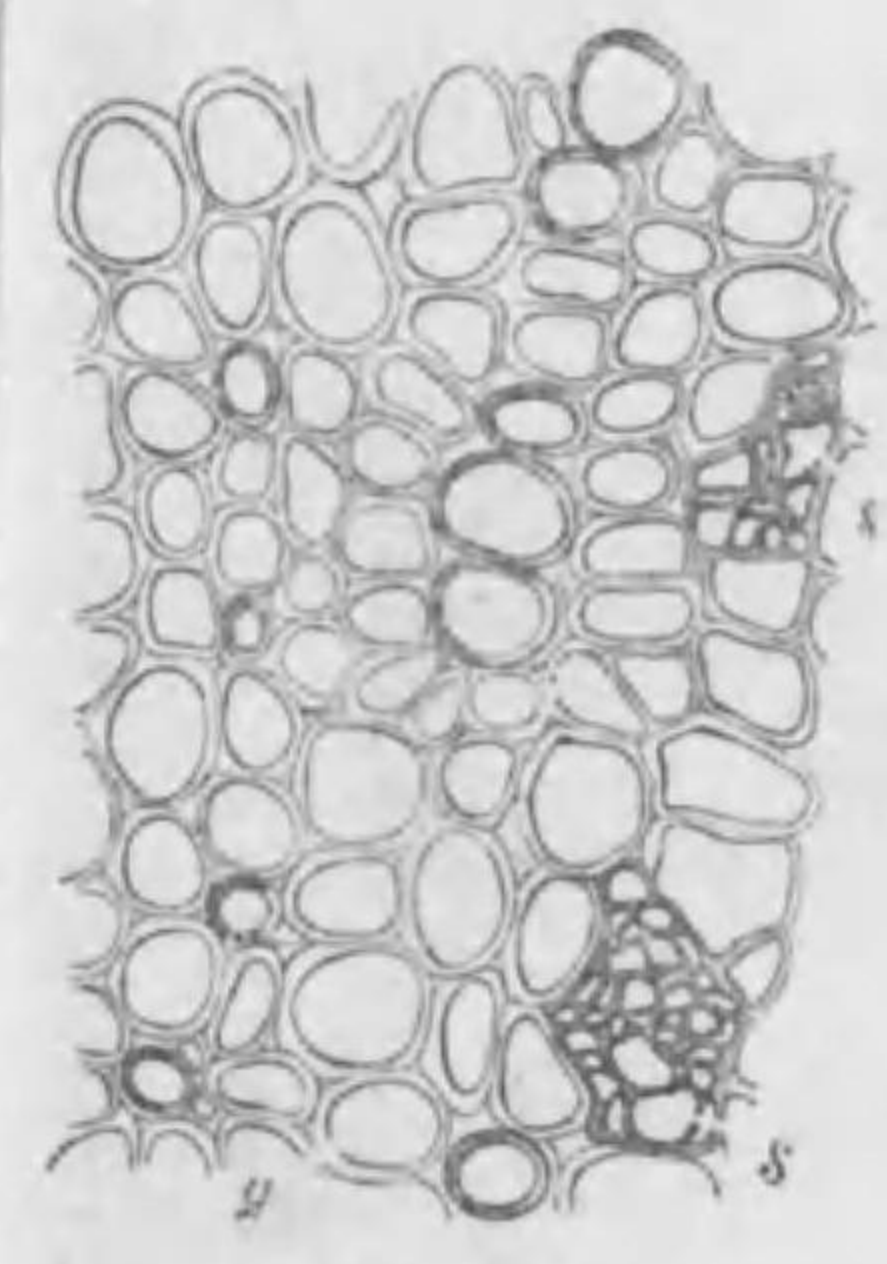
本品ノ横断面ハ帯

黄褐色ヲ有シ暗色ノ胞層ヲ被ムリ其邊緣圓形ナラス處々ニ凹陷ス、皮部ハ頗ル厚ク髓線ヲ有セス其周邊ニ近キ部位ニハ屢々間隙ヲ存シ褐色ノ新生組織線ニ由テ皮部ヨリモ厚キ木部ト分割セラル而シテ木部モ亦髓線ヲ有セズ疎ラニ幅線ノ方向ニ排列セル脈管ヲ筈在ス、第七十七圖ハ約二倍ニ廓大セル「ゲン

圖七十七第



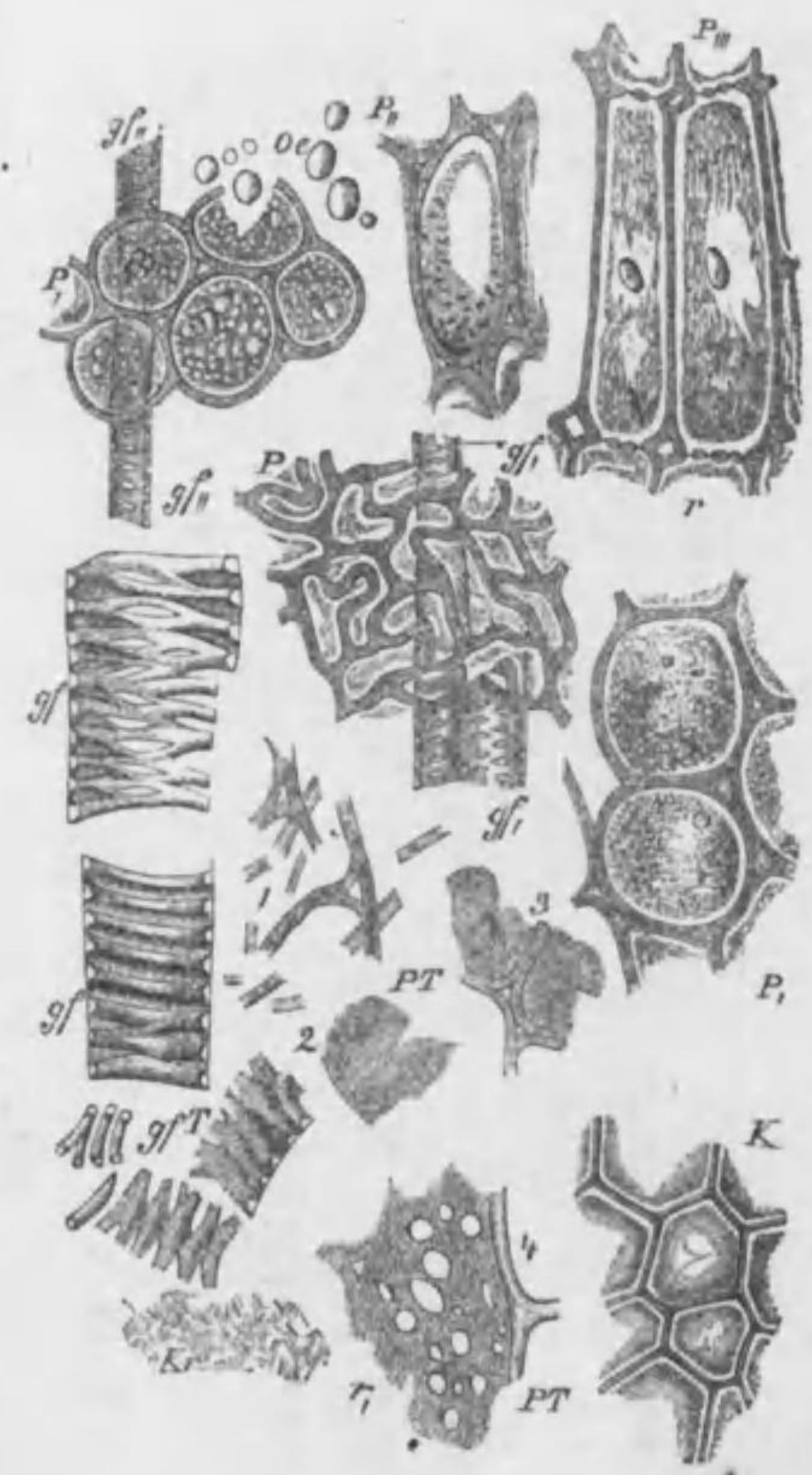
圖八十七第



チアナ根ノ横断面ヲ示スモノナリ。
 ゲンチアナ根ハ澱粉ヲ含有スルコト
 アルモ極メテ稀ナリ特異ノ臭氣ヲ有
 シ其味極メテ苦シ。
 (顯微鏡的構造) 胞層ハ觸線性ニ
 伸長セル胞細胞ノ大約五乃至十列ヨ
 リ成リ下上皮之ニ連接ス皮部ハ主ト
 シテパレンヒムヨリ成リ不規律ニ篩
 脈管ヲ分布シ木化セサル内皮纖維ア
 リテ之ニ隨伴ス木部ハ主トシテパレ
 ンヒムヨリ成リ中ニ網紋脈管階段
 脈ノ外第七十八圖ノ g ト甚タ特異ナ
 ル篩狀脈管(同圖ノ s)ノ存在スルヲ見
 ル。

第七十八圖ハゲンチアナ根ノ木部

圖九十七第



ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セル狀ニシテ P ハ脈管 s ハ篩管ヲ示ス。
 第七十九圖ハゲンチアナ根ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノナリ P ハ頰敗
 セル組織 P_1 ヨリ P^{III} ニ至ルハ上記組織ノ膨脹セルモノ Oe ハ油滴 PT 1ヨリ4ハ
 組織ノ碎片 gf 及 gf_1 ハ種々ノ脈管ヲ縱視セルモノ gf^T ハ脈管ノ碎片 K ハ胞
 層ノ表面 K ハ尿酸鹽品ノ碎片(二百倍)ナリ(エル・コッホ氏ニ據ル)。

ゲンチアナ
 根ハ澱粉ヲ
 含有スルコ
 トアルモ極
 メテ稀ナリ
 特異ノ臭氣
 ヲ有シ其味
 極メテ苦シ。
 本條ノ生藥
 ト併用スル

ヲ得ハキ *Gentiana pannonica Scopoli*, *Gentiana purpurea L.*, *Gentiana punctata L.*, ノ根ハ *Gentiana lutea* ノ根ト其形狀ヲ同ウシ只稍細小ナルノ差アルノミ其解剖學的構造ニ於テモ亦異ナルコト無シ。

(成分) ゲンチアノ根ハ *Gentianose* ($C_{28}H_{46}O_{11}$)^{ゲンチアノ糖}, *Genthiopikrin* ($C_{16}H_{26}O_6$)^{ゲンチオピクリン}, *Gentisin* ($C_{14}H_{16}O_5$)^{ゲンチシン}, 脂肪・樹脂・粘液質等ヲ含有ス「ゲンチアノーセ」ハ糖ニ類スル結晶性ノ化合物ニシテ「ゲンチオピクリン」ハ配糖體ニ屬シ無色針狀ノ結晶ヲナシ本植物ノ新鮮ナル根一千分中ヨリ大約其一分ヲ製出シ得ルニ過キズ此物質ハ酸類ニ逢フトキハ糖ト黃褐色無晶形ノ *Gentioigenin* ($C_{16}H_{26}O_4$)^{ゲンチオゲニン} トニ分解ス「ゲンチシン」ハ甚タ少量ニ含有セラル、ノミ黃色ノ結晶ヲナシ味ヲ有セズ。

(應用) 苦味性ノ健胃藥トナシ胃病及消化不良等ニ應用ス。

● 龍膽 *Radix Gentianae scabrae.*

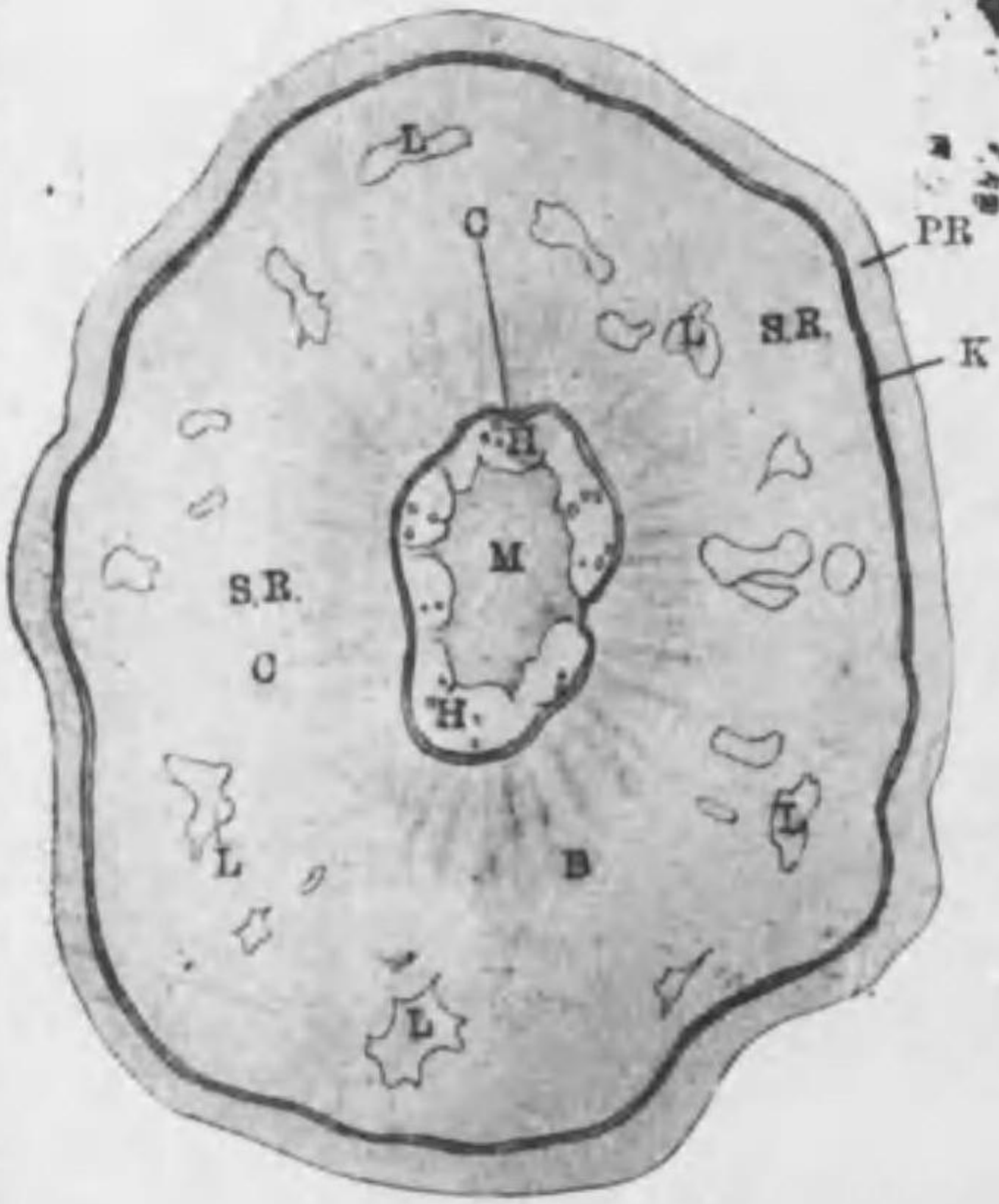
- (獨) Japanische Enzianwurzel.
- (英) Japanese gentian root.
- (佛) *Racine gentiane japonais.*

(基原) 龍膽ハ本邦ニ産スル *Gentiana scabra Bunge* var. *Buergeri Maxim.* (りんたう)ノ根ニシテ古來ヨリ之ヲ藥用ニ供ス。

(形狀) 龍膽ハ太サ七mm長サ二cmニ過キザル根莖ヨリ出ツル副根ニシテ根



圖十八第



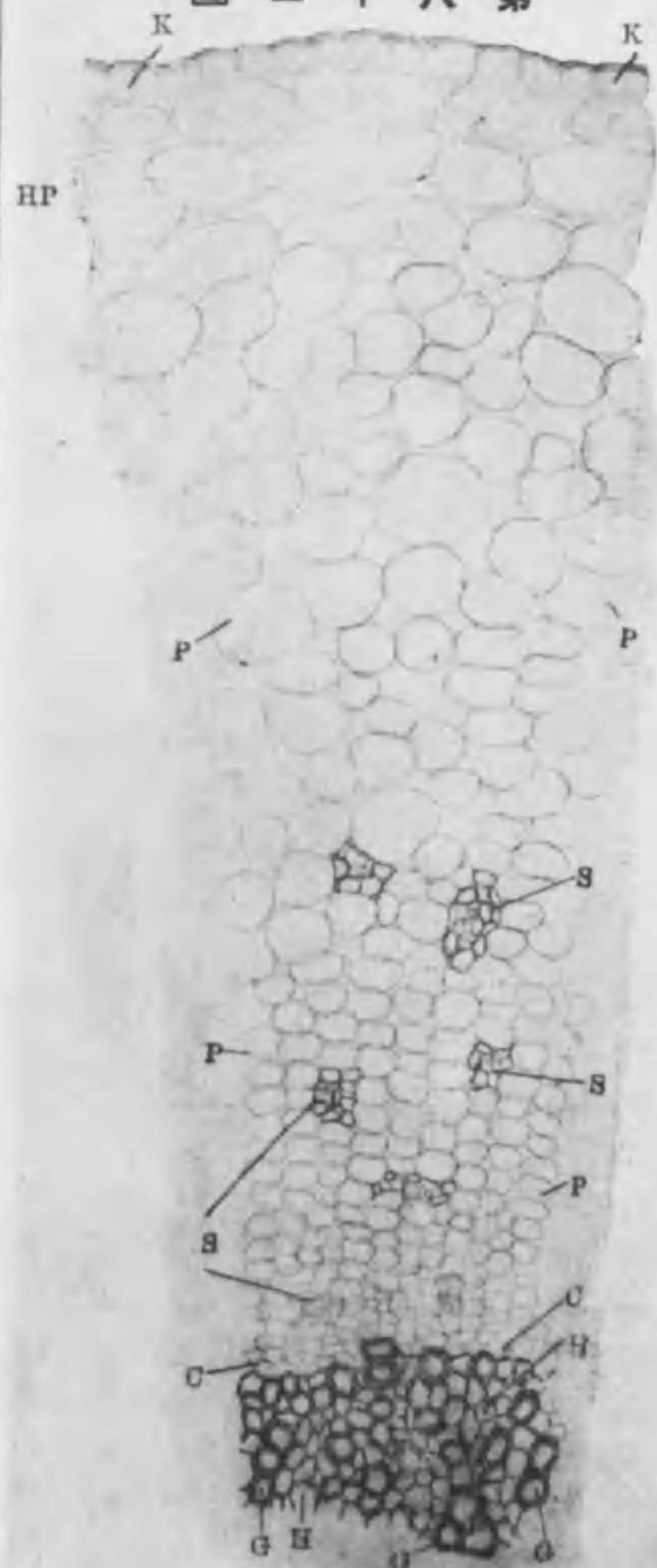
圖一十八第

莖ノ横断面ハ暗褐色ヲ呈シ皮部ハ稍暗色ヲ帶ヒ木部ニハ縦横ニ錯亂スル脈管ヲ認ム是レ副根ヨリ籍入セル脈管ニ係ル副根ハ藥用ニ供スル首要ノ部分ニシテ長サ一dmニ至リ太サ三mmニ過キズ外面ハ帶褐黃色ニシテ縱溝ヲ有シ處々ニ鬚根ノ殘痕ヲ着ケ其質頗ル柔軟性ナレトモ能ク乾燥セルモノハ破折シ易シ横断面ハ帶褐黃色ニシテ其邊緣圓形ナラズ處々ニ彎凹ヲ現ハシ放線狀ヲ爲サズ皮

部ハ比較的甚ク厚大ニシテ間隙ヲ存シ暗色ノ新生組織ニ由テ木部ト分割セラル木部ノ邊緣ニハ少シク半徑ノ方向ニ排敷セル脈管ヲ輪列シ其中ニ著大ノ髓心ヲ圍擁ス。

第八十圖ハ龍膽ノ自然大寫真圖、第八十一圖ハ其十五倍ニ廓大セル橫断面ヲ示ス、(PR)ハ第一期皮部、(K)ハ枹層、(SR)ハ後成皮部、(L)ハ組織間隙、(B)ハ内皮部、(C)ハ新生組織、(H)ハ木部、(M)ハ髓ナリ。

圖二十八第

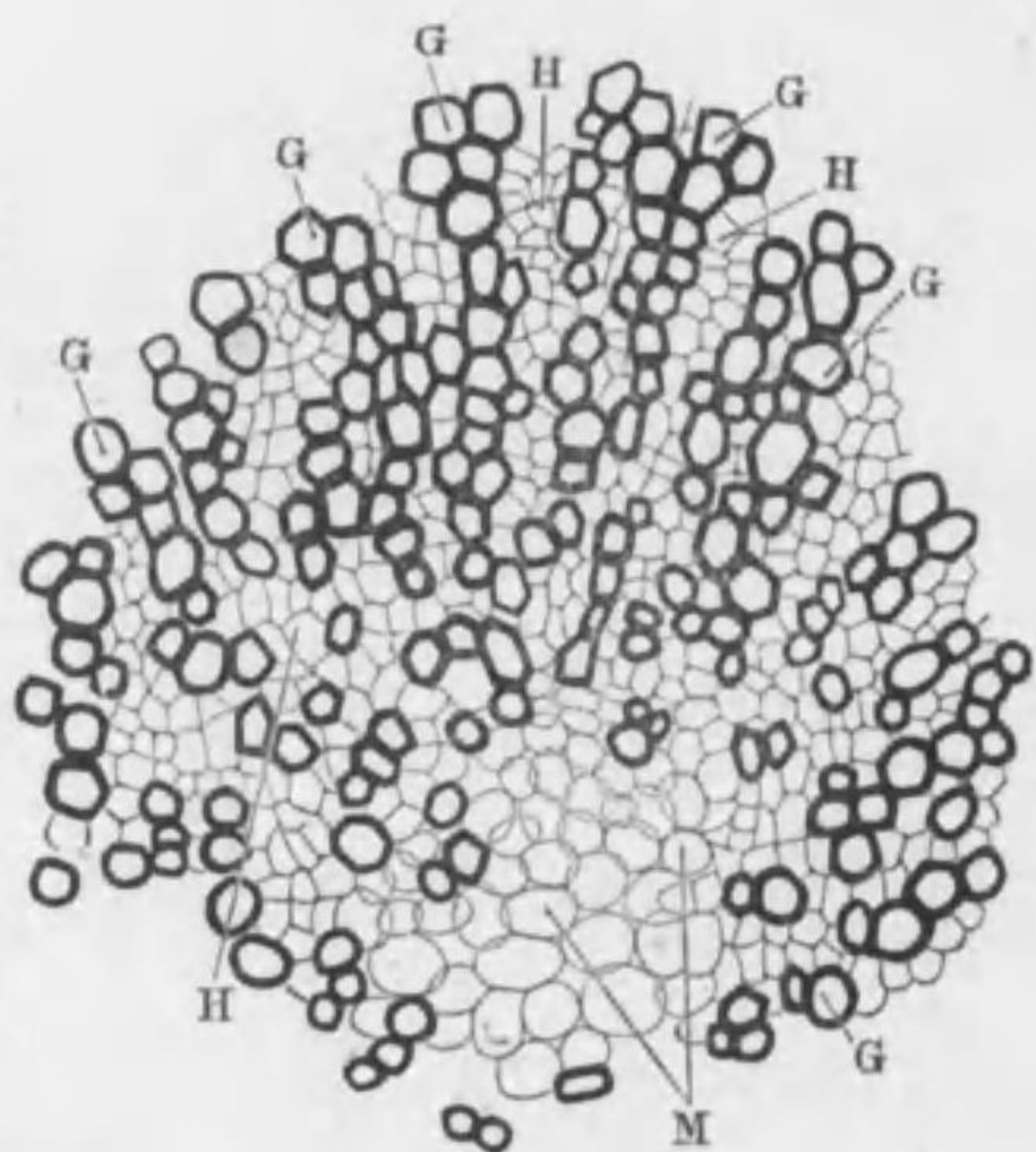


龍膽ハ左ニ記スヘキ如ク (*Gentiana lutea* L.) 等ト其解剖的構造ヲ異ニス、但シ亦澱粉ヲ含マス特異ノ臭氣ヲ有シ其味極メテ苦シ、前條ノ「ゲンチアナ根」ニ換用セラレ得ベシ。

(顯微鏡的構造)

外面ハ一層ノ枹細胞、(第八十二圖ノK)ニ由テ覆ハル、此枹細胞ハ元來稚根ニ於ケル内上^{エンソウセル}皮細胞ガ半徑線的隔壁ニ由リ反覆分裂スルヨ

圖三十八第



リ生シタルモノトス、稍細キ根ニ於テハ此枹細胞ノ外圍ニ第一期皮部ノ殘餘ヲ存スルコトアリ、(第八十一圖參照)枹細胞ノ内部ニハ二三層ノ「コレンヒーム」様皮下細胞、(第八十二圖ノHp)アリ、其次ニ間隙ニ富メル圓形「コレンヒーム」組織アリ、其内部ニ位スルモノハ漸次小形トナル、縱断面ニ於テハ此パレンヒーム細胞ハ長軸ノ方向ニ延長セルヲ見ル、不規則

ニ散在セル篩管群(S)ハ少數ノ篩管及纖維狀細胞ヨリ成ル、新生組織(C)ハ非薄ナリ、木部ニハ脈管(G)ノ群簇及木細胞組織(H)不規則ニ交錯セリ、皮部木部共ニ髓線ヲ認メズ、皮部及髓(M)ノ細胞中ニハ特殊ノ有形含有物ヲ認メズ(百六十倍)。

第八十二圖ノ(K)ハ杓組織、(H_p)皮下組織、(P)皮部パレンヒム、(S)篩管群、(C)新生組織、(G)脈管、(H)木細胞、(M)髓ナリ、第八十三圖ハ木部ノ横截面ニシテ(G)ハ脈管、(H)ハ木細胞、(M)ハ髓ナリ。

通例龍膽ニハ根莖部モ附着シ居レトモ主要藥用部分ハ根ナルガ故ニ前文ニハ根ノ造構ノミヲ記述セリ、龍膽ニハ右ノ如ク内上皮ノ化成ニ係ル一層ノ杓細胞アルヲ以テ特徴トス、而シテ歐産ゲンチアナ根ハ普通ノ如ク多層杓皮内上皮ヨリ以内ニ新生シ内上皮ハ破碎セラレ。

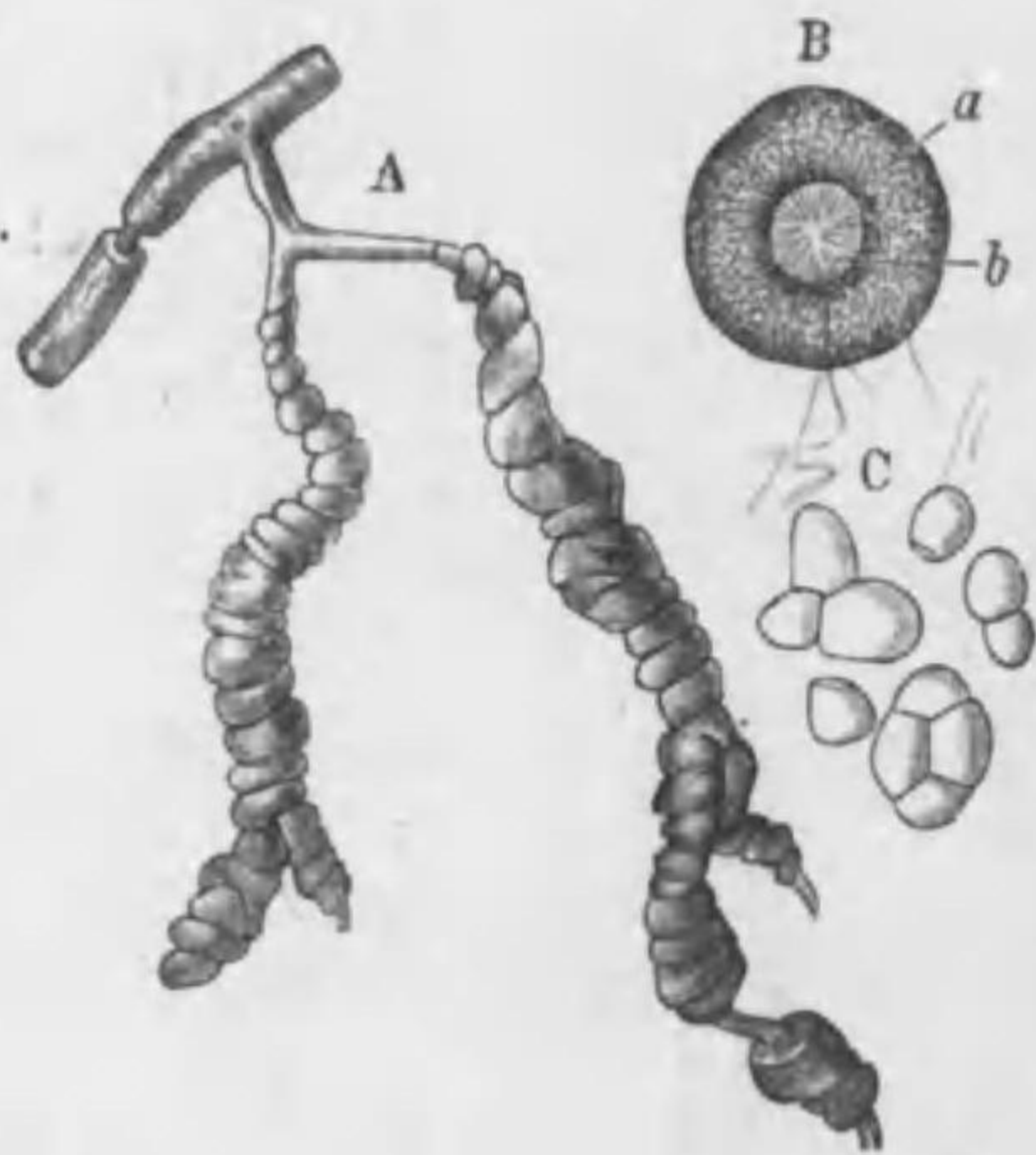
(成分) 龍膽ハ未タ化學的検査ヲ經サレトモ其成分ハ前條ノ *Gentiana lutea* L. 等ニ含有スル所ト大差ナカルベシ。

(應用) 苦味性健胃藥トシテ應用セラレ、コト前條ノゲンチアナ根ニ同シ。

●吐根 *Radix Ipecacuanhae.*

吐根 (獨) Brechwurzel.
(英) Ipecacuanha root.
(佛) Racine d'ipécacuanha.

第 八 十 四 圖



(基原) 吐根ハ一千六百年代ノ中葉始メテ南米ヨリ佛國巴里市ニ渡來シ已ニ同世紀ノ下葉ヨリ首要ナル藥品ノ位置ヲ占ムルニ至レリ、吐根ハ茜草科 (Rubiaceae) ニ屬スル *Uragoga Ipecacuanha Bailon* (別名 *Psychotria Ipecacuanha Miller*, *Cephaelis Ipecacuanha Willd.*) ノ根ニシテ南米伯拉西國殊ニ同國ノマッドグロソ州ノ西南ニ位スル地方ニ産シ同州ヨリ輸出セラレ、モノトス。

(形状) 坊間ニ販賣セル吐根ハ主トシテ匍匐セル莖幹ヨリ出ヅル根ヲ採レルモノニシテ此根ハ彎曲シ兩端狹細トナリテ分岐セサルヲ常トス長サ二十cmニ至リ多クハ五乃至七cmノ折片トナセリ太サ5mmニ過ギズ皮部ハ多少之ヲ圍繞スル所ノ隆起物ニ由テ輪節ヲ現ハシ細微ナル縱溝ヲ帶ヒ灰褐色ヲ有ス、皮部ハ内部類白色乃至淡灰褐色ヲ有シ其質堅ク柔軟性ニシテ髓ヲ缺ク所ノ淡黄色ノ木體ト大サヲ同

ウシ或ハ之ヨリモ太シ、皮部ハ木部ト分離シ易ク平坦ニ折ル、臭氣ハ微弱特異、味ハ不快ニシテ微ニ苦シ。

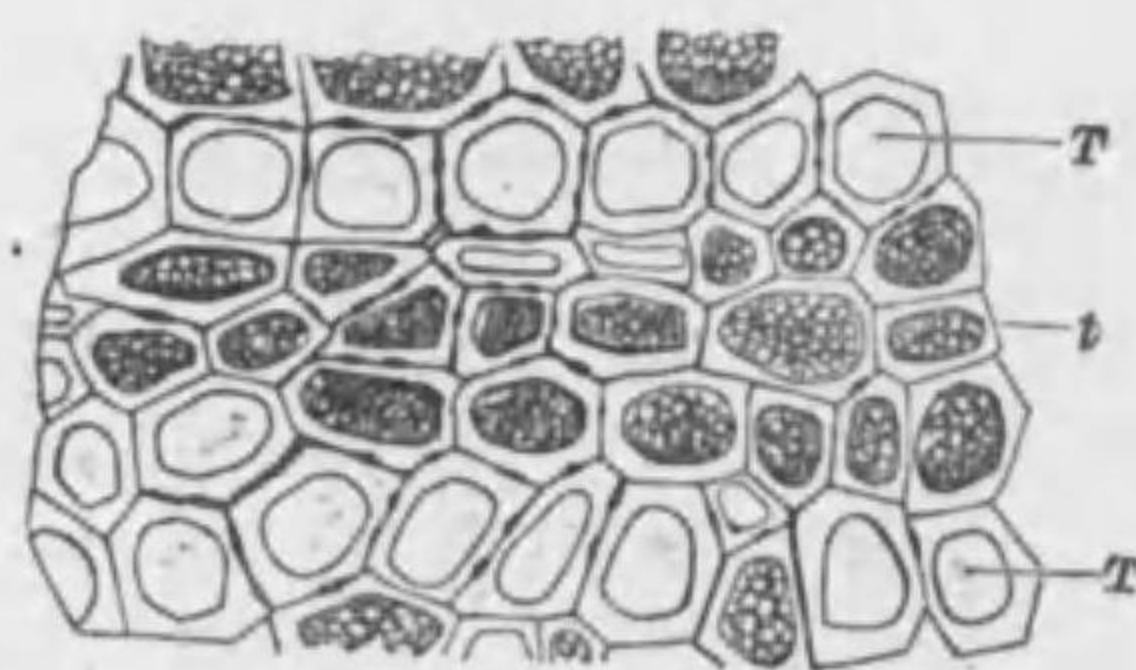
本品ハ細長形平坦ニシテ髓ヲ具有スル所ノ根莖ヲ含有ス可カラス。
(顯微鏡的構造) 皮部ハ薄壁性細胞ヨリ成レル褐色ノ袍層ヲ被ムリ、其皮部ハ篩脈管ノ外只パレンヒムノミヨリ成ル其パレンヒム細胞ハ内部ニ至ルニ從ヒ小形トナリ或ハ束鏡品或ハ澱粉ヲ包藏ス、澱粉ハ圓形ニシテ單澱粉ニ屬シ或ハ多クモ七箇ニ過キサリ小顆粒ヨリ成レル複合

圖五十八第

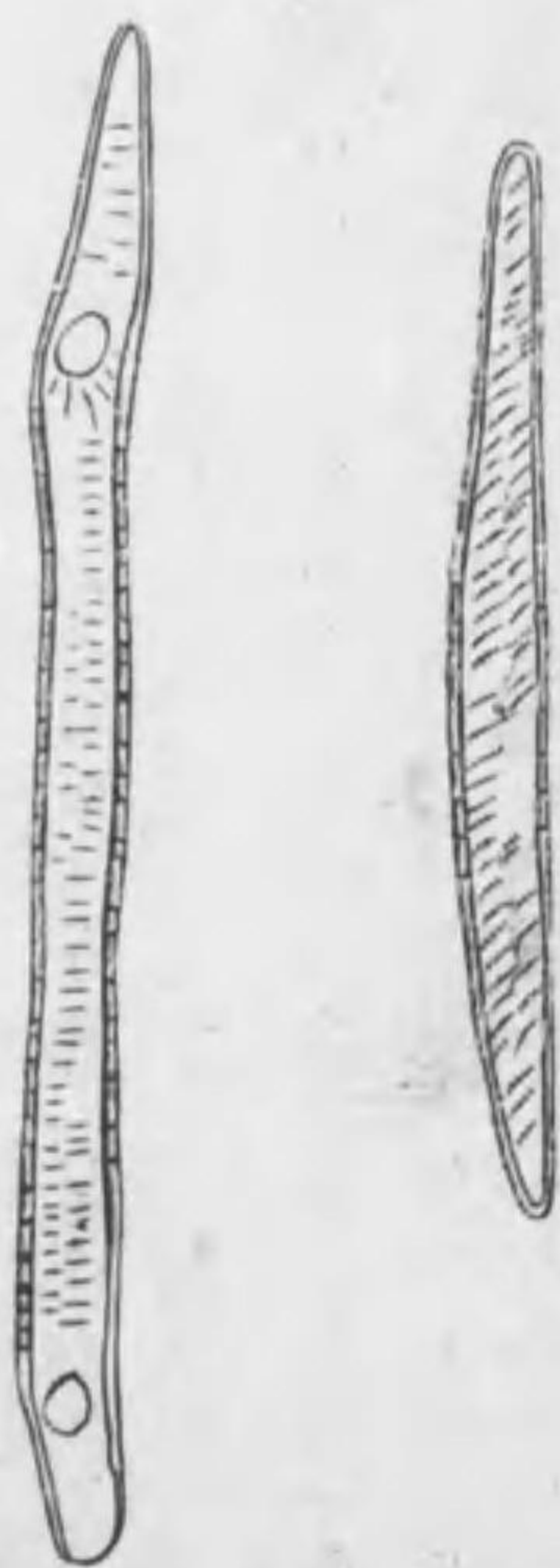


澱粉トス、各澱粉顆粒ノ直徑ハ十四ミクロンmmヲ超ユ可カラス、皮部中ニハ厚壁性細胞ヲ發現セス。

圖六十八第



圖八十八第 圖七十八第



木體ハ澱粉ヲ包藏シ斜メニ排置セル缺裂形胞孔ヲ有スル補充纖維(第八十七圖)兩端ニ近接シテ側壁ニ圓形ノ孔穴ヲ有スル擬脈管(第八十八圖)尋常擬脈管スクレ、ンヒム纖維及澱粉ヲ包藏セル木パレンヒムヨリ成ル、判明ノ髓線ハ缺如ス、木體ノ澱粉顆粒ハ其直徑十ミクロンmmヲ超エス。

第八十四圖(A)ハ吐根ノ概型圖、(B)ハルーペニテ廓大視セル橫断面ニシテ(a)ハ皮部、(b)ハ木部、(c)ハ五百倍ニ廓大セル澱粉ナリ、而シテ**第八十五圖**(1)ハリオ産吐根ノ自然大寫真圖、(2)ハカルタゲナ産吐根ノ同上ナリ。

第八十六圖ハ吐根本部ノ横断面ニシテ其Tハ脈管、tハ澱粉ヲ包藏セル補充纖維、第八十七圖ハ木部ニ存スル補充纖維ヲ示ス、第八十八圖ハ擬脈管ニシテ其皮壁ニ稍水平ニ排列セル孔紋ト上下ノ兩端ニ存スル圓孔トヲ見ルベシ。

第八十九圖ハ吐根ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セル狀ニシテP(P₁)(P₂)等ハ澱粉ニ富メル皮部ノ單一ナル細胞及細胞團、PBハ皮部ニ於ケル細胞組織ノ大ナル碎塊ニシテ其rハ孔紋ヲ縱視セルモノ、PTノ1ヨリ3ハ組織

圖 九 十 八 第



粉ニ富メル皮部ノ單一ナル細胞及細胞團、PBハ皮部ニ於ケル細胞組織ノ大ナル碎塊ニシテ其rハ孔紋ヲ縱視セルモノ、PTノ1ヨリ3ハ組織

ノ碎片(S)ハ散在セル澱粉(SB)ハ澱粉ノ團塊(E)ハ糖酸カルチウムノ束針品(EFC)及(EF)ハ澱粉ヲ包藏セル補充纖維ヲ縱視セルモノ、(gf)及(T)ハ脈管及擬脈管ノ破碎セルモノ、(FF)ハ木纖維ノ末端及半部ヲ縱視セルモノ、(K)ハ枹層ノ表面ナリ(二百

倍、エル・コッホ氏ニ據ル)。

第九十圖ハ吐根ノ澱粉ヲ顯微鏡下ニ檢視セル

モノニシテ(1)ハ球形單澱粉、(2)ハ二數顆粒、

(3)ハ三數顆粒、(4)ハ四數顆粒其他各種澱粉ノ傍

ニハ其碎片ヲ見ル(四百倍、エル・コッホ氏ニ據ル)。

(成分) 本生藥ノ主要ナル成分ハ Emetin (C₁₅H₁₇N₃O₂)

NaO₂ナルアルカロイドトス此アルカロイドノ

含量ハ四%ニ至ル Paul 及 Cowdley

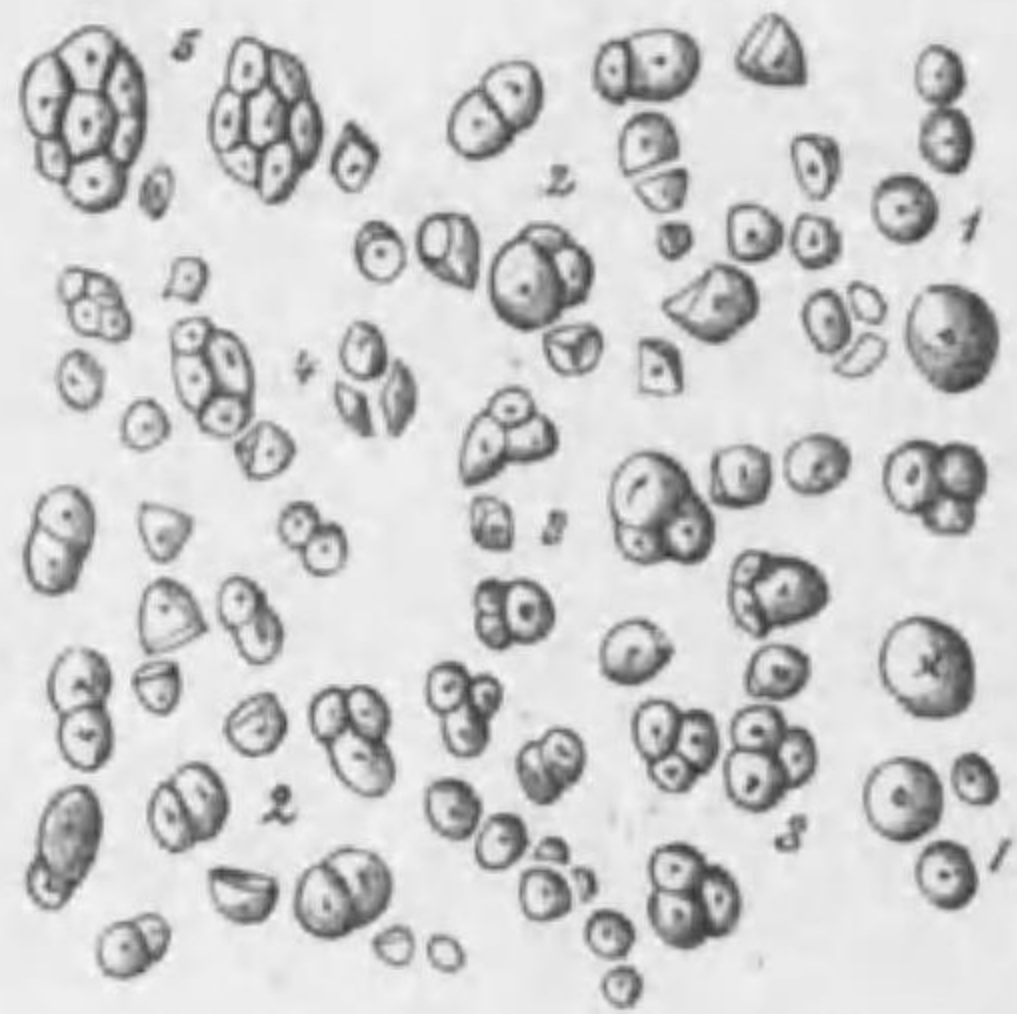
研究ニ據ルトキハ從來エメチント稱シタルアルカロイドハ少ナクモ二種ノ

「アルカロイド」ヨリ成レル混和物ニシテエメチンハ「カリ油液ニ由テ之ニ溶解

セザル」アルカロイド Emetin ト之ニ溶解スル Cephaelin C₁₁H₁₅NO₂トニ分解セシ

ムルヲ得ベシ其他 Psychotrin ナルアルカロイドヲ含ム又兩氏ノ試験ニ徵スル

圖 十 九 第



研究ニ據ルトキハ從來エメチント稱シタルアルカロイドハ少ナクモ二種ノ「アルカロイド」ヨリ成レル混和物ニシテエメチンハ「カリ油液ニ由テ之ニ溶解セザル」アルカロイド Emetin ト之ニ溶解スル Cephaelin C₁₁H₁₅NO₂トニ分解セシムルヲ得ベシ其他 Psychotrin ナルアルカロイドヲ含ム又兩氏ノ試験ニ徵スル

ニリオ吐根ヨリ得タル「アルカロイド」ノ百分ハ「エメチン七十二・一四分及ツエ
 フェリン二十五・八七分ヲ包有シ而シテカルタゲナ」(下文ヲ見ヨ)吐根ヨリ製出
 セル「アルカロイド」ノ百分ハ「エメチン四十五分及ツエフェリン五十六・八分ヲ含
 有ス。

吐根ノ木心ハ吐根全量ノ大約四分ノ一ニ居リ其エメチン「ノ含量ハ大約皮部
 ノ十二分一ニ過ギズ而シテ殆ト藥効ヲ有セズ是レ日本藥局方ニ(本品ハ木心
 ヲ除去シ用フベシ)ト掲グル所以ナリ。

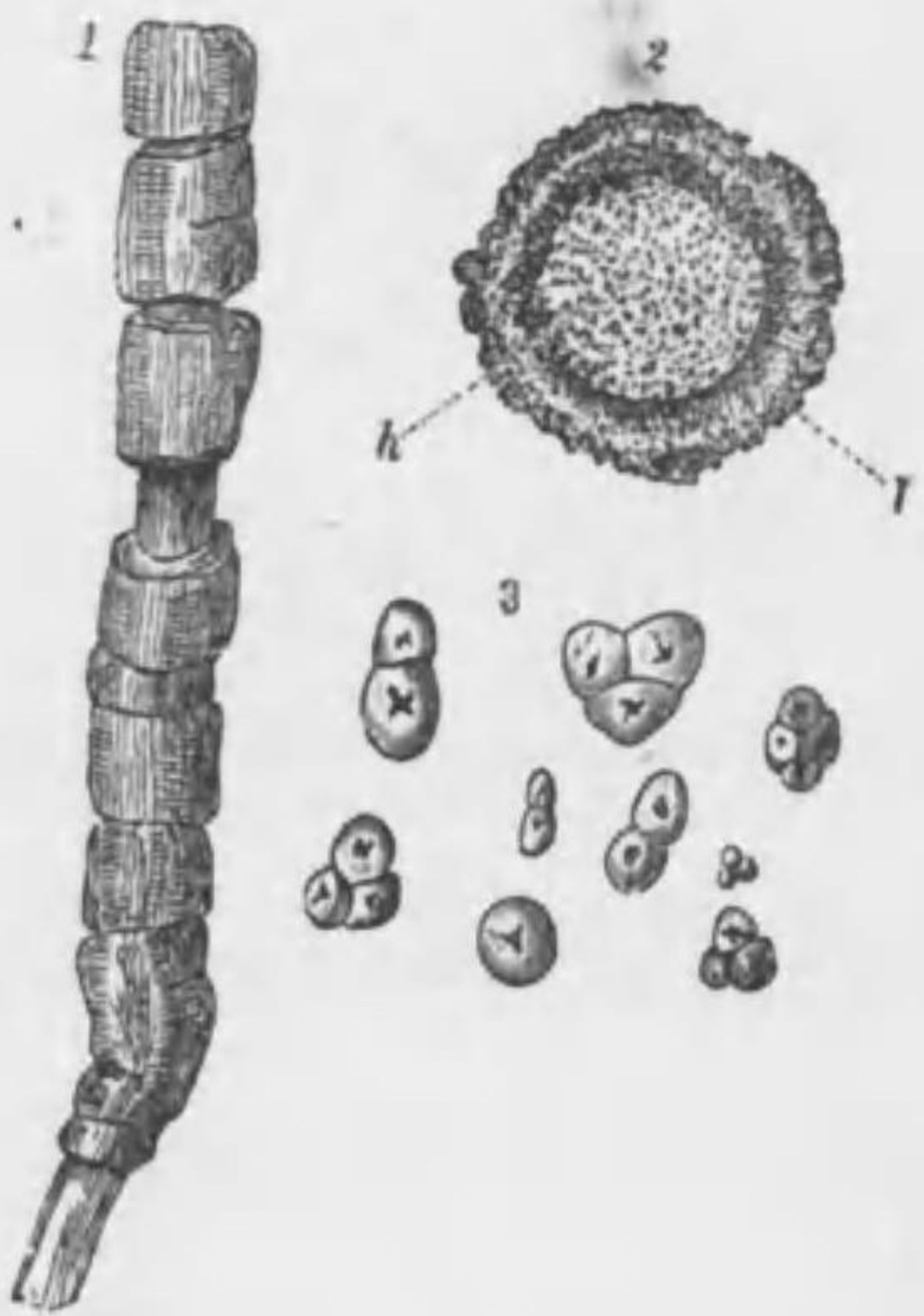
其他吐根ハ吐根酸 *Ipekuanhasiure* $C_{17}H_{25}O_6$ ナル一種配糖體性ノ酸揮發性鹽基
Quina 等ヲ含有ス。

吐根ヲ粗末トナシ稀鹽酸ヲ注加シ一二時間放置シ其上澄液ヲ傾瀉シ之ニ「ク
 ロール石灰ヲ撒布スルトキハ火赤色ヲ呈ス是レ「エメチン」ニ基因スル反應ト
 ス、エメチン」ヲ定量スルニハ藥局方規定ノ法ニ據ルベシ。

凡ソ藥用ニ堪フヘキ吐根ハ「エメチン」ヲ含有スルガ故ニ其粉末ノ少量ニ稀鹽酸ヲ加ヘテ振盪
 シ濾液ヲ二分シ其一分ニ「クロール」石灰ヲ撒布スレバ鮮赤色ヲ呈シ又他ノ一分ニ「マイエル」試
 藥ヲ注入スレバ潤濁ヲ呈ス。

本條規定ノ吐根ハ「リオ吐根」トス此吐根ノ外歐洲市場ニ出ツル吐根ニ「カルタゲナ吐根」ト稱ス

第九十一圖



ルモノアリカルタゲナ吐根ハ從前「サウ」ニシテ吐根ト稱ヘタルモノニシテ之ニハ二種アリ、一
 ハ其色灰色ヨリモ寧ロ赤色ニ類シ木部ニ明カニ髓線ヲ現ハス他ノ一ハ頗ル「リオ吐根」ニ類シ
Cephaelis acuminata *Kret.* ナル植物ノ根ナリ、カルタゲナ吐根ハ「アルカロイド」二〇・五乃至二九・三
 %ヲ含有ス。

從前ハ往々南米ヨリ所謂「擬吐根」ナルモノヲ輸出スルコトアリ即チ之ヲ左ニ掲ケテ參考ニ供
 ス。

擬吐根中最モ其形狀ノ眞正吐根ニ類スルモノハ茜草科ノ植物 *Psychotria emetica* *Mutis.* ノ根ニ
 シテ之ヲ「黑色吐根」或ハ「縱紋吐根」(*Radix I. nigrae s. striatae*)ト稱シテ南米ヨリ輸出セシコトアリ
 此吐根ハ眞正吐根ニ比スレバ途ニ肥大ニ
 シテ太サ六乃至十mmニ至リ圓筒形ヲナシ
 其外部ハ帶灰黑色ニシテ縱紋ヲ現ハシ隔
 離セル輪節ト輪裂ヲ有ス、皮部ノ内面ハ殆
 ト角質樣ヲナシ暗紫色ヲ呈シ顆粒狀ヲナ
 サス、其厚サ僅々木部ノ二分一ニ過キス、第
 九十一圖ノ(1)ハ自然大ニ於ケル黑色吐根
 (2)ハ「ロール」以テ厚大現セル其橫斷面、
 (3)ハ之ニ含有セル澱粉ノ形狀ヲ示ス。

又澱粉性吐根或ハ彎曲吐根 Radix Ipecacuanhae amyliaca seu undulata ナルモノハ真正吐根ヨリモ
稍、肥大ニシテ彎曲シ外部ハ灰白色ニシテ淺キ輪裂ヲ有シ細微ナル縱皺アリ其横斷面ニハ著

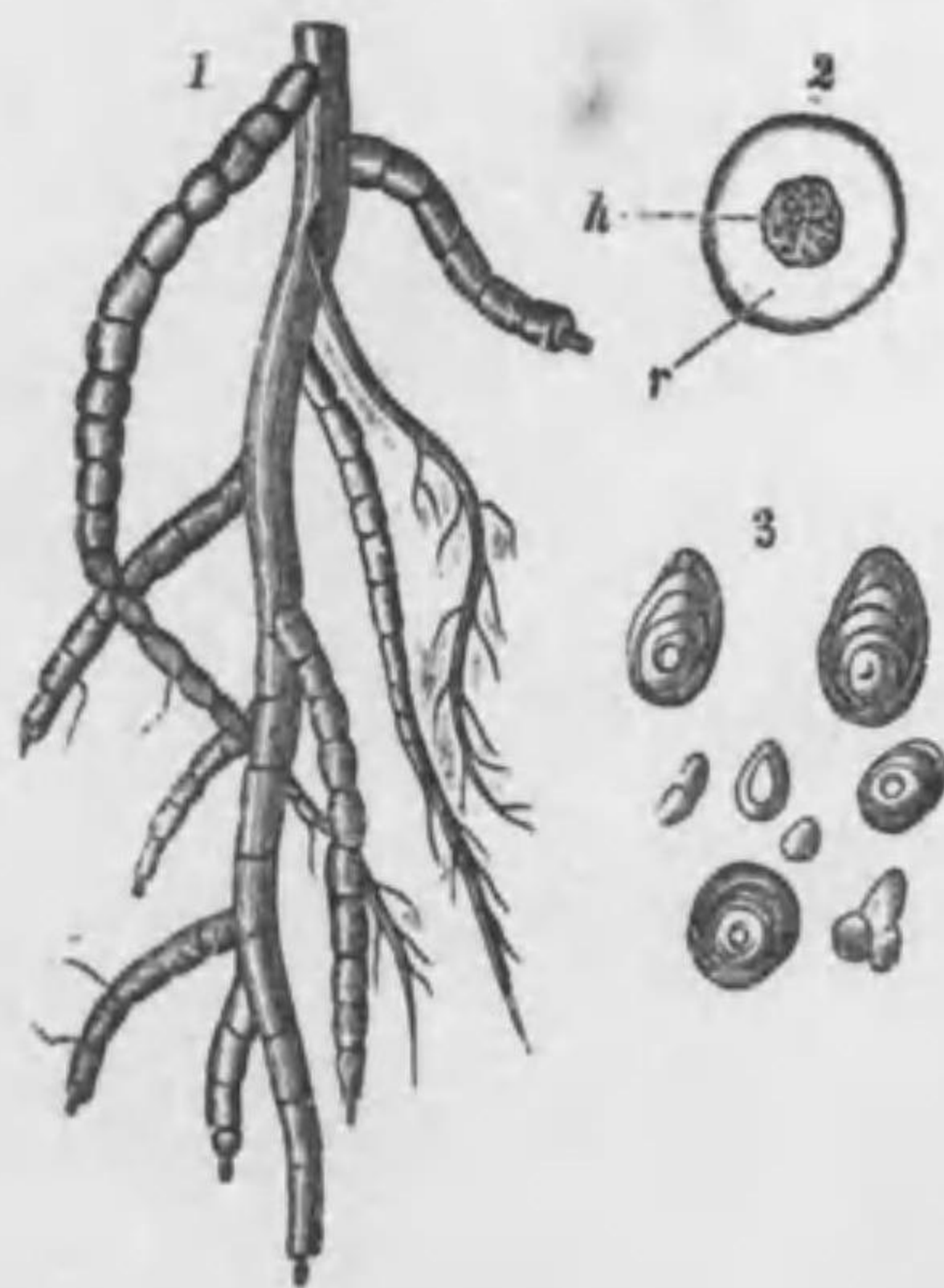
シキ新生組織輪ヲ現ハシ太キ脈管口ヲ著
在ス而シテ巨大ナル澱粉ヲ含有ス第九十
二圖(1)ハ本根ノ形狀ヲ示ス(2)ハ(1)ノ
以テ看視セル其横斷面ニシテ(3)ハ其澱粉
ナリ。

其他白色吐根ト稱スレモノアリ是レ莖葉
科植物ノ根ニシテ著シク類白色ヲ有シ全
ク真正吐根ト異ナル形狀ヲ有ス。

上記三種ノ擬吐根ハ總テ「エメチン」ヲ含有
セザルガ故ニ此吐根類ハ上文ニ掲ケル「エ
メチン」ノ反應ヲ現ハサス。

近來印度吐根ト稱シテ一種ノ贋品ヲ本邦
ニ輸入セシコトアリ此吐根ハ第九十三圖
(A)(B)ニ示スガ如ク真正吐根ト異ナル形
狀ヲ有セリ。

圖二十九第



圖三十九第



(應用)

催吐藥又ハ解凝藥及ビ祛痰藥トシテ用ヒ没劑トナシテ與フ吐劑トシテハ〇・二乃至
〇・五ヲ十分時乃至十五分時ニ反覆シテ與ヘ吐ヲ得ルニ至ル解凝祛痰ノ目的ニハ一日數回〇・〇一
乃至〇・〇五ヲ處方ス藥局方ノ製品ハ「ドール」散吐根丁幾吐根錠吐根酒等ナリ。

(貯法)

割藥ニ屬ス注意シテ貯フベシ而シテ吐根末ハ能ク乾燥セル硝子瓶ニ入レ密封シテ
保存スルヲ佳トス。

吐根ヲ粉末ニスルハ甚々眼フマキ業務ニシテ往々之ガ爲メ疾病ヲ誘起スルコトアリ故ニ之ヲ粉
碎スルニ當リテハ必ず布片ヲ以テ口鼻ヲ掩ヒ又鞣皮或ハ類似ノ物質ヲ以テ乳鉢ヲ被覆シ以テ吐
根粉ヲ吸引セサル様ニ注意スベシ。

● **ゲルセミウム根** Radix Gelsemii.

(基原)

ゲルセミウム根ハ番木鱧科(Loganiaceae)屬ノ植物 Gelsemium sempervirens
Aiton f. *G. nitidum* *Michx.* ノ根ヲ採集セルモノニシテ今ヲ距ルコト凡ソ六
十年前ヨリ米國ニ於テ醫藥ニ供セラル、ニ至レリ、本植物ハ北米ウイリジニア
及南部諸州其他墨西哥及南米ポリウエアノ中央部等ニ産スル蔓生灌木ニシテ
葉ハ鉞形ニシテ對生シ葉柄ヲ有ス花ハ巨大黄色ニシテ漏斗形ヲナシ疎ラ
ニ主軸ノ周圍ニ附着ス。

根 (獨) Gelsemiumwurzel.
(英) Gelsemium root.
(佛) Racine de gelsemium.

(形状)

ゲルセミウム根ハ圓筒形ニシテ太サ3cmニ至リ曇褐色ヲ有シ縦皺ヲ現ハス、横断面ニ於テハ皮部ハ纖維性ニシテ厚サ2mmニ過キズ帶黄類褐色ノ枹層ヲ被ムル木部ハ放線狀白色ニシテ堅硬粗糙髓ヲ缺ク但シ根莖(地下莖)ハ髓ヲ有ス、皮部ハ味甚タ苦ク木部ハ其苦味弱シ、第九十四圖(a)ハゲルセミウム根及根莖(b)ハ根莖ノ横断面(c)ハ根ノ横断面ヲ示ス、第九十五圖ハ

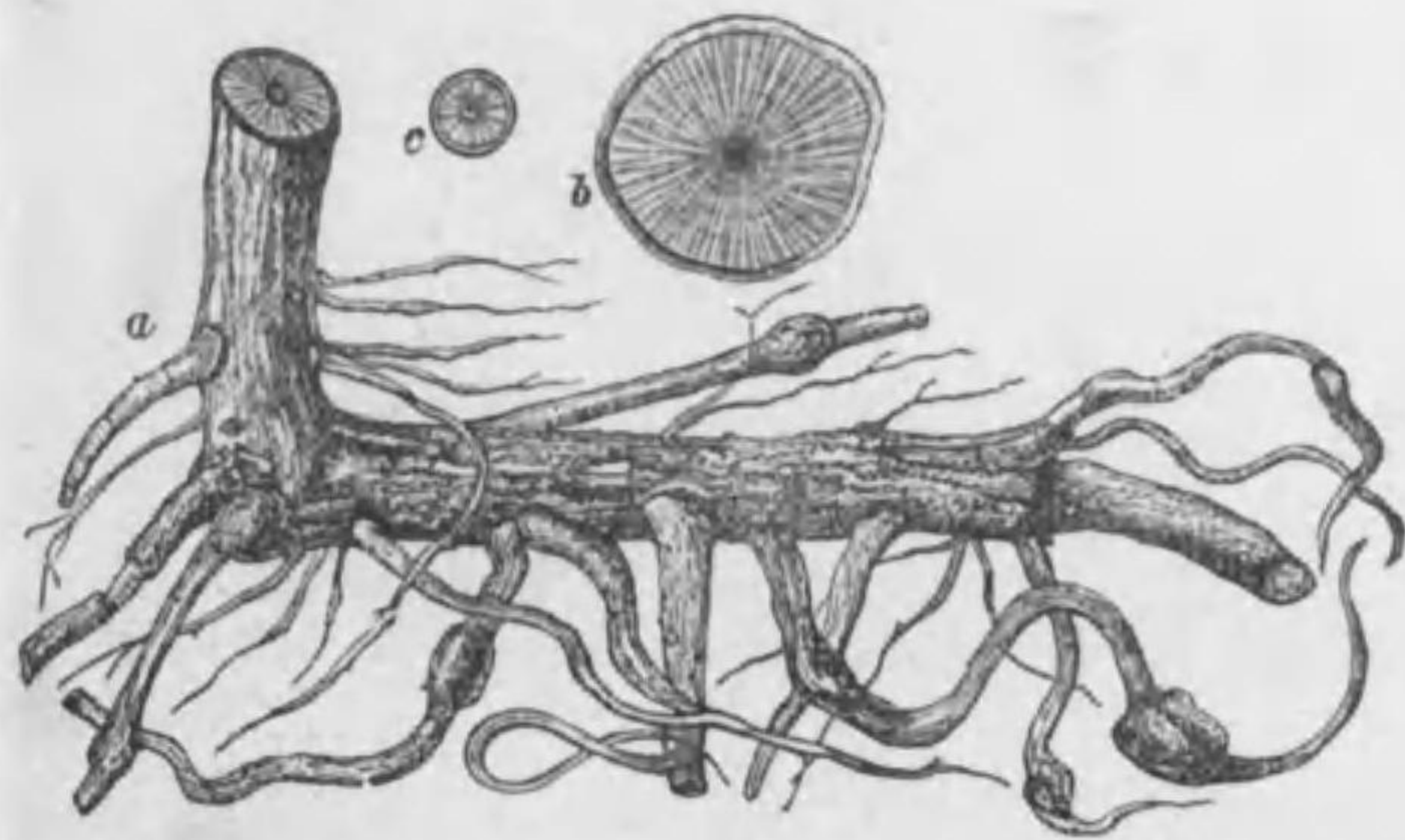


圖 四 十 九 第

本品ニハ往々莖ヲ混有スルコトアリ莖ハ藥用ニ堪ヘス其赤色ヲ有シ對立セル葉痕ヲ有スルニ由リ容易ニ根及根莖ト識別セラレ得ベシ。

本品一グラムニ石灰水五十ccmヲ注ケバ淡類黄色ヲ呈シ類藍色ノ螢石彩ヲ現ハシ之ニ稀硫酸ヲ混スレバ其螢石彩消失シ或ハ微弱ト

圖 五 十 九 第



ナル又本品ニ水十分ヲ和シ温浸シテ得タル澄明ノ液ハ過クロール鐵ニ由テ帶綠

褐色ノ沈澱ヲ生ジ、重クロム酸カリウムヲ加フルモ沈澱ヲ生セズ是レ此試薬ニ由テ沈澱スル「アルカロイド」ヲ含メル他ノ番木鱈科藥用植物(例之バ番木鱈)トノ區別ヲ示スモノナリ。

(成分)

ゲルセミン酸 (Gelseminsäure $C_{21}H_{33}O_9$) ヲ含ム是レ本文ニ掲グル螢石彩ノ基因スル物質ニシテ従前ハ七葉樹皮中ニ含メル Aesculin ト同一物ト看做シタレトモ最近ノ研究ニ據ルトキハ全ク之ニ異ナル物質ナリ其他 Gelsamin ($C_{21}H_{33}NO_9$) 及 Gelsaminin ($C_{21}H_{33}NO_9$) ナル二種ノ「アルカロイド」ヲ含有ス。

(應用)

流動越幾斯又ハ丁幾トシテ用ユルコトアレトモ稀ナリ神經痛・喘息・百日咳等ニ用ユ。

(貯法)

劇薬ニ屬ス注意シテ貯フベシ。

● 蒲公英

Radix Taraxaci cum Herbae. *Taraxacum.*

(基原)

獨逸藥局方ノ蒲公英ハ已ニ太古ノ時代ヨリ藥用ニ供セラレ北半球ノ各地ニ産スル菊科 (Compositae) 所屬ノ蒲公英草 *Taraxacum officinale* Wigg. ヲ春季其開花時ニ先ク花常ノ萌芽ヲ具フル全草ヲ根ト共ニ採集シ乾燥セルモノナリ。

(形状)

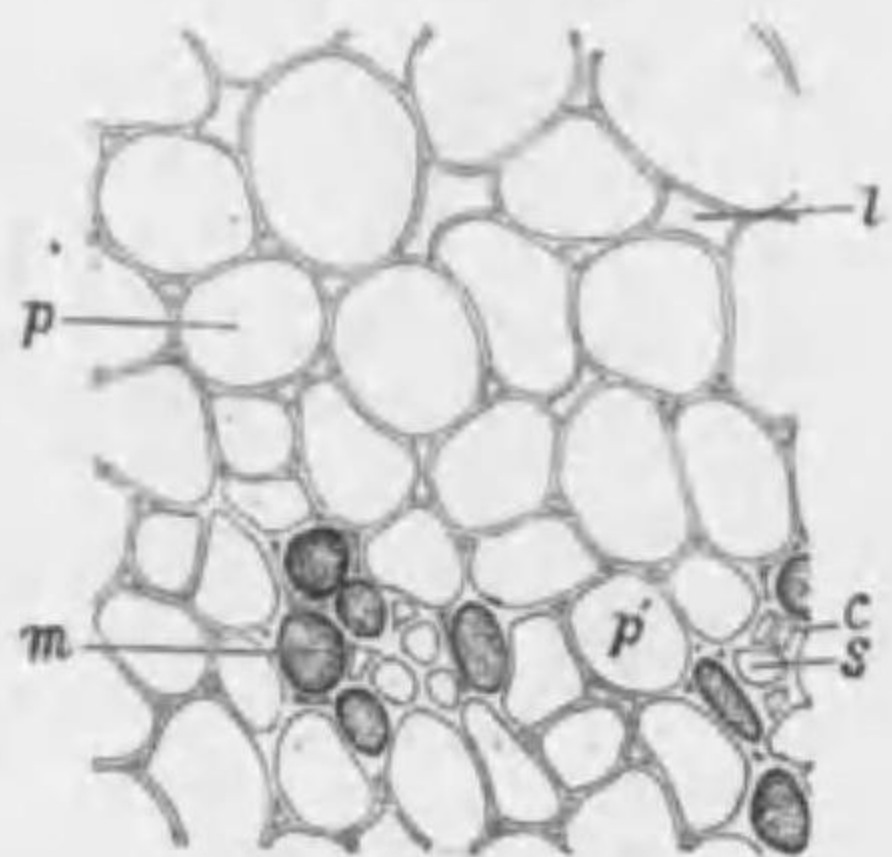
此蒲公英ハロゼト形ヲナシテ列置セル基立性ノ葉ヲ著ケ其葉ハ單純ニシテ鉞形乃至長鉞形ヲナシ粗大ノ鋸齒ヲ着ケ大ナル三角形ノ末齒ヲ具有シ毛茸ヲ帶ビス或ハ少シク絨毛ヲ帶ブ根ハ紡錘狀ニシテ短キ纖維根ヲ帶ヒ太サ半乃至二cm長サ二dmニ至ル多クハ單根ニシテ稀ニハ多數ノ根頭ヲ戴キ外部ハ帶褐黃色ニシテ上部ニハ屢輪節ヲ有ス其乾燥セルモノハ太サ二・五cmニ過キス外部ハ褐灰色ニシテ深キ縱溝及皺紋ヲ現ハス破折面ハ平坦ナリ之ヲ横斷シ水ニ浸漬スルトキハ著シク膨脹シ皮部ノ厚サ木心ニ越ユルニ至ル而シテ皮部ノ横斷面ハ類白色ニシテ髓線ヲ闕如シ放線狀ヲ爲サス十

(獨) Löwenzahn.
(英) Dandelion.
(佛) Dent de lion.

圖六十九第



圖七十九第



乃至三十箇ノ同心性圈輪第九十六圖 *m* ヲ有ス木部ハ黃色ヲ有シ亦髓線ヲ缺キ髓心ヲ有セス右ノ圈輪ハ乳脈管ニシテ *l* ヲ以テ之ヲ廓大視スルトキ

ハ其孔穴ヲ認メ得ヘシ而シテ乳脈管ハ褐色ニシテ涵濁セル乳汁ヲ含有シ其縱斷面ニハ錯雜ニ分岐ス蒲公英根ハ其皮部ニ於ケル同心性ノ圈輪(乳脈管)アルト其木部ニ放線狀ヲ現ハサス或ハ之アルモ顯著ナラザルトニ由リ一目シテ其蒲公英根タルコトヲ判知スルヲ得ヘシ。

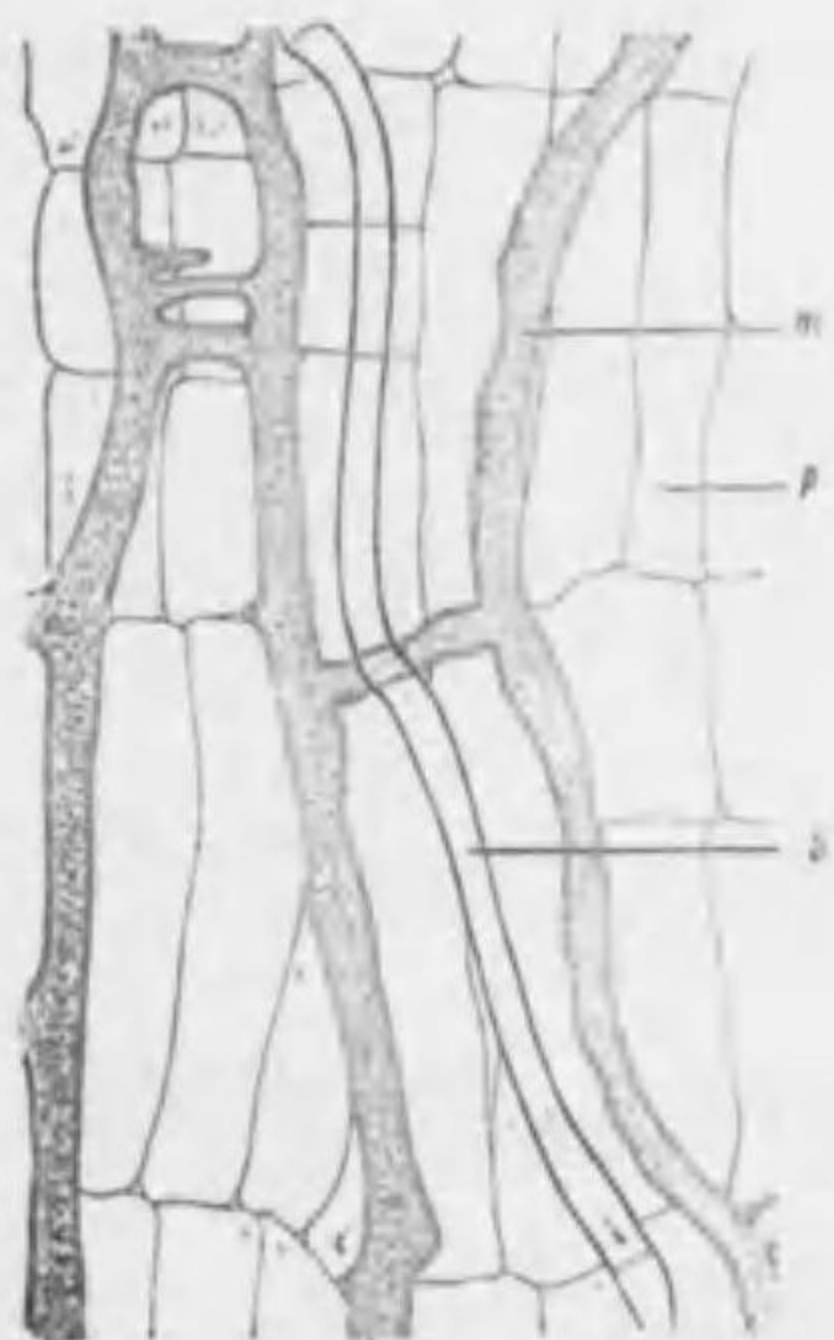
第九十六圖ハ蒲公英根ノ横斷面ヲ五倍ニ廓大視セルモノニシテ *h* ハ外皮、*m* ハ乳脈管、*g* ハ脈管、*h* ハ木部、*c* ハ新生組織トス。

(顯微鏡的構造) 蒲公英根皮部ノ横斷面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ彼ノ同心性ノ圈輪ハ第九十七圖ニ示ス如ク乳脈管(同圖 *m*) ト篩脈管(同圖 *s*) ヲ

リ成ル而シテ同輪層ニ於ケル左右ノ乳脈管ハ乳脈管ト篩脈管ト篩脈管ト互ニ連合シ前後ノ輪層ノモノトハ然ルコトナシ。

第九十七圖ハ皮部ノ輪層ヲナセル部分ノ横断面ノ顯微鏡圖ニシテ(m)ハ乳脈管、(s)ハ篩脈管、(p)ハパレンヒーム細胞トス、第九十八圖ハ輪層ノ縦断面ノ顯微鏡圖ニシテ其(m)ハ乳脈管、(s)ハ篩脈管、(p)ハパレンヒーム細胞トス。

圖八十九第



Radix Taraxaci cum Herba ナル名稱ヲ用ユ。
本邦産蒲公英ニハ Taraxacum plactycum Dahlstedt 及 T. albidum Dahlstedt ノ二種ア

蒲公英根ノ組織中ニハ不整ノ形狀ヲ爲セル Inulin^{イヌリン}ヲ包藏ス而シテイヌリンハヨード水ニ逢フトキハ類褐色ヲ呈ス。
蒲公英根ノ味ハ時期ト地質ノ異ナルトニ由リ甘苦一定ナラス、獨乙藥局方ニ於テハ全草ヲ併セテ藥用ニ供ス故

リ甲ハ舌狀花ノ花瓣黄色ニシテ乙ハ白色ヲ有ス此兩種ノ蒲公英ハ其形狀概シテ歐洲産ト異ナルコトナク只小花頭ヲナセル舌狀花ノ數歐洲産ニ比シ遙ニ少數ナルト稍葉ノ形狀ニ不同アルノミナルガ如シ根ノ形狀ニハ不同アルヲ見ス本邦産蒲公英ハ未タ化學的檢査ヲ經サレトモ敢テ歐洲ト異ナルナキガ如シ故ニ日本藥局方ニテモ之ヲ收載セリ。

(成分) 歐洲産蒲公英ハ春期ニハ澱粉及イヌリンヲ含有スルコト甚タ少量ナレドモ秋期ニハイヌリンノ含量二十四%ノ多キニ至ルイヌリンハ春期ニハ殆ト全ク Lävulin^{ラヴリン} C₆H₁₀O₅ ト還元性ヲ有スル一種ノ糖トニ變遷ス乳汁中ニハ [タラキサチン (Taraxazin)] ト稱スル苦味質ト [タラキサツェリン (Taraxazerin C₈H₁₆O)] ナル中性質ヲ含有ス又彈力ゴムノ少量ヲ含ム。

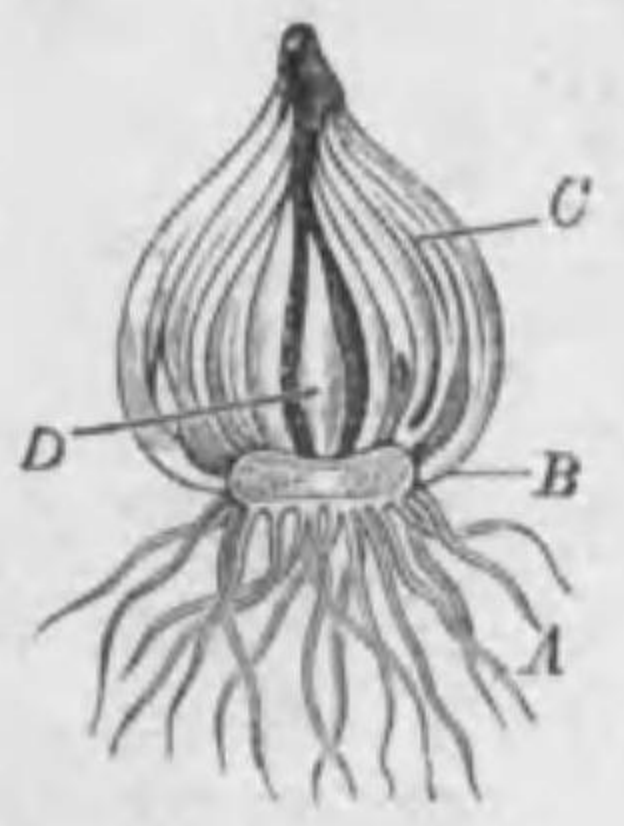
(應用) 従前ハ頗ル有効ナル解凝藥・淨血藥・發汗藥及強壯藥ト認メラレ下腹部ノ分泌ヲ促シ、其閉塞ヲ緩メ殊ニ膽汁ノ分泌ヲ旺盛ナラシムルノ効アリトシテ用ヒタレトモ現今ハ殆ト廢棄ニ歸セル藥品トス、製品ハ蒲公英越幾斯ナリ。

第三章 球根類及葱根類

Tubera et Bulbi. Knollen und Zwiebeln.

球根 球根莖 (*Tubera*) ハ有花植物ノ地下莖或ハ側軸ト看做スベキモノニシテ多クハ肉狀ニ肥大シ殆ント球形或ハ扁球形ヲ爲シ其直徑縱軸ノ長サニ超エルモノアリ而シテ其發育肥大スルニ應ジテ營養質殊ニ澱粉ヲ充盈シ翌年發芽期ニ至リ新生植物ヲ營養スルノ糧トナスモノナリ球根ハ新鮮ナルニ當リ肉質様ヲナシ乾燥スルニ從ヒ粉末様或ハ角質様トナル例之ハ「アコニット根 (*Tubera Aconiti*)」ヤ「ラッパ根 (*Tubera Jalapa*)」ザレップ根 (*Tubera Salep*) 等ノ如キ是レナリ土茯苓 (*Tubera Chinese*) ノ如キハ屢ニ延長形ニ發育シ甚タ剛強ニ發育セル尿管束ヲ具フルヲ以テ尋常ノ球根類ト稱シ其種類ヲ異ニス。

圖九十九第



葱根 葱根莖 (*Bulbi*) ハ肉質様ニ發育肥大セル基礎葉莖葉或ハ葉部ヨリ成リ其葉ハ蟹殼狀ヲ爲シ下方ニ副根ヲ具フル短矮ノ軸部(葱盤ト名ク)ニ附著シ地面ニ露出シ或ハ地下ニ發育セルモノナリ而シテ葱根ハ球根ニ於ケル如ク澱粉或ハ澱糖ノ營養物トナルヘキ他ノ物質ヲ充盈スルノ任ヲ負フモノトス葱根中藥用ニ供セラルヘモノハ特リ海葱 (*Bulbus Scillae*) ナリ第九十九圖ハ葱根ノ一例タル海葱ニシテ(A)ハ副根(B)ハ葱盤(C)ハ莖葉(D)ハ莖芽トス。

(甲)球根類 *Tubera. Knollen.*

(イ)單子葉植物ノ球根類 *Knollen der Monokotyledonen.*

●ザレップ根 *Tubera Salep.*

(基原) ザレップ根ハ已ニ太古ヨリ醫藥及食料ニ供用セラレタルモノニシテ「ザレップ」*Salep* ナル名稱ハ中古亞羅比亞ノ醫師ニ始マル「ザレップ」ハ歐洲中部ニ産スル蘭科 (*Orchideae*) ニ屬スル *Orchis Morio L.* (第百圖) *O. mascula L.* *O. militaris L.* *O. fusca Jacquin.* *O. ustulata L.* *Anacrotis pyramidalis Richard.* 等ノ球根ナリ小亞

第百圖



細亞ニ於テハ上記ノ植物及他ノ蘭科植物ノ根ヲ取り印度地方ニ於テハ殊ニ *Polypodium* 屬ノ根ヲ用ユ而シテ本邦

(獨) *Salepknollen.*
(英) *Salep.*
(佛) *Salcp.*

ニ於テハさいはいらん *Oremastria Wallichiana Lindl.* ノ球根ヲ以テ之ニ供用ス、又
 白芨 *Bletilla hyacinthia Rehb. f.* ヲ推奨スル者アレトモ余ガ検査ニ由レバ白芨ハ
 少シク苦味ヲ有シ粘液ニ富マサルガ故ニ恐クハ「ザレップ」ニ代用シ難シ。

(形状) 前述ノ植物ハ開花ノ候ニハ莖幹ヲ帶フル老根**(第百圖)**ノ側傍ニ稚根
 ヲ具有スルモノニシテ老根ハ落花ノ後枯死シ稚根ハ萌芽ヲ戴キ翌年莖幹ヲ
 抽キ前期ノ生活ヲ遂クルモノナリ而シテ藥用ニハ其稚根ヲ取ル即チ開花ノ
 後之ヲ掘採シ老根ヲ除去シ沸湯ニ投シ洗滌シ乾燥スベシ。

歐洲産ザレップ根ハ殆ト球圓形**(第百一圖)**或ハ卵圓形乃至長形或ハ手掌狀ニ分
 岐**(第百二圖)**テ其質堅ク且ツ重ク長サ二乃至四cm太サ〇五乃至三cm滑坦或
 ハ粗糙、灰類褐色或ハ類黃色ニシテ稍、透映ナリ、本品ハ尖端ニ萎縮セル小萌芽
 或ハ之ヲ除去セルニ由テ生シタル癢痕ヲ頂ク、破折面ハ上面ト同一ノ色澤ヲ
 有シ殆ト角質様ナリ、臭氣ナク味淡泊ニシテ粘液様ナリ。

(顯微鏡的構造) 本球根ノ實體組織ノ全部ハ薄壁性パレンヒム(ヨリ成
 リ比較的少數ノ細キ脈管束通走ス、細胞ハ概シテ各般ノ度ニ糊化セル澱粉ヲ
 含有シ多クハ之ヲ糊塊トシテ含有ス細胞ノ間ニハ粘液及細小ノ「カルチウム

圖一百第



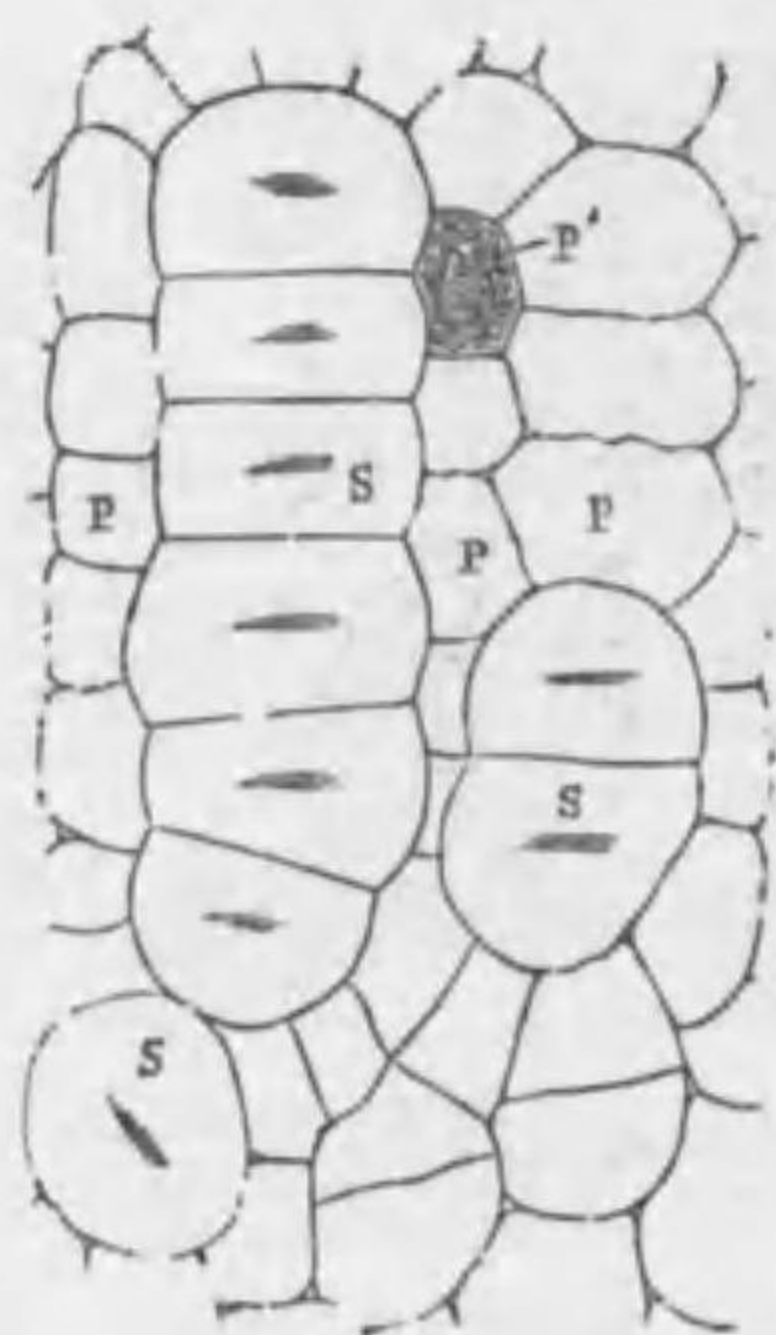
圖二百第



糖酸鹽束品ヲ包藏スル
 所ノ周圍ノ細胞ヨリ大
 ナル細胞ノ多數ヲ存ス
(第百三圖)。

本品ノ粉末ハ類白色或
 ハ帶黃白色ニシテ其粘

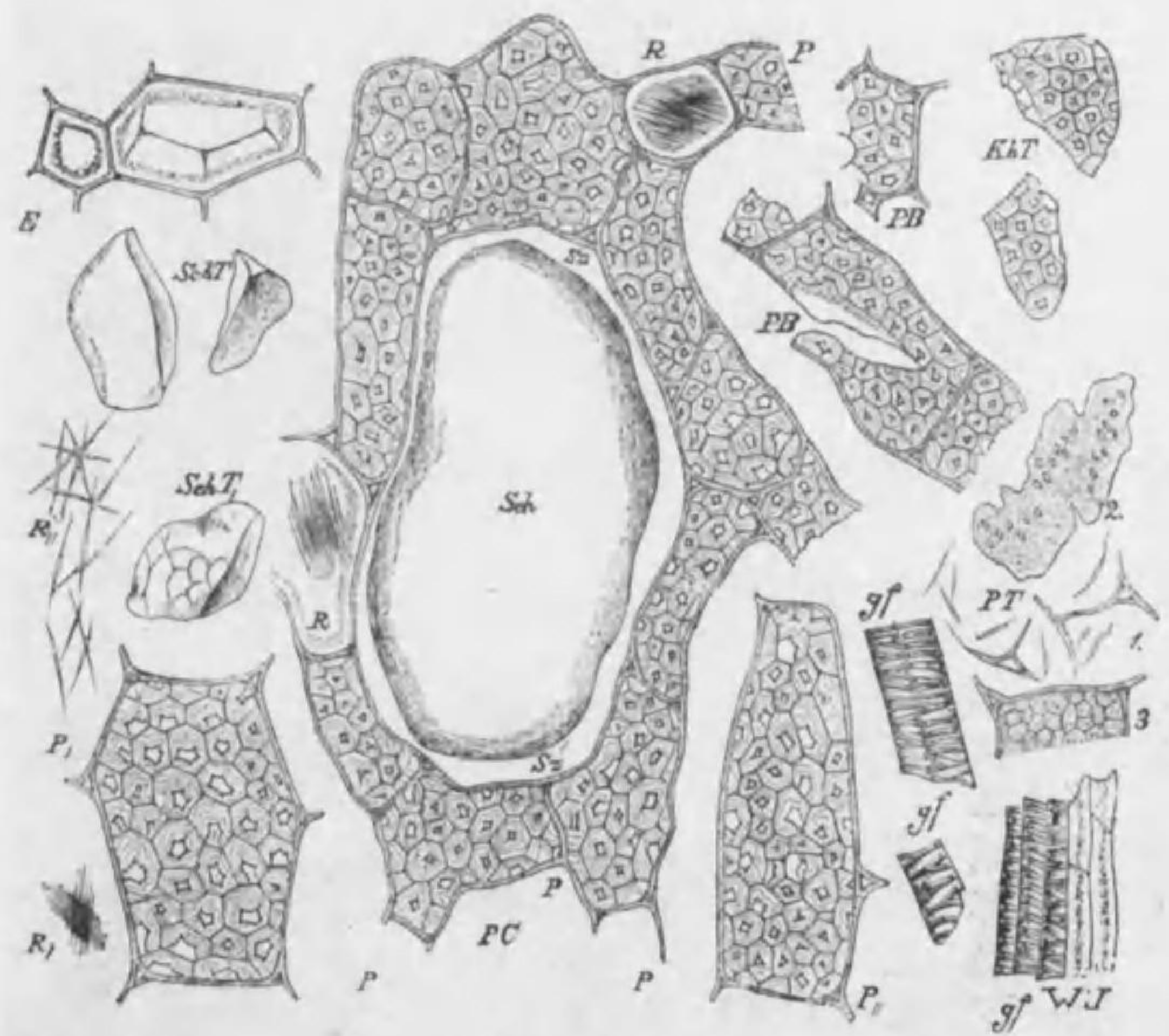
圖三百第



液細胞ヲ包藏スルヲ以テ特徴トス即
 チ其粉末ヲ酒精中ニ試験スルトキハ
 粘液ハ甚タ平等ナル類白色ノ板體ト
 ナリテ現出シ之ニ徐々ニ水ヲ流通セ
 シムレハ其粘液板ハ其容積ヲ増大シ
 圓形泡狀ノ囊體ニ變シ之ニ「ヨード溶

液ヲ加フレハ其粘液囊體ハ暗黃色乃至褐赤色ヲ呈シ僅ニ「ラファイデン」及脈管
 ノ碎片ヲ含蓄セル粘液細胞外ノ殆ト全部ハ藍色ヲ呈ス、糊化セサル澱粉ハ存
 在セス。

第四百四圖



(L. Koch 氏ニ據ル)

本品ノ粉末一分ニ五十分ノ水ヲ加ヘ煮沸シテ得タル液ハ冷後頗ル濃厚ノ粘漿トナリ之ニヨリド溶液ヲ加フレハ藍色ヲ呈ス、本品ノ粉末ヲ灰化スルニ百分ニ付キ三分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラス。

第百一圖ハ Orchis Morio ノ球根、第百二圖ハ O. mascula ノ手掌狀球根ヲ示ス、(a)ハ共ニ老根、(b)ハ共ニ稚根ヲ示ス。

第百三圖ハサレップ根ノ

縱斷面ヲ廓大視セルモノニシテ(S)ハ粘液細胞中ニ束針狀ヲナセル糖酸カルチウムノ結晶ヲ包藏スル狀ヲ示シ、(P)ハ澱粉ヲ包裹セル細胞、(P)ハ澱粉ヲ除去セルモノトス。

第百四圖ハ歐產ザレップ末ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ(PC)ハ糊化セル澱粉ヲ包藏セル細胞組織、(P)ハ其組織中ニ結晶細胞Rヲ包藏セルモノ、(S)ハ粘液細胞ニシテ粘液塊(Sch)ヲ包藏セルモノ、(P₁)及(P₂)ハ單一ナル細胞、(PB)ハ其碎片、(K&T)ハ糊化セル澱粉團塊ノ細胞外ニ出テタルモノ、(PT)1ヨリ3ハ細胞組織ノ碎片、(Sch)ハ粘液塊ノ碎片、(V)ハ脈管、(V)ハ内皮部組織ヲ縱視セルモノ、(E)ハ表皮、(E₁)及(E₂)ハ針狀糖酸鹽結晶トス(二百倍)。

本邦產サレップ根即チ采配蘭又母栗 Crenastra Wallichiana Tindl. ノ球根ハ岩代國耶摩郡其他伊豆函嶺等ニ於テ採集シ略、蕪菁形、第百五圖長形等ヲナシ重サ大約〇・六乃至二・六グラムナリ頂端ニ殘莖ヲ存シ上部ニハ葉基ノ痕ヲ附着セルニ由リ輪節ヲ有ス外面類黃色ニシテ其質堅ク角質様ヲナシ稍透映ナリ、本根ノ新鮮ナル者ヲ取り永ク之ヲ強酒精ニ浸シテ硬化セシムルノ後橫斷シテ顯微鏡下ニ檢視スレハ其組織ハ最モ粘液細胞ニ富ミ處々ニ脈管束ヲ筈在ス横

断面ヲ暫時ヨード丁幾ニ浸シ爾後之ニグリセリンヲ添加シテ鏡檢スレバ粘液細胞ヲ見ル其皮膜ノ内部ニ位スル層**第百六圖A**ハ平等透明ノ觀ヲ呈ス是レ粘液層ヨリ成レルモノニシテ之ニ水ヲ加フレバ著シク膨脹ス其粘液層ヨリ確然區劃セラレタル内層**B**ハ中心ニ細胞核**C**ヲ包藏シ顆粒狀ノ觀ヲ呈ス**第百六圖**ハ即チヨード丁幾及グリセリンニ浸シ百四十倍ニ廓大セル粘液細



圖 五百 第

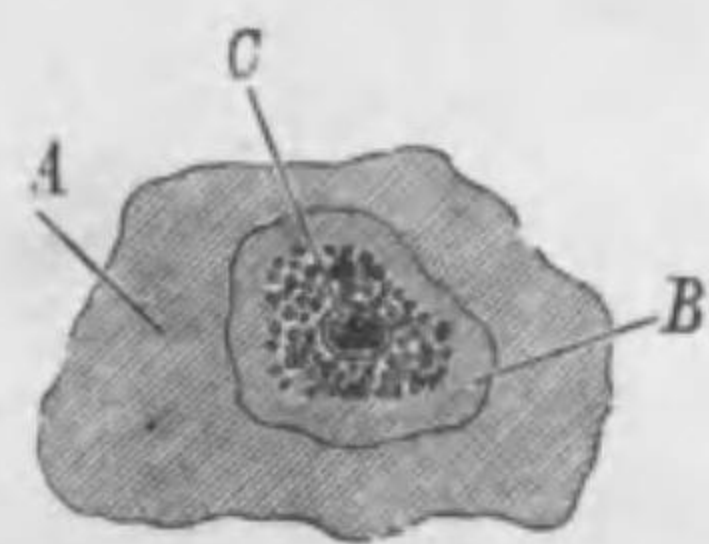


圖 六百 第



胞、Aハ粘液層、Bハ内層、Cハ細胞核ナリ。
第百七圖ハ本邦産及歐産サレップ根ノ自然大寫眞圖ニシテ**(a)**ハ本邦産、**(b)**ハ歐産ノモノナリ。

右ノ外本邦北海道ニハ *Orchis aristata Fisch.*, *O. cyclochila Maxim.*, *O. latifolia L.* 等ノ諸種ヲ産ス此等植物ノ根ハ恐クハ亦サレップ根トシテ應用セラレ得ベキ者ナラン。

(成分) ザレップ根ノ主要成分ハ粘液ニシテ此粘液ハザレップ根ニ八十分ノ冷水ヲ加ヘテ振盪スレバ之ヲ溶出スルヲ得ヘク其濾液ニヨードヲ加フレバ鮮赤色ヲ呈ス、而シテアムモニア製ノ銅溶液ニ溶解シ、硝酸ニ逢フモ粘液酸ヲ化生スルコトナシ、故ニ此粘液ハ其質植物纖維素ニ類似スルモノトス、ザレップ根ハ澱粉ヲ含有スレトモ盡ク糊化シテ存セリ。

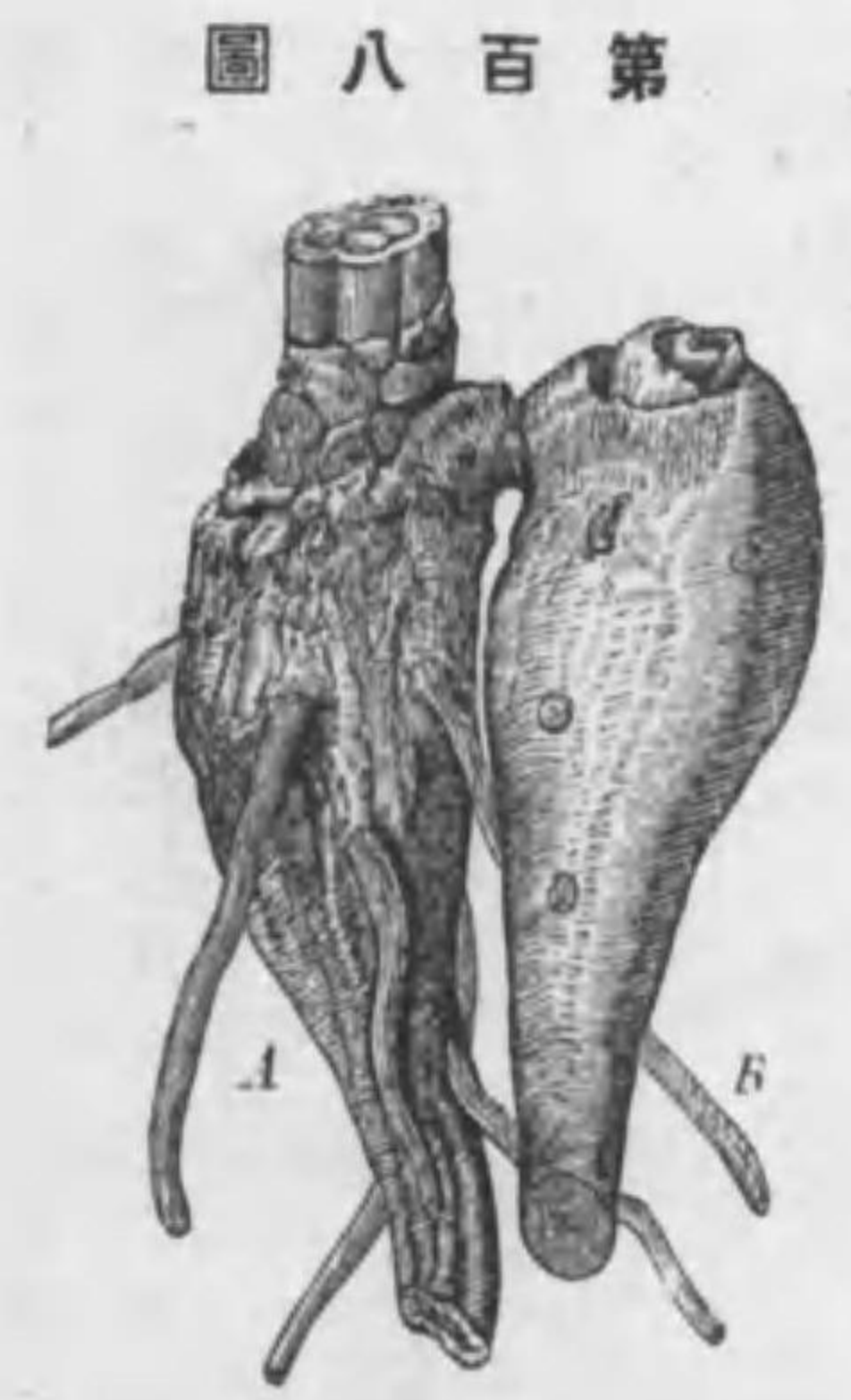
(應用)

ザレップ根ハ煎劑トナシ包攝藥トシテ胃腸加答兒ニ應用ス。

(口) 雙子葉植物ノ球根類 Knollen der Dikotyledonen.

● **アコニット根** 雙鸞菊根 *Tubera Aconiti*, *Radix Aconiti*.

(獨) Eifenhutknollen.
(英) Aconit root.
(佛) Racine d'aconit.



漸次枯死スルモノニシテ其側傍ニ一箇或ハ數箇ノ稚根(側子)ヲ附着シ此側子ハ翌年發育スル莖芽ヲ戴ク而シテ藥用ニハ母根及側子共ニ用ユ、**第百八圖**ハ *Aconitum Napellus L.* ノ球根ニシテ (A)ハ母根、(B)ハ側子子根トス、藥用品ハ蘿蔔形ヲ爲シ長サ三乃至八cm、上部ノ太サ大約二cmニシテ漸次狹長トナリ、重サ大約六グラムニ至ル、外面ハ灰褐

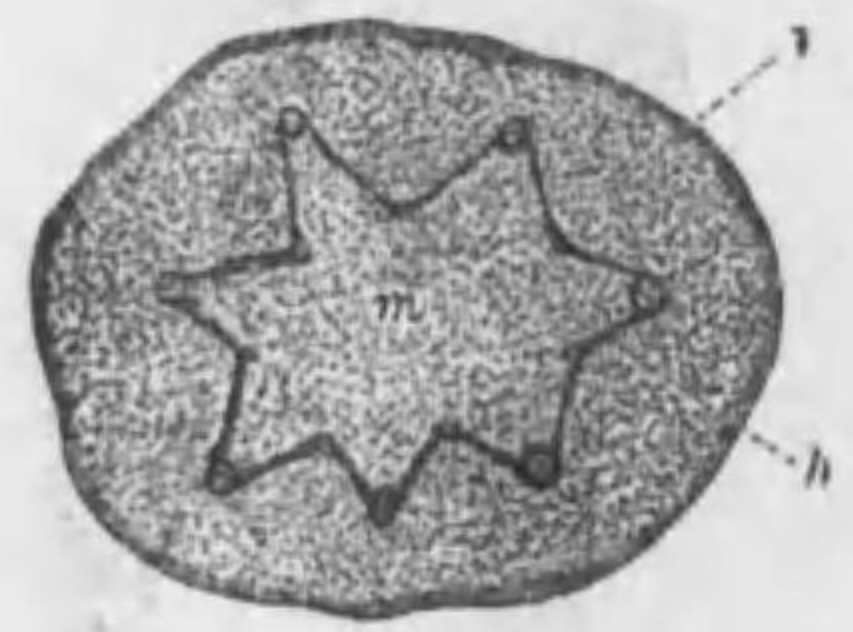
圖八百第

(基原) 希臘人ハ已ニ太古ノ時代ヨリ「アコニット」ノ有毒ナルコトヲ知レリ而シテ獨逸ニ於テハ一千六百年代ヨリ之ヲ藥舖ニ販賣セリト雖其醫藥上ノ應用ハ近代ニ始マルモノトス、獨逸、英、佛等ノ藥局方ハ *Aconitum Napellus L.* ノ球根ヲ以テ藥用品ト定ム而シテ此植物ハ毛茛科 (*Ranunculaceae*) ニ屬シ北半球ニ於ケル溫帶諸地ノ山中ニ生シ又屢、谿谷ニモ産ス然レトモ此植物ハ屢、大ニ其外面ヲ異ニスルモノナリ、本邦ニハ産出セス。

(形狀) 前述ノ植物ハ開花ノ候莖幹ヲ帶フル球根ヲ具有シ其母根ハ落花後漸次枯死スルモノニシテ其側傍ニ一箇或ハ數箇ノ稚根(側子)ヲ附着シ此側子ハ翌年發育スル莖芽ヲ戴ク而シテ藥用ニハ母根及側子共ニ用ユ、**第百八圖**



圖九百第

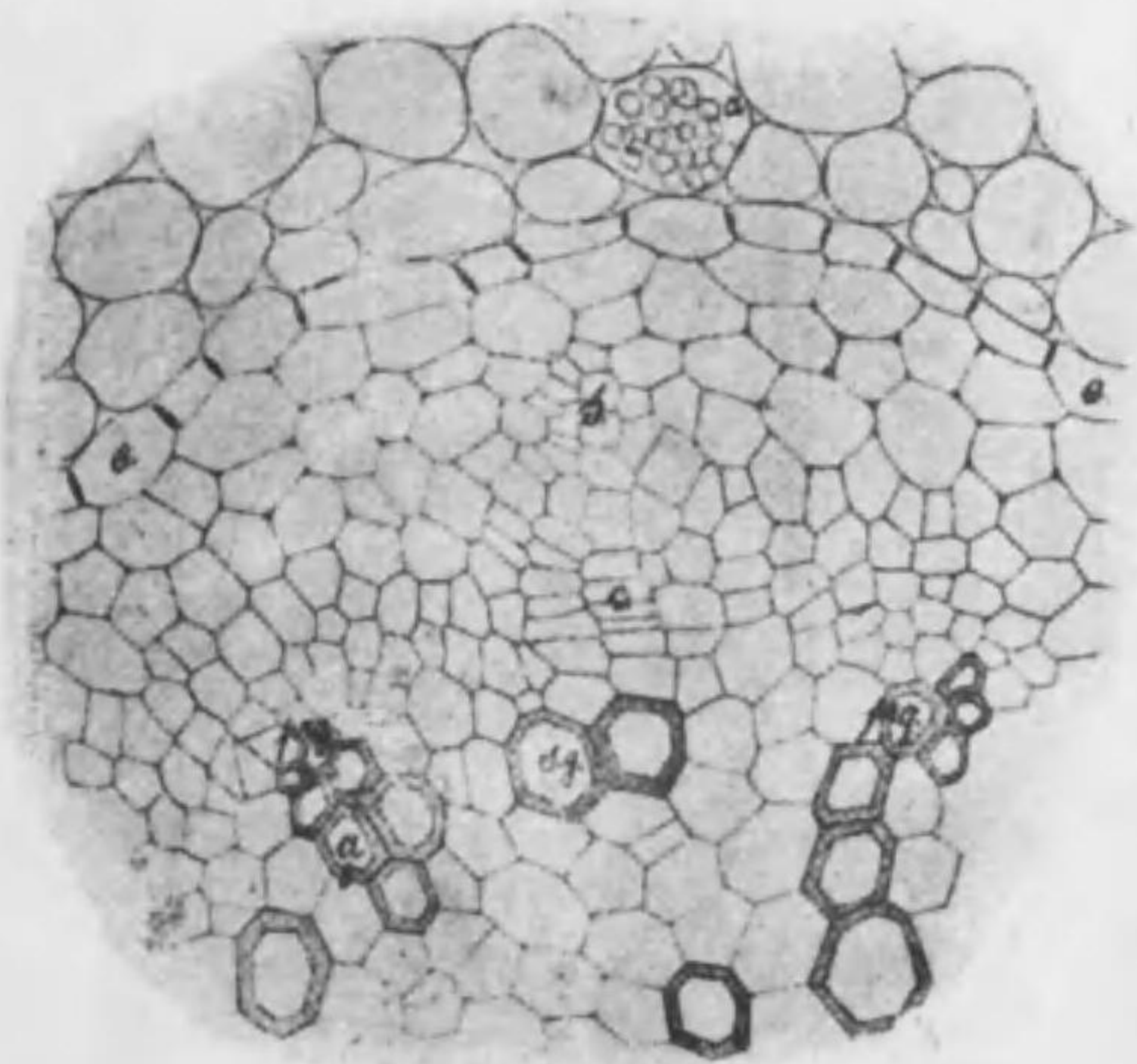


組織線ヲ現ハシ其隅角ニ脈管ヲ有ス、**第百十圖**、其下部ノ

色ニシテ縱皺ヲ有シ處々ニ副根或ハ其殘痕ヲ附着ス、**第百九圖**ハ藥用品ノ自然大寫真圖ナリ、内部ノ組織ハ白色粉末狀ヲ爲ス、上部ノ横斷面ハ星形ノ新生色ニシテ縱皺ヲ有シ處々ニ副根或ハ其殘痕ヲ附着ス、**第百九圖**ハ藥用品ノ自然大寫真圖ナリ、内部ノ組織ハ白色粉末狀ヲ爲ス、上部ノ横斷面ハ星形ノ新生横斷面ニ於ケル新生組織輪ハ普通ノ構造ヲ有ス(即チ輪形ヲ爲ス)、**第百十圖**ノ (r)ハ皮部、(h)ハ新生組織、(m)ハ髓心トス。
第百十一圖ハアコニット根ノ横斷面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ第一期篩管部(s)ノ内側ニ於ケル新生組織層(c)ニ由テ厚徑ヲ増加スルノ始メニ當レル時期ニ在ルモノナリ、(prg)ハ第一期脈管、(sg)ハ第二期脈管、(a)ハパレンヒム細胞

中ニ澱粉粒ノ充盈スル状ヲ示ス。
アコニット根ノ味ハ始メ稍甘ク後峻烈不快ナリ。

圖 一 十 百 第



(Karsten 氏ニ據ル)

圖 二 十 百 第



(成分) アコニット根ハ數種ノアルカロイド即チ **Akonitin** ($C_{34}H_{47}NO_{11}$) ノ傍
Pseudakonitin ($C_{35}H_{49}NO_{12}$) 及 **Pikrakonitin** (Benzoyl-Akonin) ($C_{32}H_{45}NO_{10}$) 其他アコニチン]

ノ分解成績體タル **Aconin** ($C_{28}H_{41}NO_9$) ヲ含ム、**Keller** 氏ニ據レバ此アルカロイ
ド類ノ含置ハ〇・八七乃至一・二%トス、而シテ此アルカロイドノ含量ヲ定量ス
ルニハ日本薬局方規定ノ法ニ據ルベシ。

(應用) アコニット根ハ神經系統ノ諸疾患ヲ治スル藥物トシ
テ應用セラル、其製劑ハ丁幾及越幾斯ナリ。

圖 三 十 百 第



圖 四 十 百 第



圖 五 十 百 第



本邦ニ販賣スル「アコニット根」ハ草烏頭、白川附子、勝山附子、川烏頭、大附子等ノ諸種アリ。

●草烏頭及白川附子。

(基原) 草烏頭及白川附子ハ同一種ノ植物ヨリ採集セルモノニシテ草烏頭ハ子根及母根ノ小ナルモノヨリ成リ白川附子ハ母根ヨリ成ル而シテ之カ基本植物ハ山野ニ自生スル俗ニ所謂やまごりかふと即チ毛茛科 (Ranunculaceae) ニ屬スル *Aconitum japonicum Thieb.* ナルニシ。

(甲)草烏頭。

(形状) 草烏頭ハ奥洲白川、越後、佐渡等ヨリ出タシ大抵薑形ヲナシ下部ハ多少尖銳ナリ稀レニハ卵圓形或ハ圓形ヲナスモノアリ長サ大約二乃至四重サ大約〇五乃至三グラムトス外面ハ淡褐色ヲ有シ多少皺縮シ上端ニハ殘莖母根ニ在テハ或ハ萌芽又ハ其殘基子根ニ在テハ頂キ側面ノ上邊ニハ母根トノ短キ連接枝ノ痕及處々ニ截去セル副根ノ淡明ナル痕ヲ現ハス破

折面ハ短ク粉性ナリ臭氣ナク味ハ辛辣ニシテ不快苛烈ナリ。

(顯微鏡的構造) 本生藥ノ中部ニ於ケル横断面ハ暗褐色非薄ノ第一期皮部及白色ノ第二期皮部ヲ現ハシ新生組織ハ畧星形或ハ不整形ヲ呈シ其陷在セル星尖ニ木條ヲ有シ此部位ニ於テ第一期脈管ニ續キテ生成セル第二期脈管ハ外方ニ向テ開放セル二股ヲ形成ス而シテ又其不整形新生組織ハ巨大白色ノ髓ヲ包圍ス第一期皮部中ニハ石核細胞ヲ散在セルヲ常トス總テノ組織ハ密ニ澱粉ヲ充填ス。

(乙)白川附子。

(形状) 白川附子ハ右ニ述フル如ク草烏頭ト同種ノ植物ニ基原シ母根ノ大ナルモノヨリ成ル而シテ本草綱目ノ釋義ニ據ルトキハ烏頭ハ母根ヲ指シ附子ハ子根(側根)ノ指稱ナルヘシト雖モ本二種ノ生藥ハ此釋義ニ差ヘリ如何トナレハ白川附子ハ大ナル母根ヨリ成リ子根ニ非ラス草烏頭ハ小形ノ母根及子根ヨリ成レルヲ以テナリ。

白川附子ハ福島縣下白川ニ於テ栽培シ秋季種ヲ下タシ次年秋季ニ到リ全根

ヲ掘採シ小形ノ母根ト子根トヲ撰別シテ草烏頭トナシ大形ノ母根ヲ採テ白川附子ヲ調製ス。

白川附子調製法ノ大要ハ能ク母根ヲ洗淨シ鹽漬ニスルコト大約二十日間ニシテ壓搾シ日乾シ更ニ河羅汁ヲ注キ木灰ヲ撒布シ再ヒ日乾シ竹篩ニ掛テ灰分ヲ除去スルニ在リ。

白川附子ハ不整ノ蘿蔔形ヲナシ殘莖ヲ除去シ下部ハ常ニ剪去セリ長サ大約六cm上部ノ太サ三cmニ至ル其質堅ク汚灰色ヲ有シ灰塵ヲ帶ヒ上部ニ不整ノ

隆起アリ横断面ハ有角形或ハ星形ノ新生組織ヲ現ハセドモ其新生組織ハ概シテ波濤灣狀ヲナシ其灣ノ前方ニ特別ノ新生組織ヲ分生スルモノアリ。

第一百十六圖Cハ波濤灣狀ノ新生組織ニシテd及dハ新生組織Cヨリ分生セシ特別新生組織トス。

(成分) 草烏頭及白川附子ハ共ニ $\text{C}_{27}\text{H}_{45}\text{NO}_{11}$ Tacaconitin (C₂₇H₄₅NO₁₁)

ナル[アルカロイド]ヲ含有ス而シテ白川附子ハ漸次腐敗ニ陥ラントスル母根ヨリ成ルノミナラズ且ツ鹽漬ニ附シ壓搾シテ乾燥セルヲ以テ其ア

圖六十百第



ルカロイドノ含量草烏頭ニ比シ遙ニ少ナシ東京市地方及市外ニ於テ人家ニ栽培セル[ごりかぶ]花、藍色ニシテ葉ノ裂瓣廣キモノ其形狀草烏頭ノ母植物ト異ナリ故ニ其有効成分モ亦自ラ草烏頭ト異ナルコト無キヲ得ザルベシ。(備考) 又本邦産アコニッド根ニ勝山附子ナルモノアリ蓋シ越前勝山地方ヨリ出ダスト云フ本島頭ハ全ク毒性ヲ有セス草烏頭ト異ナル[アルカロイド]ヲ含有ス。

本邦北海道ニ於テ従前土人ノ毒矢トシテ獸類ヲ倒スニ使用セシ[ごりかぶ]ハ其植物ノ形狀及根ノ解剖學的構造ハ内地産諸種ト異ナリ馬越博士ハ研究ノ結果其有毒成分タル[アルカロイド]ヲ $\text{C}_{27}\text{H}_{45}\text{NO}_{11}$ Tacaconitinト名ケ之ニ $\text{C}_{27}\text{H}_{45}\text{NO}_{11}$ ナル記號ヲ附セリ。

右ノ外目下尙本邦藥舗ニ販賣セル支那産アコニッド根ニ川烏頭及大附子ノ二種アリ蓋シ共ニ *Aconitum Sinensis* ニ基原スルモノニシテ此二種アコニッドノ關係ハ恐クハ猶ホ草烏頭ノ川烏頭ニ於ケルガ如クナラン然レトモ其有効成分タル[アルカロイド]ハ目下尙不明ニ屬ス。

(獨) Jalapenknoffen.
(英) Jalap.
(佛) Jalap.
ヤラッパ根

● ヤラッパ根 *Tubera Jalapae.*

(基原) ヤラッパ根ハ一千六百年代ノ初葉初メテ墨西哥ヨリ歐洲ニ輸入セリ而シテ *Exogonium Purga Benth.* (*Ipomoea Purga Hayne.*) ナル旋花科 (*Convolvulaceae*) 植物ノ球根ナリ、此植物ハ東墨西哥コルデルローレン山脈ノ森林中殊ニオリツァバ及コルダワ地方ニ産ス。

(形状) ヤラッパ根ハ大小甚タ不同ニシテ球圓形或ハ梨子狀ヲ爲シ(第十七圖ヨリ) 第一百十九圖、球圓形ノ根ニ在テハ其太サ拳大ニ達シ間、又長サ十五cm直徑十cm、重サ二百グラムニ至ルモノアリ而シテ上部ハ圓形ニシテ急ニ延長シテ狭細トナルモノアリ、第二十圖ハ「ヤラッパ根ノ自然大寫真圖ニシテ其形式」
第十七圖ノ種類ニ屬スルモノナリ、ヤラッパ根ハ五月霖雨ノ後ニ掘採シ初メ日乾シ温カキ灰中ニ埋メ或ハ直火ヲ施シテ乾燥ス巨大ナル根ニハ之ヲ乾燥スルノ際切痕ヲ附スルコトアリ而シテ東墨西哥ノウエラクルツヨリ年々輸出スル「ヤラッパ根ノ量ハ往々十萬キログラム」ヲ超ユ、ヤラッパ根ハ堅牢角質様ニシテ外部ハ暗褐色ニシテ深キ溝ヲ現ハシ多少網狀ノ皺紋ヲ現ハシ淡明横徑

第百七十圖



第百八十圖



第百九十圖



第百二十圖



ノ短キ皮孔ヲ帶ヒ、上端ニハ截去セラレシ莖軸ノ痕痕ヲ存シ下部ニハ根枝及

球根類 ヤラッパ根

百二十三

長キ根尖ノ痕痕ヲ存ス、横断面ハ其邊緣ニ一箇或ハ數箇ノ不整ナル同心性層紋ヲ現ハシ此層紋組織中ニハ樹脂囊ヲ包藏ス、之ヨリ内方ニハ種々ノ形状ヲ有スル暗色ノ層紋或ハ班紋ヲ現ハス、邊緣ハ概シテ暗色角質様ニシテ光澤ヲ帶ヒ中心ハ邊緣ニ比シ淡明ニシテ其質柔ク光澤ヲ帶ビス稀ニハ全横面平等ニ暗褐色ナリ、破折面ハ平坦殆ト貝殼狀ヲ呈シ纖維性ナラス又木質性ナラス、ヤラッパ根ノ構造端整ナルモノヲ取り之ヲ横斷シ數時間水ニ浸漬シテ膨脹セシムルトキハ輒ク其輪層ヲ剝別スルコトヲ得而シテ各輪層ノ外面ニハ樹脂囊ヲ認ムヘシ、此樹脂囊ハ其口徑周圍ノ細胞ヨリハ迫ニ廣大ナレトモ唯僅ニ延長セルノミニシテ十二箇或ハ尙ホ多數上下ニ相集合シテ屢蛇行セル著大ノ細胞列ヲ爲ス、臭氣ハ微弱味ハ淡泊ニシテ辛辣ナリ。

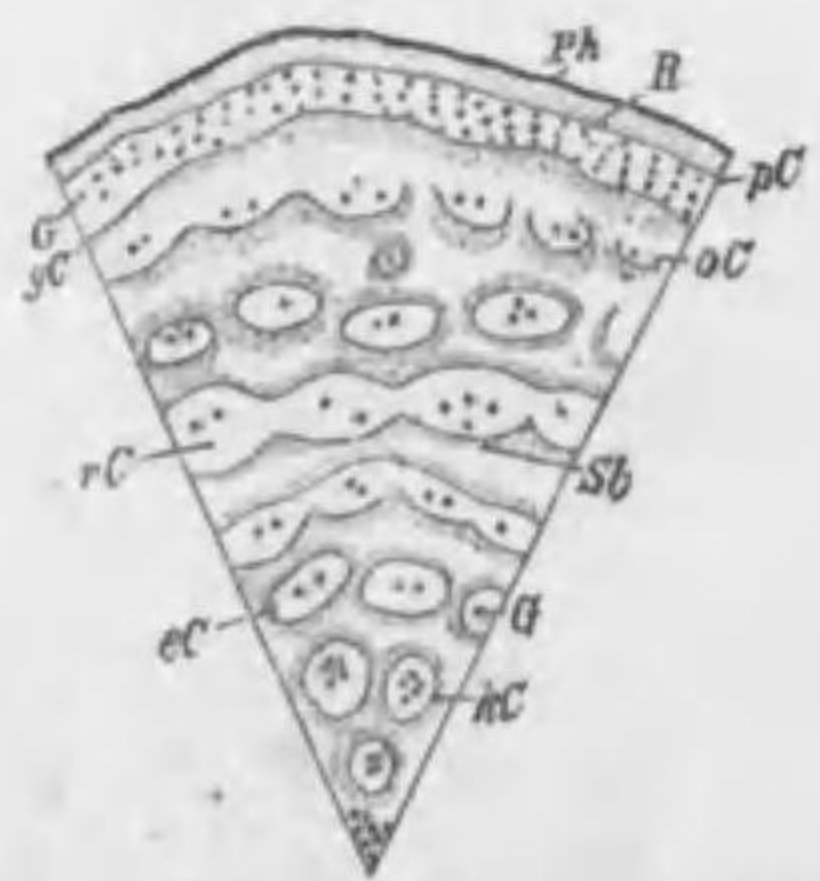
(顯微鏡的構造) ヤラッパ根ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スルトキハ其外邊ハ暗褐色菲薄ノ袍層ヲ被ムル、其袍層ハ處々ニ多數ナル巨大ノ皮孔レソトツセルレソニ由リテ斷歇セラル、皮部**第百二十一圖**ハ正常ノ構造ヲ有スレトモ木部ハ甚タ特殊異常ノ發育ヲ營ム即チ新生組織ヨリ生シタル脈管ノ周圍ニ於テ更ニ第二期ノ新生組織(C₂)ヲ生ジ其新生組織ハ普通ノ新生組織ト同一ノ關係ヲ現ハシ外

方ニ向テ篩管束(Se)ヲ發生シ内方ニ脈管(G)ヲ造爲ス此新生組織ハ圓形又ハ橢圓形ヲナシ其發生ノ結果トシテ左右ニ接着スルトキハ自カラ開放シ第一期ノ新生組織ト同心性ニ排列スル所ノ多數ナル新生組織ヲ生ズルニ至ル是レ充分ニ發育セルヤラッパ根ノ横断面ニ同心性ノ輪線**第百二十二圖**ヲ現ハス所以ナリトス。

第百二十一圖

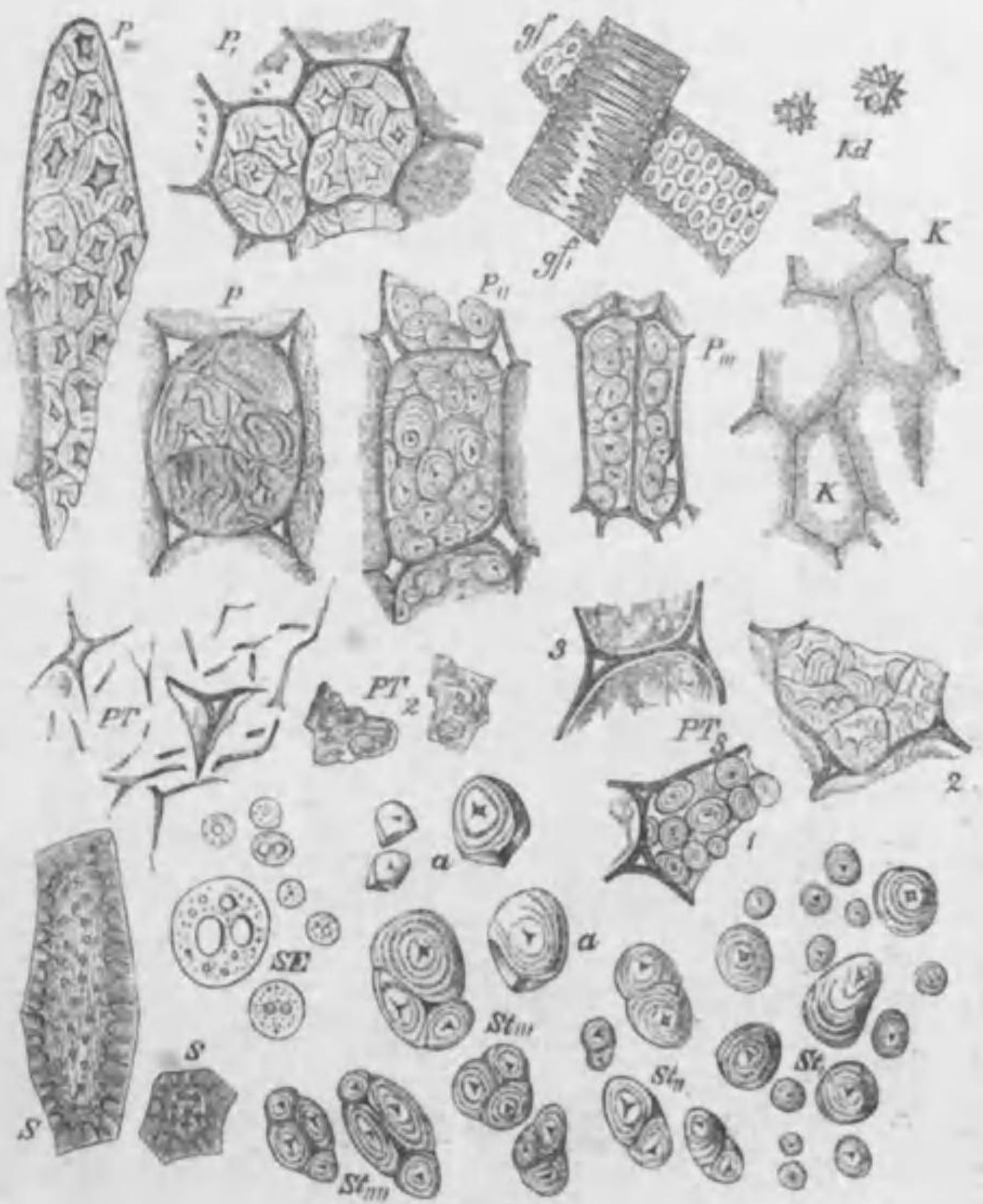


第百二十二圖



第百二十三圖ハヤラッパ根ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ(P)及(P₁)ハ細胞組織ノ表面(P₁₁)及(P₁₁₁)ハ其側面ニシテ澱粉又ハ其糊化セルモノヲ包藏セル狀、(PT₁)及(PT₂)ハ細胞組織ノ碎片、(PT₃)ハ組織ノ大ナル碎片ニシテ其(1)ハ糊化セサル澱粉、(2)ハ糊化セル澱粉ヲ包藏セルモノ、(3)ハ澱粉ノ脱出セシモノ、(g₁)及(g₂)ハ種

圖 三 十 二 百 第



(L. Koh 氏ニ據ル)

々ナル脈管ノ碎片(K)ハ胞層ノ表面(S)ハ石核細胞(S₁)ハ單澱粉(S₁)ハ複合澱粉トスニ百倍。

ヤラッパ根ノ澱粉ハ第百二十四圖ニ示スガ如ク甚タ著大ニシテ其周邊ノ組織中ニ包藏セララル、モノハ直火ヲ以テ

乾燥セルニ由リ往々糊化セリ(同圖ノA)。

(成分)

ヤラッパ根ハ澱粉砂糖等ノ如キ一般植物界ニ發現スル物質ノ外主ト

圖 四 十 二 百 第



シテ Konvalvulinin ヨリ成レル「ヤラッパ脂」ト名ク甚ダ特異ノ樹脂ヲ含有ス是レ本生藥ノ瀉下作用ノ基因スル有效成分トスコニウエルグリン「ハウエ・マイエル氏」ニ據レバ C₃₁H₅₀O₁₆ ナル集成ヲ有シ稀酸類ニ逢フテ Konvalvulinol (C₁₈H₃₂O₈) ト葡萄糖トニ分解シ又之ヲ「アルカリ」ニ溶解スルヤ水ヲ攝取シテ「コンウエルウリン

酸 (Konvalvulinensäure C₄₈H₈₀O₂₂) ナル無晶形酸ニ變遷シ此コンウエルグリン酸ハ鹽酸ノ作用ニ由テ更ニ糖及コンウエルグリンノール酸 (Konvalvulinolensäure C₁₅H₂₆O₆) トナル、ヤラッパ脂ハ「コンウエルグリン」ノ外仍ホ少量ノ Jalapin C₂₁H₃₈O₁₀ ヲ含有シ、無色無晶形ノ塊ヲナシ百五十度ニ於テ熔融シ苛辣不快ノ味ヲ有シ「アルカリ」酒精等ニ溶解スレトモ「クロ、フォルム」硫化炭素「レピン油」等ノ如キ尋常ノ樹脂ヲ溶解スル所ノ諸液ニ溶解セス。

ヤラッパ脂ノ含量ハ平均九四%トス是レ日本藥局方ニ「ヤラッパ脂」ノ含量百分ニ付キ九分以上ト規定スル所以ナリ。

本邦ニ産スル藥牛子 (Pharbitis Indica L. あさかほノ種子) ハ亦コンウエルウリンヲ含有ス故ニ

牽牛子モ亦ヤラツバ根ヲ製スルニ通用スルコトヲ得ベシ。

臺灣産のものは (Ipomoea palauana) ノ根ハ「コンウォルウリン」八%以上ヲ含有ス。

オランダ根 (Radix Orizabae) ナルモノアリ此根ハ墨西哥ヤラツバ根即チ Exogonium purge ヲ産出スル地方ニ産スル Ipomoea orizabensis Lakanos ノ根ナリ而シテ其根ハ有角性不整ノ扁塊ヲ爲シ稀ニハ紡錘形ヲナス其質木質様ニシテ外部ハ褐色ヲ呈シ深キ縦溝ヲ有ス横断面ハ放線狀ヲ現ハシ破折面ハ大纖維形ヲ爲ス此根ハ ^{チリチリ}Orizaban 或ハ ^{ヤカゴン}Jalaputa ト名クル樹脂ヲ含有ス此樹脂ハ「コンウォルウリン」ニ於ケル如ク瀉下ノ効力アレトモ其作用コンウォルウリン(ヤラツバ根)ニ比スレバ弱シ而シテ「コンウォルウリン」ト同基化合物ニシテ之ヨリハ $C_{21}H_{35}$ ヲ多ク含有シ其集成 $C_{21}H_{35}O_{16}$ ナル記號ニ適應シ「エーテル・クロロ・フォルム」及「硫化炭素」ニ溶解スルヲ以テ「コンウォルウリン」ト異ナリトス。

●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●
●●●●●●●●●●

(Radix Scammoniae)

ハ地中海ノ東部
ヨリカウカズス
山ニ至ル諸地殊
ニスミルナ近傍
ニ多ク産スル旋

圖五十二百第



花科植物 Convolvulus Scammonia L. ノ根ナリ此根ハ長サ往々一m 其上部ノ太サ一dm 至ル單根ヲ爲シ根ノ多數ノ殘莖ヲ數ク外部ハ淡褐色ニシテ皺紋ヲ有ス皮部ハ其厚サ二三mm ニ過キズ樹脂ノ光澤ヲ帶フル甚タ多數ノ細胞樹脂囊ヲ藉有ス木部ハ帶褐色ヲ有シ著シク纖維形ヲ爲シ放線狀ニ排列セサル多數ノ脈管ヲ有ス此脈管ハ其間ニ藉在セル白色或ハ褐色ノ狭キ組織ニ由テ斷歇セラル而シテ甚タ多孔性(鬆性)ナル木部ノ組織中ニモ亦樹脂囊ヲ見ルスカムモニア根ヨリ製セルスカムモニア脂ハ「オリツアピン」ニ外ナラズトス(上文オリツア根ノ條ヲ見ヨ) 第百二十五圖ハ「スカムモニア」根ノ自然大寫眞圖ナリ。

(應用)

ヤラツバ根ハ峻下藥トシテ應用ス一回〇.五乃至一.五ヲ與フ藥局方ニ於ケル製品ハ「薑薺ヤラツバ根」ニシテ「ヒヨク」丸「ヤラツバ根」丁等トス其他ヤラツバ根ヲ製スルノ原料ナリ。

(貯法)

劇藥ニ屬ス注意シテ貯フベシ。

(乙)葱根類

Bulbi Zeebelen.

●海葱

Bulbus Scillae.

(基原)

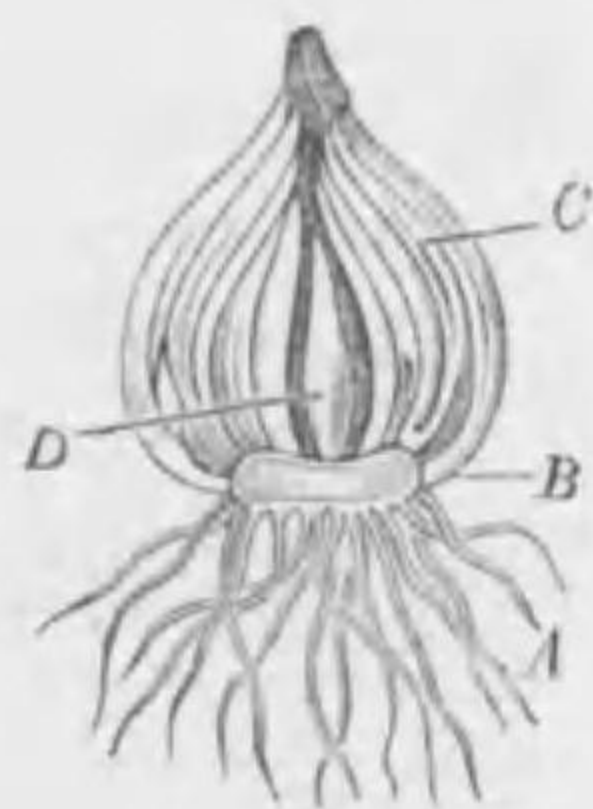
海葱ハ已ニ太古ヨリ目下尙ホ存スル藥劑ノ一トシテ應用セラル地中海ノ海岸ニ産スル百合科 (Liliaceae) 所屬 Urginea Scilla Steinhel. (又 U. maritima Bulver, Scilla maritima L. 等ト名ク)ノ葱根トス。

海葱 (獨) Meerzwiebel.
(英) Squill.
(佛) Bulbe de spuille.

(形状)

海葱ハ夏季落花後ニ掘採シ外部ノ乾縮セル葱殻及中心ニ位スル柔

圖六十二百第



圖七十二百第



軟ナル部分ヲ除去シ中間ノ層積ヲ爲セル肉質様ノ葱殻ノミヲ取り到

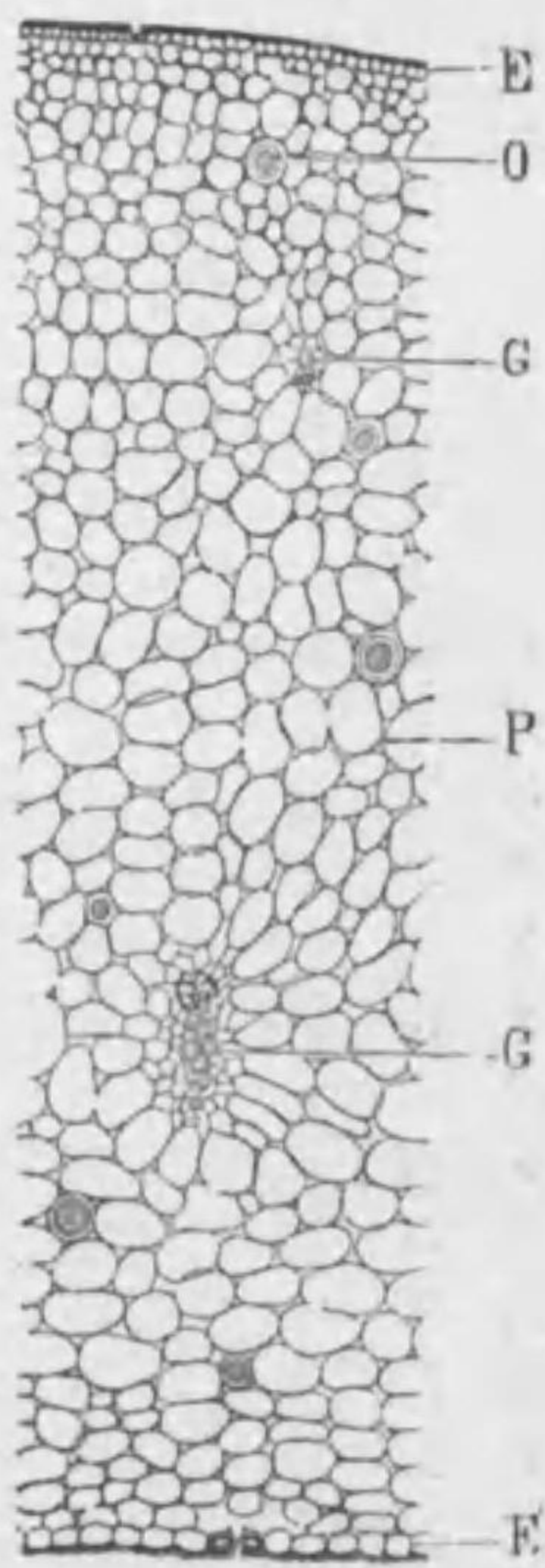
截シテ小片トナシ乾燥シテ市場ニ出タス、**第二百二十六圖**ハ海葱ノ縦断面ニシテ(B)ハ葱盤、(C)ハ内殻即チ藥用ニ供スル部分トス、海葱ニハ白色海葱及赤色海葱ノ二種アリ、甲ハ多クハ地中海ノマルタ島ヨリ、乙ハ亞弗利加洲ノアルゼリ

アヨリ之ヲ輸出ス、而シテ赤色海葱ハ其味峻烈ナルガ故ニ效力顯著ナルガ如シト雖トモ藥局方ハ之ガ應用ヲ許サズ。
白色海葱ハ乾燥セル後ハ長サ約四cm幅五mm厚サ約三mmニ至ル條片ヲナシ帶黄白色ヲ有シ稍柔軟ナリ、**第二百二十七圖**ハ切片シテ藥品市場ニ行ハル、海葱ノ自然大寫真圖ナリ殆ト臭氣ナク味ハ粘液様不快ニシテ苦シ。

(顯微鏡的構造)

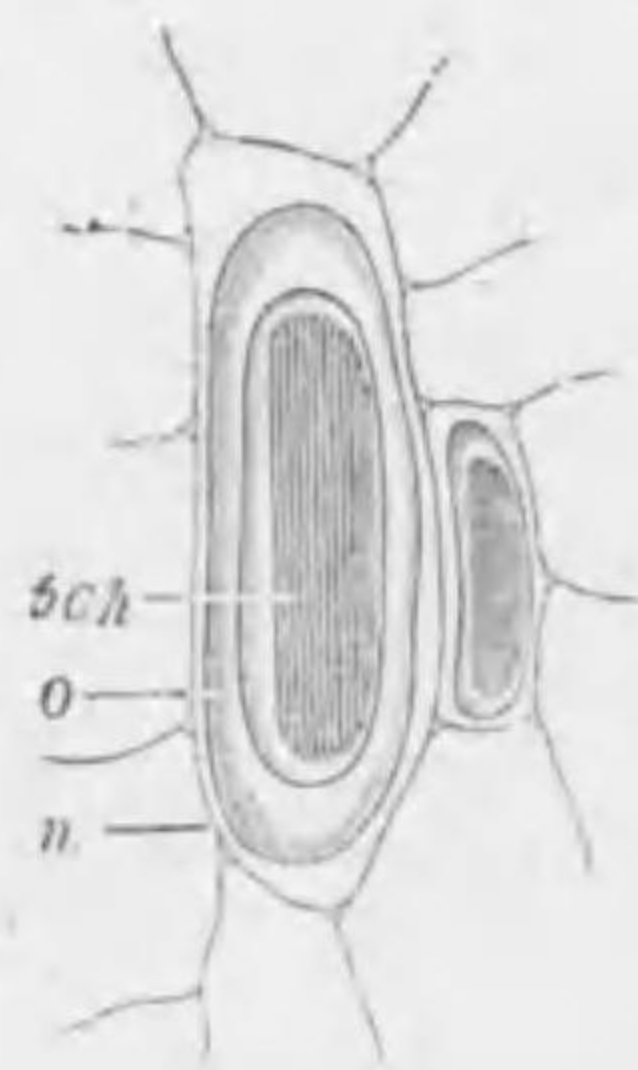
本品ノ表皮ハ兩面共ニ多方形細胞ヨリ成リ疎ニ裂孔ヲ具有ス中層組織ハ主トシテ巨大薄壁性ニシテ多クハ略球形ヲナセル細胞ヨリ成リ別ニ異物ヲ包藏セザルヲ常トス赤色種ニ在テハ或ル細胞中ニ強ク光線ヲ屈曲スル赤色ノ汁液ヲ含有スルノミ其細胞中ノ多數ハ長サ千ミクロ

圖八十二百第



mm太サ二十ミクロ
mmニ至ル大小不同
ノカルチウム磷酸
鹽東鹹品(ラフィデ
ン)ヲ粘液中ニ包藏
ス**第二百二十九圖**此

圖九十二百第



組織ハ並行セル一側性脈管束ヲ圍繞シ脈管束ノ周圍ニハ時トシテ細小ノ澱粉粒ヲ認ムルコトアリ、脈管ハ多クハ螺旋紋脈管ナリ、厚化皮壁ヲ有スル細胞ハ缺如ス。
第二百二十八圖ノ(E)及(E')ハ上皮、(P)ハ葉體組

織(G)ハ脈管束(O)ハ針狀結晶ヲ包藏スル囊體トス。
第二百二十九圖ハ針狀結晶ヲ包藏セル囊體ノ縱断面ニシテ(R)ハ細胞膜、(G)ハ粘液、(O)ハ針狀結晶トス。

本品ノ褐色ヲ帯ビ又ハ微菌ヲ發生スルモノハ用ニ堪ヘス、本品ノ粉末ヲ購求スルニ當リテハ必ス澱粉ヲ試験スベシ、純粹ノ海葱ヨリ製シタル粉末ハ澱粉ヲ混有スルモ甚ダ顯著ナラズ、又本品ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ石核細胞又ハ纖維ヲ認ムルモノハ必ズ贗偽品トス、本品ノ粉碎セザルモノハ彼ノ針狀結晶或ハ其碎片ヲ包藏スルヲ要ス。

(成分) 峻烈ノ作用アル成分ハ Scillarin, Scillin, Scillitoxin, Scillipikrin 等ナレドモ此諸質ハ未ダ其純粹ナルモノヲ製出シ得ズ又海葱ハ一種ノ抱水炭素 Sinistrin ヲ含有ス、シニストリン「ハ」デキストリン「ト」其化學的性狀ヲ同ウスレドモ分極光線ノ平面ヲ左旋ス、其他海葱ハ葡萄糖揮發油等ヲ含有ス。

(應用) 本品ハ利尿ノ効アリ一日數回〇〇ニ乃至〇〇五乃至〇〇三ヲ與フ、海葱醃海葱蜜海葱丁糖、海葱越幾斯等トシテ用ユ又人類ニ無害ナル殺鼠藥ヲ造ルニ用ユ。

第四章 根莖類 Rhizoma. Wurzelstöcke.

凡ソ根莖即チ地下莖ハ半身或ハ全體地下ニ埋没シテ發育シ脈管環花植物及顯花植物ノ越年性莖幹或ハ枝ニ屬シ葉基莖鞘ノ殘餘葉痕等ヲ附着シ根副根ヲ出タシ必ス次年莖軸ノ萌芽ヲ具有スルモノトス、吾人ハ根副根ト共ニ根莖ヲ應用スル生藥ニ於テモ舊慣ニ由テ仍ホ之ヲ根莖ト通稱シ加之ナラズ蘭草根ニ於ケル如ク藥用上ノ首要部主トシテ根ヨリ成レルモノト雖トモ之ヲ根莖ト稱スルコトアリ然レトモ特リサルサ根ハ例外ニシテ其坊間ニ販賣スル品ニシテ往々根莖ヲ着ケルモノアレドモ之ヲ根ト呼ビ藥用ニハ其根莖ヲ除キテ應用ス、根莖ハ大抵根(副根)ヲ除去シテ用ユ例之バ、イリス根、真薑等是ナリ而シテ根莖(主根莖)ニシテ副根莖ヲ具有スルモノニ在テハ共ニ之ヲ使用ス(例之バ生薑)稀ニハ此二物ヲ種別シテ應用スルコトアリ例之バ薑黃ニ球圓形薑黃(主根莖)及長形薑黃(副根莖)ノ二種アルガ如シ、莖莖ハ只主根莖ノミヲ用ユ。

根莖ハ其頂端ニ萌芽ヲ具有シ每歲新ダニ上方ニ向テ莖幹ヲ發生スルモノトス、又分岐セル根莖アリ此根莖ハ多數ノ萌芽ヲ具フルヲ常トス(例之バ真薑)根莖ハ每歲新生セシ肢節所謂年節ヲ具有シ其年々發育セシ節界ヲ明視スルヲ得ヘシ、根莖ハ又豫備質ヲ保貯スルノ器官ニシテ多クハ澱粉ノ如キ豫備營養物ヲ蓄藏スルモノトス。

(甲) 單子葉植物ノ根莖類

Wurzelstöcke der Monokotyledonen.

● 白藜蘆根 Rhizoma Veratri.

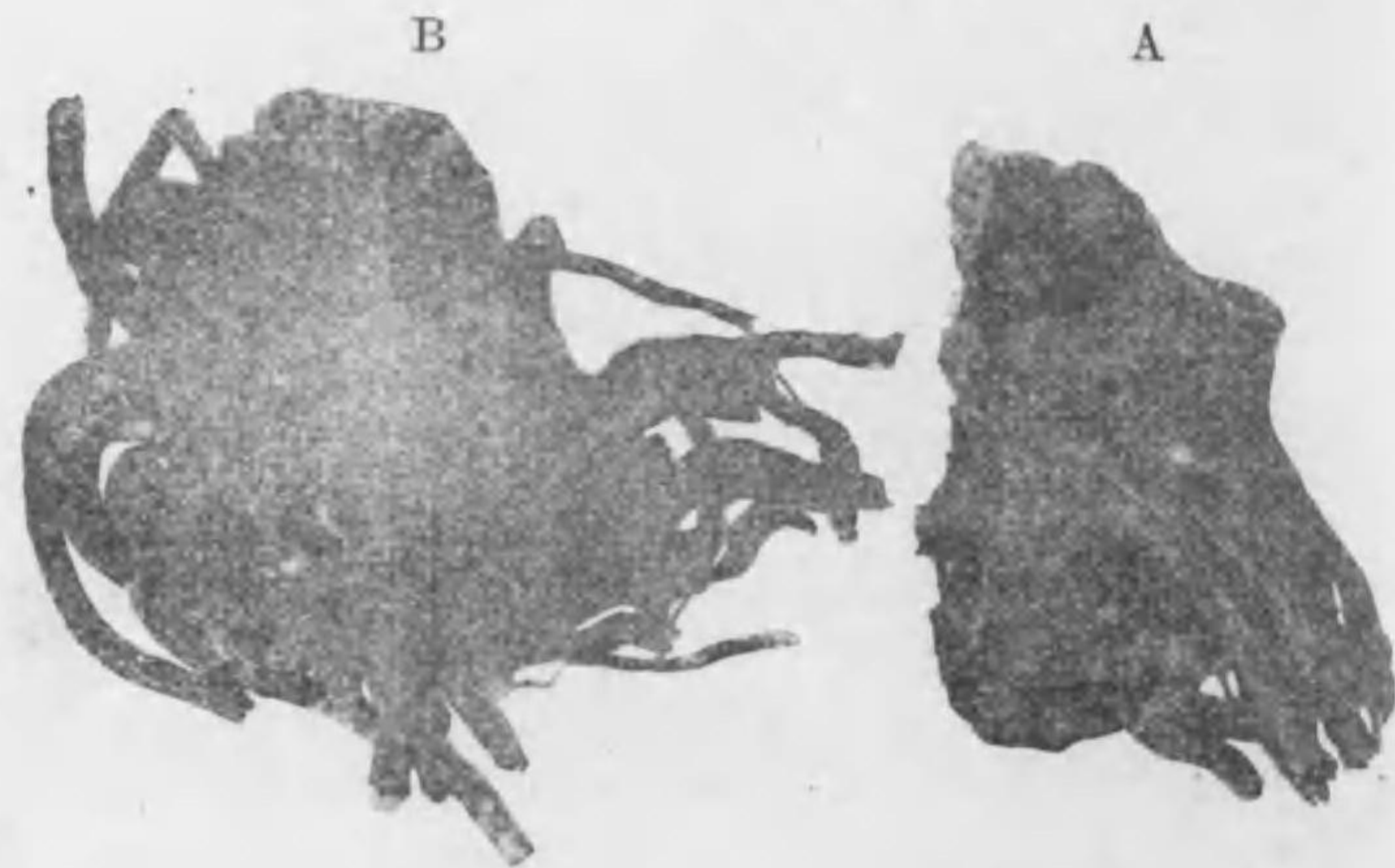
(獨) Weiße Nießwurzel.
(英) White Hellebore.
(佛) Racine d'ellébore blanc.

(基原) 白藜蘆根ハ Veratrum album L. (ばいけいさう屬)ノ根莖ニシテ太古希臘ノ時代ヨリ醫用ニ供セラレ藜蘆科 (Melantaceae)ニ屬ス歐洲中部及南部ノ山中ニ産シ又歐洲及亞細亞洲ノ北部ニモ産ス。

(形状) 白藜蘆根ハ倒圓錐體形或ハ殆ト圓柱形ヲナシ單純或ハ多頭性ニシテ長サ八 cmニ至リ太サ二乃至三 cm、外部ハ灰褐色或ハ黒褐色ニシテ内部ハ類白色ヲ有シ葉殘基ヲ頂キ周圍ニ類黄色或ハ淡帶黄褐色ニシテ粗大ノ横徑縦紋ヲ帶ビ太サ約三 mm長サ三十 cmニ至ル根ヲ附着ス白藜蘆根ハ往々縦割セルモノアリ、根莖ノ截断面ハ硫酸ヲ以テ之ヲ濡ホセバ初メ橙黄色ヲ呈シ後煉瓦石赤色トナル、味ハ稍苦ク永ク苛辣ナリ、本品ノ粉末ハ噴嚏ヲ起ス。

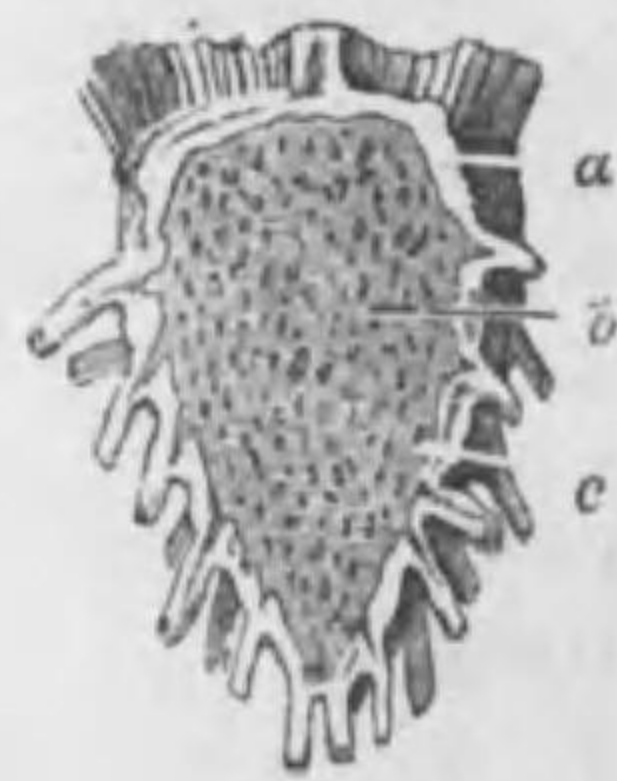
第三百十圖ハ白藜蘆根自然大ノ寫真圖ニシテ第三百三十一圖ハ白藜蘆根ノ副

第三百十圖



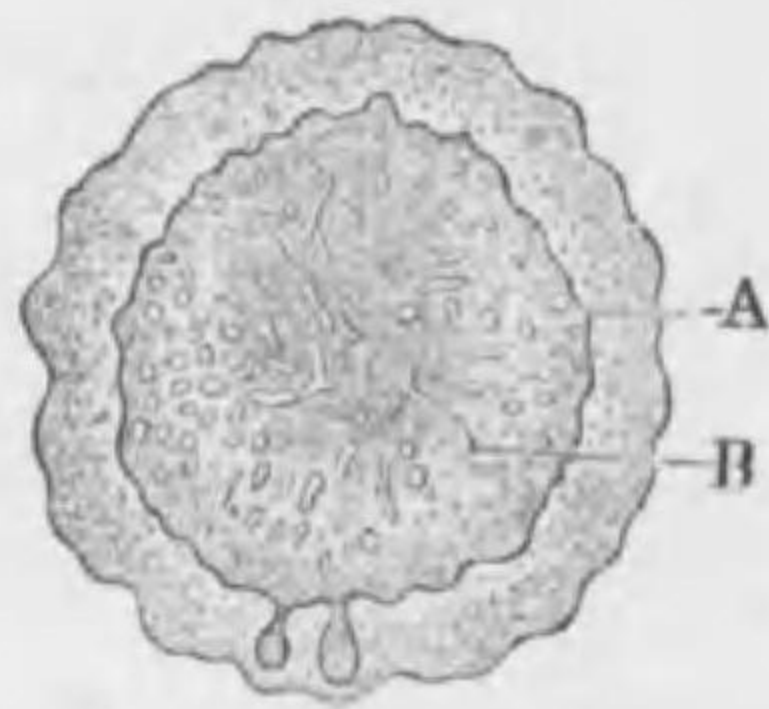
根ヲ截去シ縦割セル白藜蘆根ニシテ(a)ハ皮部、(b)ハ木部、(c)ハ内上皮ヲ示ス、第百

第三百一十圖



三十二圖ハ稍廓大セル白藜蘆根ノ横断面ニシテ稍厚キ皮部ヲ現ハシ

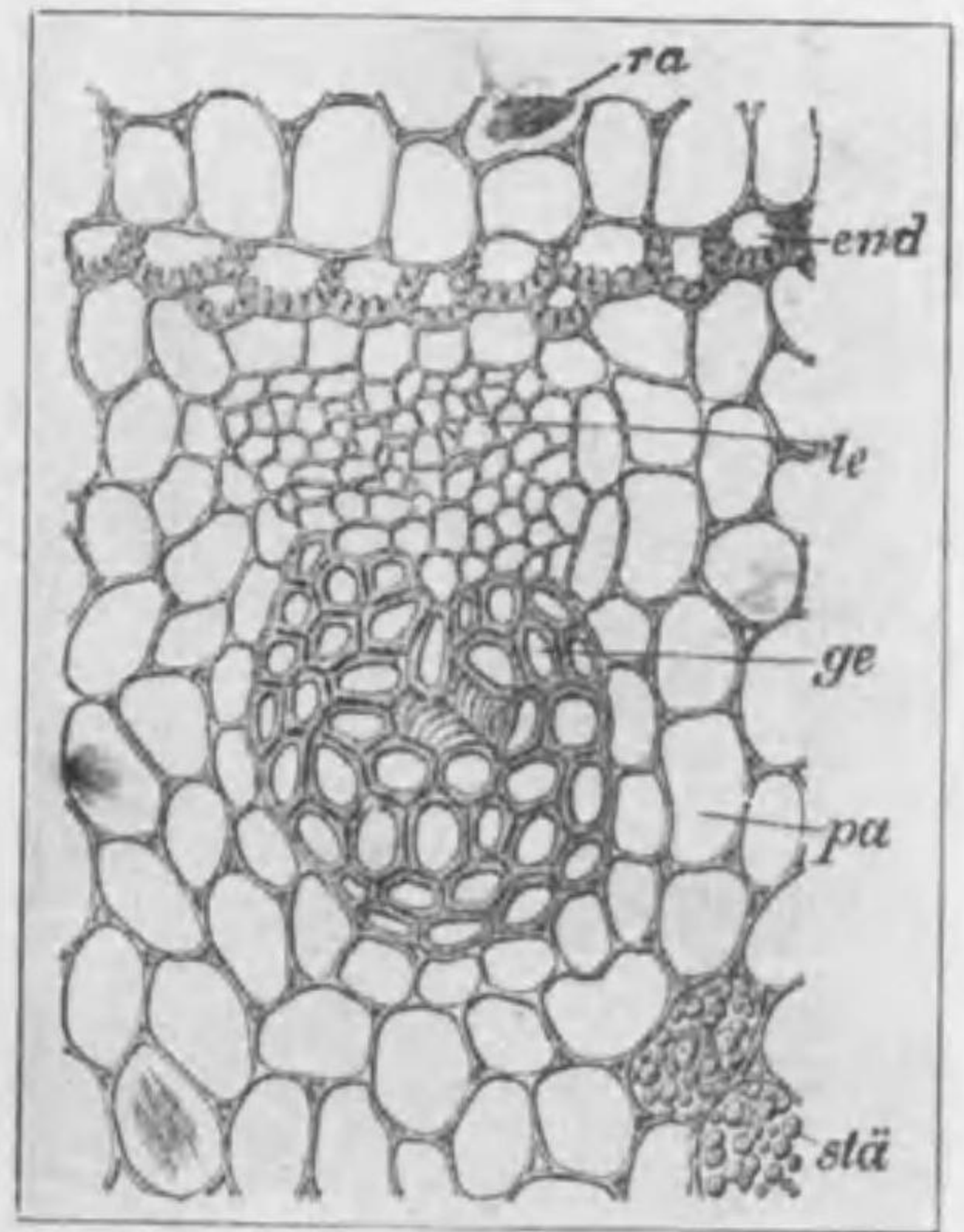
第三百二十三圖



(顯微鏡的構造) 本品ノ横断面ハ外部ニ菲薄ニシテ黑色ナルパレンヒム層

(A)ハ内上皮、(B)ハ脈管束トス、白藜蘆根ノ粉塵ヲ吸引スルトキハ劇烈ノ噴嚏ヲ起ス。

ヲ現ハシ其下部ニ類褐色波動様ノ内上皮ニ達シ脈管束ヨリ通走セラル、厚
サ二乃至三mmノ皮部ヲ現ハス、中央圓堵ノ外邊ニハ大部分ハ同心性ニシテ不
整ニ彎曲セル多數ノ脈管束ヲ存在ス、根ハ其上皮ノ下部ニ甚タ厚クシテ外邊



圖三十三百第

(ギルグ Gily 氏ニ據ル)

類圓形或ハ二箇乃至四箇ノ顆粒ヨリ合成セラレ大サ約二乃至二十五ミクロ
mm多クハ四乃至十六ミクロmmナリ。
第三百三十三圖ハ白藜蘆根ノ横断面ノ一部分ニシテ其(cort)ハ内上皮(end)ハカル

ニ空隙性ナル皮部ト甚タ薄キ
中央圓堵トヲ有シ其髓心組織
ハ纖維ヨリ成ル、根莖及根ノ内
上皮ハ側壁及内壁強ク厚化シ
粗大ノ胞紋ヲ有スル細胞ヨリ
形成セラル、根莖及根ノパレン
ヒムハ澱粉ニ富ミ又或ル細胞
ハカルチウム磷酸鹽ノ束晶
ヲ包有ス、澱粉ハ單澱粉ニシテ

チウム磷酸鹽束晶品(%)ハ脈管束ノ篩管部(ge)ハ其脈管部(pa)ハパレンヒム(stā)
澱粉ヲ包有スル二三ノパレンヒム細胞トスコ

(成分)

從前白藜蘆根ハ「ウエラトリン」ヲ含有スルモノト誤認セシガ近時全ク
之ヲ含有セザルヲ檢明セリ而シテ其有毒成分ハ Jorvin (C₂₈H₄₇NO₂)・Rubiervin
(C₂₈H₄₅NO₂)・Pseudjervin (C₂₈H₄₅NO₂)・Veratralbin (C₂₈H₄₅NO₂)・Veratroidin (C₂₁H₃₇NO₂)ヲ含有
ス其他本根中ニハ Protoveratrin (C₂₈H₄₅NO₂) 及 Protoveratridin (C₂₈H₄₅NO₂) ナル「アルカ
ロイド」ヲ發見セリ、ルビエルウイン及ウエラトルアルピンハ嘔吐ヲ誘起スル成分
ナリ、而シテ本根ノ苦味ノ一部分ハ Veratramarin ナル配糖體ニ原因ス又本根中
ニ含メル「エルワ酸 (Jervasäure) ハ白屈菜酸 (Chelidoniumsäure) ト均一ノ物質トス(H.
Schmidt 氏ニ據ル)、其他ノ成分ハ樹脂、糖等ナリ。

(應用)

白藜蘆根ヲ殊ニ獸醫術ニ於テ催吐藥トシテ應用ス又殺蟲藥トシテ外用ニ供スルコ
トアリ。

- 黑藜蘆根 Rhizoma Veratri nigri 〃 Veratrum nigrum L. (じやろくろ)ノ根莖ニシテ本條ノ生薬ニ比
スレバ途ニ細小ナリ、北米ニ於テ藥用ニ供スル Veratrum viride Schmidt. ノ根莖即チ綠藜蘆根
- Rhizoma Veratri viridis ハ最も白藜蘆根ニ類シ本條ニ掲クル「アルカロイド」ノ外 Covarin ナル一種ノ
「アルカロイド」ヲ含有ス、而シテ本邦ニ於テモ Veratrum 屬ノ植物大約四種アレトモ未タ生理學

上及化學上ノ検査ヲ經ザレバ茲ニ略ス。
 古代ニ於テモ毛茛科 (Ranunculaceae) ノ植物 *Helleborus viridis L.* 及 *H. nigra L.* ト混同シ *Veratrum album* 及 *Veratrum nigrum* モ亦之ヲ「レレゴルスト」ト通稱セリ而シテ *Veratrum* ナル名稱ハ已ニ「*Veratrum album*」
 氏ノ時代ヨリ世ニ知ラレタレトモ一千五百年代ヨリ漸ク此名稱ヲ以テ本條ノ植物即チ
Veratrum album ナ指スニ至レリ。

● 菖蒲根 *Rhizoma Calami.*

(獨) *Kalamuswurzel.*
 (英) *Acorus-root.*
 (佛) *Racine d'acorce vrai.*

(基原) 第一版日本藥局方ニ掲ケタル菖蒲根ハ本邦產ノ菖蒲即チ *Acorus spurius Schott.* ノ根ナリ然レトモ此根ハ一種不快ノ味ヲ有シ甚タシキハ嘔吐ヲ催スコトアルニ由リテ今ハ醫藥上ノ用途ヲ失セリ故ニ歐米諸國ニ於テ應用スル菖蒲根ヲ左ニ記載スベシ此菖蒲根ハ印度ニ於テハ已ニ古代ヨリ重要ナル藥品タリ獨乙ニ於テハ一千五百年代始メテ藥用ニ入レリ、天南星科 (*Araceae*) ノ植物 *Acorus Calamus L.* (をにせきしやう) ノ根ニシテ此植物ハ北半球ノ諸國ニ産シ又當時處々ニ移植セリ、本邦ニモ産スレトモ甚タ稀ナリ。

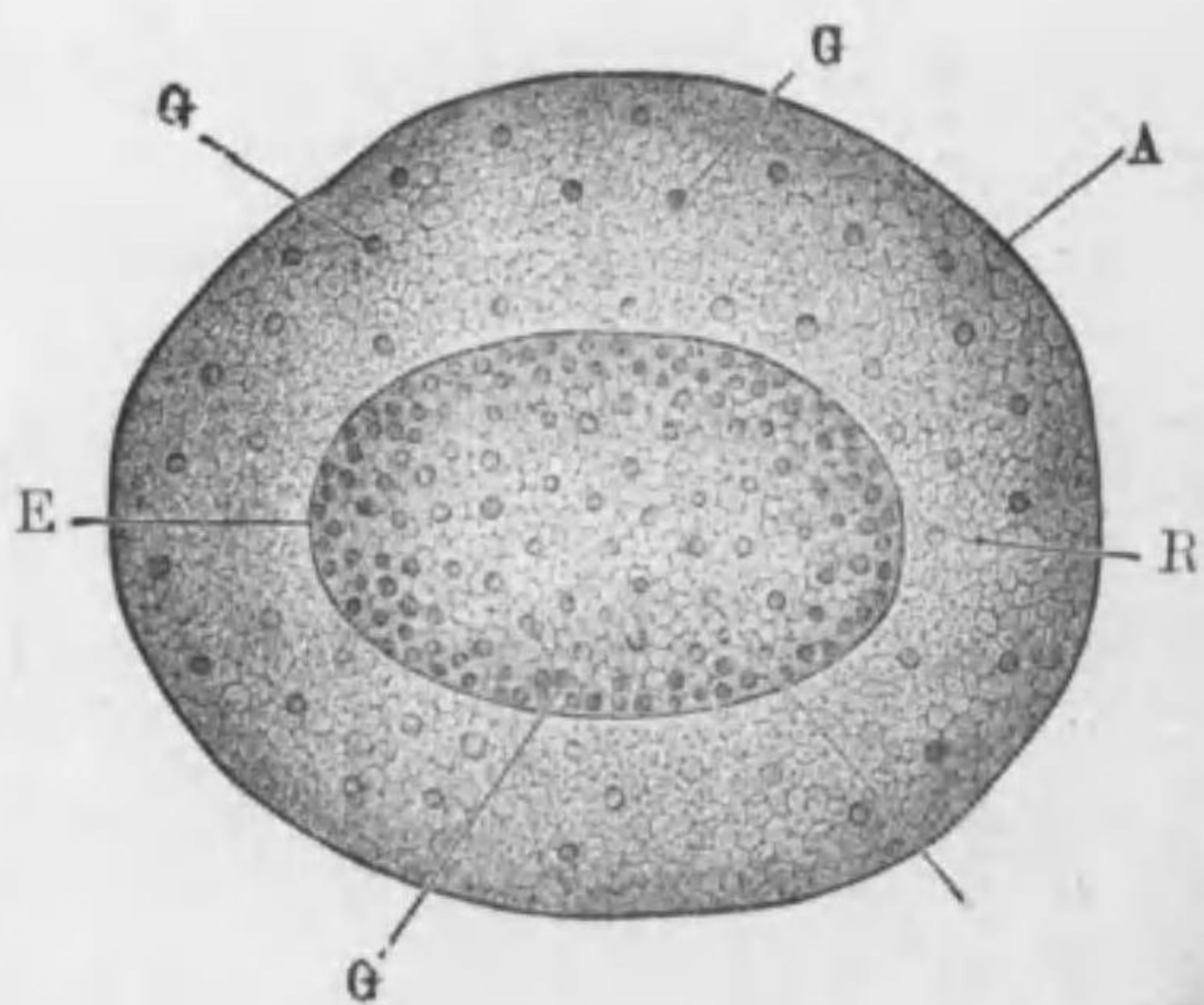
(形狀) 菖蒲根ハ匍匐セル根莖ニシテ褐色ヲ有シ屢、其外皮ヲ剝除セル者アリ長サ五十 cm ニ超エ太サ三 cm ニ至ル疊々相連接セル肢節(年節)ヨリ成リ其肢

節ハ少シク壓扁セララル、菖蒲根(外皮ヲ除去セザル者)ノ一側即チ上面ハ三角形ノ

第 百 三 十 四 圖



第 百 三 十 五 圖



葉痕ヲ有シ其三角形葉痕ノ尖頭ハ交互左右ニ配列セリ(第百三十四圖、他ノ一面

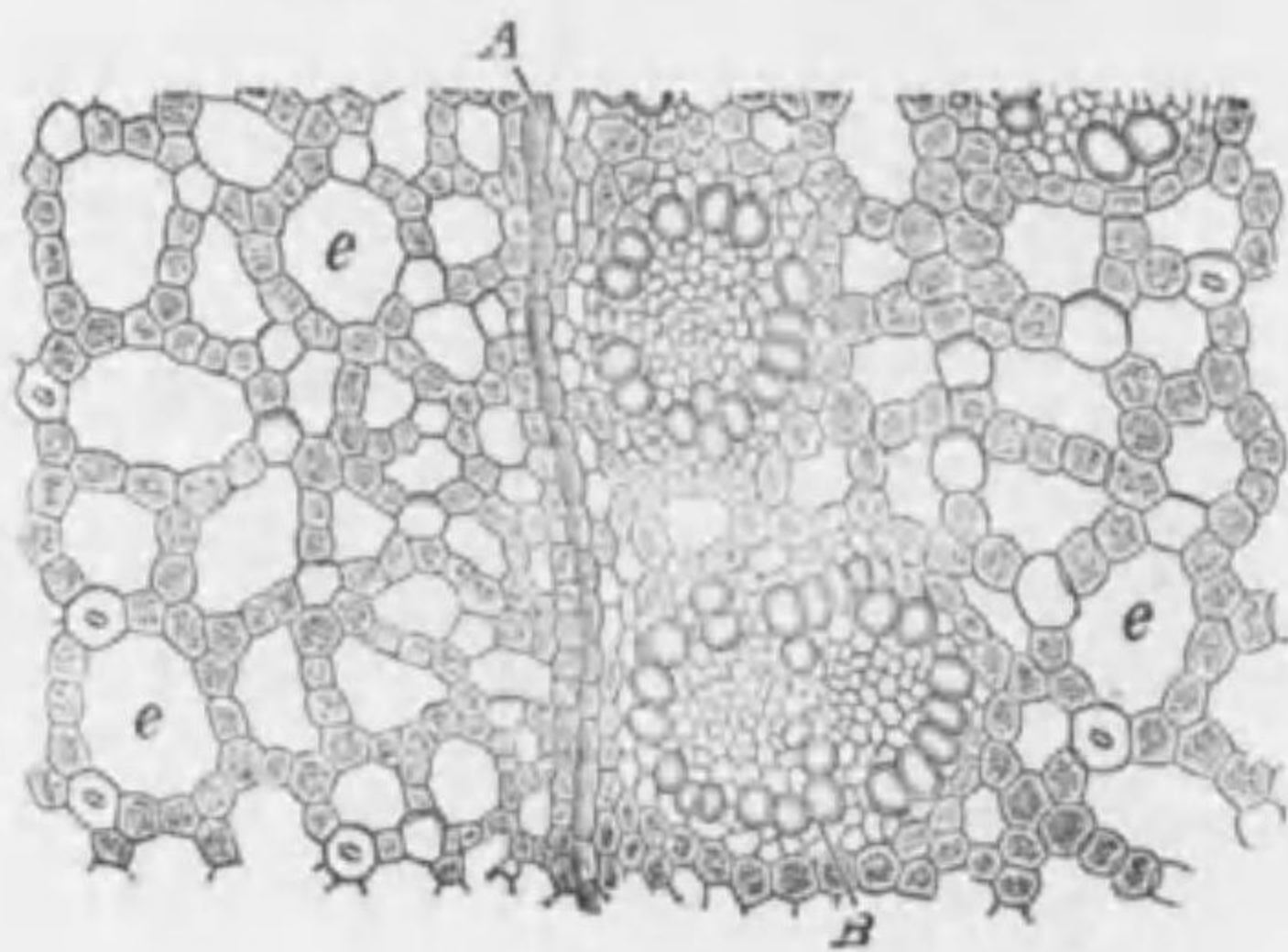
即チ下面ニハ不規律ナル鴈行線ヲナシテ竝列セル根痕アリ、**第三百三十四圖**ハ歐產菖蒲根ノ概型圖ナリ。

本品ハ短ク且ツ顆粒狀ニ折レ類黃白色ノ破折面ハ「ルーベ」ヲ以テ檢視スレバ細微ニ多孔ヲ現ハシ又ルーベヲ以テ横断面ヲ檢視スレバ皮部**第三百三十五圖**Rハ比較的狭ク判明ノ境界線**同圖E**ニ由テ大ナル中央圓壻ト區別セラレ皮部ニハ只僅ニ中央圓壻内ニハ甚ダ多數ナル脈管束**同圖G**ノ通走セルヲ認ム。本品ハ氣味強芳香性ニシテ苦シ。

第三百三十五圖ハ廓大視セル菖蒲根ノ横断面ニシテAハ外皮Eハ内上皮境界線Rハ皮部Gハ脈管束トス。

(顯微鏡的構造) 根莖ノ實體組織ハ一層性組織板ヲナシテ列置セル「パレンヒム」細胞ヨリ成リ其「パレンヒム」細胞ハ甚ダ廣クシテ大氣ヲ以テ充填セラレタル胞間ニ由テ互ニ隔離セラレ一部ハ大サ一乃至八ミクロmmノ澱粉小顆粒ヨリ充填セラル、其他殊ニ「パレンヒム」細胞板ノ相接合セル部位ニ皮壁胞化シ大ニ光線ヲ屈曲スル内容ヲ有スル稍大ナル分泌物細胞**第三百三十六圖O**ヲ存在ス、内上皮ハ薄壁性細胞ヨリ成ル、皮部ニ存スル脈管束ハ少數ニシテ側立

第三百三十六圖



性構造ヲ有シ屢結晶室纖維ノ伴ヘル「スケレ」ンヒム纖維ヨリ被包セラル、中央圓壻ノ脈管束ハ同心性構造ヲ有シ之カ脈管部ハ篩管部ヲ被包ス**同圖B**。

第三百三十六圖ハ菖蒲根ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテAハ内上皮、Bハ脈管束、(e)ハ間隙、(o)ハ分泌物細胞(油細胞)トナス。

菖蒲根ハ佳快ノ芳香ト芳香性ノ苦味トヲ有ス。**(成分)** 菖蒲根ハ二%ノ揮發油ヲ含有ス此揮發油ハ主トシテ「テルペン」 $C_{10}H_{16}$ 及一半「テルペン」 $C_{15}H_{24}$ ヨリ成リ其他遊離脂肪酸・Eugenol, Asaion

Asarylaldehyd 及 Calameon $C_{15}H_{26}O_2$ ナル一種ノ「チネオール」様體ヲ含ム而シテ又菖蒲根中ニハ Akorin ナル一種ノ配糖體ヲ存ス右ノ外 Kalamin ナル「アルカロイド」ト Cholin ヲ檢出セリト云フ、自餘ノ成分ハ澱粉・鞣酸等ナリ。

(應用)

芳香性ノ健胃藥トシテ用ユ、前日本藥局方ニ於テハ苦味丁幾ヲ製スルニ用ヰタリ。

本邦ニ産スル菖蒲^①即チ *Acorus spicatus Schott.* ノ根ハ其形狀本條ノ生薬ト大差ナク多クハ稍細小ナリ然レトモ一種不快ノ味ヲ有ス、日本菖蒲根ハ揮發油三五乃至五%ヲ含有ス此揮發油ハ主トシテ *Medicinal Eugenol* ヨリ成リ少量ノ一牛テルペン (*Camphor*) ヲ傍有ス(朝比奈博士ノ研究ニ據ル)

其他邦産ノ石菖蒲 *Acorus gramineus Aiton* ノ根モ亦石菖蒲トシテ菖蒲根ニ同ジク本邦ニ於テ醫藥ニ供セラレタレトモ今復タ行ハレス。

● イリス根 *Rhizoma Iridis.*

(基原)

イリス根ハ已ニテオフラスト氏ノ時代ヨリ芳香性ノ佐使薬トシテ

Theophrast

應用セラレ、鳶尾科 (*Iridaceae*) 植物 *Iris germanica L.*, *I. pallida Lamour.* 及 *I. florentina L.*

ノ根莖ニシテ第一種ノ植物ハ西班牙及マロッコ、北印度ノ諸地ニ産シ第二種及第三種ハ地中海濱ノ東部及小亞細亞地方ニ産ス而シテ三種共ニ殊ニ伊國フロレンツ及ルッカ地方ニ培植セラル *Iris germanica* ハ又同國ウッロナ地方ニ之ヲ培植ス。

(形状)

イリス根ハ其新鮮ナルニ當リ肉質様ヲナシ不快ノ臭氣ト辛辣ノ味トヲ有ス秋季ニ掘採シ幹枝葉根及胞層ヲ除去シ徐々ニ乾燥セシム此際辛辣

(獨) Beilschmwurzel.

(英) Orris-root.

(佛) Racine d'Iris ou de violette.

イリス根

第三百七十七圖



ノ味ヲ失ヒ香紫堇花ニ類スル佳快ノ香氣ヲ得ルニ至ル、坊間販賣ノイリス根ハ長サ十五cm幅四cmニ超エザル白色ノ根片ヲ爲シ絞扼ニ由テ分割セラレ多少壓扁セラレタル三乃至五箇ノ肢節ヨリ成リ其質重クシテ堅シ上文ニ述フル如クイリス根ハ三種ノ植物ヨリ採レドモ略其品價ヲ同ウシ最良ノ品ニ在テハ深ク胞層(外皮)ヲ剝除シ壓シテ縦直長形ノ根トナセリ、イリス根ノ上面ハ

稍穹窿シ輪線ヲ有シ斜メニ排列セル細微ナル葉脈管殘痕ノ多數ヲ附着シ其下面ハ稍扁平ニシテ著大圓形帶褐黃色ノ根痕ヲ具有ス、イリス根ハ平坦ニ折レ其破折面ハ粉末狀角質様ヲナス、
第三百三十七圖ハイリス根ノ自然大寫真圖ナリ。
イリス根ノ横断面ハ橢圓形ヲ有シ其直徑四cmニ過ギズ皮部ハ甚ダ狭ク(第三百十八圖)太キ中央圓溝ヲ圍繞ス。

本品ハ香紫堇ニ類スル香氣ヲ有シ味ハ微ニ芳香性ニシテ少シク苛辣ナリ。
 (顯微鏡的構造) 根莖ノ實體組織ハ頗ル巨大厚壁性ニシテ粗大ノ胞紋ヲ
 帶フル細胞ヨリ成リ密ニ澱粉顆粒ヲ包藏ス此澱粉ハ通常長サ二十乃至三十
 ミクロmm廣サ十乃至十六ミクロmm、卵圓形圓錐體形或ハ短橢形ヲナシ基礎部
 ハ常ニ壓扁セラレ之ニ對峙シテ甚ダ強ク外心的ニ判明ノ核ヲ存シ其核ヨリ
 二箇ノ蹄鐵狀ヲナセル缺裂ヲ發出ス(第百三十八圖、パレンヒム)ハ隨處根莖ノ
 長徑方向ニ通走シ枳化セル皮壁ヲ有スル結晶囊ヲ依在シ其各囊中ニハ長サ
 通常百乃至二百ミクロmm屢五百ミクロmmニ至ル巨大菱柱狀ノカルチウム
 酸鹽品一箇ヲ蓄在(第百四十圖)ス、根莖
 ノ皮部中ニハ少數ノ側立性脈管束、中央
 圓環中ニハ「スケレ、ンヒム」纖維ヨリ掩
 護セラレザル多數ノ同心性脈管束ヲ見
 ル。

圖八十三百第

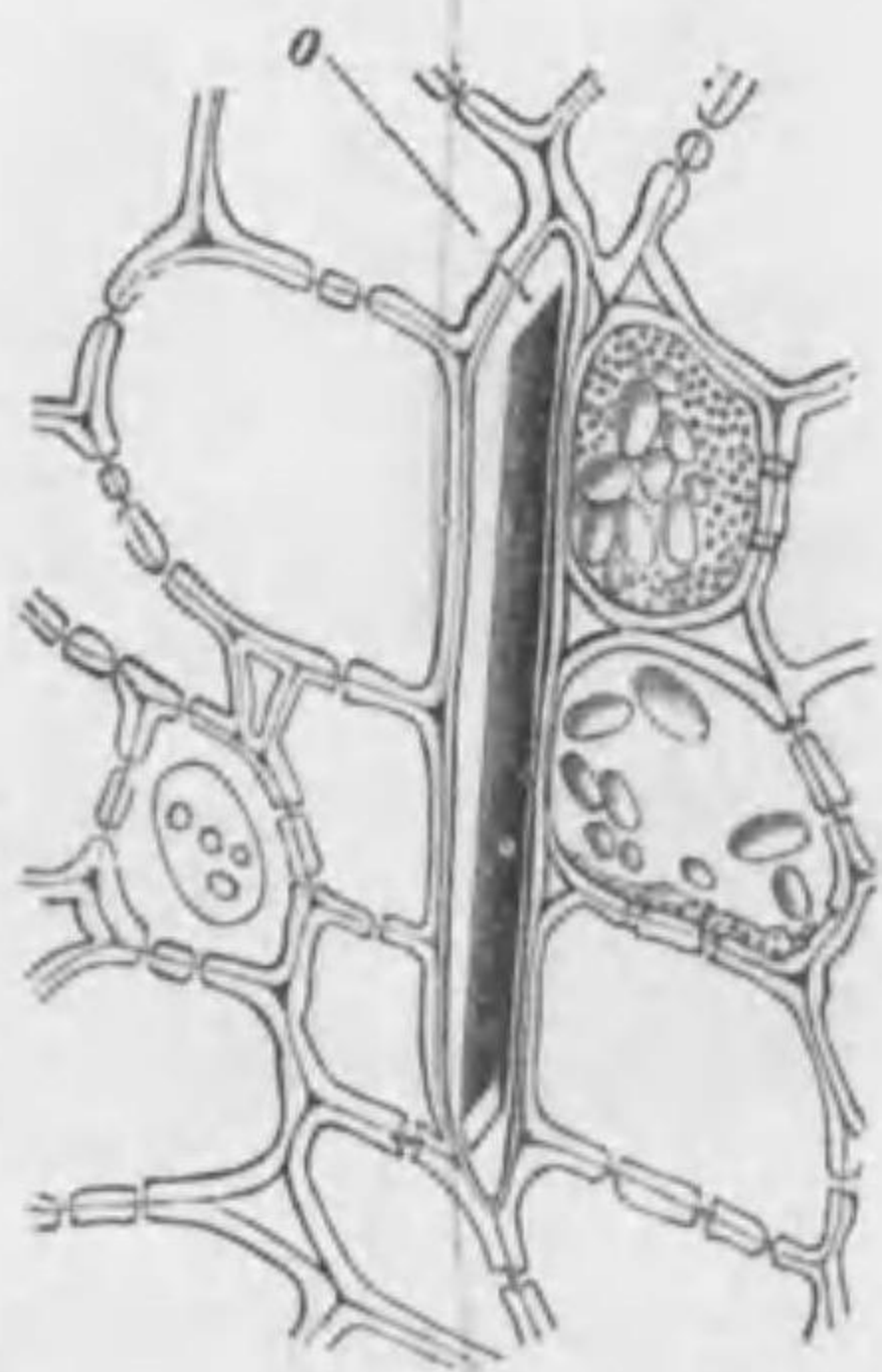


圖九十三百第



第百三十八圖ハイリス根ノ橫断面ニシ
 テ其mrハ皮部、hハ内上皮、hハ木部ヲ示

圖十四百第



ス、第百三十九圖ハ澱粉ヲ示ス而シ
 テ第百四十圖ハイリス根橫断面ノ
 一部ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニ
 シテ其ハ「棣酸カルチウム」ノ稜柱
 品ヲ包藏セル細胞トス。

(成分) イリス根ノ佳快ナル香氣

其〇八%ヲ得而シテ此香紫堇腦ハ類褐色脂肪様ノ物質ヲナシフリエッキンゲ
 ル氏ニ據レバ「ミリスチン酸」(Myristic acid)ト佳香アル褐色濃厚ノ揮發油トヨ
 リ成レルモノトス其他 Iridin ナル「グリコシド」ヲ含有ス。

(應用)

イリス根ハ其香氣佳絶ナルガ故ニ粉粧藥トシテ用ユ、藥用ニハ「延臭藥」撒布劑等トシ
 テ應用スルノミ。



莪 朮

ツェドアリア根

Rhizoma Zedoariae.

(獨) Zitwelmurzel.
(英) Zedoary-root.
(佛) Zédoaire.

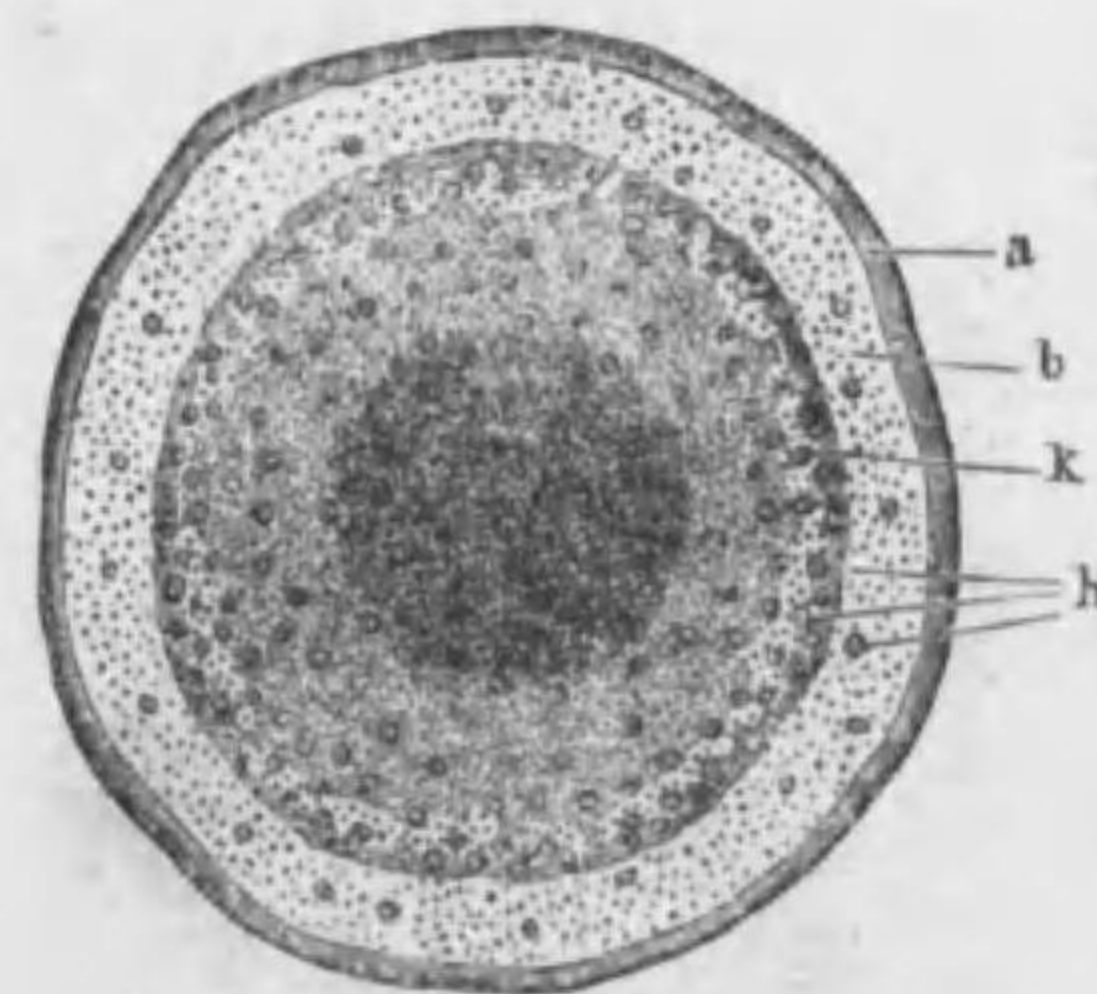
(基原) 莪朮根ハ印度ニ於テハ已ニ太古ノ時代ヨリ藥用ニ供セリ、歐洲ニハ七百年代始メテ渡來セリ其原植物ハ *Curcuma Zedoaria* Roscoe ニシテ薑科 (*Zingiberaceae*) ニ屬シ前印度ノマドラス及ボンベイ地方ニ培植ス。

(形狀) 莪朮ハ梨子形ヲナシ太サ四cmニ過ギズ其質堅ク其形狀略、薑黃ニ類スレドモ灰色ヲ有ス、表面毛茸ヲ帶フ坊間ノ品ハ往々縦割シ又ハ横截セリ其灰色ニシテ皺紋ヲ帶ビ枹様ノ外面ニ多數ナル根痕ヲ認ム、截切面ハ厚サ約二

第百四十一圖



第百四十二圖



乃至五mmノ皮部及甚ダ太クシテ厚サ五乃至八mmノ圓板形ニ截切セル根莖ニ在テハ

概シテ陷凹セル中央圓端ヲ現ハス、破折面ハ平坦ニシテ殆ト角質様ナリ。

本品ハ微ニ樟腦ニ類スル香氣ヲ有シ味ハ樟腦様ニシテ苦味ヲ帶ブ。

第百四十一圖ハ其自然大寫真圖ナリ、第百四十二圖ハ其横截面ヲ廓大視セル者ニシテ(a)ハ外皮、(b)ハ皮部、(k)ハ内上皮、(h)ハ脈管束ナリ。

(顯微鏡的構造)

尙ホ未ダ多層性枹層ヲ被ムル所ノ上皮ハ厚壁性ニシテ

多クハ單細胞性ナル尖銳ノ長キ毛茸ヲ發生ス、實體組織ハ薄壁性ニシテ甚ダ

澱粉ニ富メル細胞ヨリ成ル、澱粉顆粒ハ(レ)レンス形ニシテ扁平、表面視スレバ卵

圓形或ハ短楕形、側面視スレバ梃子形乃至枕形ヲ呈シ多クハ長サ三十五乃至

五十五ミクロmm幅二十乃至三十ミクロmm厚サ十乃至十二ミクロmmニシテ其

大ニ外心性ナル核ハ多クハ澱粉粒ノ狭キ一端ニ位スル突起中ニ存在シ其澱

粉ノ層紋ハ只微ニ發現ス、第百四十四圖澱粉ヲ包裹セル(パ)レンヒム細胞ノ間

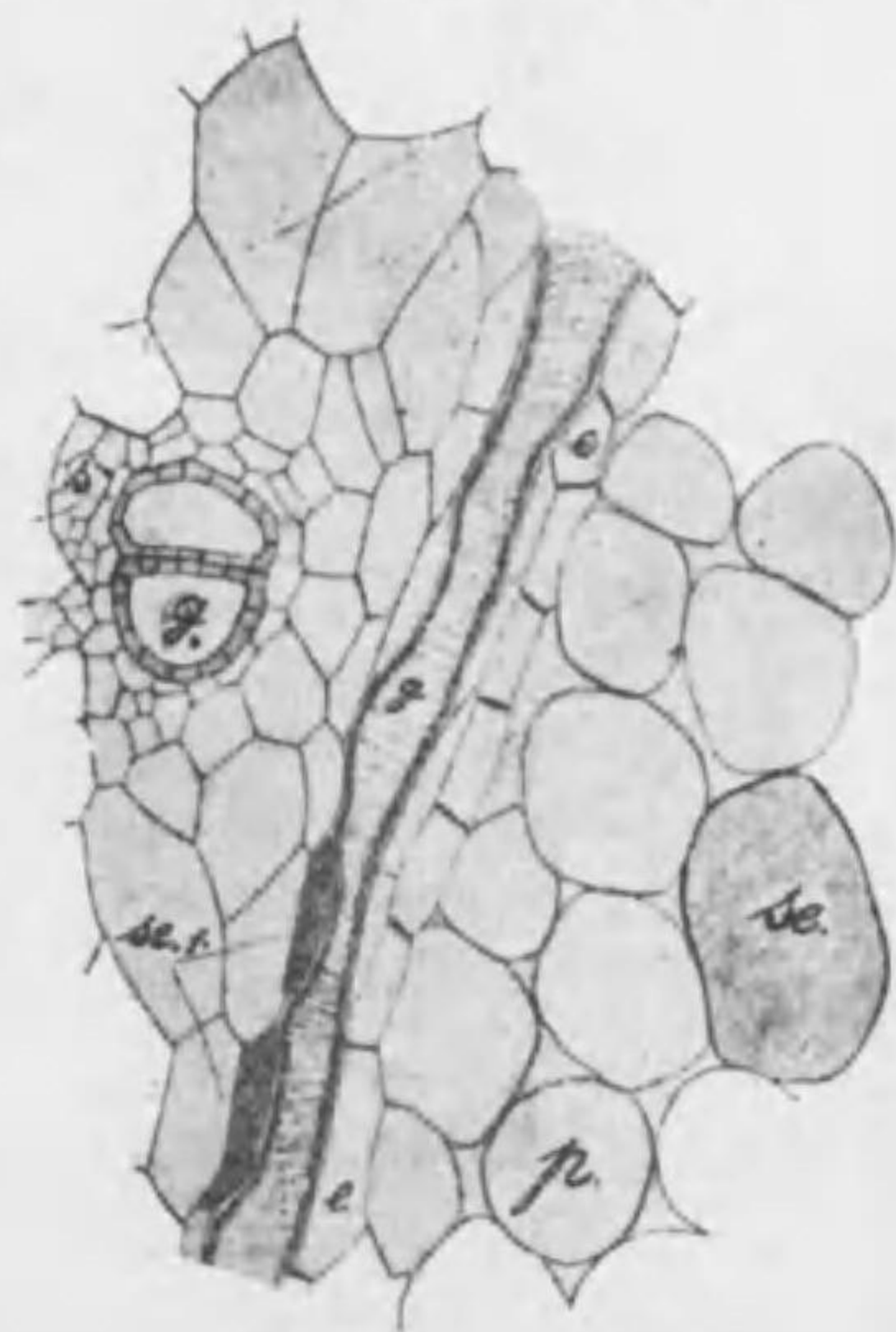
ニハ(第百四十三圖)無色或ハ稀ニハ類黃色乃至類褐色ノ内容ヲ有スル多數

ナル球圓形分泌物細胞(同圖)存在ス、總テ脈管束ハ側立性ノ(同圖)構造ヲ

有シ多クハ(スケ)レ、(ン)ヒム纖維ヲ缺キ只其最外邊ニ位スルモノニ限リ少數

ノ(スケ)レ、(ン)ヒム纖維鞘ヨリ伴ハル。

圖三十四百第



(Marsten 氏ニ據ル)

圖四十四百第



シテ淡黄色濃厚ノ液ヲナシ 莖根 固有ノ

(成分) 主成分ハ揮發油(1%)ニ

味及香氣ヲ有ス。

(應用)

我邊ハ芳香性ノ健胃藥トシテ用ユ、藥局方ニ於テハ苦味丁糖、方薑、丁糖等ヲ製スルノ用ニ供ス。

● 生薑 Rhizoma Zingiberis.

(基原)

生薑即チ薑根ハ本邦及支那ニ於テハ已ニ太古ノ時代ヨリ香味料及藥用ニ供セラレ、歐洲ニ於テモ已ニ耶蘇紀元一百年前ヨリ香味料トシテ世ニ知ラレ中古ノ時代ニテハ已ニ重要ナル商品ノ一タリ。

(獨) Ingwer.
(英) Ginger.
(佛) Gingembre.

圖五十四百第



(形狀)

生薑ハ薑科 (Zingiberaceae) 所屬 Zingiber officinalis Roscoe ノ根ヲ採リテ乾燥セルモノナリ、薑ハ熱帶地方殊ニ印度ノ南部、亞弗利加及ジャマイカ地方ニ培養セラレ又本邦ニハ殆ント各地ニ産スレトモ最モ有名ナルハ遠州トス、現今ハ米國ニ於テモ培養ス、我遠州地方ヨリ出タス所ノ生薑ハ洗淨シテ外皮ヲ除去スルノ後石灰ヲ撒布シテ乾燥スルヲ慣習トセリ是レ蓋シ乾燥ノ際異色ヲ呈スルヲ豫防センガ爲メナリ。

生薑ハ水平ニ匍匐シ指狀ニ分岐セル根莖ニシテ灰色ノ袍層ヲ被ム

リ其著大ナルモノハ稍側方ヨリ壓扁セラル、破折面ハ平坦ナラズ、纖維形ノ脈管束ヲ露出ス坊間多クハ縦割セル切片トシテ行ハル、第百四十五圖ハ其自然大寫真圖ナリ。

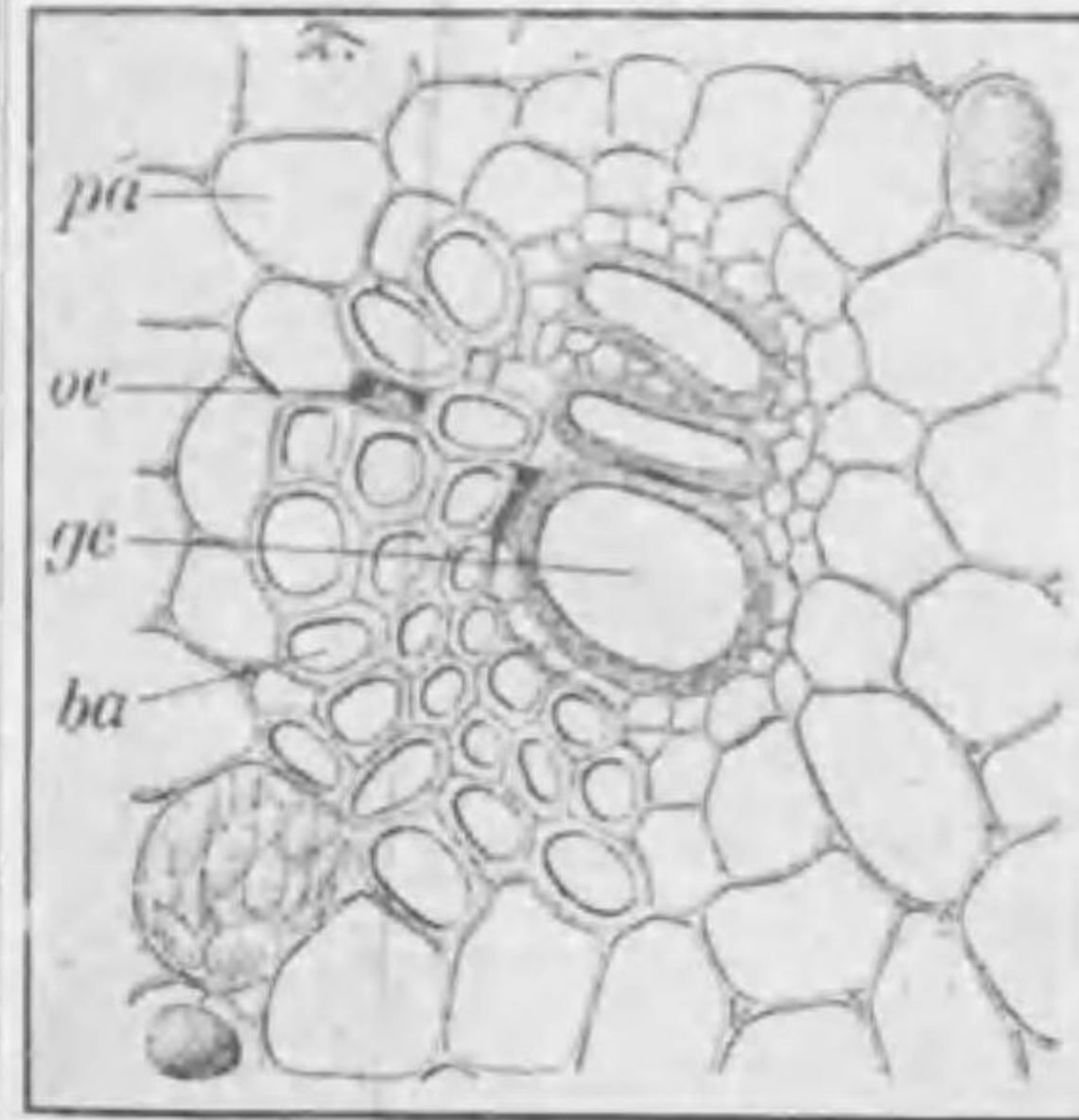
生薑ノ横断面ハ略橢圓形ニシテ灰色ノ袍層ヨリ圍擁セラレ皮部

圖六十四百第



ハ狭ク帯白灰色ヲ有シ細キ木鞘ニ由リテ木部ト分割セラル、脈管束ハ最も多ク類白色粉末性ノ木部中ニ存在シ又皮部ニモ之ヲ見ル而シテ皮部及木部ノ組織中ニハ揮發油及樹脂ヲ含蓄スル細胞ヲ筈在ス、生薑ノ澱粉ハ著大ナル顆粒ヲナス、生薑ハ特異芳香性ノ香氣ヲ有シ味ハ芳香性ニシテ灼クガ如シ。

圖七十四百第



(Gilg 氏ニ據ル)

第四百十六圖ハ生薑ノ横断面ヲ三倍ニ廓大視セルモノニシテ(b)ハ外皮(m)ハ皮部、(k)ハ内上皮木鞘、(h)ハ木部ニシテ、2ハ四百倍ニ廓大視セル澱粉トス。
(顯微鏡的構造) 生薑ノ基礎組織第四百十七圖ノ(pa)ハ皆澱粉粒ヲ充盈シ(圖ノ左下端ニ例示セリ)、バレンヒム中ニハ黃褐色ノ内容物ヲ有スル多數ノ分泌細胞(oe)アリ、

圖八十四百第



(I. Koch 氏ニ據ル)

第四百十七圖ハ生薑横截面ノ一部中軸内部ノ脈管束ヲ通過セル部分ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ(pa)ハバレンヒム(oe)ハ脈管ノ近圍ニ於ケル分泌細胞、(ge)ハ脈管、(ba)ハ内皮纖維ナリ(二百倍)。
第四百十八圖 ハ生薑ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ(pp)ハ澱粉ヲ包藏セル細胞組織、(P1)ハ

内上皮ハ薄壁性細胞ヨリ成リ、脈管束ハ常ニ側立性ニシテ第二期脈管ハ並トク階段狀脈管ナリ而シテ暗褐色ノ内容ヲ有スル小分泌細胞之ニ伴フ、斜孔紋性薄壁長伸形ノ内皮纖維(ba)ハ脈管束ヲ圍匝ス。
第四百十七圖 ハ生薑横截面ノ一部中軸内部ノ脈管束ヲ通過セル部分ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ(pa)ハバレンヒム(oe)ハ脈管ノ近圍ニ於ケル分泌細胞、(ge)ハ脈管、(ba)ハ内皮纖維ナリ(二百倍)。

組織ノ碎片ニシテ其(sc)ハ油細胞(分泌物細胞)トス、(PT)ハ組織ノ細碎片、(S及S₁)ハ纖維ノ碎片ヲ縦視スルモノ、(gf)ヨリ(gf₁)ニ至ルハ脈管ノ碎片ヲ縦視セルモノ、(K)ハ胞層ノ表面、(K₁)ハ胞層ノ側面、(st)ハ分散セル澱粉、(st₁)ハ其側面トス(二百倍)。

目下歐洲地方ニ生薑ヲ輸出スル地ハベンガル、交趾支那、亞弗利加州、ジャマイカ、本邦等ニシテ亞弗利加産ノ者ハ揮發油分ニ富メルヲ以テ藥用上最モ愛重セラル而シテジャマイカ産ハ深ク外皮ヲ剝除シ往々石膏或ハ白垩ヲ撒布セルコトアリ、本邦ニ販賣セル乾薑ハ生薑ヲ蒸發シテ浸乾燥セルモノアリ。

(成分) 生薑ハ大約二%ノ揮發油即チ生薑油・樹脂・Gingerol. 澱粉等ヲ含有ス、ギンゲロールハ芳香性苛劇ノ味ヲ有スル物質ニシテ變質シ易キカ故ニ未タ純精ノモノヲ製出シ難シ、生薑油ハ Zingiberen C₁₅H₂₁ ナル一半テルペン・Cineol, Citral 等ヨリ成ル。

(應用) 生薑ハ芳香性健胃藥トシテ應用ス、日本藥局方ニ於テハ生薑丁熱、芳香散等ヲ製スルニ用ユ。

● 良薑 Rhizoma Galangae.

(基原) 良薑ハ中古時代ノ初時恐クハ亞拉昆亞人之ヲ歐洲ニ齎致セシナラシメ、Alpinia officinarum Hance ナル薑科(Zingiberaceae)植物ニ基原シ支那南部及臺灣

(獨) Galgantwurzel.
(英) Galanga.
(佛) Galangal.

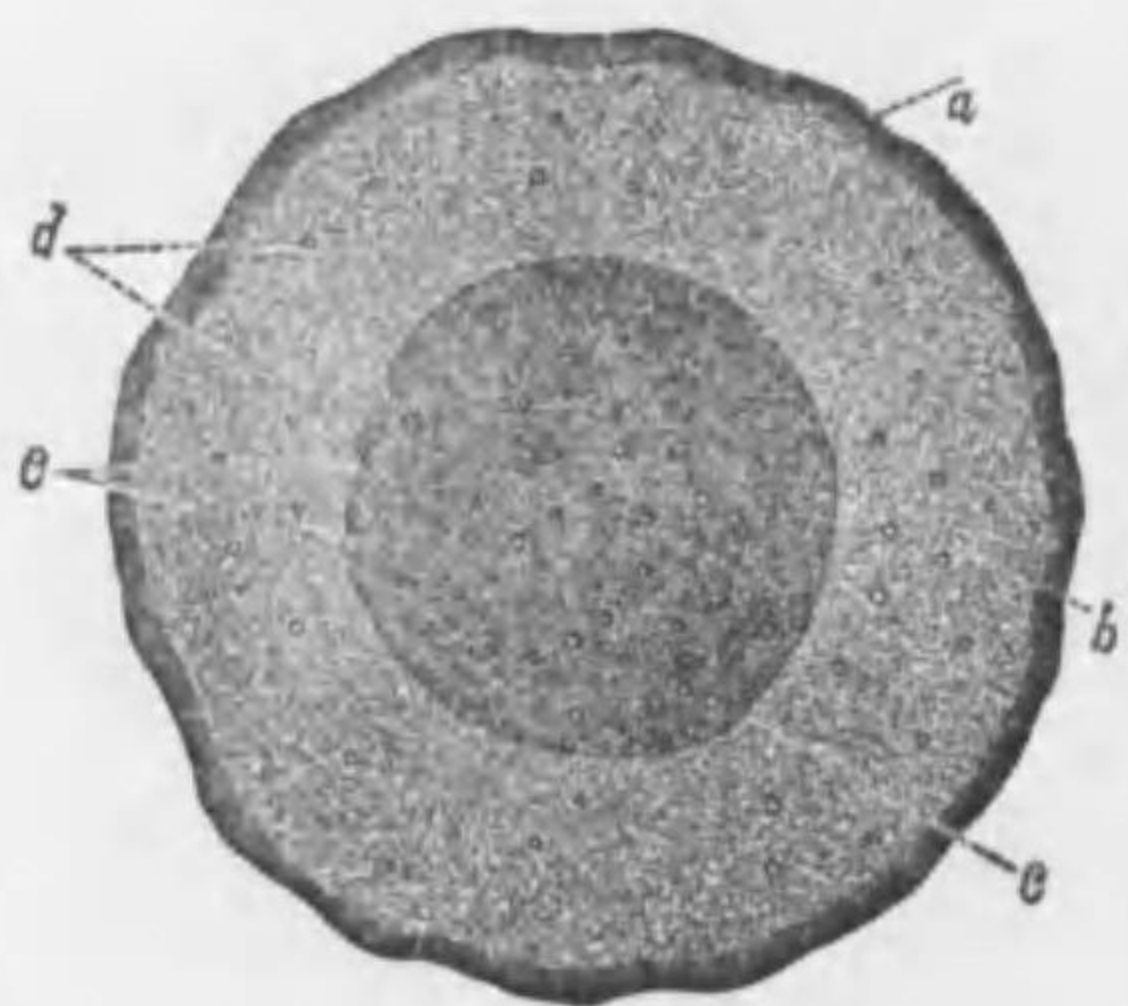
ニ産ス。

(形状) 良薑ハ錯雜ニ分岐セル木質様ノ根莖ニシテ帶褐赤色ヲ有シ長サ通常七cm太サ二cmニ至ル圓筒形ニシテ處々球根狀ニ膨起シ淡色鮮明ノ輪節ヲ有ス、横断面ハ纖維形ヲ呈シ皮部ノ厚サ往々中央圓環(木部)ノ厚サニ超ユル處アリ而シテ皮部ハ褐色ノ木質(内上皮)ニ由テ中央圓環ト分割セラル、第百四十九圖ハ良薑ノ自然大寫真圖ナリ。

第百四十九圖



第百五十五圖

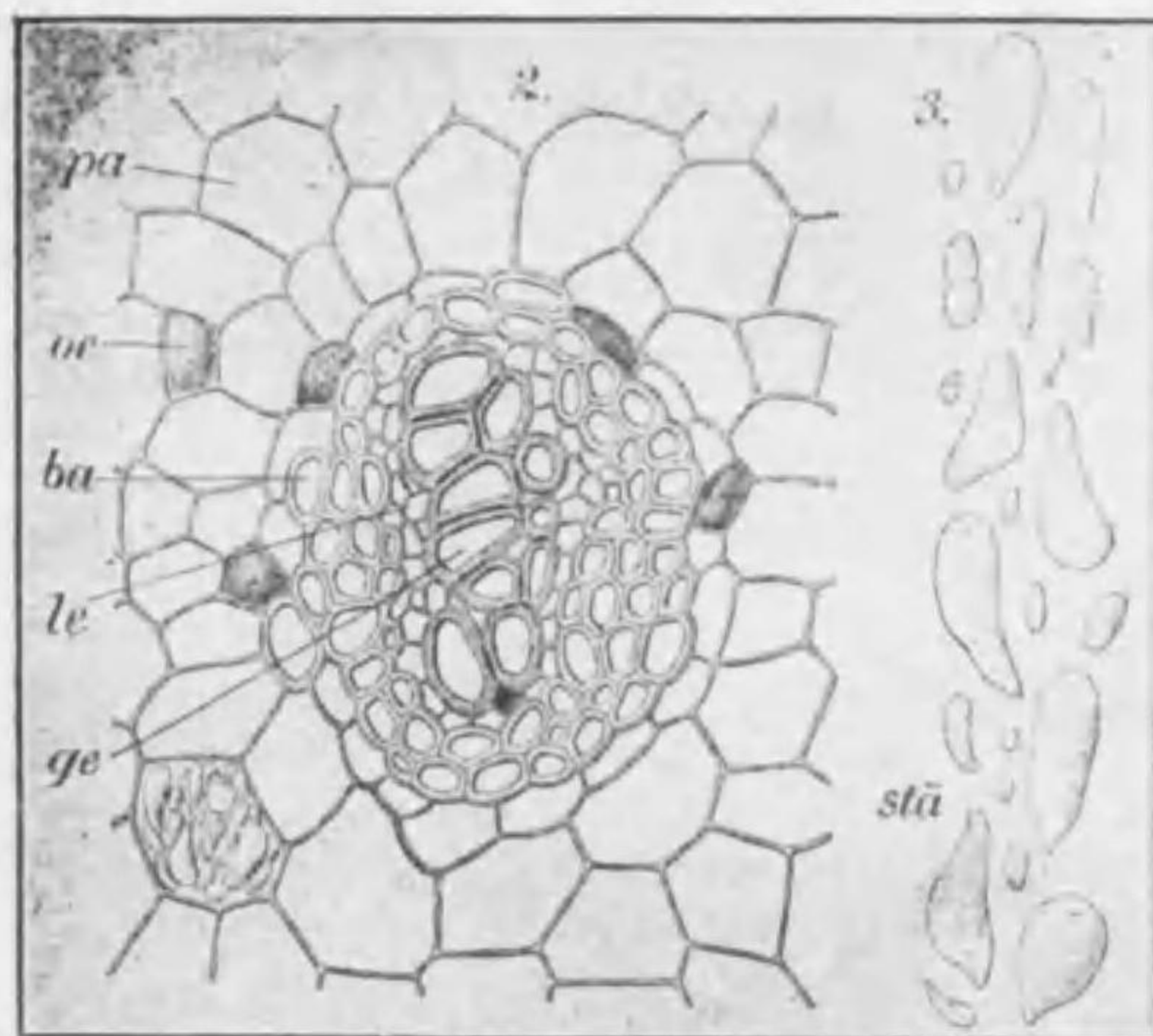


良薑ハ芳香性ノ味及香氣ヲ有ス。

第百五十五圖ハ良薑ノ横断面ヲ大約四倍ニ廓大視セルモノニシテ(a)ハ外皮、(b)

ハ皮部(c)ハ木鞘内上皮(e)及(d)ハ脈管束トス。
顯微鏡的構造 良薑ノ上皮ハ小細胞性ナリ、皮部ノパレンヒム(第百五十

圖一十五百第



(Gilg 氏ニ據ル)

一圖 pa)ハ厚壁性褐色ニシテ澱粉粒ヲ充盈ス、パレンヒム中ニハ深褐色ノ分泌物ヲ有スル分泌細胞(oe)アリ、内上皮ハ中軸ヲ包圍シ薄壁性ノ大細胞ヨリ成ル、脈管部ハ著ルシク發育シ篩管部(le)ハ不明ナリ、脈管(ga)ハ孔紋性或ハ階段狀ナリ、凡ソ脈管束ニハ内皮纖維(ba)ノ輪環アリテ之ヲ圍匣ス。
第百五十一圖ハ良薑ノ中軸内部ノ脈管束ヲ通過セル横截面ノ顯微鏡圖ナリ。

(成分) 良薑ハ〇・五乃至一・七%ノ揮發油ヲ含有ス此揮發油ハ比重〇・九二ヲ有シ Cineol ヲ含有ス自餘ノ成分ハ Kampferid (C₁₆H₁₆O₄ + H₂O)・Galangin (C₁₅H₁₀O₂)・

Alpinin (C₁₇H₁₄O₂)・樹脂・鞣酸・ゴム等ナリ而シテカムフェリド等ハ皆結晶性ヲ有ス。

(應用) 良薑ハ芳香性ノ健胃藥トシテ之ヲ應用ス。

薑黃 鬱金 Rhizoma Curcumae.

(基原) 薑黃ハ歐洲ニ於テハ已ニ耶蘇紀元ノ初メヨリ世ニ知ラレ從前ハ之ヲ Cyperus indicus 或ハ Crocus indicus (印度サフラン)ト稱セリ、Curcuma longa L. ナル薑科(Zingiberaceae)植物ノ根莖ニシテ亞細亞洲ノ南部及支那ノ東南地方ニ於テ培養ス。

(形状) 薑黃ハ黄色ノ根莖ニシテ販賣品ニハ主根及側根ノ二種アリ、球形

薑黃(Rhizoma Curcumae rotunda)第百五十二圖 C.r. 及長形薑黃 Rhizoma Curcumae longa 第百五十三圖 C.l. 是ナリ、球形薑黃ハ主根莖ニシテ梨子形ヲ有シ其直径三 cmニ至リ長四 cmニ至ル長形薑黃ハ側根ニシテ圓壩形ヲナシ多クハ弧曲シ長サ二乃至五 cm、太サ一 cmニ超エズ、薑黃ハ總テ外面汚黄色ニシテ輪節ヲ有シ横折面ハ蠟様ノ光輝ヲ帶ヒ黄赤色ヲ呈ス而シテ第百五十四圖ハ長形薑黃ノ自然

(獨) Gelbwurzel.
(英) Turmeric.
(佛) Souchet des Indes.

圖二百五十五第



圖三百五十五第



圖四百五十五第



大寫真圖ニシテaハマドラス産ノ者、
bハベンガル産ノ者ナリ。
薑黃ノ横断面ハ圓形ヲ爲シ赤黄色ヲ
有シ皮部ハ暗色ノ内上皮(木質)ニ由テ

圖五百五十五第



區分セラレ
脈管束ハ淡
明ノ小點ト
ナリテ其全
面ニ散在ス
(第百五十五
圖)而シテ販賣品ハ常ニ煮熟セルヲ以
テ其質堅ク角質様ヲナシ其組織中ニ
ハ糊化セル澱粉ヲ含有シ又或ル細胞
中ニハ脂化セル揮發油ヲ含蓄ス。
薑黃ハ其氣味生薑ニ類スレドモ稍緩

和ナリ而シテ之ヲ嚼メバ唾液ヲ黄色ニ染ム。

(成分) 薑黃ハ平均揮發油一%ヲ含ム、其有色成分ナル *Curcumin* ハ鮮黄赤色

ヲ有シ其含量ハ〇.三三%ニ過キス、酒精及エーテルニハ極ク溶解シ其クロ、
フォルム及エーテル溶液ハ美麗ナル螢石彩ヲ呈ス。

(應用) 薑黃ハ目下藥用ニ供セス黄色ノ染料トナシ又ハ黄色試験紙(薑黃紙)ヲ製スルニ用ユ。

(乙) 雙子葉植物ノ根莖類 *Wurzelstöcke der Dikotyledonen.*

● **大黃** *Rhizoma Rhei. Radix Rhei.*

(基原) 大黃ハ支那ニ於テハ已ニ太古ノ時代ヨリ重要ナル藥品ノ一タリ而
シテ其歐洲ニ渡來セシハ亦太古ノ時代ニ在レドモ世人曾テ之ヲ顧ミザリキ
一千六百年紀ノ間ニ於テ露國政府之ヲ其專賣品トセシヨリ以來漸ク價值ア
ル藥品トハナレリ。

大黃ノ原植物ハ未タ充分ニ之ヲ詳ニスル能ハスト雖氏略之カ母植物ト認定

- (獨) *Rhabarber.*
- (英) *Rhubarb.*
- (佛) *Rhubarbe.*

スヘキモノハ支那ノ北部ノ山嶺地ニ産スル蓼科 (Polygonaceae) ノ植物 *Rheum officinale Millon* 及 *Rheum palmatum L.* ノ二種トス。

(形状) 大黃ハ根ニ非スシテ根莖ニ屬ス坊間ニ販賣セル品ハ外皮ヲ除去シ其形状甚タ不同ニシテ蘿蔔形・球形・圓筒形ヲ爲シ或ハ又一面穹窿一面扁平ナルモノアリテ屢孔穴ヲ有ス此孔穴ハ大黃ニ絲條ヲ通シテ乾燥セシムル

ニ由テ成レルモノナリ大黃ハ大抵支那ニ於テ多分ノ外皮ヲ剝除シテ輸出スルモノナレトモ歐洲ニ着スル後更ニ全ク之ヲ剝離シ其外見ヲ裝成スルヲ常トス而シテ大黃ハ支那ニ於テ球形・扁形等其形状ニ由リ品種ヲ區別シテ輸出ス即チ左ノ如シ。

圖 六 十 五 百 第



(一) 山西大黃ハ全形扁形又ハ圓形ヲナシ甚タ不同ニ皮ヲ剝離シ

破折面ハ顆粒狀碎片ニシテ明カニ大理石様ノ紋理ヲ現ハシ鮮赤色ヲ有シ外邊ニ接シテ一定ノ規律ヲナシテ配置セル放線圈ヲ現ハス臭氣ハ緩和ニシテ不快ナラス味ハ咀嚼スルトキハ微ニ芳香性ニシテ苦ク強キ砂鳴ヲ發ス(第百五十六圖)。

圖 七 十 五 百 第



(二) 廣東大黃ハ圓形又ハ扁圓形ヲナシ殆ト全ク皮ヲ剝除セリ其質柔軟纖維性ヨリモ寧ロ海綿様ヲナシ錯綜セル大理石様ノ紋理ヲ現ハス放線圈ハ不明ニシテ顯著ナラス白色ノ實質ト淡類赤色ナル髓線ヲ有ス臭氣ハ強ク不快ニシテ味ハ咀嚼スルトキハ甚タ苦ク特異收斂性ニシテ僅ニ砂鳴ヲ感スルノミ(第百五十七圖)。

(三) 上海大黃ハ扁平菲薄ノ塊片ヲナシ能ク皮ヲ剝離シ其質ハ柔軟纖維性又ハ堅實緻密ナリ破折面ハ鮮活ノ黃赤色ヲ呈シ實質ハ白色ニシテ大理石

様ノ紋理ヲ現ハセトモ放線圈ハ往々規律ヲナシテ發現ス、香氣ハ強ク焦烟性、味ハ咀嚼スレハ不快焦性ニシテ永ク苦味ヲ感シ著シク粘液性ナリ。

凡ソ大黃ノ氣味ハ各甚タ特異ニシテ粉末ト雖トモ其氣味ニ由テ區別スルヲ得ベシ山西大黃ノ粉末ハ深橙黄色ヲ有シ其他ノ二種ノ大黃ノ粉末ハ淡土黄色ヲ有ス、日本藥局方ノ規定ニ合格スルモノハ特リ山西大黃ナリ。

第百五十六圖ハ山西大黃、**第百五十七圖**ハ廣東大黃ノ自然大寫眞圖ニシテ其上端ヲ削テ横截面ヲ現ハス。

大黃ハ長サ大約八乃至十cm、幅(太サ)五乃至八cmナルヲ常トシ長サ十五cmニ超ユルモノハ甚タ稀有ノ品ニ屬ス。

大黃ノ實質ハ白色ヲ呈シ黄色乃至類褐色ノ髓線アリテ通過ス而シテ此髓線ハ周邊ニ於テハ殆ント正シク半徑ノ方向ニ通走シ内部ニ於テハ規律ナク實質中ニ交錯ス故ニ大黃ハ其内部ニ於テ大理石様ノ紋理ヲ現ハシ又其側面ハ白色顆粒狀ノ實質ト黄色乃至帶褐赤色ニシテ光澤ヲ帶フル線條髓線ト交互ニ排列シ其稍、内部ニハ菱形網眼様ノ斑紋ヲ現ハス(**第百五十八圖**)。

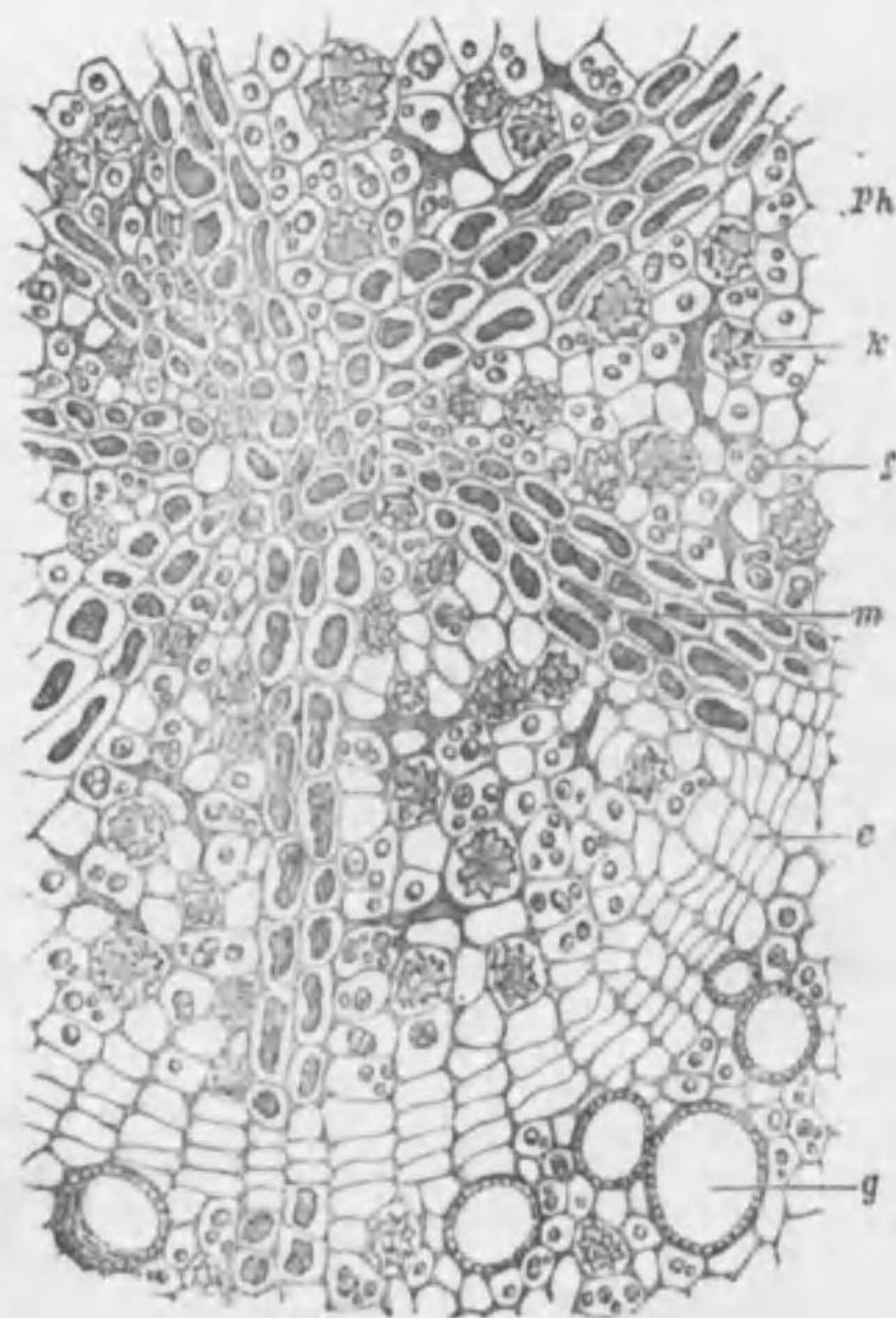


第百八十五圖

第百九十五圖

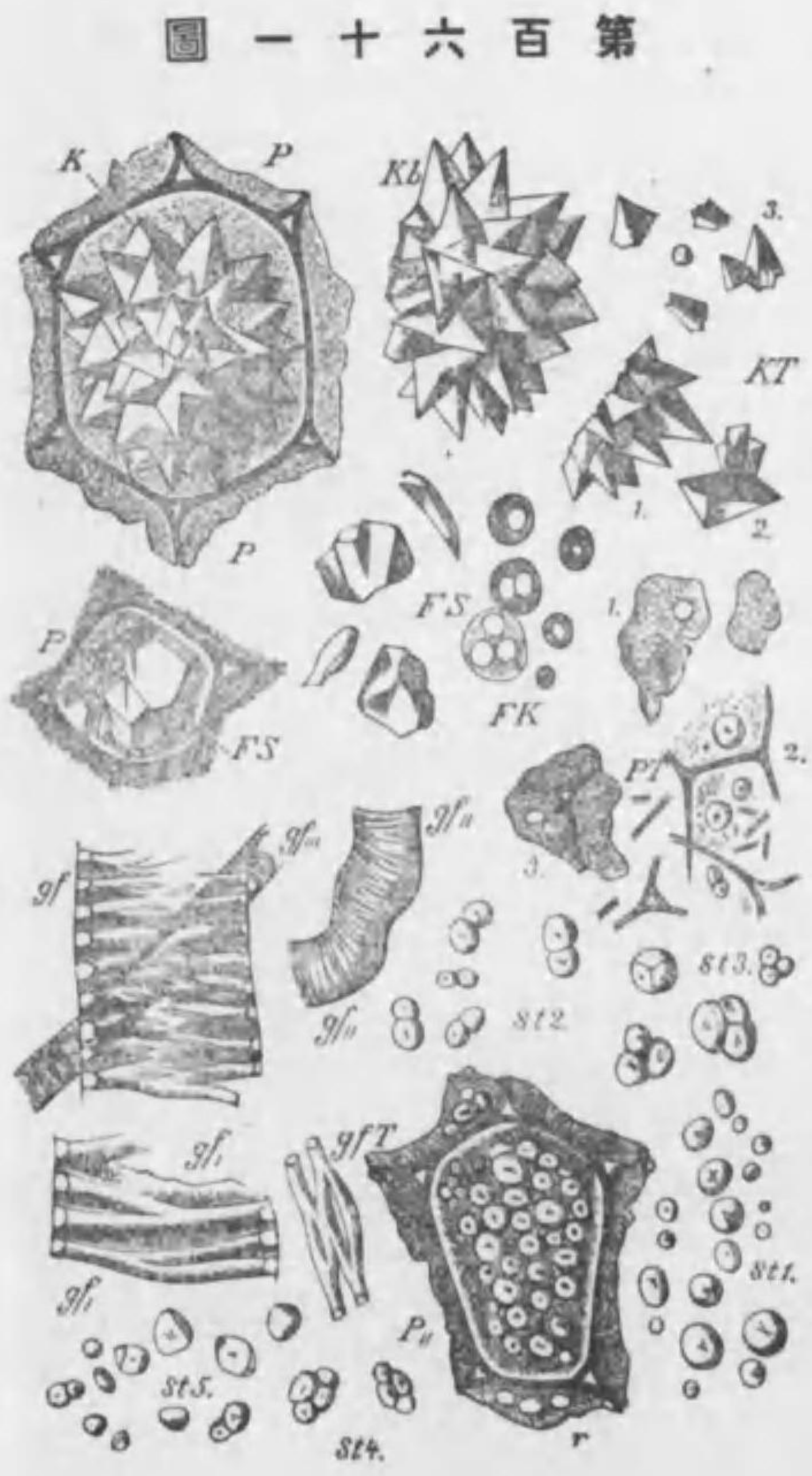


第百六十六圖



大黃ノ横折面ハ粗糙ニシテ顆粒狀ヲナシ其横断面ハ已ニ上文ニ述フル如ク其邊緣ニ於テノミ正シク半徑ノ方向ヲ取リテ赤褐色ノ髓線ヲ通過セシメ處々ニ新生組織ヲ存ス而シテ其新生組織ノ内方ニハ赤褐色ニシテ直徑一cmニ過キザル放線圈ヲ輪列スルヲ常トス此放線圈ハ葉莖ヨリ來レル脈管束ニ係リ固有ノ新生組織ヲ具有ス、其新生組織ハ全ク普通ノ新生組織ニ反對スル所ノ構造ヲ有ス即チ其外部ニ木部ヲ發生シ内部ニ皮部ヲ發生スル者ナリ、**第百**

五十九圖ハ約三倍ニ廓大セル放線圈ヲ示ス。
 大黃ノ實質ハ細胞組織及脈管ヨリ成リ厚化セル木細胞及内皮纖維ヲ關如シ
 澱粉及棓酸カルチウムヲ含有ス、大黃ヲ嚼メバ砂鳴ヲナスハ澱粉ト棓酸カル
 チウムト軋轆スルニ由ル、髓線中ニハ黄色ノ物質(所謂アントラ配糖體見次ニ)ヲ
 含有ス、大黃ノ顯微鏡的構造ハ頗ル複雑ニシテ加フルニ藥品トシテ市場ニ現



ハル、モノハ
 常ニ皮部多ク
 ハ木部ノ一部
 分ヲモ刮除シ
 アリ、第六十
 圖ニハ一ノ放
 線圈ノ顯微鏡
 的横断面ヲ示
 ス其(c)ハ新生
 組織、(m)ハ髓線

圖一十六百第

(g)ハ脈管、(h)ハ篩管部、(k)ハ棓酸カルチウムノ結晶、(s)ハ澱粉ナリ。

第六十一圖ハ支那産大黃ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セル者ニシテ其(P)ハ棓
 酸鹽品ヲ包藏スル細胞、(K)ハ棓酸鹽簇品、(Kb)及(KT)ヨリ3)ハ棓酸鹽簇品ノ碎片、
 (P₁)ハ色素團塊ヲ包藏スル細胞、(FS)及(FK)ハ色素ノ團塊、(P₂)ハ澱粉ヲ包藏セル細胞
 (St 1ヨリ5)ハ澱粉粒、單澱粉及複合澱粉、(PT 1ヨリ3)ハ組織ノ碎片、(g₁ヨリ
 g₁₁)ニ
 至ルハ種々ナル脈管ノ碎片ナリ(二百倍、L. Koch氏ニ據ル)。

大黃ハ一種特異ノ味及臭氣ヲ有シ之ヲ嚼メバ唾液ヲ黄色ニ染ム。

(成分) 支那産大黃即チ藥用大黃ハ所謂アントラ配糖體トシテ Chrysophansäure
 $C_{14}H_8\{CH_2\}_2O_2$ 即チ二酸化メチールアントラヒノン、Emodin 及 Isomodulin $C_{14}H_8\{CH_2\}_2O_2$
 即チ三酸化メチールアントラヒノン、Rhein $C_{14}H_8\{CH_2\}_2O_2$ 即チ四酸化メチールア
 ントラヒノン並ニクリソファン酸メチールエーテル及 Rheochrysin 即チ「レイン」
 ノ「メトオキシ」ド體ヲ含ム其他 Aporetin, Erythronin 及 Phaeoretin ナル樹脂様
 體、Reinigerbsäure 大黃 $C_{14}H_8\{CH_2\}_2O_2$ 、棓酸カルチウム、澱粉等ヲ含有ス而シテ上記ノ「ア
 ントラヒノン誘導體及鞣酸ハ配糖體ノ狀ニ於テ存ス、大黃ハ脂肪ヲ含有セス、
 大黃固有ノ香氣ハ恐クハ揮發油ヨリ來ルナラン。

(應用)

大黃ハ瀉下藥及健胃藥トシテ用ユ其藥局方ニ於ケル製劑ハ大黃越幾斯・複方大黃丸・苦土大黃散・大黃舍利別・大黃丁幾水・製大黃丁幾等ナリ。

圖二十六百第



藥局方ノ大黃トシテ藥用ニ供スルモノハ外尙ホ左ニ掲ケル如キ諸種ノ大黃アリ。漢藥ニ唐大黃(たうだいわう)ナルモノアリ專ラ漢醫者流ノ應用スル所ニシテ此大黃ハ多クハ朽蝕シ其構造ヲ明視スルコト能ハサレトモ恐クハ本條ノ支那產大黃

トハ全ク別種ナルモノ、如シ第百六十二圖ハ其自然大寫眞圖ナリ。

歐洲ニ於テ培養スル大黃ニ英國產境國產佛國產等ノ諸種アリ此等ノ大黃ハ粗惡品ニ屬シ醫藥ニ供スルヲ許サス歐洲ニ於テハ只之ヲ獸醫用ニ供シ或ハ之ヲ粉末トナシテ外國ニ輸出シ又ハ支那產大黃ヲ製造スルニ用ユルコトアリ而シテ此等ノ大黃ハ *Rheum nudatum*, *R. rhaponticum*, *R. compechin* 等ノ如キ諸植物ニ基原シ有效成分タルアントラヒノン誘導體ヲ含ムコト少ナシ。英國產大黃ハ其實體ク外部ニ縱紋ヲ現ハシ孔穴ヲ有シ支那產大黃ノ粉末ヲ塗布シ其外見ヲ

圖三十六百第



支那產大黃ニ擬シタルモノナリ、横斷面ニハ其周邊ニ於テノミ髓線著シク放線狀ヲナシ其内部ハ紅色ヲ帶ヒ又放線圈ヲ見レトモ支那產大黃ノ放線圈トハ全ク其構造ヲ異ニス其粉末ノ色ハ橙黃色ニ近シ(真正良好ナル支那產大黃ノ粉末ハ鮮黃色ヲ有ス)。

英國產及殊ニメーレン產及匈牙利產大黃ハ圓筒形ヲ爲シ横斷面ニ於テハ中心ヨリ正シク周邊ニ向テ紅色ノ髓線ヲ放出シ其横斷面ニ水ヲ點滴スレバ橙黃色ノ痕ヲ生ス此大黃ノ粉末ハ淡

肉色ヲ有シ微ニ紅色ノ光彩ヲ帶フ第百六十三圖ハ境國產大黃ノ巧ミニ製成セルモノ、自然大寫眞圖、第百六十四圖ハラフボンク
△根トシ *Rheum rhaponticum*

圖四十六百第



ノ根ニ係リ歐產大黃中最モ不良ナルモノナリ。

圖五十六百第



圖六十六百第



佛國產大黃ハ四筒形ヲ爲シ最モ塊國產ニ類ス此品ハ又橫斷面ニ放線狀ノ髓線ヲ現ハシ其中心ニ斑點樣ノ紋理アリ(第百六十五圖)。

日本產大黃(和黃)ハ津輕產ヲ以テ最佳トス其形

狀最モ塊國產大黃ニ類シ恐クハ *Rhizoma undulatum* L. (いらいわう)ノ根ナラン(第百六十六圖)ハ其自然大寫眞圖ナリ。
目下尙ホ往々本邦ノ藥舖ニ於テ英國產大黃ト唱ヘテ販賣スルモノハ塊國產大黃ニシテ土耳其古產ト唱フルモノハ支那產大黃ノ粗品ニ外ナラス。
大黃ヲ購求スルニ當リテハ宜シク之ヲ斷割シテ内部ヲモ檢視スルヲ必要トス是レ大黃ハ其外觀ハ美ナルモ内部往々朽蝕セルモノアレバナリ而シテ大黃ノ粒碎セザルモノハ上文ニ掲

ケル性徴ニ由リ其品種ヲ鑒別スルニ難カラザレトモ其粉末トナセルモノハ之ガ眞實精粗ヲ鑑定スルコト極メテ難シ最良ノ支那產大黃粉末ハ鮮黃色ヲ有スレトモ其粗品ニ在テハ汚黃色ヲ有ス歐洲產大黃ノ粉末ハ其種類ノ異ナルニ由リ一定ナラサレドモ微ニ赤色ヲ帶フルヲ常トス(上文ヲ比較スヘシ)大黃ハ斯ノ如ク其粉末ノ色澤ニ因リ畧其品種ヲ區別スルヲ得レトモ類似ノ粉末ヲ混合シテ其色澤ヲ假扮セル者ナシトセズ故ニ余ハ大黃ハ己ニ粉末トセル品ヲ購求ス可カラズト獎勵スルモノナリ又大黃末ニハ薑黃或ハ黃土ヲ混合セルコトアリ薑黃末ヲ混有スルモノハ硼酸ノ酒精溶液ヲ以テ之ヲ潤ホセバ褐色ヲ呈ス黃土ノ混有ヲ檢定スルニハ灰分ノ量ヲ測定スヘシ即チ支那產大黃ノ灰分ノ量ハ其品種ニ因リ一定ナラサレトモ其量百分ニ付キ二十五分ニ超ユルコトナカルヘシ平野一貫氏ハ支那產大黃ノ數種ニ就キ灰分ノ量ヲ測定シ其四乃至十二%ヲ得タリ又大黃末ニハ越幾斯等ニ應用セシ大黃ノ粉末ヲ混合スルコトアリ斯ノ如キ大黃末ヲ混有スルモノハ之ニ「グロ、フォルム」ト共ニ振盪スレバ多少液面ニ浮遊スベシ。

●ポドフィルム根 *Rhizoma Podophylli*

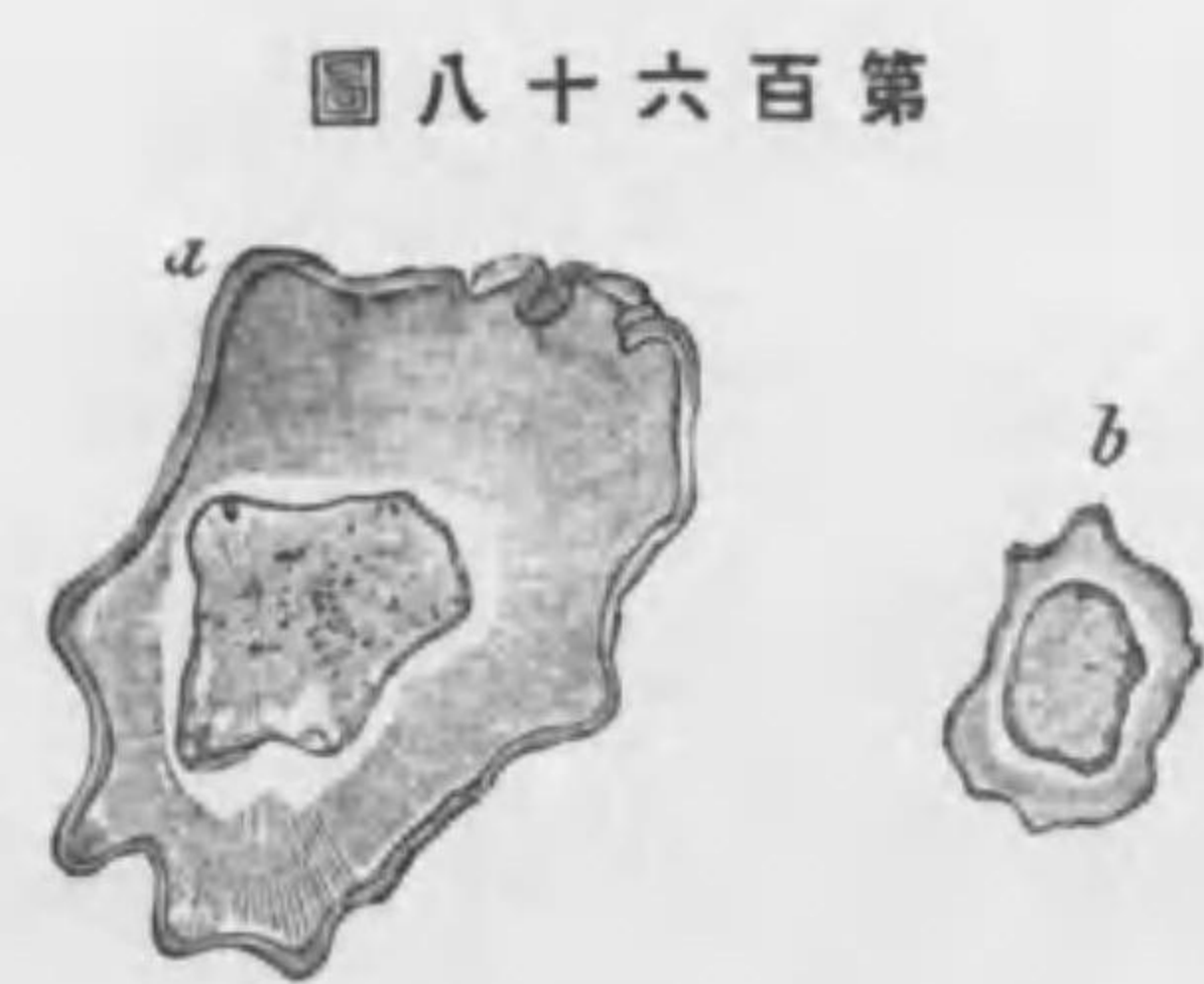
(基原) ポドフィルム根ハ北米ニ於テハ往古ヨリ藥用ニ供セシガ其歐洲ニ渡來セシハ一千七百八十七年トス而シテ小蘗科(Berberidaceae)ノ植物 *Podophyllum peltatum* L.ノ根莖ニシテ此植物ハ北米ノ東部墨西哥灣ヨリハドソン灣ニ至

(獨) Podophyllumwurzel.
(英) Podophyllum root.
(佛) Racine de podophyllum.

ル諸地ニ産ス。
形状 坊間ニ販賣スルポドフィラム根ハ長サ大約十cm、太サ一cmニ至ル圓柱狀ノ根莖ヲ爲シ少シク弧曲ス、外部ハ暗褐色ニシテ細微ナル輪節ヲ有シ且ツ一方ニハ處々ニ破折シ易キ細キ副根或ハ其切痕ヲ存シ、其結節狀ヲナセル上端ニハ屢、陷凹



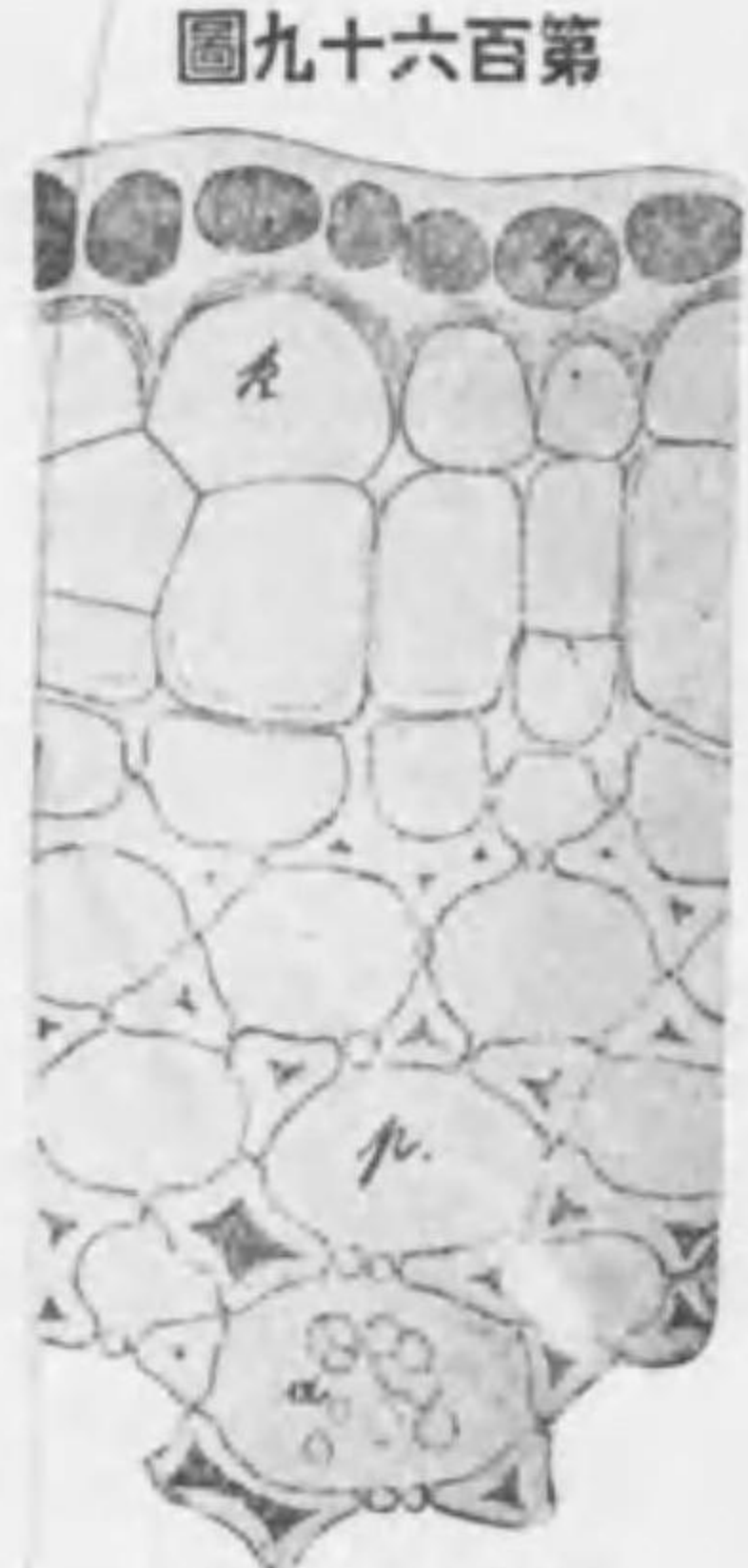
圖七十六百第



圖八十六百第

セル莖痕ヲ有ス而シテ間分岐セルモノアリ、**第六十七圖**ハポドフィラム根ノ自然大寫眞圖ナリ。
ポドフィラム根ハ其質堅脆ニシテ破折面ハ平坦ナリ、横断面ハ橢圓形ニシテ其最モ太キ部分ト雖トモ直徑一cmニ超エス其内部ノ澱粉ニ富メル組織ハ白色

ニシテ二十箇乃至四十箇ノ黄色ナル脈管ヨリ成レル細キ圓輪ヲ有ス、**第六十八圖**ノ(a)ハポドフィラム根ノ横断面、(b)ハ其走根ノ横断面ヲ示ス。
顯微鏡的構造 上皮**第六十九圖**epハ厚キ表皮ヲ以テ覆ハレ其下ノ細胞層ヨリ第一胞層(e)ヲ生シ外方ニ向テ厚化セル層積性ノ胞壁ヲ呈ス、皮部ノパレンヒムハ厚壁性ニノ多數ノ孔紋ヲ有シ、内部ニ向フニ隨テ胞間空ハ巨大トナル、總テノパレンヒム細胞ニハ圓形ノ澱粉粒(a)ヲ包有ス。



圖九十六百第

(Karsten 氏ニ據ル)

成分 ポドフィラム根ハ藥用ニ供スル「ポドフィリン」(Podophyllinum)ナル樹脂ヲ含有ス、此樹脂ハ Podophyllotoxin 及 Pikropodophyllin (共ニ結晶)ナル有効成分ト黄色無晶形ノ色素トヨリ成ル而シテ藥用ノ「ポドフィリン」ハ黄色或ハ帶褐灰色ノ粉末ヲナシ百分ノ「アムモニア水」ニハ類褐色ヲ現ハシテ溶解シ此溶液ニ水ヲ加フルモ溷濁セス又十分ノ酒精ニ溶解シテ暗褐色ノ液トナリ此溶液ニ

水ヲ和スレハ灰褐色絮狀ノ沈澱トナリテ析出ス、エーテル及硫化炭素ニハ只一部分ノミ溶解ス(參照セヨ)。

(應用)

ポドフィルム根及ポドフィルム根(ポドフィルム)ハ瀉下薬トシテ應用ス。

●ヒドラスチス根 Rhizoma Hydrastis.

(獨) Kanadische Gelbwurzel.
(英) Yellow root.
(佛) Racine d'hydrastis.
ヒドラスチス根

(基原) ヒドラスチス根ハ北米加奈陀及合衆國ノペンシルヴァニア州其他ジョルジア州及カリリナ州殊ニヨルバニーニ産スル毛茛科 (Ranunculaceae) ノ宿根草 *Hydrastis canadensis* L. ノ根莖ナリ、其基本植物ハ一千七百五十九年 P. Miller ヲラー氏之ヲ英國ニ移シ之ニ *Warneria* ナル名稱ヲ附セリ。

(形状) ヒドラスチス根ハ長サ三乃至五 cm 太サ六 mm 乃至レ根莖ニシテ單根ナルヲ常トスレトモ稀ニハ枝分セルモノアリ密ニ輪節ヲ有シ處々ニ結節狀ノ隆起ヲ現ハシ縦皺ヲ帯ヒ少シク彎曲シ長サ五 cm 乃至レ纖維根ヲ着ク上側ニハ莖痕ヲ帯ヒ間、殘莖ヲ戴クモノアリ、横折面ハ緻密ニシテ初メハ類褐色ナレトモ漸次暗褐色トナル横断面ニ於テハ皮部ハ狭クシテ枹屑ヲ被ムリ顯著ナラサル新生組織ニ由テ木部ト分割セラル木部ニハ廣キ髓線ニ由テ分

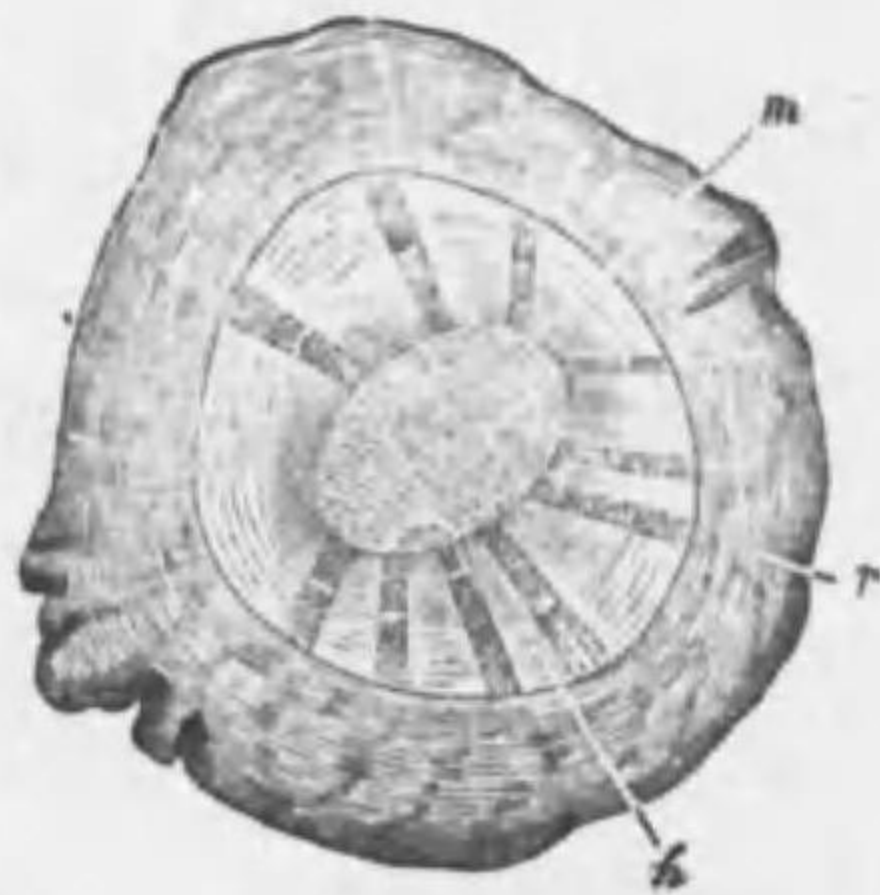
圖 十七百 第



圖 一十七百 第



圖 二十七百 第

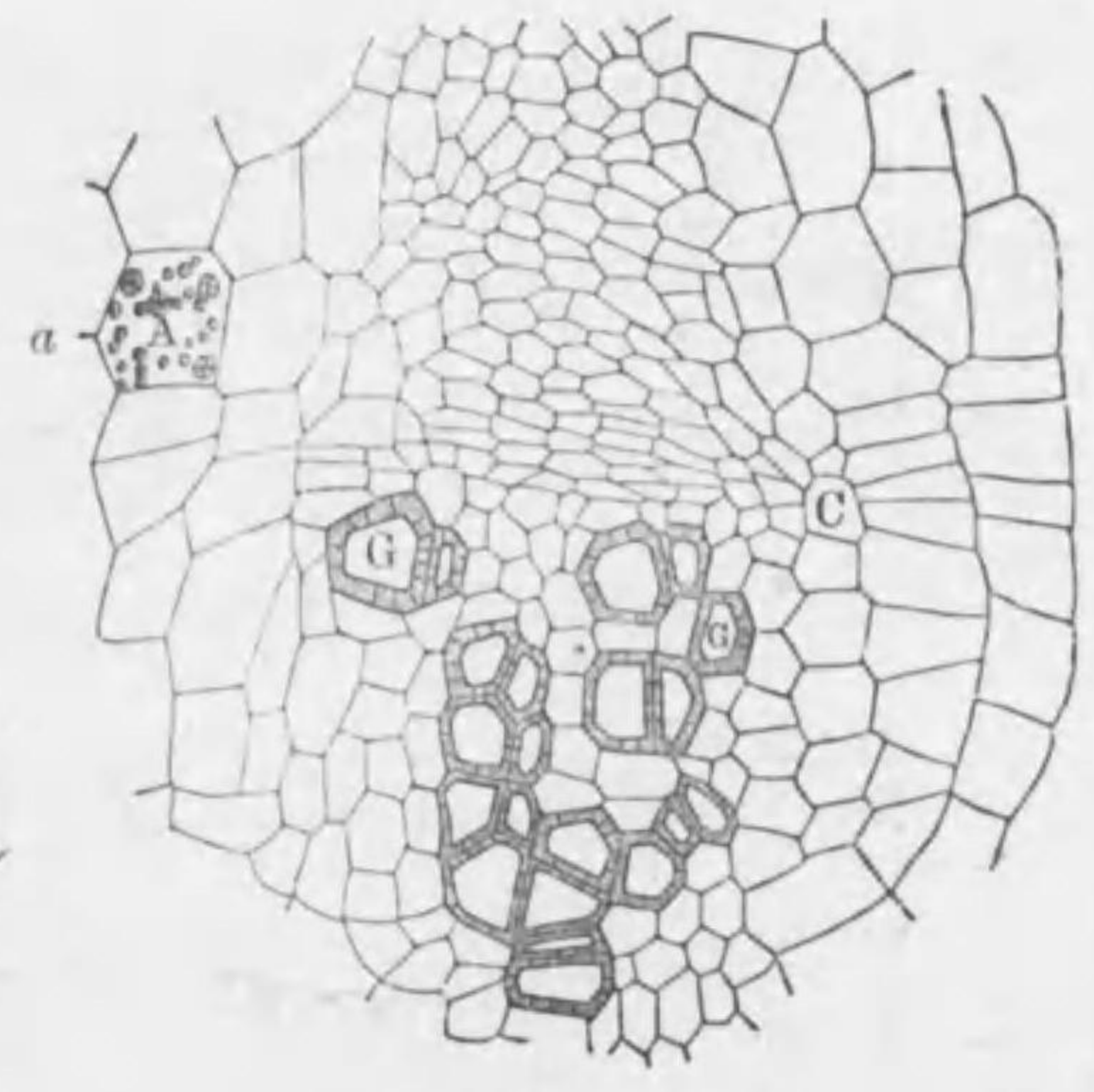


離セラル、黄色ノ脈管條アリテ著大ナル中心ノ髓ヨリ放線ス、**第七十圖**ハヒドラスチス根ノ概型圖、**第七十一圖**ハ藥品市場ニ於ケルヒドラスチス根ノ自然大寫真圖ナリ、而シテ**第七十二圖**ハ其横断面ノ八倍廓大圖ヲ示ス、本品ハ味甚タ苦シ。

顯微鏡的構造

皮部ニ於テハ其パレンヒム細胞ハ小澱粉粒ヲ充盈シ(第百七十三圖ノa)又大ナル第一期

圖 三 十 七 百 第



(Kersten 氏ニ據リ)

篩管部ヲ存ス、第二期篩管部ハ新生組織(C)ノ方向ニ發生スベキモ常ニ不明ナリ、脈管束(g)ノ近圍ニ於ケル新生組織ハ最モ著明ニ現ハル木部ニ於ケル半徑線的ニ伸長セル髓線ハ特徴的ナリ、第一期脈管ハ少數ノ螺旋狀管ヲ有シ之ニ次キテ木纖維層アリ第二期篩管ニ由テ斷歇セラレ。

成分

Berberin (C₂₀H₁₇NO₅ + 4H₂O)

三五乃至五〇% Kanadin (Tetrahydroberberin (C₂₁H₂₃NO₅)^{カナジン}) Hydrastin (C₁₇H₁₅NO₅)^{ハイドラスチン} 乃至三一四%ヲ含有ス。ヒドラスチス根一分ニ百倍ノ水ヲ加ヘテ煮沸スレバ苦味ヲ有スル黃色ノ液

ヲ得、其二ccmヲ測取シ之ニ硫酸一ccmヲ注加スルノ後クロール水ヲ滴加スレバ暗赤色ヲ徵ス是レベルベリンニ基因スル反應トス又ヒドラスチス根一分ニ多クモ十分ノ水ヲ加ヘテ煮沸シ冷後其液ノ十ccmニ硝酸一ccmヲ和スレバ大約半時間ヲ經ルノ後黃色ノ結晶(硝酸ベリベリン)ニ係ルヲ析出スヘシ。本品ハ贋造品甚タ多シ其粉末ヲ購求スルニ當テハ必ス薑黃ノ檢査ヲ怠ル可カラズ即チ其粉末ノ少量ヲ濾紙上ニ置キエーテル若クハクロロフォルムヲ以テ濕潤スルノ後其粉末ヲ除却スベシ若シ薑黃ノ存在スルトキハ黃色ノ斑痕ヲ留ムベシ。

本根ニ就キヒドラスチンヲ定量スルニハ日本藥局方規定ノ法ニ據ルベシ。

應用

脈管收縮作用アル藥品トシテ殊ニ子宮出血ニ應用ス、通常ハ流動越幾ストナシテ一日三四回其十五乃至三十滴ヲ與フ。

黃連

Rhizoma Coptidis, Radix Coptidis.

基原

黃連ハ古來ヨリ漢方醫流ノ應用セシ所ニシテ日本藥局方ニ之ヲ收載セルハ蓋シコロムボ根ニ換用スルノ目的トス而シテ藥局方ハ其記載ニ據ルトキハ專ラ丹波黃連ヲ以テ藥用品トナセリ是レ此黃連ハ普ク藥舖ニ得ラ

黃連 (獨) Soptiswurzel.
(英) Coptis root.
(佛) Racine de coptis

ルヘキノ便アルニ山ル丹波黃連ハ毛茛科 (Ranunculaceae) ノ宿根草 *Coptis anemone-
maefolia Sieb. et Zucc.* ノ根莖トス。

(形狀)

丹波黃連ハ長サ大約六cm 太サ六mmニ至ル根莖ニシテ外面ハ暗灰黃
色多クハ分岐シ多少
彎曲シ不整ノ結節ヲ
現ハシ處々ニ疣贅狀
ノ隆起アリ、上端ニ葉
柄或ハ殘莖ヲ着クル
者アリ全側ニ多數ノ
纖維根ヲ帶フレトモ
多クハ之ヲ除去セリ

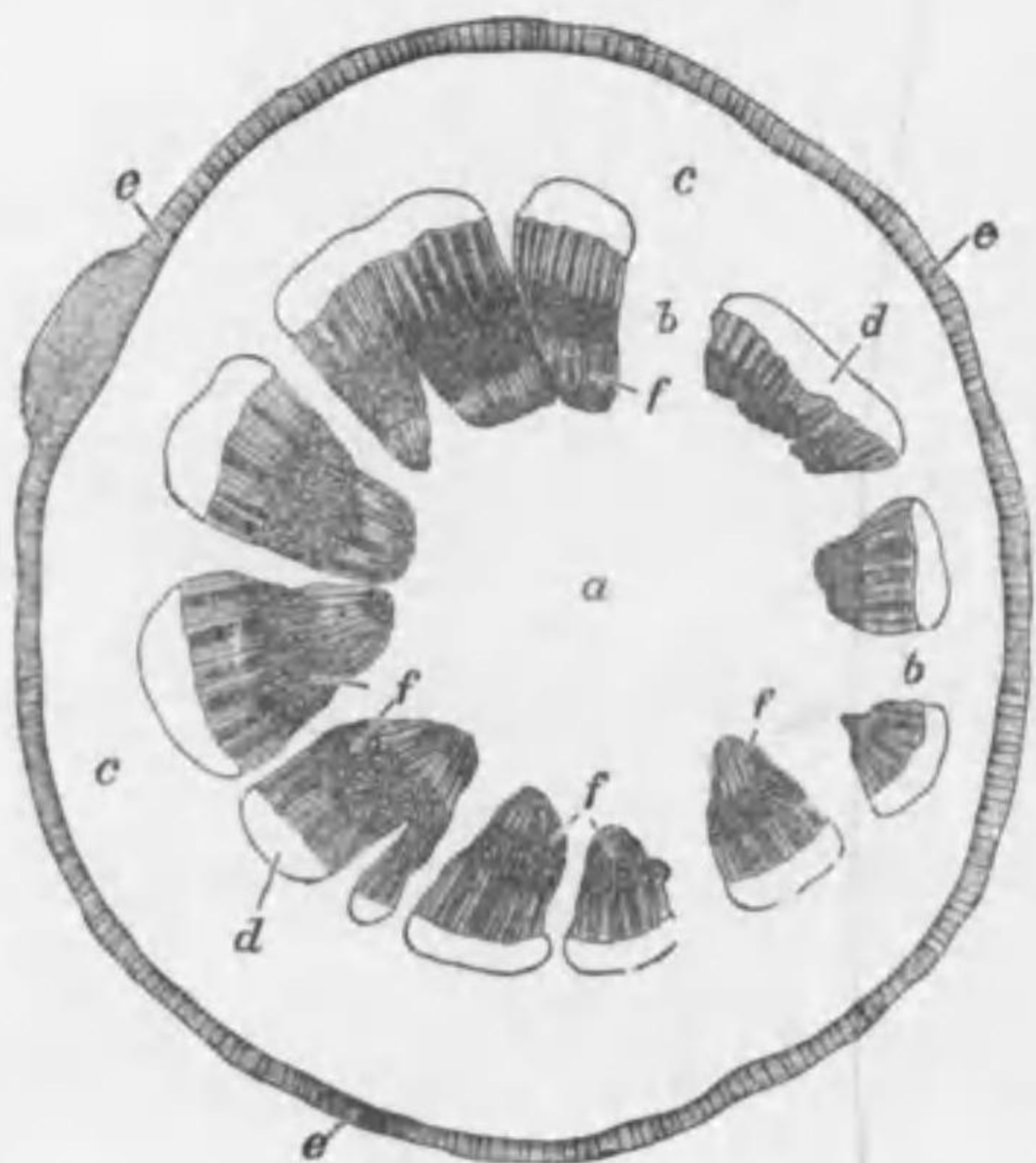
圖四十七百第



第七十四圖ノ(a)ハ丹波黃連、同圖ノ(b)ハ因幡黃連ノ自然大寫真圖ナリ。

黃連ノ破折面ハ黃色尖銳ニシテ橫斷面ハ厚キ枹層ヲ被ムリ皮部ハ暗褐色ニ
シテルーベヲ以テ廓大視スレバ殊ニ新生組織ニ近接セル部位ニ於テ黃色ノ
斑點ヲ認ム是レ石核細胞簇及內皮纖維束ニ基因スルモノトス、木部ハ黃色ニ

圖五十七百第

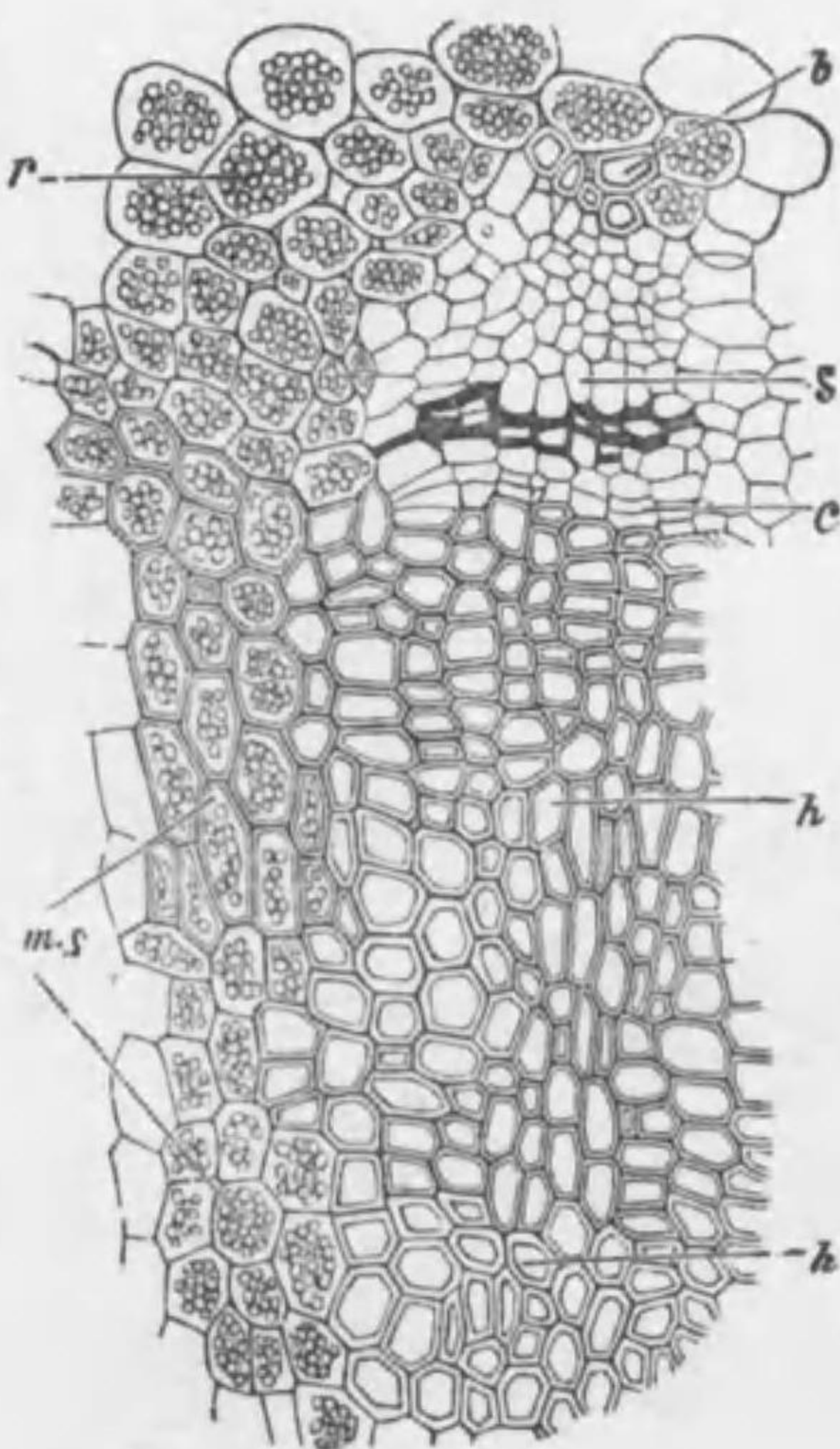


篩管部、(e)ハ新生組織、(h)ハ木部、(ms)ハ髓線ナリ。

シテ細微ナル放線狀ヲナシ處々ニ甚タ廣キ暗褐色ノ髓線ヨリ通過セラレ甚
タ巨大ナル暗褐色ノ髓ヲ圍繞ス、髓部ハ往々腐朽ニ歸シ空洞ナルモノアリ。
(顯微鏡的構造) 黃連ノ顯微鏡ニ對スル特異ナル標徴ハ全ク木部ニ脈管
ヲ缺如シ、其木細胞ハ縱斷面ニ於テ纖維形ヲナシ橫斷面ニ於テハ半徑ノ方向

ニ排列スルニ在リ、其黃色ハ專ラ皮
部ニ符在セル石核細胞、內皮纖維及
木細胞ニ寄存ス、皮部及髓部ノ組織
ハ極メテ細微ナル澱粉ヲ包藏ス、第
百七十五圖ハ黃連橫斷面ノ廓大圖
ニシテ(a)ハ髓、(b)ハ髓線、(c)ハ皮部、(d)
ハ篩管部、(e)ハ枹皮、(f)ハ脈管部ナリ
第七十六圖ハ更ニ其一部ヲ一層
廓大視セル者ニシテ、(γ)ハ皮部細胞
(澱粉粒ヲ含有ス)、(δ)ハ內皮纖維、(ε)ハ

圖六十七百第



ル「ベルベリン」ノ反應ヲ呈ス。

本邦ニハ丹波黃連ノ外因幡、越後、越中、加賀及日光黃連等ノ諸種アリ已上諸種ノ黃連ハ糖、其形狀ヲ異ニスレトモ其効力ニ至リテハ致テ大差ナシ故ニ適宜ニ之ヲ混用スルヲ得ヘシ。

(應用)

往時漢醫ハ胃弱病等種々ノ目的ニ用井タレトモ藥局方ニ掲ケタル旨意ハ「コロムボ根」ニ代用スルニ在リ藥局方ノ藥品ハ黃連越幾斯ナリ。

黃連ハ臭氣ナク味極メテ苦シ之ヲ嚼メバ唾液ヲ黃色ニ染ム。
(成分) 重要成分ハ「ベルベリン (Berberin)」ニシテ其含量大約八%ニ至ル、故ニ又黃連ハ「ヒドラスチス根」ノ條下ニ掲ク

● 莨菪根

Rhizoma Scopoliae. Radix Scopoliae.

(基原)

莨菪根ハ茄科ニ屬スル *Scopolia japonica* Max. (莨菪和名はしりごころ)ノ

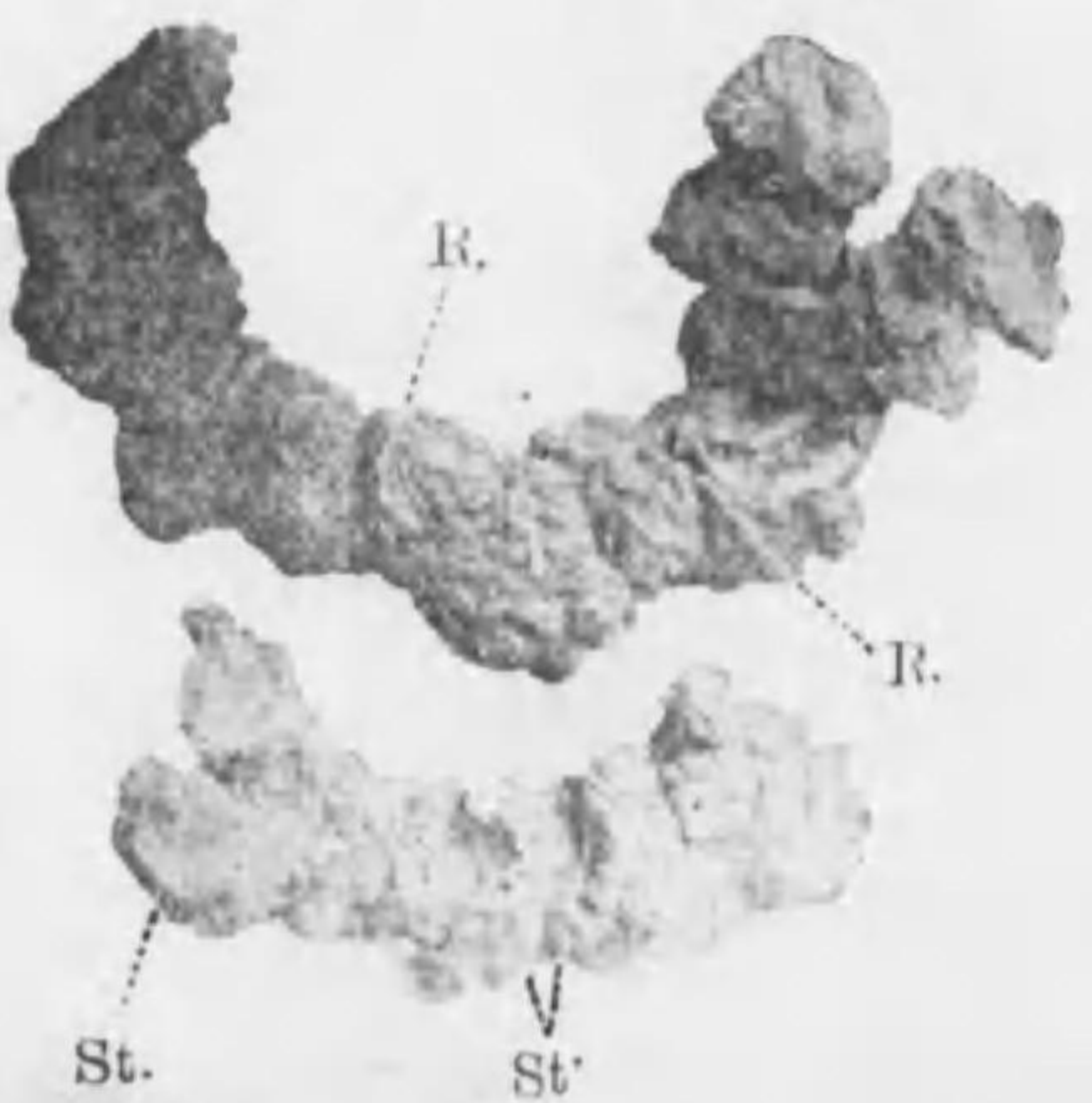
(獨) *Scopoliawurzel.*
(英) *Scopolia root.*
(佛) *Racine de scopolia.*

根莖ナリ、本邦甲州、武州、秩父郡、武甲山、信州、御嶽山、麓、江州、伊吹山等ニ産ス、明治二十年藥學博士長井長義及エ・シ・ミットノ兩氏其アトロピン及ヒオスチアミンヲ含有スルコトヲ檢覈セシヨリ以來、ベラドンナ根ニ代用シテ妨ケナシトスルニ至レリ而シテ已ニ日本藥局方ニ於テモ第一板已來之ヲ收載セリ。
(形狀) 莨菪根ハ略、球圓形ノ根莖ニシテ長サ大約一五cm太サ二cmニ至リ多

圖七十七百第



圖八十七百第

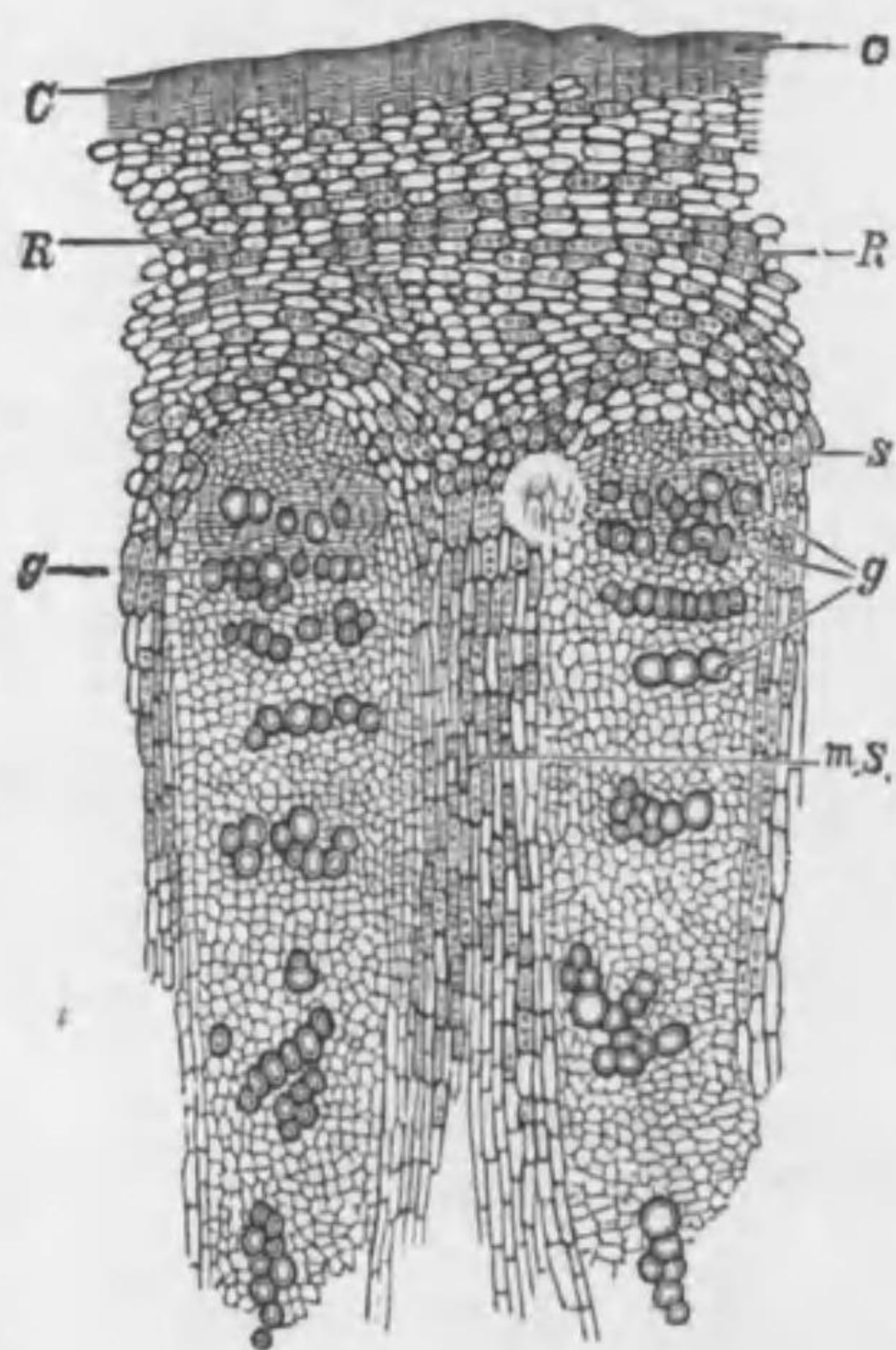


少彎屈シ外面ハ灰褐色ニシテ皺縮シ結節狀ニ絞扼セララル(第百七十八圖ノR)是レ年々發育シタル支節トス其支節ノ上側ニハ必ス皿形ノ凹窩(第百七十八圖ノSt)ヲ帶フ是レ枯死セル莖痕ナリ之ヲ水ニ浸漬シテ膨脹セシムルトキハ莖痕ノ上邊ニハ輪線ヲ帶ヒ其下側ニハ略輪列セル根痕ヲ見ル破折面ハ顆粒狀ニシテ横斷面ハ類白色ヲ有ス皮部ハ甚タ薄ク直徑ノ大約十分一ニ過キス木部ハ黃色ニシテ半徑ノ方向ニ排列シ廣キ髓線アリテ其間ヲ通過ス髓ハ甚タ巨大ナリ。

第百七十七圖及第百七十八圖ハ坊間ニ販賣セル莨菪根ノ自然大寫真圖ニシテ第百七十八圖ノ(R)ハ輪節ノ絞扼部、(St)ハ皿狀ニ凹陷セル莖痕ナリ。

(顯微鏡的構造) 顯微鏡ヲ以テ檢視スレバ横斷面ニ於テハ胞層ハ數列ノ褐色細胞ヨリ成リ之ニ連接セル外皮部即チ第一期ノ皮部ハ觸線ノ方向ニ延長セル細胞ヲ以テ組成セラレ之ニ次ク所ノ内皮部(第二期ノ皮部)ノ組織ハ圓形ノ細胞ヨリ成リ新生組織ニ近接セル部ニハ頽敗セル篩狀脈管筈在ス木部ニ於テハ黃色ヲ帶フル脈管數次排列シ其脈管ノ間ニ於ケル木部ノ細胞ハ略方形ヲナシ髓線ハ數列性ニシテ半徑ノ方向ニ延長セル方形ノ細胞ヨリ編成

第百七十九圖



セラレ髓ハ圓形多角性ノ細胞ヲ以テ組成セララル以上ノ諸組織ヲ成セル細胞ハ甚タ非薄ニシテ殆ント胞間ヲ存セス密ニ澱粉ヲ包裹ス。

第百七十九圖ハ莨菪根横斷面ノ一部ヲ強ク廓大セルモノニシテ(C)ハ、胞皮層(R)ハ外皮部ノ細胞、(S)ハ篩管部(内皮部)、(g)ハ脈管(m.S)ハ髓線ナリ。

莨菪根ハ殆ント臭氣ナク味苦シ。

(成分) 莨菪根ノ有効成分ハ Atropin (C₁₇H₂₃NO₃) ニシテ側ラ「アトロピン」ト同質異性體ナル Hyoscyamin ヲ含ム其他 Scopolatin ト稱スル藍色螢石彩ヲ呈スル所ノ物質ヲモ含有ス。

(應用) ペラドンナ根ニ同シク麻酔鎮痛藥トシテ用ユ用量亦之ニ均シ、日本藥局方ノ製劑ハ莨菪越幾斯酸ニ此越幾斯ヲ以テ製スル莨菪標劑及莨菪硬膏ナリ、前日本藥局方ニ於テハ莨菪草ヲ

以テ越幾斯ノ原料トナシタレトモ第三改正ニ際シ莖若根ヲ取ルコト、ナセリ蓋シ莖若草ハ新鮮ナルヲ要スレトモ之ヲ得ルコト難キニ由ルモノナラン、獨逸、米國、奧國、佛國ノ諸藥局方ハ皆葉ヲ以テ越幾斯ヲ製ス(但シ流動越幾斯ニハ根ヲ取ル)只英國ノ越幾斯ハ流動越幾斯ヨリ轉製スルモノナルガ故ニ共ニ根ヲ取レリ、本邦自然生ノ莖若根ハ越幾斯等ニ應用セラル、モノ甚タ少ナク、現今ハ多量ニ(恐ラケハ)アトロピン及ヒオスチアミンヲ製スルノ原料トシテ獨逸ニ輸出ス。

● 纈草根 Rhizoma Valerianae, Radix Valerianae.

(基原) 太古希臘人及羅馬人ハ纈草ヲ *Plut* ト稱セリ而シテ *Valeriana* ナル羅匈語ハ蓋シ *Baldrian* ナル獨逸語ニ基因スルモノナラン。

歐洲ニ於テ使用スル纈草根ハ *Valeriana officinalis* L. ニ基原シ此植物ハ敗醬科 (*Valerianaceae*) ニ屬シ歐洲ノ全地及中央亞細亞ニ産ス、之ヲ培植スル地ハ獨逸ノチューリンゲン州、和蘭、英國、北米東北ノ諸地トス。

(形狀) 纈草根ハ數年ノ後其莖幹ノ基礎部ニ短キ根莖ヲ生スルモノニシテ此根莖ハ中央ニ肥大シ下端ニ至ルニ從ヒ漸ク狹隘トナリ上端ニ幹莖ヲ戴ク其成長スルニ從ヒ下端ハ漸次腐朽シ太サ一 cm 長サ其二倍以上ニ發育スルコトナシ故ニ纈草根ハ其肢節甚タ短ク顯著ナラザル輪節ヲ有ス根莖ノ周圍ニ

(獨) Baldrianwurzel.
(英) Valerian root.
(佛) Racine de Valériane.

第 百 八 十 圖



ハ多數ノ根副根ヲ發生シ又走根ヲ出タス是レ藥用上ノ首要部トス而シテ走根ハ繁殖ヲ保續スルノ機能ヲ有シ尖端ニ葉芽ヲ出シ其腋部ニ根ヲ發生シ主根莖及副根ノ枯死スルニ從ヒ新タニ根莖ヲ發生シ更ニ反復前期ノ生活ヲ營ムモノトス。

坊間ニ販賣スル纈草根ハ長サ大約二 cm、太サ一 cm ノ根莖ヨリ成リ外部ハ暗褐色ニシテ不明ナル輪節ヲ有シ其周邊ニハ長サ往々三 dm ニ至リ太サ二 mm ニ過キササル副根ヲ密生シ間、又走根ノ殘基ヲ附着セルモノアリ而シテ坊間ノ品ハ多クハ其根莖ヲ縱割セリ、第百八十圖ハ坊間ニ行ハル、歐産纈草根ノ自然大寫真圖ニシテ根莖ニ副根ノ密生セルモノナリ。

纈草根莖ノ横断面ハ圓形ナラス褐色

ヲ有シ角質様ノ光澤ヲ帶ヒ皮部ハ狹ク暗色ノ新生組織線ニ由テ木心ト分割セラレ、木心ハ隔離シテ排列セル脈管束ヲ有シ其中央ニ著大褐色ノ髓心ヲ擁繞ス、髓心中ニハ屢々間隙ヲ存シ之カ爲メ其縱斷面ニ間、橫房ヲ見ルコトアリ、副根ノ橫斷面ハ圓形ニシテ皮部ハ木心ヨリモ遙ニ厚ク之ヲ水ニ浸漬スルトキハ膨脹シテ殆ント木心ニ四倍スルニ至ル而シテ皮部ハ木鞘ニ由リ不明ノ髓心ヲ有スル木心ト區別セラレ、走根モ亦副根ニ於ケル如ク其皮部木心ヨリ厚ク木鞘(内上皮)ニ由テ木心ト區分セラレ木心ノ中央ニハ厚サ大約皮部ニ三倍セル髓心ヲ存ス、根莖及副根ノ組織中ニハ殊ニ其外皮部ニ近接セル部位ニ於テ揮發油ヲ蘊蓄セル細胞細ヲ符在シ其油細胞ハ周圍ノ細胞ヨリ著大ナラス、又諸組織中ニ細小ナル澱粉ヲ包藏ス、顯草根ハ特異峻烈ノ臭氣ト微苦芳香性ノ

圖一十八百第



圖二十八百第



味ト有ス而シテ其臭氣ハ顯草根ノ乾燥セラレタル後殊ニ著シク發生ス而シテ日光ヲ受クル乾地ニ培植セルモノハ就中其香氣ニ富ム。

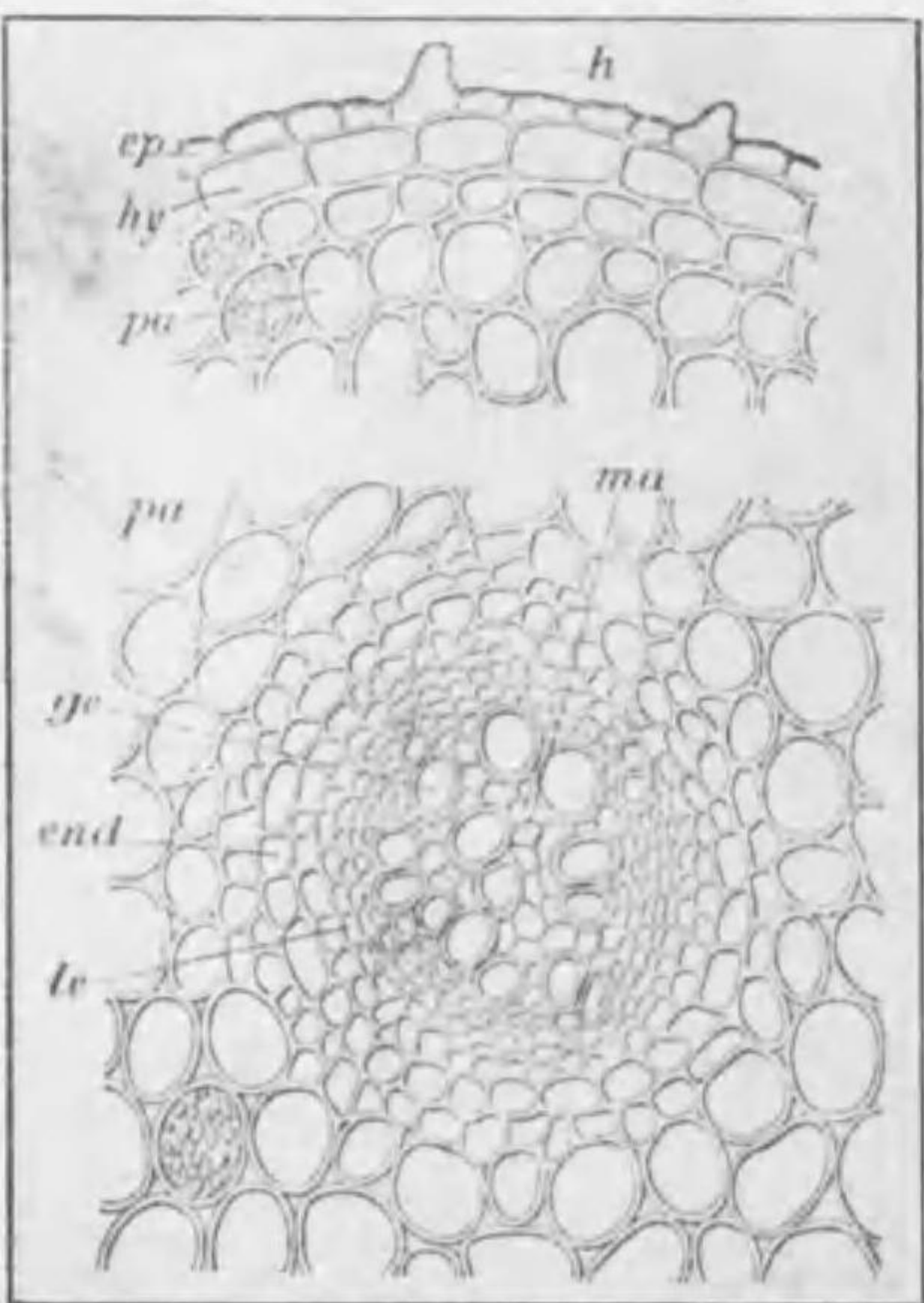
第百八十一圖ハ根莖ノ縱斷面ヲ示シ(c)ハ皮部(b)ハ新生組織(a)ハ髓心トス、第百八十二圖(A)ハ水ヲ以テ軟化セル走根ノ橫斷面(B)ハ同様ナル副根ノ橫斷面ニシテ共ニ三倍ニ廓大視セルモノヲ示シ其(c)及(e)ハ皮部(b)ハ木鞘(a)及(d)ハ髓心トス。

(顯微鏡的構造)

第百八十三圖

ニ示ス所ノ顯草根ノ上皮(ep)ハ屢々隆出シテ

圖三十八百第



(Gilo 氏ニ據ル)

根毛(h)ヲナシ之ニ次ク下上皮(hy)ハ巨大ナル細胞ノ一層ヨリ成リ其下部ノ組織中ニハ揮發油ヲ含ム細胞アリ、其次ニ位スルモノハ多量ノ澱粉ヲ含有スル第一期皮部(pu)ノ廣層ヨリ成ル、中央脈管束ノ内上皮(end)ハ薄壁性細胞ヨリ成リ外皮細胞ト區別シ難シ中央ニハ髓組織(mu)ニシ

ヲ見ル而シテ(ge)ハ脈管、(le)ハ篩管トス、此顯微鏡圖ハ顯草根橫斷面ノ一部ニシ

テ上者ハ皮部下者ハ中軸ヲ通シタルモノナリ。
 本邦産薺草根ハ薺草即チ *Valeriana officinalis* L. var. *angustifolia* Miq. ノ根ヲ根莖ト
 共ニ採集セルモノナリ而シテ此生藥ハ專ラ仙臺地方及神奈川縣下ヨリ出タ
 ス是レ亦歐洲産ト併用スルヲ得ベシ。

第百八十四圖



本邦産薺草根ハ
 長サ大約二cm太
 サ大約一cmニ至
 ル根莖ヨリ成リ
 其根莖ハ歐洲産
 ニ比シ遙ニ小ニ
 シテ上部ニハ莖
 及葉ノ殘基ヲ戴

キ其周圍ニハ太キ大約二mm長サ二dmニ至リ褐色ニシテ木質様ナラザル根ヲ
 密生ス根莖及根ノ形狀ハ歐洲産ト異ナルコトナシ、第百八十四圖ハ其自然大
 寫真圖ナリ、此薺草根ハ歐洲産ト異ナル特異ノ香氣ヲ有ス薺草根ハ春或ハ秋

ノ初期ニ採集スルヲ佳トス。

(成分)

歐洲産薺草根ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スルトキハ其百分ニ付キ平均揮

發油(薺草油)一〇%ヲ得然レトモ濕地ニ培植セル根ハ薺草油ノ含量稍少ナシ
 薺草油ハ類黄色或ハ綠色ヲ有シ微ニ酸味ヲ帶ヒ大氣ニ觸ルレバ脂化シ不快
 ノ臭氣ヲ發スルニ至ル分極光線ノ平面ヲ左旋シ其十五度ノ温ニ於ケル比重
 ハ〇・九三乃至〇・九四トス同容量ノ酒精(九十%)トハ澄明ニ混和ス而シテ薺草
 油ト Terpen (C₁₅H₂₄) 即チ Pinen 及 Kamphen ノ傍ラ恐クハ Terpinol 同一ナルアル
 コホル體及結晶性ニシテ C₁₅H₂₄O₂ ナル集成ヲ有スル左旋龍腦ヲ含ム、其他薺
 草油ハ大約三百度ノ温ニ於テ餾出スル暗藍色ノ揮發油分及上記ノ「ボルネオ
 ール」ト蟻酸・醋酸・酪酸・薺草酸トノ複性エーテル(エステル)ノ二三%ヲ含有ス、此
 エステルハ薺草根ヲ乾燥セシメ或ハ永ク之ヲ貯藏スルノ際分解スルガ故ニ
 其時日ヲ經タルモノニ水ヲ加ヘテ蒸餾スルトキハ酸性ノ餾液ヲ得而シテ又
 此等ノ「エステル」ハ苛性アルカリニ逢フトキハ分解シテ其酸ノ「アルカリ鹽」ト
 ナルガ故ニ更ニ之ニ硫酸或ハ磷酸ヲ加ヘテ蒸餾スレバ游離ノ酸ヲ得此酸ハ
 即チ他ノ植物中ニモ發現シ又人工ヲ以テ「アミールアルコホル」ヨリ製出スル

ヲ得ヘキ 纈草酸 (イソ 纈草酸) $(\text{CH}_3 \text{>} \text{CH}-\text{CH}_2-\text{COOH} = \text{C}_6\text{H}_{10}\text{O}_2)$ トス 然レトモ 其含有量ハ甚ダ些少ニシテ 纈草油百分中僅々其二三%ヲ含有スルニ過キス、纈草酸ヨリ揮發油ヲ縮取セル殘渣中ニハ 夥シク 林檎酸及糖ヲ含有ス。

纈草根及油ノ有効成分ハイソ 纈草酸ボルネオールエステルナリ。
本邦産 纈草根ハ水ト共ニ之ヲ蒸餾スルトキハ揮發油大約六%ヲ得此揮發油 (纈草油)ハ比重〇・九九〇ニシテ百七十度ト三百五度トノ間ニ蒸餾ス其成分ハ左旋 Pinen 又 Dipenten ナル Terpen. 龍腦・Terpinol 龍腦ノ 醋酸及 纈草酸エステルトス而シテ主要ナル成分ハ大約三百度ニ於テ沸騰シ濃厚ノ液體ヲナセルケツシールアルコホルノ 醋酸エステル (Kossylacetat, $\text{C}_{11}\text{H}_{20}\text{O}_2 \cdot \text{C}_2\text{H}_5\text{O}$) ナリ其他亦少量ノ一半テルペン ($\text{C}_{10}\text{H}_{18}$) 及藍色ノ揮發油分ヲ含有ス。

(應用)

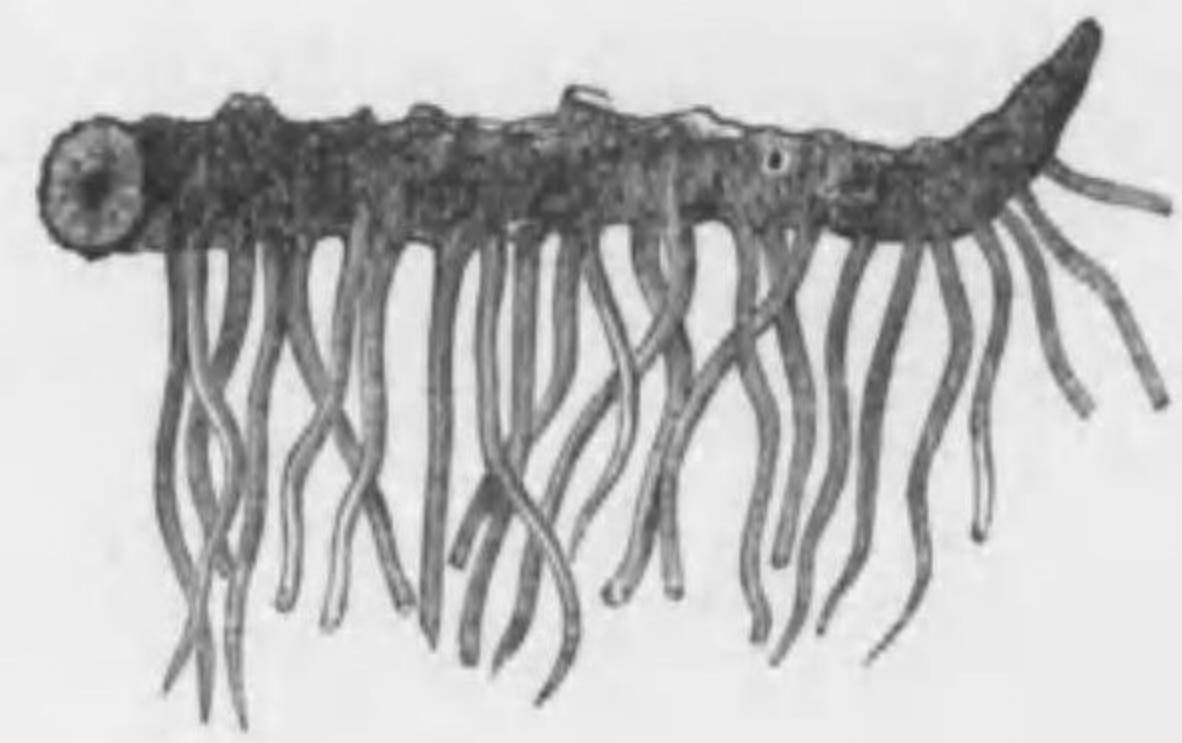
比斯的里其他ノ神經病ニ對シテ婦人ノ鎮痙藥トシテ用ユ多クハ浸劑トナシ又ハ丁幾トナス 纈草根ハ 鐵葉鐵ニ容レ貯藏スルヲ佳トス 藥局方ノ製劑ハ 纈草丁幾ナリ。

●アルニカ根 Rhizoma Arnicae. Radix Arnicae.

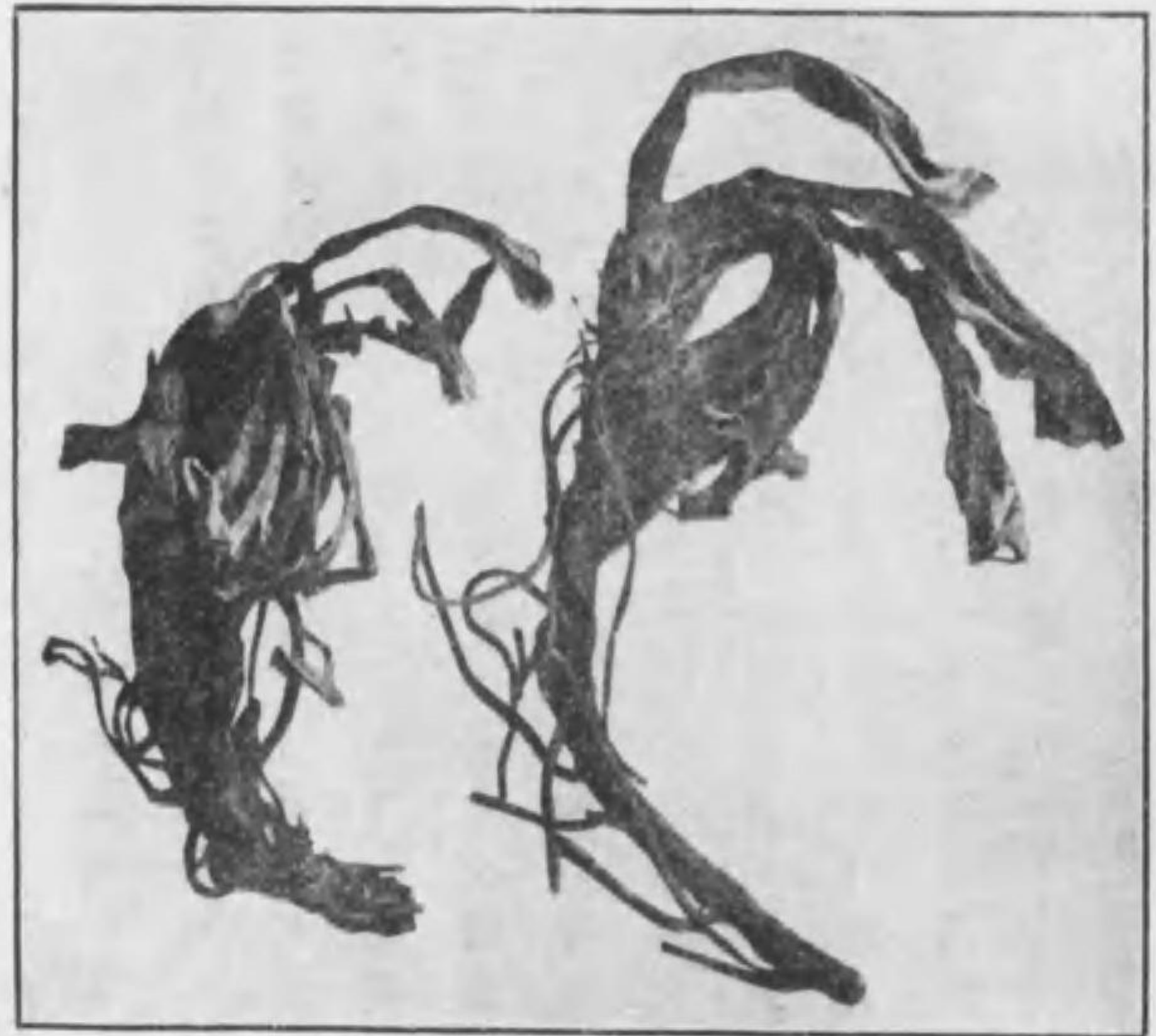
(基原) アルニカ根ハ千五百年代及千六百年代ニ當リ獨逸國ニ於テ始メテ

(獨) Bohnwurzel.
(英) Arnica-root.
(佛) Racine d'arnica.
アルニカ根

第百八十五圖



第百八十六圖

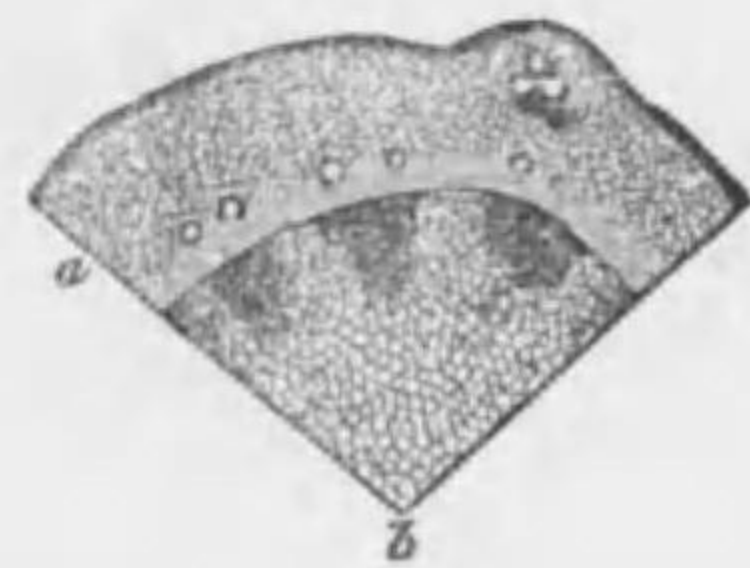


醫藥用ニ供セリ其母植物ハ菊科 (Compositae) ノ分科管狀花科 (Tubuliflorae) ノ宿根草 Arnica montana Linn. ニシテ北半球ノ中部及北部ヲ通ジテ山嶺中稍温暖

ノ高地及高緯度ノ地方ニ於ケル低地ニ生ス但本邦ニハ之ヲ産セス。

(形状) アルニカ根ハ地平形ニ偃生セル根莖ニシテ太サ五mmニ至リ外面帯赤褐色ヲ有シ短キ縦溝ヲ帯ビ黑色ノ葉痕ニ由テ密ニ輪節ヲ現ハシ而シテ其交錯點ニ於テハ爲メニ小ナル堅實ノ結節ヲ生ズ、莖幹ノ枯死セル根ニハ深痕ヲ遺ス、其質硬ク下面ニハ細根ヲ生ス、其横截面ハ圓形ニシテ皮部ハ髓ヨリモ迥ニ狭ク一部分ハ肉眼ヲ以テ見ルベキ多數ノ「バルサム」竇アリ、髓部ハ廣ク黄色ノ脈管束アリテ其周邊ニ環列ス。

圖七十八百第



第六圖ハ其藥品市場ニ行ハル、モノ、自然大寫眞圖トス而シテ**第百八十七圖**ハ「アルニカ根横截面ノ十倍廓大圖ニシテ其(a)ハ皮部、(b)ハ髓心ナリ。

アルニカ根ハ香氣微弱ナリ、味ハ芳香性ニシテ苦シ。

(成分) アルニカ根ノ主成分ハ揮發油(一%ニ至ル)、無晶形ノ苦味質即チ「アルニチン(Arnitin)」樹脂及イヌリン(Inulin)ナリ。

(應用)

興奮劑ナリ然レトモ今ハ多ク用キス、藥學部方ニハ「アルニカ丁」幾アリ。

●セルペンタリア根 Rhizoma Serpentariae.

(基原) セルペンタリア根ハ馬兜鈴科(Aristolochiaceae)屬 Aristolochia Serpentaria L.ノ根莖ヲ根ト共ニ採集セルモノニシテ北米フロリダ州ヨリミシシッピー河ニ至ルノ諸地ニ産ス。

(形状) 本品ノ根莖ハ長サ二十五cm太サ三mmニ至リ稍球根狀ヲナシ上部ニハ殘莖ヲ戴キ下部ニハ甚ク細キ多數ナル根ヲ着ク横断面ニ於テハ小ナル扁心性髓ヲ現ハシ、木部ハ放線狀ヲ呈シ皮部ハ甚ク狭シ根ハ小ナル第一期脈管束ヲ存シ顯著ナル木鞘エンペラムヨリ圍繞セラレ皮部ハ厚シ。

圖八十八百第



第百八十八圖ハ本品ノ横断面ヲ廓大示ス其(m)ハ髓心(m8)ハ髓線、(b)ハ木部、(c)ハ皮部トス。

(成分) 本品ハ之ヲ水ト共ニ蒸餾スルトキハ揮發油(Oil-cum Serpentariae)一乃至二%ヲ得、此揮發油ハ類草油ニ類スル香氣ヲ有シ此中

アセル (獨) Schlangenwurzeln.
セル (英) Snake root.
セル (佛) Souche de serpentarie.

ヨリ確實ニ檢出セラレタルモノハ只龍腦 （龍腦ニイフ） C₁₅H₁₀O ノミ。

(應用) 本品ハ專ラ米國ニ於テ食慾ヲ増進スル藥品トナシ又ハ瘰癧扶斯又ハ他ノ熱性病ニ與
蓄藥トシテ用ヰラレタレトモ獨乙ニ於テハ目下粉ト廢棄ニ歸セ。一日數回〇・五乃至一・五ヲ浸劑
或ハ酒精浸劑トシテ與フ。

● 商陸 Radix Phytolaccae.

(獨) Phytolaccawurzel.
(英) Phytolacca root.
(佛) Racine de Phytolacca.

(基原) 商陸ハ商陸科 (Phytolaccaceae) ノ植物 Phytolacca acinosa *Forst.* var. *esculenta* *Martin.* ノ根莖ニシテ從來使用セル漢藥ノ一ナリ、本邦隨處ニ産スレトモ坊間ニ販賣スル品ハ多ク山城地方ノ産トス、歐洲ニ産スル *Phytolacca esculenta* *Miq.* 及 *Phytolacca dioica* *L.* 及北米及南歐ニ産シ且ツ又北米合衆國藥局方ニ掲クル *Phytolacca decandra* *L.* ハ本條ノ商陸ニ換用スルヲ得ヘキヤ否ヤ仍ホ不明ニ屬ス、米國ニテハ後者ヲ變質藥及催吐藥トシテ使用セリ。

(形狀) 商陸ハ長サ十cm 厚サ三乃至七mm 廣サ七cm ニ至リ彎曲ス縦截面ハ汚白色ヲ有シ隆起セル線條アリテ略並行ニ排列シ左右ノ兩側面ハ帶赤類白色ノ外皮ヲ被リ往々横切片或ハ不整形ノ切片ヲ混有スルコトアリ其横切片ハ

圖九十八百第



圖十九百第



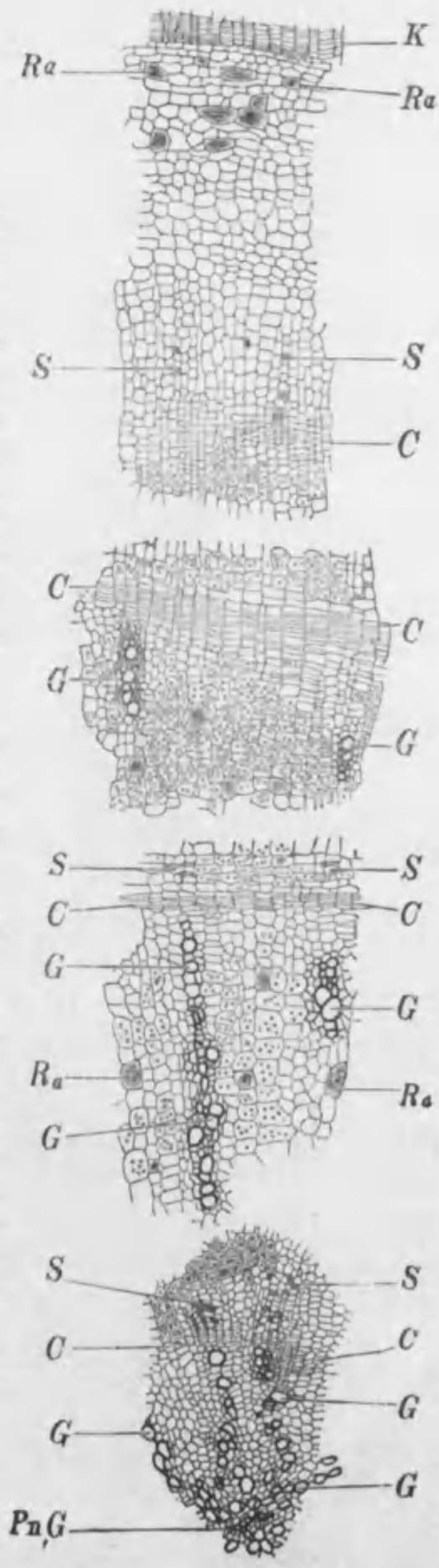
彎曲シ隆起セル輪層アリ、**第百八十九圖**ハ商陸ノ自然大寫真圖ニシテ左方ニ其自然大横截面ヲ示ス。

商陸ハ柔軟性ニシテ破折シ難シ内部ハ白色ニシテ粉性ナリ殆ト臭味ナシ。商陸ハ横断面ニ於テハ**第百九十圖**ニ於テ見ルベキ如ク輪層ヲ現ハシ又縦断面ニ於テ略並行ニ排列セル線條ヲ見ルハ本來ノ新生組織ノ外邊ニ向テ漸次ニ多數ナル新生組織ヲ生ズルニ因ル故ニ此同心性ノ新生組織中外邊ニ位スル者ハ最モ幼稚ナリ、**第百九十圖**ノKハ胞層ニシテGRハ脈管束輪ニ由ル隆起

線ナリ。

(顯微鏡的構造) 商陸ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ外部ハ多列ノ細胞ヨリ成レル胞層ヨリ圍繞セラレ**第九十一圖**(K)其内部ニ位スル各新生組

第九十一圖



織ハ外方ニ向テハ篩管部ヲ造リ内方ニ向テハ脈管部ヲ形成ス而シテ各新生組織ヨリ生スル脈管ハ略半徑ノ方向ヲ取リテ排列シ中心ニハ脈管ノ集團スルヲ見ル各細胞中ニハ夥シク澱粉ヲ包藏シ又組織中處々ニ束狀ノ結晶糖酸カルチウムヲ包裹セル細胞ヲ存ス。

第九十一圖ハ本品ノ横断面ニシテ其Kハ胞層、Sハ篩管部、Cハ新生組織、Gハ脈管部、P、Gハ中心ニ於ケル始生脈管部、Raハ束狀結晶ナリ。

本條ノ商陸ハ牛皮消根(生馬)ト混視ス可カラズ、牛皮消ハ全ク異種ノ植物ナリ即チ牛皮消根ハ蘿藦科 Asclepiadaceae 所屬ノ植物、牛皮消(いげき) *Gynandrium candatum* Maximノ根ニシテ新潟縣下及北海道地方ヨリ出ツ、牛皮消根ハ太サ4cmニ至リ大約七乃至八cmニ切斷シ太キモノハ通常縱



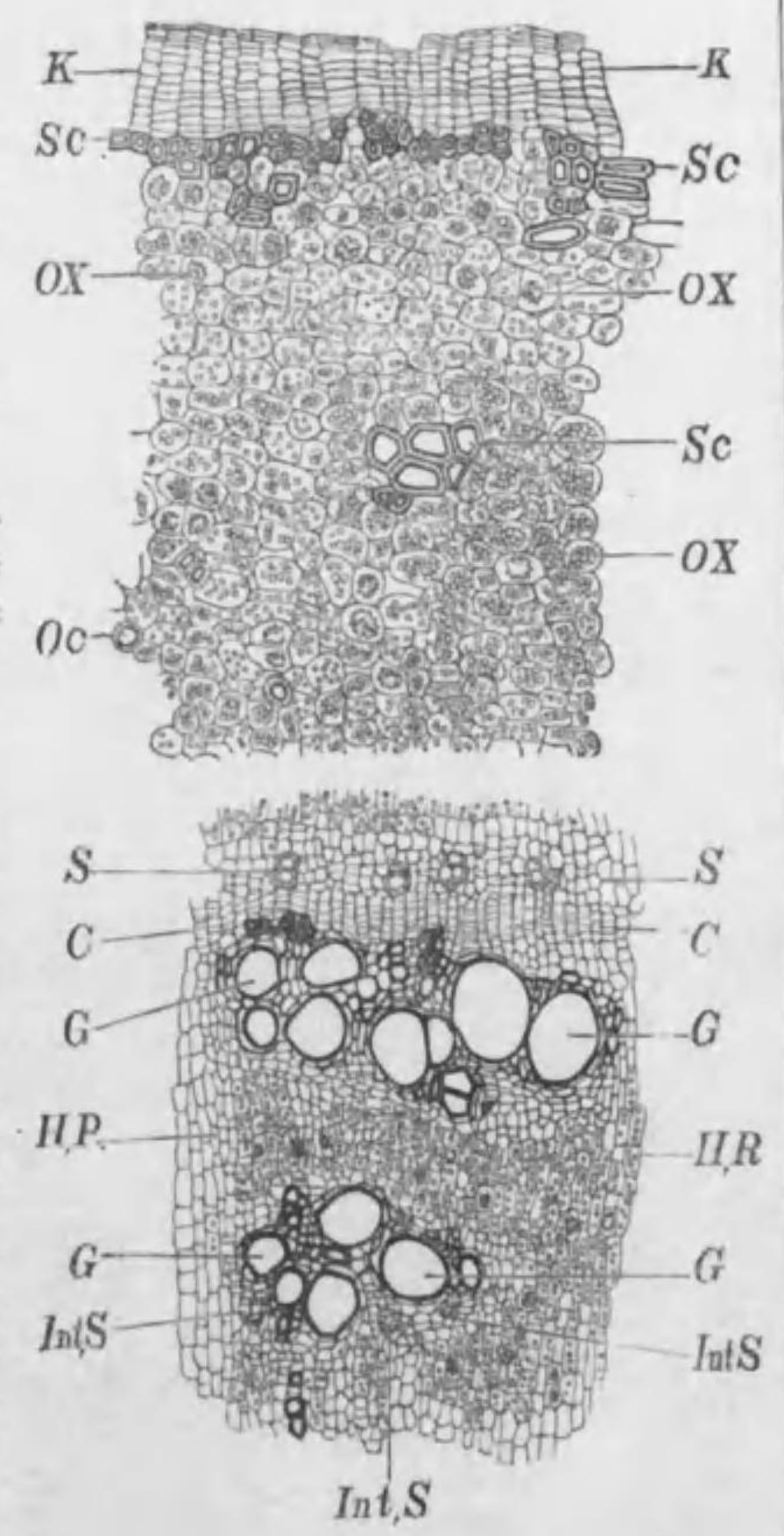
第九十二圖

トモ商陸ノ粉末ハ然ラズ**第九十二圖**ハ本品ヲ自然大ニ示ス(A)ハ横断面(E)ハ外表ノ形狀ナリ**第九十三圖**ハ本品ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セル狀ニシテ其(K)ハ胞層、(Sc)ハ石核細胞、(Ox)ハ糖酸石灰結晶、(S)ハ篩管部、(C)ハ新生組織、(G)ハ脈管部、(H)ハ木細胞組織、(Pn)ハ髓線、(Int, S)ハ木部内篩管ナリ。

(應用)

商陸ハ漢藥ノ一ニシテ今チ利尿藥トシテ現代ノ醫流ニモ貯用セララル、ニ至リタルヲ以テ日本藥局方ニ商陸及其超量新テ收載スルコトナレリ、有効成分ハ未ダ詳ナラズ彼ノ *Digitoxin*

圖三十九百第



トシテ
知ラレタル
物質ハ牛皮
消根中ニ含
マレ却テ眞
ノ商陸故ニ
又越幾新中
ニハ含有セ
ラレザルガ
如シ本邦殊

ニ東京ノ生薬舖ニ於テハ從來牛皮消根ヲ商陸トシテ販賣シ醫家モ亦商陸ヲ應用スル場合ニハ實
際牛皮消根ヲ患者ニ與ヘツ、アルが如シ果シテ然ラバ從來商陸ニ由テ收メタリトスル醫効殊ニ
利尿作用ノ如キ之ヲ眞ノ商陸ニ歸スヘキヤ牛皮消根ニ歸スヘキヤ疑ハシトス將來仍ホ嚴正ノ研
査ヲ要スルモノナリ。

第五章 木類 *Ligna. Hölzer.*

●木トハ地上ニ現出セル植物本軸或ハ又雙子ノ新生組織ノ内部ニ位スル組織ニシテ其細胞ハ
髓線ヲ除クノ外大抵木化シ頗ル厚壁ヲ有シ甚ダ堅牢ナルモノトス。

●藥用ニハ多ク經タル被子植物或ハ被子植物ノ木類ヲ應用スルノミ藥用ノ目的ニハ皮部ヲ
除去シ或ハ皮部ト共ニ使用シ又其外邊ニ位スル最モ幼稚ナル部分(所謂木膚 *Spina*)ヲ剝除シ
テ用ユルコトアリ。

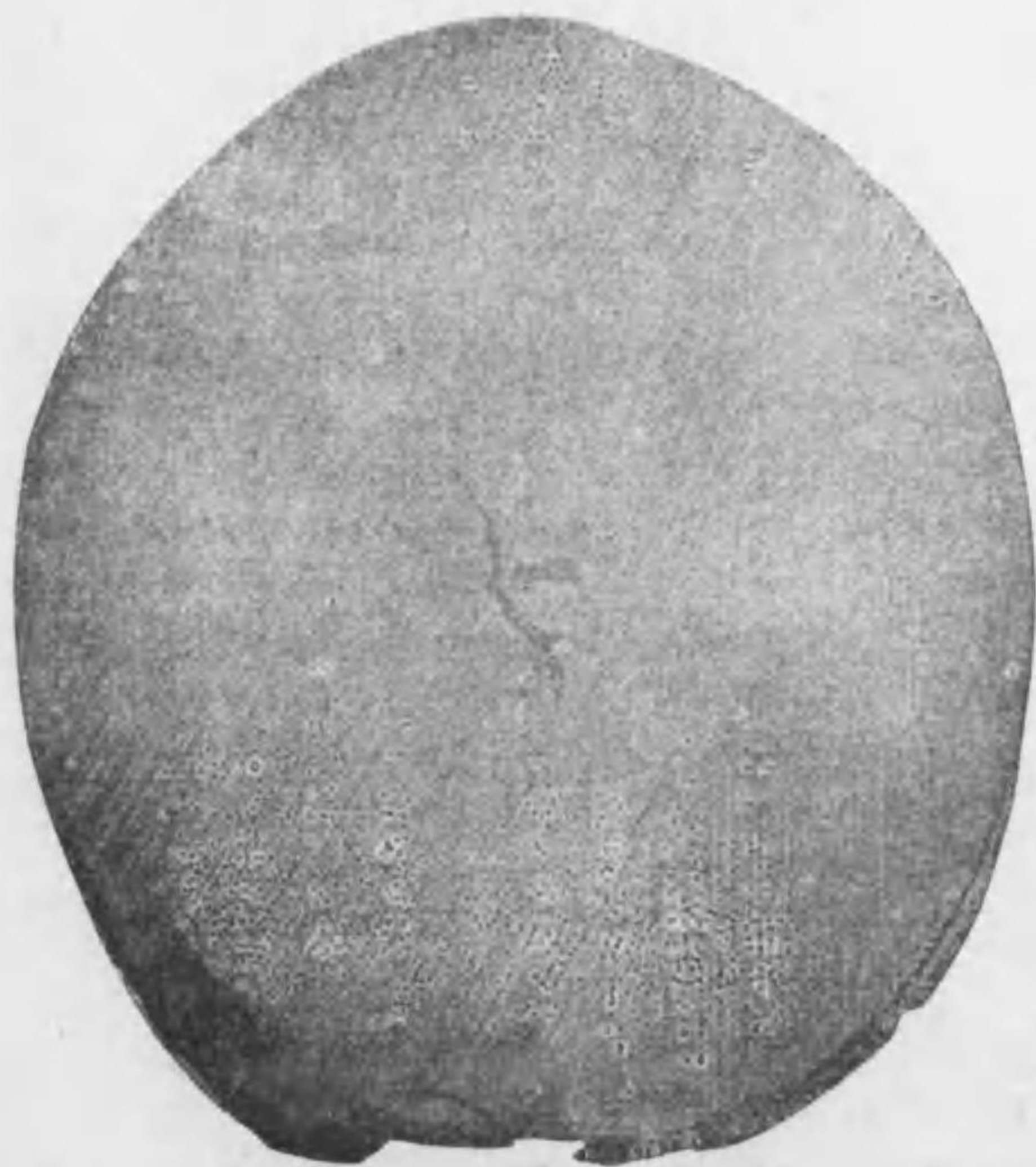
●クソツシア木及サツサフラス木ハ往々皮部ヲ帶フルモノアリ杜松木及癒瘡木ハ殆ント常ニ皮部
ヲ除去セリ染料ニ供スル種々ノ木類例之バ「ロククウッド」(*Lignum campechianum*)、蘇方木 (*Lignum
Peruvianum*) ノ一種)ノ如キハ色澤ヲ有セザル外部(木膚)ヲ除去シ其木心 (*Kernholz*) ナ市場ニ出タ
ス面シテ癒瘡木ハ木膚ヲ去ラズシ販賣スルヲ常トスレトモ其有効成分(癒瘡木脂)ハ只木心
ニ寄存ス。

●癒瘡木 *Lignum Guajaci.*

(基原) 癒瘡木ハ一千四百年代ノ終リニ西班牙人ガ西印度ハイチ島ノ西部
ニ位スルサントミンゴ島ニ殖民セシ後幾バクモナク歐洲ニ渡來シ獨乙ニ於
テハ一千五百十七年ニ至リ世人已ニ之ヲ知レリ癒瘡木ハ *Guajacum officinale L.*

(獨) Guajaholz.
(英) Pockwood.
(佛) Bois de Guaiac.

第百九十四圖



ナル瘧瘡科 (Zygophyllaceae) ノ植物ニ出ツ而シテ工業ノ目的ヲ以テ年々サント
ミンゴ島ヨリ輸出スル瘧瘡木ノ量ハ二百萬キログラムニ下ラズ又南米北部

ノ諸港ヨリモ輸出スレ
トモ其量稍少ナシ其他
北米フロリダ半島ノ東
南ニ位スルバハマ島ヨ
リハ *Guajacum sanctum* L.
ナル類似ノ木材ヲ輸出
ス

(形状) 坊間ニ販賣セ
ル瘧瘡木ハ巨大ノ幹木
ヲナシ其直徑往々三 dm
ニ至ルモノアリ又太キ
枝木アリ大抵皮部ヲ剝
除セリ、第百九十四圖ハ

本木横截面ノ寫真圖ニシテ約三分二ニ縮示セリ。
瘧瘡木ハ其質甚タ重ク均等緻密ノ紋理ヲ有シ割斷シ難キヲ以テ特異ノ性徴
トシ最モ器具等ノ製造ニ適ス、醫藥トノハ應用ノ便ヲ與ヘンガ爲メ細切シテ
販賣ス此木ハ主トシテ木心ヨリ成リ巨大ノ幹木ニ於テモ木屑層ノ厚サ僅々
三 mm ニ過キス、木心ハ帶綠褐色ヲ有ス、大ニ樹脂瘧瘡木脂ニ富ミ水中ニ投スレ

第百九十五圖

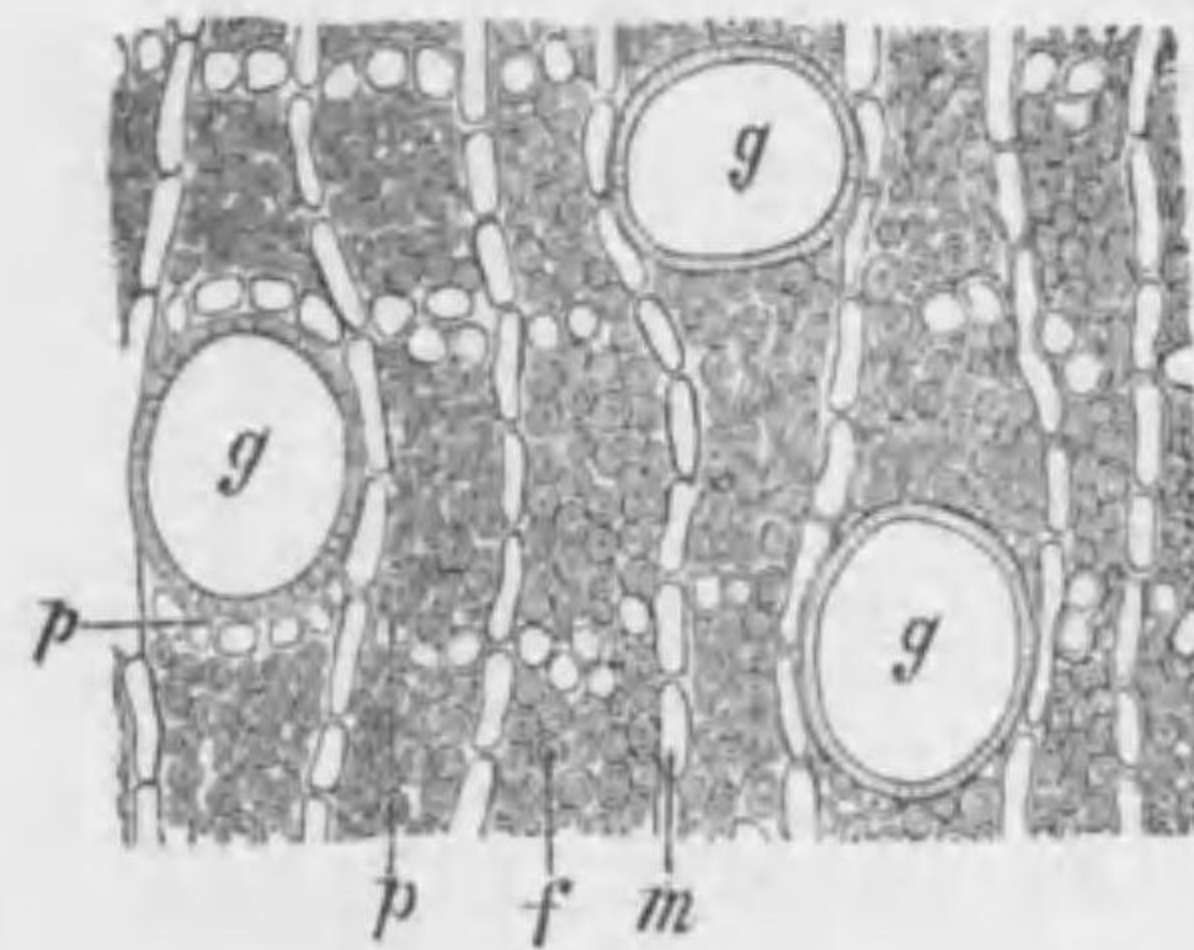


バ沈下ス、腐木ハ其色淡明ニノ樹脂ニ乏シ
ク水面ニ浮遊ス、瘧瘡木ノ横断面ニ於テハ
暗色ノ脈管簇ト狭キ不明ノ年輪ト交互ニ
排置セルヲ見ル、第百九十五圖ハ本木ノ横
断面ヲ示ス其(8)ハ腐木ニノ(6)ハ木心トス。

(顯微鏡的構造)

本木ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ髓線(第百九十六
圖)ハ廣サ一列高サ三乃至六層多クハ四層ニ其髓線ノ間ニ於ケル木條ハ
三乃至十五箇稀ニハ之ヨリモ多數ナル木纖維同圖)ヨリ成ル其木條中ニ存
スル脈管(7)ハ多クハ兩髓線間ノ全積ヲ占ム而シテ此脈管ハ間甚タ巨大ニシ
テ兩髓線ヲ左右ニ壓迫セルモノアリ木條ハ主トシテ厚壁性ノ木纖維ヨリ成

第百九十六圖



リ横断面ニ於テハ只一列乃至二列ヲナセル木パ
レンヒム(同圖 p)ヨリ斷歇セラレ而シテ木パレン
ヒムハ往々脈管ニ倚着セルモノアリ又其木パレ
ンヒムノ一部分ハ發育ノ不完全ナル糖酸鹽品ヲ
包藏ス、第百九十六圖ハ本木ノ横断面ヲ示ス(g)ハ
脈管(m)ハ髓線(f)ハ木纖維(p)ハ木パレンヒムトス
(百九十倍)。

本木ノ酒精浸出液ヲ蒸發シテ得タル殘渣ハ過ク
ロール鐵溶液ニ由テ藍色ヲ呈ス此反應ハ(グワヤ

コン酸 Guajakonsäure ニ基因ス(瘡瘡木脂ノ條ヲ見ヨ)。

瘡瘡木ハ芳香性ニシテ少シク苛辣ノ味ヲ有ス、之ヲ熱スルトキハ安息香ニ類
スル佳快ノ香氣ヲ放ツ瘡瘡木ハ其氣味顯著ナラス。

(成分) 木心ハ瘡瘡木脂(後ニ本條アリ)二十%以上ヲ含有スレトモ瘡瘡木ハ其
含量三%ニ過キス是レ木心ノ水中ニ沈下スル所以トス而シテ瘡瘡木脂ハ瘡
瘡木脂酸 $C_{27}H_{44}O_2$ 、グアヤコン酸 $C_{26}H_{42}O_2$ 、グワヤチン酸 $C_{27}H_{44}O_2$ 及瘡瘡木酸ト瘡

瘡木黃 $C_{26}H_{42}O_2$ 及瘡瘡木油トヨリ成ル。

(應用) 瘡瘡木脂トシテ應用シ煎劑トシテ與フ藥局方ニ於テハ瘡瘡木丁幾ヲ製スルニ用ユ又
瘡瘡木脂ヲ製スルノ原料タリ、木理緻密ニシテ美潔ナルガ故ニ歐洲ニ於テハ工業ノ目的ニ實用ス
目下殆ト藥用ニ供セラル、コト無シ。

●クワツシア木 *Tiguanum Quassiae.*

(來歴) クワツシア木ハ已ニ一千六百年代ノ終ヨリ歐洲ニ知ラレタレ、當時未
タ之ヲ顧ミルモノナカリキ、一千七百年紀ノ後半期ニ至リ其輸入漸ク増加セシ
ヨリ工業及醫藥ニ供スルニ至レリ、目下藥舖ニ販賣セル「クワツシア木」ニジャマイ
カ産スリナム産及日本産ノ三種アリ、日本藥局方ハ共ニ醫藥上ノ應用ヲ許ス。

(甲種) ジャマイカクワツシア木 *Tiguanum Quassiae jamaicensis.*

(基原) 此クワツシア木ハスリナム産ノ者ニ先タチテ工業諸用ニ供セラレ又
麥酒ノ釀造ニモ使用セラレタレトモ其醫藥ニ入りタルハ近ク千八百年代ノ
初メニ在リ。

ジャマイカ産クワツシア「ハ黄棟樹科ノ植物 *Picrasma excelsa Lindley* ナル大樹ニシテ
西印度ノ島嶼ジャマイカ、アンテクマ及セントウアンサン等ニ産ス而シテジャマイ

(獨) Quassiaholz.
(英) Quassia wood.
(佛) Bois de Quassia au Surinam.

クワツシア木

カ島ヨリ多ク輸出セララル、モノナリ。

(形状)

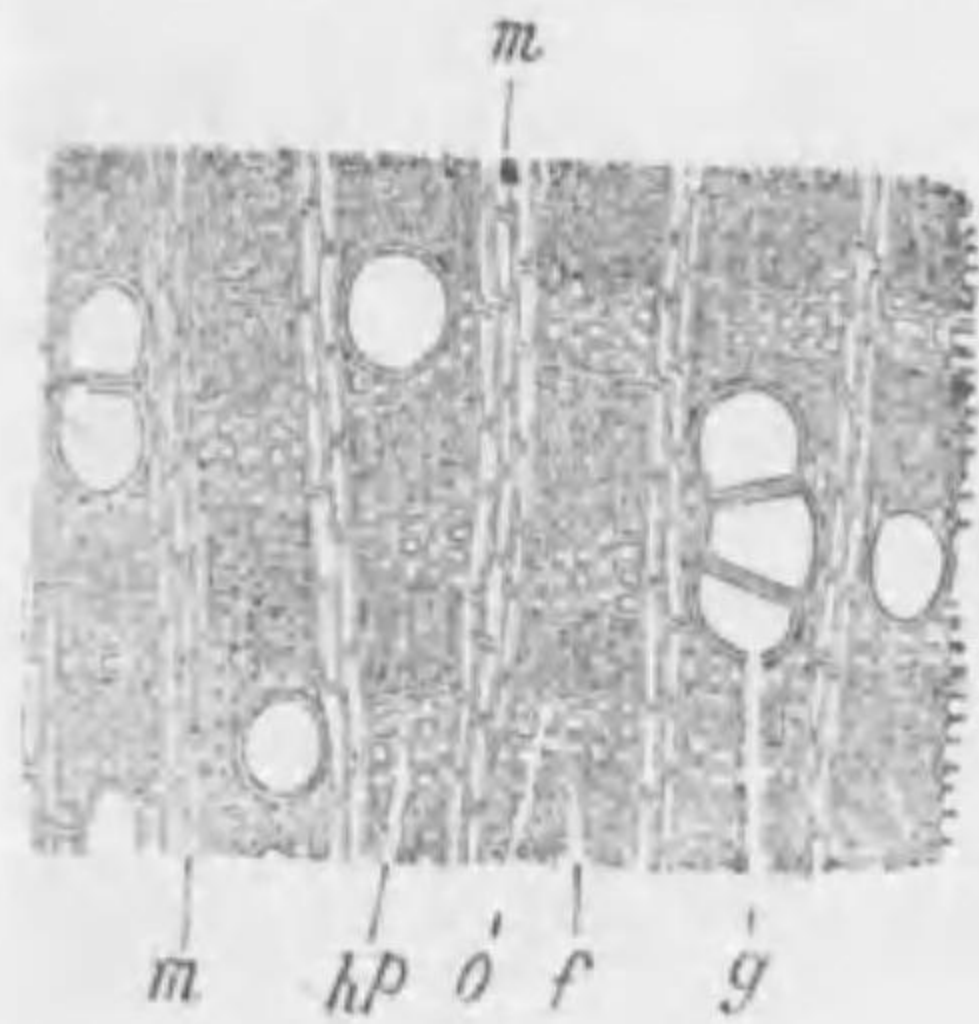
ジャマイカクワツシア木ハ太サ十cmニ至リ、皮ヲ被ムルモノアリ此クワツシア木ハ其質輕ク帶黄白色ヲ有シ横断面ニハ殆ト縦直ニシテ甚タ細微ナル

圖七十九百第



髓線ト淡明ニシテ細微ナル同心性ノ線條ヲ見ル此線條ハ脈管ト之ニ联接セル木パレンヒムノ一定ノ規律ヲ取テ排列スルヨリ來ル、第九十七圖ハ木木ノ横断面ヲ示ス、其(m)ハ髓線、(g)ハ脈管、(hp)及(hp)ハ木パレンヒムトス。

圖八十九百第



本木ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ髓線ハ廣サ二乃至五列ニシテ高サ概シテ十乃至二十五層トス木パレンヒムハ大約二乃至五列ヲナシ觸線性ニ配置シ左右ノ髓線ニ联接ス、木パレンヒム中ニハ巨大ナル單一ノ漆酸鹽品、第九十八圖(○)或ハ其砂狀品ヲ包藏スル細胞ヲ見ル、脈管ハ單獨ニ或ハ一箇乃至五箇相伴フテ木パ

レンヒム中ニ筈在シ或ハ之ニ連接シ、其各脈管ハ巨大ニシテ殆ト兩髓線間ニ於ケル全積ヲ占ム而シテ其髓線ノ間ニ於ケル木條ハ長形ノ木纖維ヨリ充填セラル、第九十八圖ハ木クワツシア木ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ其(m)ハ髓線、(hp)ハ木パレンヒム、(○)ハ漆酸鹽細胞、(g)ハ脈管、(f)ハ木纖維トス(六十五倍)。

(乙種) スリナムクワツシア木 Lignum Quassiae surinamensis.

(基原) 此クワツシア木ハ *Quassia amara* L. ノ幹木及枝木ヨリ成ル、本植物モ亦

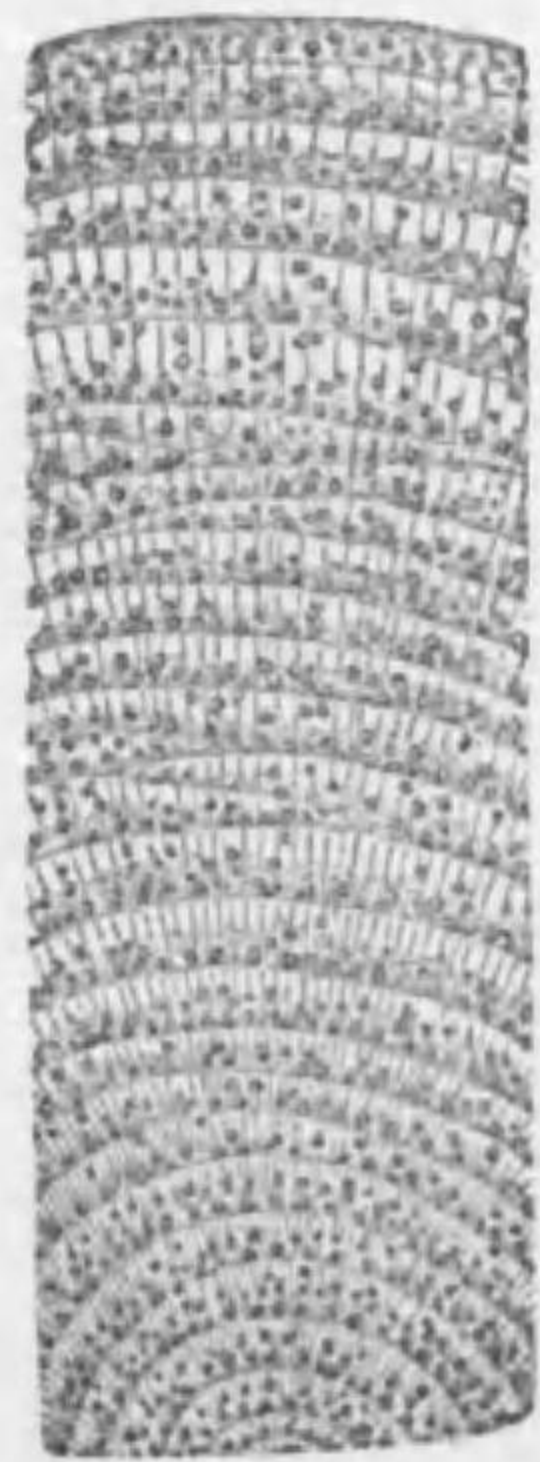
黄棟樹科ニ屬シ高サ三mニ至ル喬木或ハ灌木ニシテ三數葉或ハ二對奇性羽葉ヲ帶ヒ花ハ紅色鮮麗ニシテ葡萄狀花ヲナス、本種ハ専ラ南米和蘭領スリナムヨリ輸出ス。

(性状) スリナムクワツシア木ハ甲種ジャマイカ産クワツシア木ヨリ遙ニ細ク厚

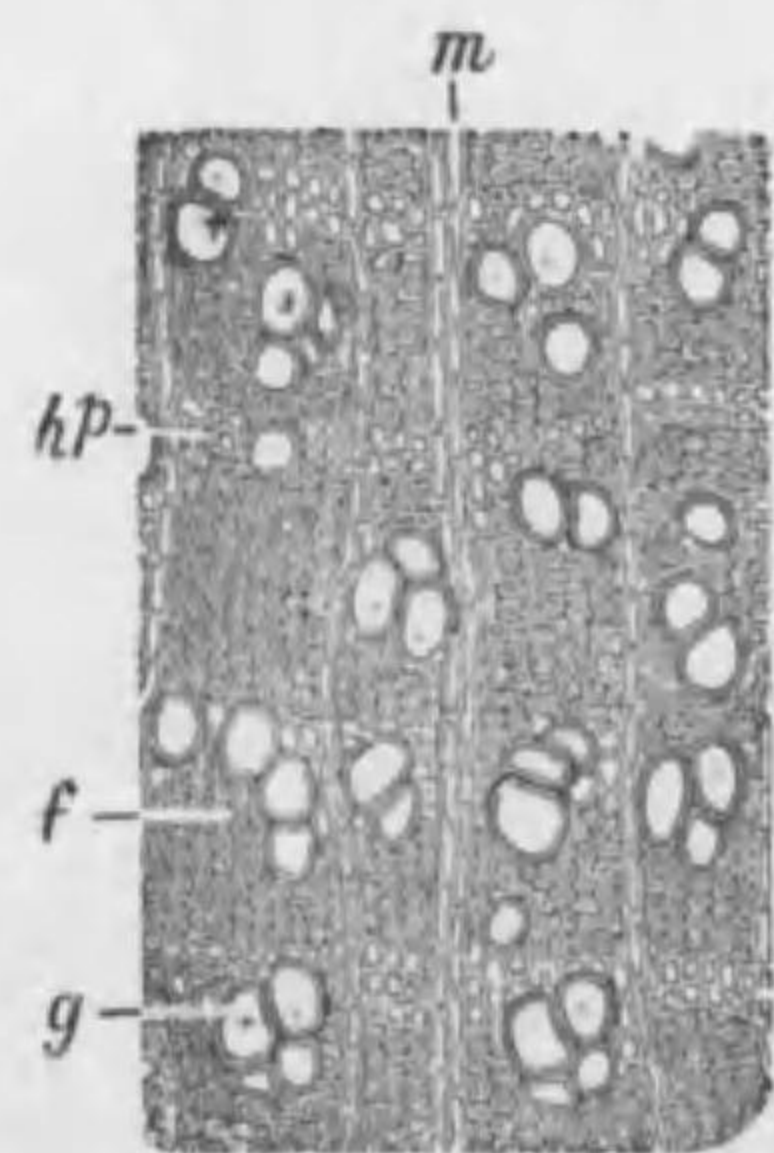
サ二mmニ過キササル皮ヲ着ク、本クワツシア木ハ其構造概シテジャマイカ産ト異ナルコト無シ只其諸細胞ハ細小緻密ニシテ髓線ハ概シテ一列ヲナシ二列ヲナスコトアレトモ稀ナリ高サ五乃至二十層木パレンヒムハ些少ニ存在ス脈管ハ比較的厚壁性ニシテ單獨ニ或ハ二箇乃至五箇相伴フテ存在シ其各脈管ハ

概シテ細ク僅ニ兩髓線間ノ半積ヲ占ムルニ過キササルノ差ヒアルノミ、本ク
ワツシア木中ニハ棓酸鹽ヲ發見セス、**第九十九圖**ハスリナム産クワツシア木ノ
シア木ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノニシテ其(m)ハ髓線、(hp)ハ木パレン
ヒム、(g)ハ脈管、(f)ハ木纖維トス(六十五倍)。

第九十九圖



第二百圖



横断面
ヲ示ス
第二
百圖
ハス
リナム
産クワ
ツ

(丙種) 日本クワツシア木 *Lignum Quassiae japonicae.*
(基原) 日本クワツシア木ハ本邦ニ産スル黄棟樹即チ *Pterisma quassioides* Bern.
ノ木ヨリ成ル余ハ本植物ヲ崎玉縣下比企郡玉川村附近、武州大宮、相州鎌倉横
須賀等ニ發見セリ本植物ハ或ハ灌木又ハ高サ丈餘ニ至ル常緑性喬木ヲナシ
春ノ初期白色細微ノ花ヲ開ク。

(形状) 本クワツシア木ハ甲乙兩種ノクワツシア木ニ類似スレトモ之ニ比スレ
バ其質緻密ニシテ重シ、其木纖維甚タ厚化セリ髓線ハ廣サ一乃至五細胞列多
クハ四細胞列ニシテ高サ五乃至二十餘ノ細胞層ニ至ル脈管ハ單獨或ハ二乃
至數箇相伴フテ存在ス棓酸鹽結晶ヲ欲如ス。
總テクワツシア木ハ極メテ苦ク且ツ久シク留存スル味ヲ有ス。

(成分) クワツシア木ハ總テ *Quassin* ($C_{27}H_{48}(OH)_2O_6$)ナル苦味質ヲ含有ス本化合物
ハ細小柱狀ノ結晶ヲナシ強苦味ヲ有シ水酒精及クロ、フォルムニ溶解シエー
テル及石油エーテルニハ溶解シ難シオリウエリー氏ニ據レバクワツシイン「ハ二
鹽基性クワツシヤ酸 (*Quassinolignic acid* $C_{26}H_{46}O_{10}$)ノ「メチールエーテル」トス又マツスー
テ氏ニ據レバ甲乙兩種ノクワツシア木中ニ存在スル苦味質ハ同一ノ物質ニ非ス
シテ同氏ハクワツシア木ヨリ四種ノクワツシインヲ製出セリ其熔融點ハ二百十度
ト二百四十度ノ間ニ在リ、熔融點低キ二種ハ $C_{27}H_{48}O_{10}$ 、熔融點高キ二種ハ $C_{27}H_{46}O_{10}$
ナル集成ヲ有スト、又同氏ハジャマイカクワツシヤ木ヨリ二種ノ「ピクラスミン
(*Pikrasmin*)」ヲ製出セリ而シテ其一ハ $C_{27}H_{48}O_{10}$ ナル集成ヲ有シ二百四度ニ於テ熔
融シ他ノ一ハ $C_{27}H_{46}O_{10}$ ナル集成ヲ有シ熔融點ハ二百九度乃至二百十二度トス。

トレドグアルド氏ニ據レバスリナム「クワツシア木」ハ「クワツシイン」ノ〇二六五%
 ヲ含有シ又クリステンセン氏ニ據レバジャマイカ「クワツシア木」ハ〇〇七二%ヲ
 含有ス。
 Christensen

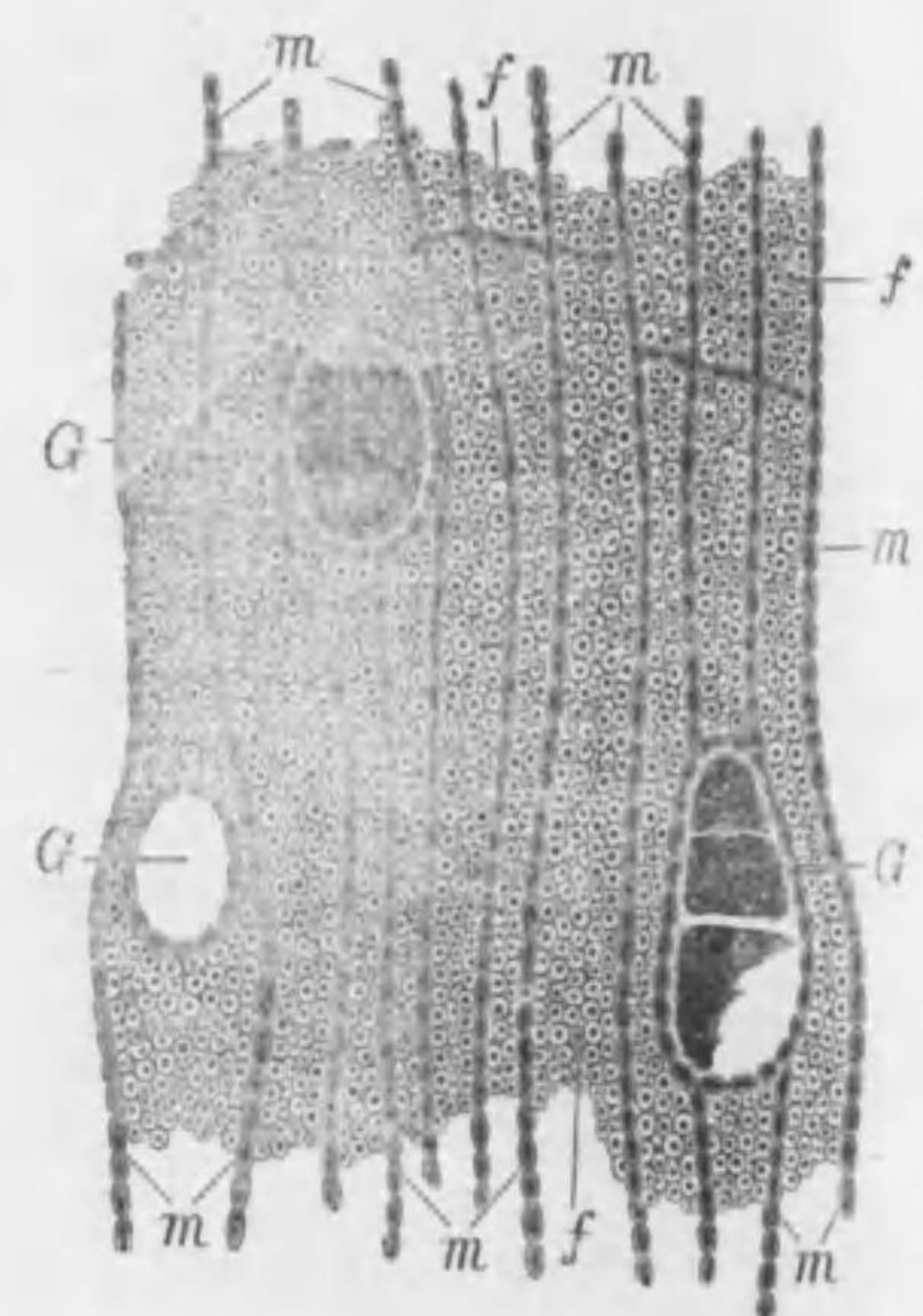
(應用) 本品ハ苦味健胃薬トシテ應用ス、煎劑又ハ丁幾トシテ與フ、藥局方ノ製品ハ、クワツシア
 丁幾ナリ、人ニ無害ナル驅蛔薬ヲ製シ又ホップノ代用品トシテ麥酒ニ苦味ヲ附スルニ用ユ。

● 紫檀 赤檀木 *Lignum Santali rubrum.*

(基原) 紫檀ハ已ニ古代ヨリ世ニ知ラレ、印度ノ南部殊ニマドラス州地方ニ
 産スル蝴蝶形科 (Papilionaceae) ノ植物 *Pterocarpus Santalinus L.* ニ基原ス。

(形状) 紫檀ハ幹木ニシテ皮部及膚木ヲ除去シテ市場ニ出タス、本品ハ鮮赤
 色ヲ有シ永ク大氣ニ接觸スルトキハ暗色ヲ呈シ綠色ノ光澤ヲ帶フルニ至ル
 其質重ク緻密ナレトモ割斷シ易シ、其研磨セル横斷面ヲ見レバ多數ノ脈管ア
 リテ稍、鮮明ナル層ト暗色ノ層ヲ爲シテ交互ニ排列シ其脈管ハ淡色細微ノ波
 濤狀横線ニ因テ連結セラル、此本來同心性ナラサル不整ノ輪線ハ甚タ狭キ距
 離ヲナシテ半徑ノ方向ニ排列シ皮壁ノ著シク厚化セサル木細胞ヨリ成ル、而
 シテ紫檀ノ實質ハ兩端尖銳ナル木纖維ヨリ編成セラレ甚タ狭キ髓線中及細

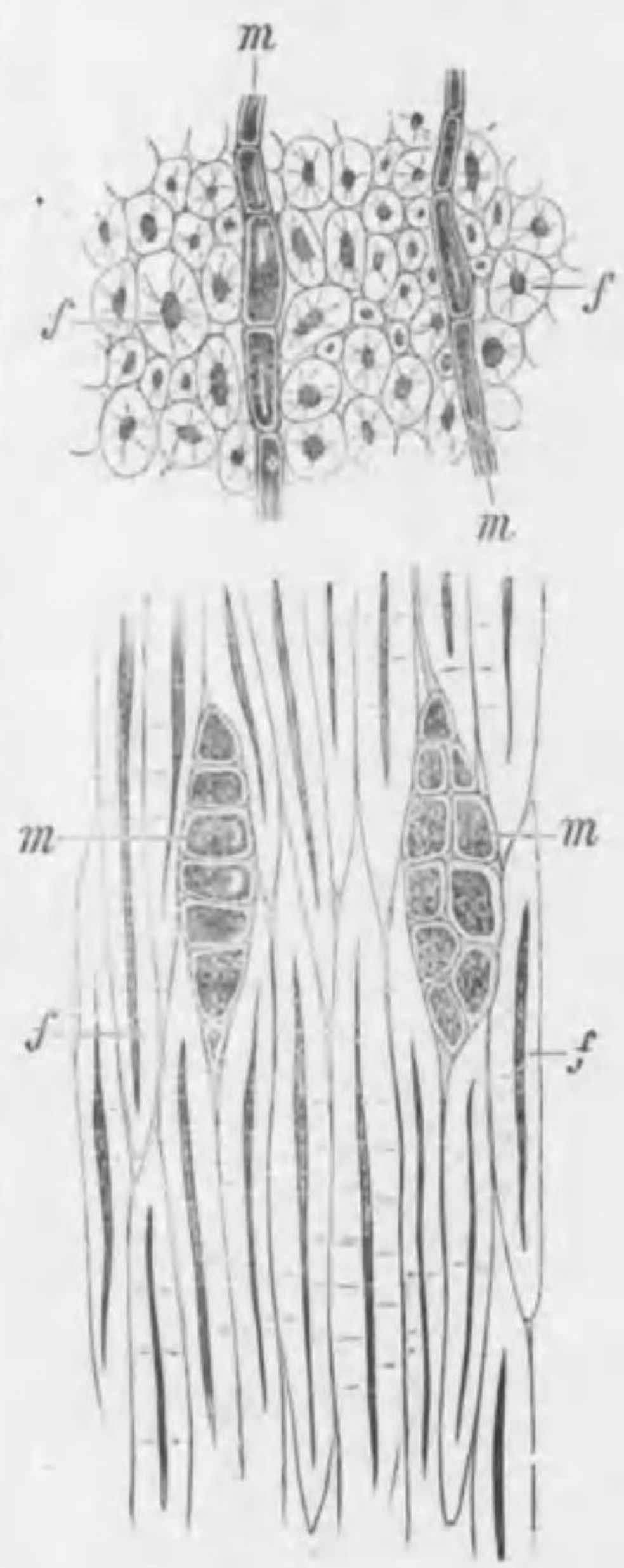
圖 一 百 二 第



胞中ニハ著大ノ尿酸カルチウ
 ム結晶ヲ筈有シ其結晶ハ「ル
 ベ」ヲ用キサルモ已ニ之ヲ認視
 スルコトヲ得、紫檀ト之ニ類似
 セル木類例之バ「ログウッド」蘇
 方木等ト相異ナルノ點ハ紫檀
 ニ水ヲ加ヘテ煮沸スルモ其水
 ヲ着色セサルニ在リ。

紫檀ハ味及臭
 氣ヲ有セス。

圖 二 百 二 第



第二一圖
 ハ本品ノ横
 斷面、第二
 二圖ハ横斷
 面及縱斷面

ヲ更ニ廓大視セルモノニシテ其(G)ハ脈管、(f)ハ木纖維、(m)ハ髓線トス、皆其内腔ニ色素ヲ含有セル狀ヲ示ス。

(成分) 紫檀ハ未タ其性狀ノ詳カナラザル色素(紫檀酸 Santalinsäure)ヲ含有ス此色素ハエーテル・酒精及アルカリノ水溶液ニ溶解スレトモ水ニハ溶解セズ。

(應用) 薬用ニハ丁幾類等ノ染色ニ供用セラル、ノミ、藥局方ニ於テハ複方フヘンデル丁幾ヲ製スルニ用ユ面シテ工業ノ目的ニ於テハ頗ル重要ナル木材タリ。

●白檀 檀香 *Lignum Santali album.*

白檀科(Santalaceae)白檀(*Santalum*)屬ノ植物大約二十種アリ此植物ハ亞細亞、澳洲及ボリネシヤ諸島等ニ産シ其種類中最モ重要ナル者ハ *Santalum album* L. ニシテ孟買産白檀、マツカサール産白檀ハ此樹ニ基原ス、白檀ハ太サ一、半dmニ至ル幹木ニシテ帶黃褐色或ハ淡黄色ヲ有シ其質緻密ニシテ堅牢ナリ、有効成分ハ揮發油(白檀油)ニシテ特異ノ香氣ヲ有シ其含量三・七五%ニ至ル。

●沈香 *Lignum Aloes.*

沈香ハ *Agave Agallocha* *Tricharph.* ト名クル瑞香科(*Tymelaeaceae*)植物ノ幹木トス、此樹ハ頗ル巨大ノ喬木ニシテ後印度、ボルネオ、スマトラ、パンカ瓊島等ノ諸地ニ産ス、沈香ノ佳香ハ樹脂ノ含有ニ由ル面シテ之ヲ大氣中ニ露置シ或ハ地中ニ埋メ外部ノ樹脂ヲ含マザル部分ヲ腐朽セシムルハ愈、樹脂ニ富メル良品ト得ト云フ沈香ハ其質堅硬ナラザル帶褐色ノ木材ニシテ處々

伽羅

(獨) *Brafilienholz.*
(英) *Brazil wood.*
(佛) *Bois de Brésil.*

(基原) 歐洲ニ於テハ中古ノ初メヨリ印度地方ニ産スル *Caesalpinia Sappan* L. ナル喬木ノ木材ヲブラジルレ(*Brazil*)ト稱シ赤色ノ染料(蘇方木 搗クニ)トシテ應用セリ、一千五百四十年葡萄牙人南美洲ノ森林ニ於テ全クブラジルレニ類似セル木材即チフェルナンブッコ木ヲ發見セシヨリ以來自然ブラジルレナル名稱ハ本條ノ生薬ヲ指シ又其木材ヲ發見セシ一大新國ノ名稱トナレリ即チ伯拉西ナル國名ハ蓋シ之ニ始マルモノトス。

●フェルナンブッコ木 *Lignum Fernambuci.*

ニ黒斑ヲ有シ横斷面ニハ横列セル黒色斑點アリ、横斷面ヲ鏡檢スルトキハ樹脂ハ脈管及腺中ニ蓄積スルヲ見ル、彼ノ黒色斑點ハ殊ニ秋木ノ部位ニ排數シ樹脂ヲ含有スル細胞膜ヨリ成リ其細胞中ニ含メル樹脂ハ漸次細胞組織ノ脂化ニ由テ生成セルモノ、如シ。

フェルナンブッコ木ハ決明科(*Caesalpinaceae*)ノ植物 *Caesalpinia echinata Lamourc.* ノ木

材ニシテ伯拉西ノ中部及北部ヨリ産出ス。

(形状)

フエルナンブッコ木ハ木心ニシテ帶黃褐色ヲ有シ其質堅クシテ重ク横断面ニハ略同心性ニ排列セル圓輪ヲ現ハシ其圓輪ハ極メテ細キ髓線ヨリ通

圖三百二第



(Gilg 氏)

過セラル而シテ褐色緻密ノ組織中ニハ淡明ノ邊縁ヲ有スル甚タ細キ多數ノ脈管單一ニ筈在シ或ハ二箇乃至四箇ツ、集簇スルヲ見ル、フエルナンブッコ木ハ割斷

シ易シ其新鮮ナル割断面ハ淡帶黃褐色ヲ有ス其少量ニ於テ販賣セラル、者ハ細切シ或ハ削屑トナス、**第二百三圖**ハ「フエルナンブッコ木」ノ横截面ヲ四倍ニ廓大セルモノナリ。

フエルナンブッコ木ハ臭氣及味ヲ有セズ其水煎汁ハ新鮮ナルニ當リ類赤色ヲ有シ明礬・鉛糖及硫酸亞酸化鐵ニ因テ赤色ノ沈澱ヲ生ス。

(成分)

フエルナンブッコ木ノ越幾斯中ニハ淡黃色ノ結晶ヲ析出ス是レ **Brasiliin** (C₁₂H₁₀O₆) ト名クル色素ニシテ「アルカリ」ニハ赤色ヲ現ハシテ溶解シ其溶液ニ亞鉛粉ヲ加ヘテ熱スレバ再ヒ脱色ス。

(應用)

従前ハ同點熱ニ應用セラレシモ今ハ只赤色染料又ハ赤色墨汁・赤色假漆等トナス。

● **蘇方木** 蘇木

Lignum Sappan.

蘇方木ト稱スル色料木材ハ決明科植物 *Caesalpinia Sappan* L. ノ幹及根木ニシテ其販賣品ニハ二種アリ、一ハ暹羅ヨリ之ヲ輸出シ其太サ拳大ニ至ル鮮赤色ヲ有シ木膚ヲ剝除セリ一ハ暹甸ヨリ輸出セラレ太サ二十四乃至三十 mm トス内部ハ玫瑰紅色ヲ有ス蘇方木ノ特徴ハ甚々著大ノ髓心ヲ有スルニ在リテ其髓心ハ屢々空洞ナルコトアリ、**Rumpf** 氏ニ據レバ本樹ノ木膚及根木ハ帶白黃色ヲ有シ古木ハ赤色ヲ有ス内部ハ暗色乃至黑色ヲ帶フ有色成分ハ「フエルナンブッコ木」ニ均シ然レトモ蘇方木ノ浸出溶液ハ「アルカリ」或ハ「アリカリ」土類ノ痕跡ニ違フモ已ニ深紅色ヲ呈ス。

● **カンペシア木**

ログウード

Lignum Campechianum.

Lignum Haematoxyli.

(基原)

一千五百二十五年墨西哥諸州ヲ攻略セシコルテス氏ハ已ニ「カンペシア木」アルコトヲ知レリト云フ而シテ「カンペシア木」ハ中央亞米利加及西印度ニ産スル決明科 (*Caesalpinaceae*) 所屬 *Haematoxylon Campechianum* L. ノ木材(木心)ナリ一千七百十五年之ヲ西印度ノジャマイカ島及他ノ島嶼ニ移植シ頗ル好結

- (獨) Kampecheholz.
- (英) Logwood.
- (佛) Bois de Campèche.

カンペシア木

果ヲ得タリ、現時西印度ノ諸島ヨリ毎歲輸出セル「カンベシア木」ノ全額一億キ
ログラムニ超ユ又多ク之ヲ越幾スド越幾スト爲シテ輸出ス、他ノ染料木材中
需用ノ多キコト未タ「カンベシア木」ニ及フモノアラズ。

(形状)

カンベシア木ノ木心ハ黒色ヲ有シ横断面ハ屢類黒色ニシテ綠色ノ
光輝ヲ帶ヒ稍淡明ニシテ細微ナル甚タ多數ノ波濤狀線條ヲ有ス而シテ此波
濤狀線條ハ往々脈管ト連結セリ是レ其フェルナンブコ木ト異ナルノ點トス、其
他カンベシア木ハ香紫堇花ニ類スル佳快ノ香氣ヲ有シ其味ハ甘ク收斂性ナ

第百四圖



(Gilg 氏)

聖ヲ撒布スルモ亦然リ鉛糖ニ逢ヘバ類藍色ノ沈澱ヲ生ス、**第二百四圖**ハ「カン
ベシア木」ノ横截面ヲ四倍ニ廓大シテ示セルモノナリ。

(成分)

Haematoxylin $C_{16}H_{14}O_6 + 3H_2O$ ナル色素ヲ含有ス此色素ハ無色柱狀ノ
結晶ヲナシ日光ニ接スレバ赤褐色ヲ呈シ沸騰酒精ニハ容易ク溶解シ「エーテ

ル」ニハ溶解シ易カラス「アルカリ」ニハ紫紅色ヲ現ハシテ溶解シ其溶液ヨリハ
暗綠色ニシテ光澤ヲ帶フル Haematein $C_{16}H_{12}O_6$ ナル酸化成績體ヲ析出ス、ヘマ
トキシリン溶液ハ過クロール鐵ニ逢ヘバ暗褐色ヲ呈シ重クローム酸カリ
ウムニ逢ヘバ黒褐色ヲ呈ス而シテ「カンベシア木」ノ間隙中ニハ往々ヘマトキ
シリン或ハヘマテインノ結晶ヲ見ルコトアリ、ヘマトキシリンハ顯微鏡的ノ
試薬トナシ細胞核ヲ檢出スルノ目的ニ應用ス。

(應用)

カンベシア木ハ目下稀ニ收斂薬トシテ用ユルノミ、但シ染料トシテハ汎ク應用セラ
ル。

第六章 皮類 Cortices. Rinden.

凡ソ植物ノ幹軸器官及根ハ皮ヲ被ムルヲ常トス然レトモ單子葉植物ハ眞正ノ皮ヲ具有セズ
蓋シ此種ノ植物ハ第二期ノ發育ヲ遂クル機能ヲ有セザレバナリ雙子葉植物ノ皮ハ幼稚ノ狀
ニ於テハ主トシテ細胞組織第一期ノ皮ヨリ成リ**上皮**(Epidermis)ニアリテ之ヲ被覆ス、然レトモ醫
藥ノ目的ニハ只多年ヲ經タル植物ノ皮ヲ供用スルニ由リ**上皮**己ニ剥落シテ**枹層**(Kork)之ニ

換ハレリ其胞層尙ホ發育シテ止マザレバ著大ノ皮層ヲ形成スルニ至ル之ヲ**外皮**(Periderm)ト云フ。

地上ニ發育セル植物ノ幹軸器官(及根)ハ新生組織ノ作用ニ由リ發育ノ最初ヨリ存在セル皮部(即チ第一期ノ皮部)ヲ發育増大スルモノニシテ第一期ノ皮部内ニ第二期ノ皮部ヲ發生ス之ヲ**第二期ノ皮部**或ハ**内皮**(sekundäre Rinde)ト云フ而シテ往々此内皮部ト第一期ノ皮部ト確然判視

セラルベキコトアリ、又皮部ハ中皮層(中皮)即チ第一期皮部ノ殘層ヲ存スルモ大抵ハ漸次壓縮ニ歸スルモノトス、胞層ノ生成樹皮ノ外部ノミニ止マラズ又其内部ニ於テスルトキハ内皮層ハ胞層帯ニ由テ斷歇セラレ其外部ニ位スル皮部ハ所謂樹皮(皮鱗)(Borke)トナリテ自ラ剝落スルモノナリ、此作用ヲ樹皮ノ生成ト云フ而シテ皮鱗ノ生成ハ内皮部ニモ波及スルコトアリ、斯ノ如キ樹皮ノ皮鱗ヲ剝除スルトキハ殆ント内皮部ノミヲ餘スモノアリ例之バ、カリヤキナ皮及コト皮ニ於ケル如シ、内皮部ニハ髓線(皮線)アリテ之ヲ通過ス、其髓線ハ之ヲ廓大視セザルモ往々細線トナリテ認識セラレ得ルコトアリ。

皮部ノ横斷面ハ往々當該生藥ノ鑑微トナスベキモノアリ、其形狀ハ殊ニ第二期ノ皮部(内皮部)中ニ存在セル内皮纖維束(Dastfäden)ノ圍壁ノ厚化ノ度或ハ其排列ノ狀態等ニ關係ヲ有スルモノトス。

白瑞香皮・アルテア根等ノ纖維性ヲ現ハスハ其甚タ長ク交錯セル柔軟性ノ内皮纖維束ヲ有スルニ由リ、キナ皮ノ脆弱ナルハ其内皮纖維著シク厚化スレトモ短ク且ツ多クハ箇々分在スルニ由ルモノナリ、錫蘭桂皮ノ外面ニハ長クシテ波濤狀ニ通走シ處々ニ交叉セル内皮纖維束ヲ認視スルヲ得ベシ。

● 桂皮 支那桂皮 Cortex Cinnamomi

(基原) 桂皮ハ恐クハ最モ早ク世ニ知ラレタル香味料ニシテ耶蘇紀元一千九百年前ヨリ已ニ歐洲ニ輸致セリト云フ而シテ支那ニ於テモ古代ヨリ藥用ニ供セリ所謂桂枝是レナリ。

桂皮ハ樟科(Lauraceae)ノ植物 Cinnamomum Cassia Blume ノ皮ニシテ殊ニ支那ノ南部廣西廣東ノ二省ニ多ク培植ス。

(形狀) 桂皮ヲ收穫スルニハ大約六年ヲ經タル桂樹ヲ以テス即チ春季桂樹ヲ伐リ枝葉ヲ除去シ其樹幹ノ皮部ヲ三十乃至四十cmノ長サニ環截シ前後ヲ縱切シテ之ヲ剝離シ外層(胞層)ヲ搔除シ把束トシテ市場ニ出タス。

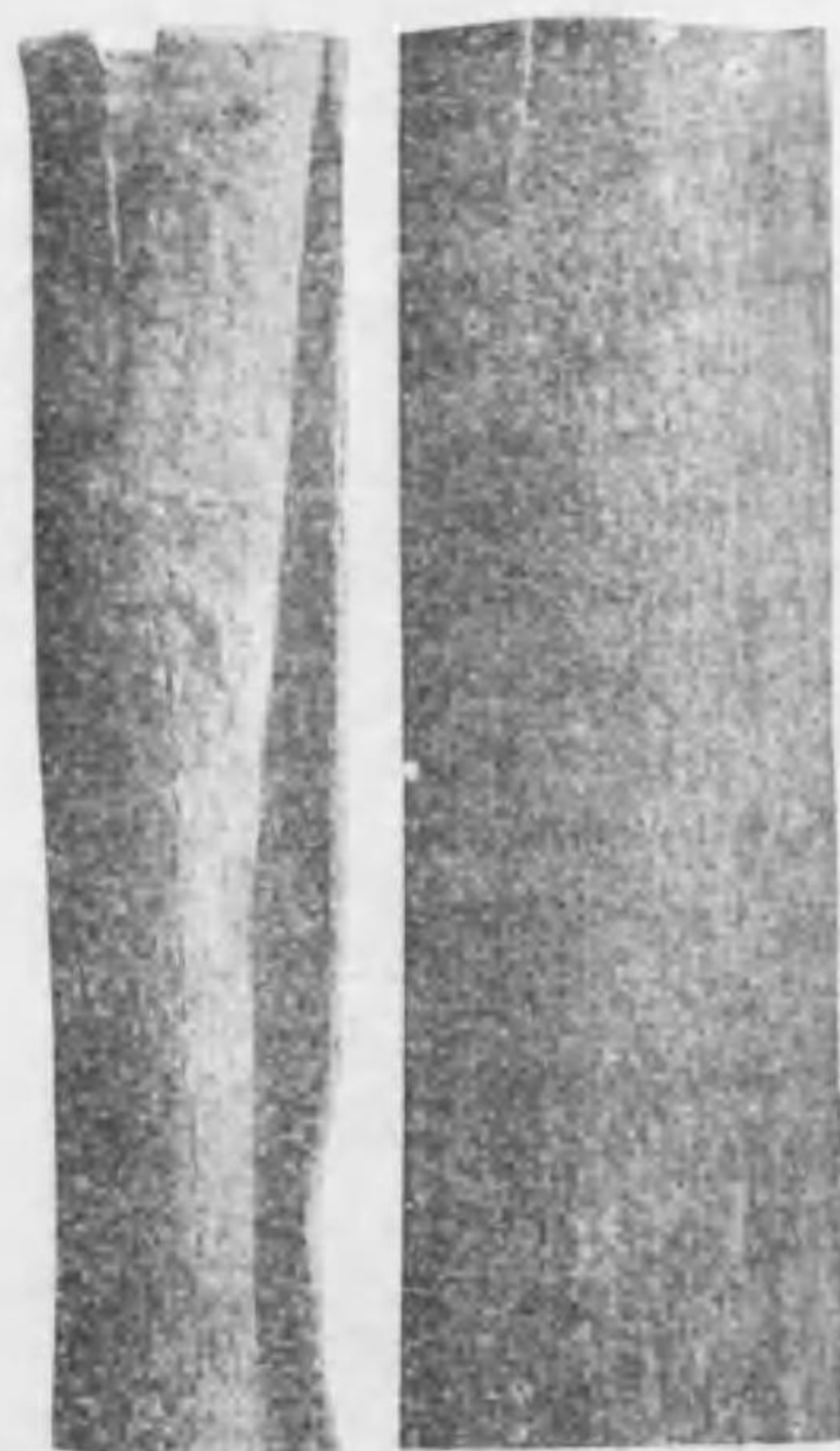
坊間ノ品ハ管狀或ハ繩狀ノ皮ヲ爲シ長サ二十五乃至四十cm直径〇五乃至三cm厚サ一乃至三mmトス外面ハ帶褐赤色ニシテ稍淡明ナル縱線ヲ有シ處々ニ

桂皮 (獨) Chinesischer Zimmt.

(英) Cassia bark.

(佛) Cannelle de Chine.

圖五百二第



百六圖ハ其横断面ノ概型ナリ。

桂皮ノ香氣ハ特異芳香性ニシテ收斂性ヲ帶ヒ微ニ甘ク著シク粘性ナリ。

(顯微鏡的構造) 支那桂皮ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ其枳層ヲ被

ムル部位ハ枳組織**第二百七圖**ノKヨリ成リ之ニ連接セル外皮部ノ組織ハ稍

厚化セル細胞ヨリ成リ石核細胞ヲ包藏ス此外皮部ノ境界ニハ石核細胞(st)及

内皮纖維(p)ヨリ成レル輪層ヲ見ル但シ此輪層ニハ斷歇セラル、部位アリ而

シテ第一期内皮纖維ハ之ヨリ内部ニ存スル第二期内皮纖維ヨリ著シク厚化

圖六百二第



帶褐灰色ノ枳層ヲ存ス内面ハ褐色或ハ帶赤褐色ヲ有ス

破折面ハ平等

顆粒狀ニシテ

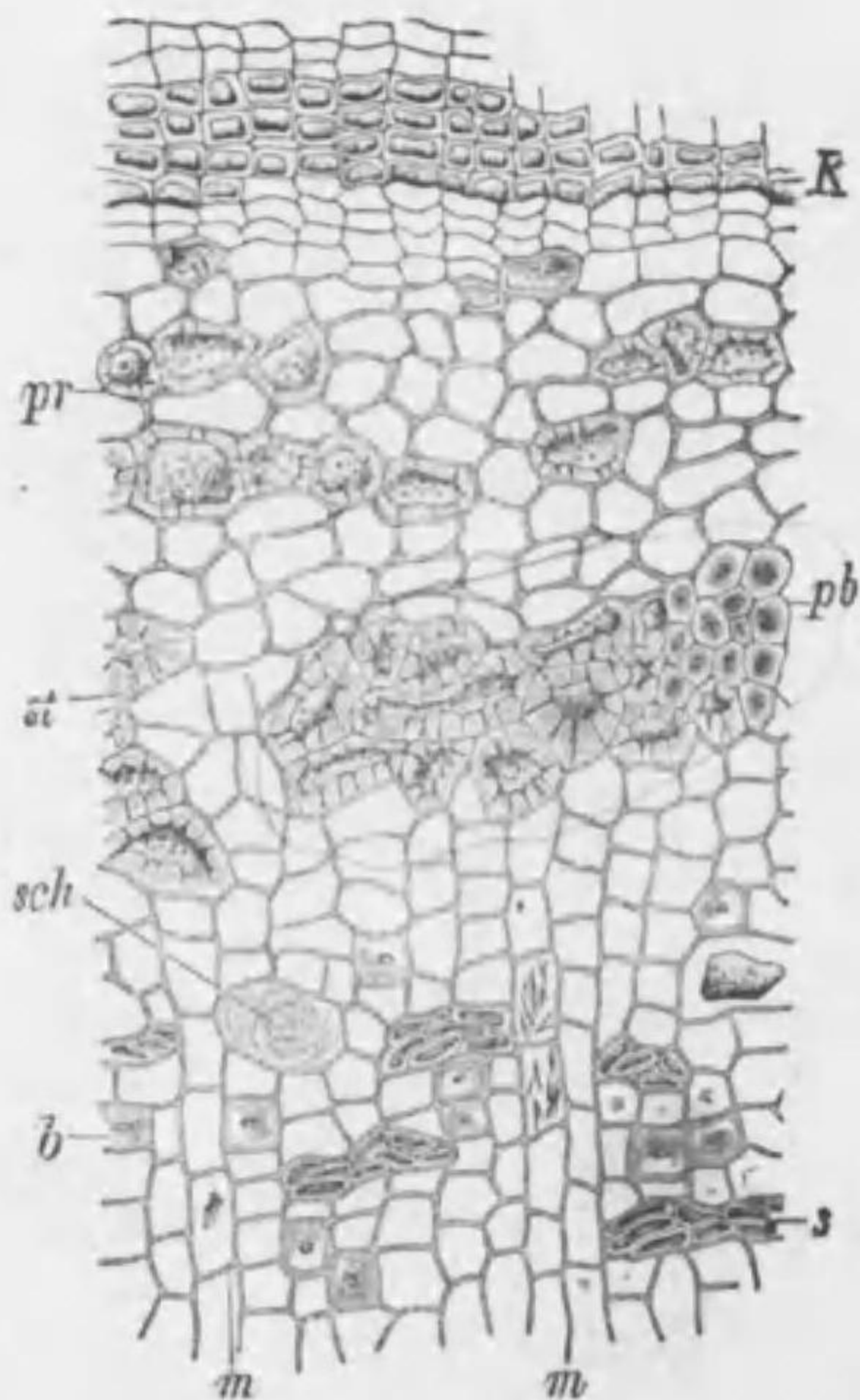
石核細胞ヨリ

成レル白色ノ

層ヲ現ハス**第二百五圖**ハ支

那桂皮ノ自然大寫真圖**第二**

圖七百二第



セリ、内皮部即チ第二期皮部中ニハ髓線(m)針狀糖酸カルチウムヲ包藏セル細

胞、内皮纖維(b)、粘液細胞(sch)

篩脈管(s)及油細胞(分泌物

細胞)ヲ見ル。

本品ノ粉末ハ賈偽品甚タ

多シ其劣等品ノ粉末ヲ以

テ賈造セル者ハ殆ト之ヲ

鑑別シ難シ而シテ桂皮末

ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ

左ノ諸質ヲ見ル(百六十倍、

第二百八圖 Aハ桂皮末ノ諸成分ニシテ其(b)ハ内皮纖維(st)ハ外皮部ト内皮

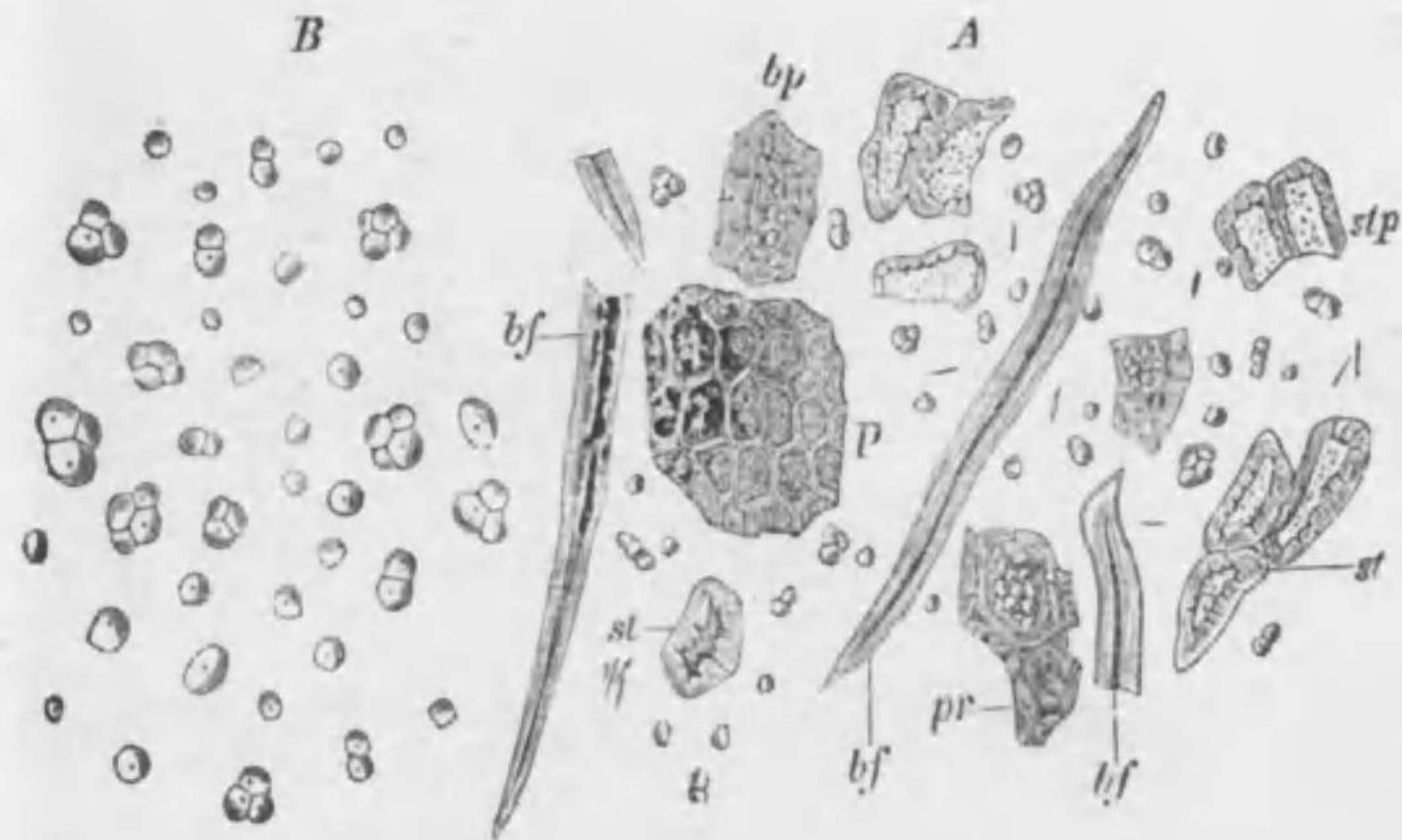
部ノ境界ニ於テ輪層ヲナセル石核細胞(st)ハ外皮部ニ存スル石核細胞(pr)ハ

外皮部ノ細胞(b)ハ内皮部ノ組織(p)ハ枳組織ヲ表面ヨリ看視セルモノトス

(B)ハ特ニ本品中ニ包藏セル澱粉ヲ示ス。

(成分) 桂皮ノ主要ナル成分ハ桂皮油其含量ハ大約一・五%ニシテ桂皮油ハ

第 二 百 八 圖



殆ト全ク桂アルデヒド *Zimmitaldehyd*
 $C_6H_5-CH=CH-COH$ ヨリ成リ次ニ醋酸桂エ
 ステル ($C_6H_5-CH=CH-CH_2O-CH_2CO$) ヲ含有
 ス、自餘ノ成分ハ鞣酸粘液樹脂澱粉ナリ。
(應用) 桂皮ハ芳香性ノ健胃藥、瘧疾藥及矯味
 藥トシテ應用セラレ、藥局方ニハ芳香散、芳香精、酸
 性芳香丁酸桂皮丁酸複方ラヘンアル丁酸大黃丁
 酸芳香阿片酒等ヲ製スルニ用ユ。

本條ノ藥品ノ外支那ヨリ本邦ニ直輸スル桂
 皮ニ東京桂枝、廣南桂枝等ノ諸種アリ是レ皆
 劣品ニ屬ス殊ニ廣南桂枝ノ如キハ老樹ヨリ
 取リタルモノニシテ多クハ皮ノ醜キ部分ノ
 ミチ割除シ直徑四cm厚サ五mmニ至ル巨大ノ
 皮ヲナス、折廣南ナル桂皮ハ恐クハ枝皮ニシ
 ナ厚サ通常半mmニ過キサレ非薄ノ皮層ヨリ
 成ル、外面ニハ尙ホ外皮ヲ被ムリ内面ハ帶褐
 色ヲ有ス、味ハ他ノ支那桂皮ヨリ遙ニ辛烈ナ

第 二 百 九 圖



リ蓋シ此桂皮ハ幼稚ニシテ揮發油分ニ富メルニ因ルナルヘシ。
 第 二 百 九 圖 ハ東京桂皮ノ自然大寫眞圖ナリ。

支那ニ於テ藥用ニ供スル桂皮ニハ頗ル肥大ニシテ氣味復々佳良
 ナル者アリ恐クハ他ノ桂樹ヨリ取レル者ナラン外國ニハ曾テ
 輸出セラレンス一斤ノ價二圓ニ下ラス、其他支那人ノ最モ貴重セ
 ル玉桂ナル者アリ大木ノ幹皮ニ屬シ氣味最モ佳絶ニシテ一片ノ
 價一百金ニ超ユト云フ而シテ支那ニ於テ桂樹ト稱スル者ハ全ク
 桂樹ノ枝梢ニ屬ス、右ニ掲タル支那桂皮ノ外木桂 (*Cassia Tora*) 又
 マラバール桂皮ト稱スル者アリ是レ印度、マラバール、蘇門答臘、
 シリヤ、爪哇等ニ産スル *Cinnamomum Zeylanicum* 樹ノ別種ヨリ採集セル
 桂皮トス、此桂皮ハ老枝ノ皮ニ屬シ支那桂皮ニ比シレバ外面暗
 色ヲ帶ヒ稍粗澁ニシテ氣味顯著ナラス、其他母桂、カマラ、パン、桂皮等ト唱フルモノアレトモ
 本邦ニハ曾テ輸入セサルヲ以テ今一々具載セス。

本邦ニハ土州縮々桂皮、紀州桂皮等二三ノ桂皮アリ土州縮々桂皮ヲ以テ最佳品トス、此桂皮
 ハ恐クハ *Cinnamomum Loureiri* *Nes.* ニ基原シ其雜根ノ皮ヲ取レルモノニシテ直徑五mm厚サ
 一mm長サ大約七cmニ過キサレ皮片ヨリ成リ管狀或ハ半管狀ヲ爲シ帶赤褐色ヲ有ス氣味辛
 烈佳快ニシテ支那桂皮ヨリモ寧ロ錫蘭桂皮ニ類シ之ヨリ得ル桂皮油ハ桂アルデヒドノ

傍ラ *Eugenia, Cineol, Kampfen, Tynalood* 等ヲ含ム此桂皮ハ本條ノ生薬ニ換用シテ妨ケ無キガ如シ。

●錫蘭桂皮 *Cortex Cinnamomi zeylanicus.*

(基原)

錫蘭桂皮ハ *Cinnamomum zeylanicum Breyne.* ノ皮ナリ而シテ其最佳品ハ

錫蘭島ニ於ケルネグムボ州西部ノ海岸ヨリ同島ノ南端ニ至ル地方ニ設クル所ノ桂樹園ニ培植セル樹皮ヲ取レルモノナリ、桂樹園中ニ培養セル桂樹ハ梢枝ノ發生ヲ盛ンナラシメンガ爲メ總テ其主幹ヲ斷テリ、桂皮ヲ取ルニハ大約二年樹ノ枝ヲ以テシ其收穫期ハ每歲二回五月ヨリ六月ト九月ヨリ十二月ニ至ル二期トス、其法桂樹ノ枝ヲ剪伐シ皮ヲ剝キ其表皮及内部組織ノ一部分ヲ除去シ八片乃至十片ヅ、疊シ平等ノ長サニ均截シ乾燥ス、此際桂皮ハ自カラ卷曲シテ管狀ヲ爲スニ至ル。

(獨) Ceylon-Zimmt.
(英) Cinnamon.
(佛) Cannelle de Ceylon.

錫蘭島ヨリハ七百年前ニハ未ダ桂皮ヲ輸出セザリシガ如シ、一千五百年ヨリ一千六百五十六年ノ間ニ於テ葡萄牙人ノ手ヲ經テ桂皮ノ輸出増大シ、一千六百五十六年ヨリ一千七百九十七年ニ至ル年間ニハ和蘭人ノ媒介ニ由テ愈々盛大トナレリ、一千七百九十六年英人錫蘭ヲ占領セルニ當リ英國政府ハ東印度商會ニ認可スルニ錫蘭桂皮ノ專賣權ヲ以テセリ而シテ同商會ハ

一千八百三十三年ニ至ル迄ハ其特權ヲ有セリ現今錫蘭ノ桂樹園ハ衰微ニ赴クノ傾向アリ。

(形状)

錫蘭桂皮ハ八片乃至十片ヅ、層累セル皮管ヲ爲シ直徑大約一cm長

第百二十圖



第百一十圖



サ一mニ至ル、外面ハ鮮淡褐色ニシ

テ光澤ヲ帶ヒズ白色ニシテ光澤ヲ有スル内皮纖維束アリテ波濤狀ニ通走ス横折面ハ短纖維形ヲ爲シ之ヲ滑坦ニ研磨スレバ暗色ナル内層ト淡明ナル外層トヲ明ラカニ視別スルコトヲ得、第百十圖ハ錫蘭桂皮ノ自然大寫真圖第百一十圖ハ其横截面ノ概型圖ナリ。

(顯微鏡的構造)

錫蘭桂皮ノ外層ハ之ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ密ニ連合セル石核細胞ノ組織層ヨリ成リ其組織内ニハ彼ノ外面ニ白色波濤狀ノ線條

トナリテ露出セル内皮纖維束ヲ見ル此外層ニ接セル内層ハ帶褐赤色ノ組織ヨリ成リ甚タ廣カラサル髓線ニ由テ通過セラレ潤大ノ粘液細胞ト油細胞ヲ筭在ス、第百十二圖ハ百九十倍ニ廓大視セル錫蘭桂皮ノ横断面ニシテ其(註)ハ石核細胞(S)ハ内皮纖維(m)ハ粘液細胞(r)ハ髓線ナリ、錫蘭桂皮ノ香氣ハ極メ

圖二十百二第



テ佳快其味モ亦支那桂皮ニ比スレバ遙ニ爽快ニシテ甘ク殆ト粘性ナラズ。

(成分)

錫蘭桂皮ハ之ヲ

水ト共ニ蒸留スレバ揮發油即チ錫蘭桂皮油大約〇・五%ヲ得此桂皮油ハ其氣味支那桂皮油ヨリ遙カニ佳良ナリ但シ亦殆ント全ク桂アルデヒードヨリ成ル。

(應用)

錫蘭桂皮ハ其氣味良好ナルガ故ニ香料等ノ目的ニハ甚タ愛重セラレトモ高價ナルヲ以テ醫藥上ニハ通常支那桂皮ヲ用ユ。

● フラングラ皮

ラムヌス皮

Cortex Frangulae.

(基原)

フラングラ皮ハ鼠李科 (Rhamnaceae) ノ灌木 Rhamnus Frangula L. ノ樹皮ニシテ歐洲及中央亞細亞ノ各地ニ産ス、フラングラ皮ニ瀉下ノ効能アルハ已ニ中古時代ヨリ世ニ知ラレタレドモ一時廢棄ニ歸シ千三百年紀ノ上葉ニ至リ再ヒ世人ノ着目スル所トナレリ。

(形狀)

フラングラ皮ハ上記灌木ノ著大ナル枝皮及幹皮ニシテ管狀ニ卷曲

第二百十三圖



圖四十百二第



圖五十百二第



面ハ暗褐色ナリ、横折面ハ短纖維形ニシテ内皮部ニ存スル黄色ノ短キ纖維ヲ現ハス、第二百十三圖ハフテ

セル皮片ヲナシ長サ三十cm、厚サ一・五mmニ至ル、外面ハ灰褐色ニシテ光澤ヲ帶ヒ延長セル類白色ノ皴疣(皮孔)ヲ有ス其表皮ヲ剝離スレバ赤褐色ヲ現ハス、内

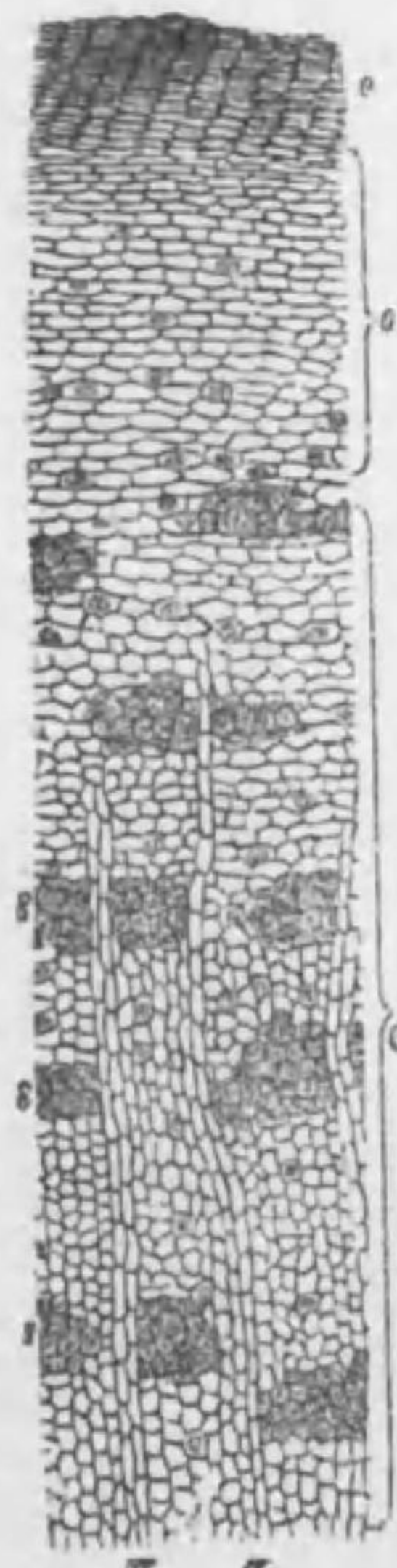
ングラ皮ノ概型圖、第二百十四圖ハ其寫真圖、第二百十五圖ハ十五倍ニ廓大視セル横断面トス。

(顯微鏡的構造)

フラングラ皮ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ皴層ハ赤色ノ物質ヲ含有シ此皴層ニ接セル内部ノ組織ハ皮壁ノ厚化セル細胞ヨリ

成リ粘液細胞ヲ符在シ内皮部ニ於テハ結晶細胞(糖酸カルチウムノ結晶ヲ包蔵セル細胞)ヨリ圍繞セラル、内皮纖維束ヲ見ル其纖維束ハ内皮部ノ内邊ニ在テハ觸線列ヲナシテ存在ス而シテ纖維束ノ間ニ於ケル組織中ニハ尿酸鹽簇品ヲ散在ス髓線ハ廣サ一乃至二列ニシテ高サ十乃至二十五層トス、**第二百十六圖**ハ百五十倍ニ廓大セル「フラングラ皮ノ横斷面ニシテ(c)ハ柵層及之ニ接セル皮壁ノ厚

圖六十百二第



化セル組織、(r)ハ外皮部第一期ノ皮部、(c)ハ内皮部第二期ノ皮部ニシテ中ニ髓線(r)及尿酸鹽簇品ヲ見ルベシ。

本品ノ新鮮ナル者ハ嘔吐ヲ誘起シ時日ヲ經ルニ從テ其性ヲ失フ是レ本品ハ少ナクモ一年以上貯藏セシ者ニ非サレバ應用ヲ許サレル所以トス。
本品ハ石核細胞ヲ有セザルニ由リ之ヲ具有スル「カスカラサグラダ皮(即チ *Rhusinus Purshiana* D.C.)ノ皮」トノ區別ニハ其存否ヲ以テ鑑微トナスヘシ、又本品ノ水煎汁ガ帶黃赤色或ハ類褐色ヲ有シ過クロール鐵ニ由テ深褐色ヲ呈スルハ本品ト他ノ類似生藥トノ鑑別反應トナスニ足

(成分)

本品ノ有効成分ハ一千九百年ニ到リ始メテ稍明確トナレリ即チアウエング氏ニ據レバ本品ハ二種ノ有効成分ヲ含有シ其第一種ハ水ニ溶解シ易キ配糖體、第二種ハ水ニ溶解シ難キ配糖體ニシテ共ニ七十%ノ酒精ニ由テ溶出スルコトヲ得、アウエング氏ノ第一種配糖體(キエブリー氏ノ「フラングラ酸 Frangulasiure)ハ稀硫酸ト共ニ煮沸スレバ分解シテ糖・フラングララムネチン(Frangularharminin)及第三ノ分解成績體(恐ラクハ「フラングララ」ニ分解ス、第二種ノ配糖體ハ之ニ「ペンツォール」ヲ加フルトキハ其全量ノ三分一ハ「エモデン(Emodin)」クリンファン酸(Chrysophansäure)及フラングリン(Frangulin)トシテ溶出セラレ得ベシ其殘留物ニ更ニ「ペンツォール」ト純酒精ヲ加ヘテ溶出スルヲ得ベキ三分ノ一分ハ配糖體ニシテ稀硫酸ト共ニ熱スレバ「エモデン」ヲ生成ス最後ノ三分ノ一分ハ「ナトロン」油液ニ紫色ヲ現ハシテ溶解ス。

(應用)

本文ニ述フルガ如ク本品ノ新鮮ナルモノハ嘔吐ヲ誘起スアウエング氏ニ據レバ此成分ハ二種ノ酵素ニシテ本品ヲ一時間百度ニ熱スルトキハ之ヲシテ死滅セシムルコトヲ得、本品ハ奏効確實ナル緩下藥トナシ大黃ニ換ヘテ應用ス煎劑トシテ與フ、本邦ニ産スル日本産「*Rhusinus japonicus Maxim.*」ノ皮ヲ本品ニ代用シ得ベキヤ否ヤハ今暫ク疑問ニ屬ス。

●カスカラサグラダ

ラムヌスプルシヤナ皮

Cascara Sagrada. Cortex Rhamni Purshiana.

(獨) Cascara Sagrada.
(英) Cascara Sagrada.
(佛) Cascara Sagrada.

(基原) 此生薬ハ鼠李科 (Rhamnaceae) 属 Rhamnus Purshiana D. C. ノ皮ヲ採レルモノナリ本植物ハ灌木或ハ喬木ニシテ、北米カリフォルニア州地方ニ産ス又本條ノ生薬トシテ他ノ Rhamnus 属植物例之バ R. californica 等ノ皮ヲモ採レリト云フ。

(形状) 本生薬ハ扁平或ハ彎曲セル皮片ヲナシ長サ大約三乃至十cm厚サ大約二mmトス外面ハ帶褐灰色或ハ類白色ニシテ稚皮ハ多數ナル横徑ノ袍衣ヲ帶ブ内面ハ帶黄白色乃至淡類褐色ニシテ老皮ニ在テハ暗色ヲ有シ平坦或ハ細微ナル縦紋ヲ帶ブ、破折面ハ短ナレトモ



圖七十百二第

厚キ皮ニ在テハ其破折面ノ内邊ニ於テ纖維性ヲ呈ス臭氣ナク味ハ苦シ、**第二**

百十七圖ハカスカラサグラダノ自然大寫眞圖ナリ。

カスカラサグラダハ頗ルフラングラ皮ニ類スフラングラ皮ハ之ヲ酒精ニテ潤ホシ暫時ノ後更ニアムモニア水ヲ加フレバ其アムモニア水長ク持續セル櫻實紅色ヲ呈スレドモ本品ハ斯ノ如クスルトキハ帶褐赤色ヲ呈ス而シテカスカラサグラダト前條フラングラ皮トノ顯微鏡ニ對スル主要ノ區別ハ本生薬ハ外皮部ニ於テ石核細胞簇ヲ具有スレドモフラングラ皮ハ之ヲ缺キ又本生薬ハ髓線ノ廣サ概シテ三列稀ニハ五列ニ至ルコトアレドモフラングラ皮ハ其廣サ一乃至二列ニ過ギザルニ在リ。

(成分)

カスカラサグラダハ、**Preesolt**氏ニ據レバ強ク苦味ヲ有スル褐色樹

脂(此樹脂ハ苛性カリニ由テ鮮紫紅色ヲ呈ス)赤色樹脂淡黄色樹脂タンニン酸

林檎酸及脂肪酸其他中性ノ結晶性質揮發油ヲ含ムアウエング氏ハクリゾファン酸

(Chrysophansäure) 及エモザン (Emodin) 其他ブソイドフラングリン (Pseudofrangulin)

フラングララムネチン (Frangularhamnetin) ヲ生スル配糖體及フラングララムニ

ン (Frangularhamnin) ニ類スル配糖質ヲ含有ス(本品ノ成分ニ就テハ大黃及フ)。

(應用) 本品ハ亦フラングク皮ニ於ケルガ如ク一年以上貯藏シ苦味質ヲ除去セルモノヲ用
ニルヲ常トス本品ハ大抵流動越幾斯トナシ頑固ナル便秘症ニ用キ又腸胃ノ消化力ヲ増進スル
ニ用キ又肝臓病ニ用ユルコトアリ。

●カスカリルラ皮 Cortex Cascarillae.

(基原) カスカリルラ皮ハ獨乙ニ於テハ一千六百年紀ノ終ヨリ China nova

或ハ「エロイテリウム皮 Cortex Euterii」ト稱シテ醫藥ニ供セリ。

カスカリルラ皮ノ原植物ハ Croton Futeria Bennett ト稱シ大戟科 (Euphorbiaceae) ニ

屬シ西印度ノバハマ諸島ニ産ス。

(性状) カスカリルラ皮ハ長サ一dmニ過キス厚サ大抵二mm直徑五乃至十五mm

ニ至ル槌狀或ハ管狀ノ皮片ニ

シテ帶白灰色ノ薄キ外皮(枹層)

ヲ被ムルヲ以テ其特異ノ鑑微

トス而シテ外皮ハ處々ニ龜裂

シ其剝脱シタル部位ハ類黃色

乃至褐色ヲ現ハス内面ハ類褐色均等顆粒狀ナリ横折面ハ細顆粒狀ヲ呈シ油

圖八十百二第



(獨) Kasfarillrinde.
(英) Cascarilla bark.
(法) Ecorce de cascarille.

圖九十百二第



圖十二百二第



二百十九圖ハカスカリルラ皮ノ横断面(十五倍)ヲ示ス。

二百十
八圖ハ「カ
スカリラ
皮ノ自然
大顯微鏡
寫真圖」第

様ノ光澤ヲ帶ヒ纖維性ナラス横断面ハ甚タ薄キ外皮(枹層)二百十九圖(カ)ヲ
被ムリ中皮部(同圖)ハ灰褐色ヲ帶ヒ内皮部(同圖)ハ其厚サ大約中皮部ニ二
倍シ楔狀ノ内皮條ヲ現ハシ又甚タ細キ放線狀ノ紋理ヲ呈ス、

(顯微鏡的構造)

廓大視スルトキハ外皮(枹層)中皮(カ)内皮部(カ)トヲ見ル殊ニ内皮部ノ組織
ハ火焰狀ニ蛇行セル細胞組織ヨリ成リ髓線ハ一列乃至二列ノ細胞ヨリ成ル、
皮部ノ組織中ニハ内皮纖維(同圖)ヲ籍在シ又褐色ノ樹脂ヲ包藏セル細胞ヲ
散在シ其佗澱粉ヲ包有セル細胞アルヲ見ル而シテ殊ニ内皮部ノ組織中ニハ

揮發油ヲ含有スル細胞ノ二三ヲ存シ又單一或ハ腺狀ニ集簇セル糖酸カルチウムノ結晶簇ヲ包藏セル多數ノ細胞アリ、カスカリラ皮ハ顯著ノ芳香ヲ有シ味モ亦芳香性ニシテ苦シ。

ロバルヒ皮 (Cortex Copalchi) ナルモノハ西印度ニ産スル(大戟科植物 *Croton niveus* Jacq. ナル灌木ノ皮ニシ

テ)カスカリラ皮ニ比ス

レバ遙ニ著大ニシテ長

サ往々數dmニ至リ其氣

圖一十二百二第



味顯著ナラス其中皮部ニ多數ノ石核細胞ヲ集簇シ又其内皮部ハ著大ニ放射線狀ヲ呈スルヲ以テ本條ノ「カスカリラ皮ト異ナリ、**第二百二十一圖**ハ「ロバルヒ」ノ自然大寫眞圖ナリ。

(成分) 本生薬ノ成分トシテ發見セラレタルモノハ揮發油一五乃至三〇%トス此揮發油ハ比重〇・八九乃至〇・九三ヲ有シ分極光線ノ平面ヲ左旋ス其成分トシテ發見セラレタルハ「テルペン類」一半テルペン類・シモール・オイゲノール・遊離酸類(カスカリル酸・軟脂酸・硬脂酸)等ナリ、其他本生薬ハ $\text{Kasakarillin C}_{15}\text{H}_{20}\text{O}_2$

(一部分ハ遊離ノ狀ニ於テ一部分ハ「エステル」トナリテ存在ス)脂肪及沒食子酸ノ痕跡ヲ含有ス。

(應用) 本品ハ目下只稀ニ腸胃加管兒下利貧血症等ニ興奮薬及健胃薬トシテ用ユルノミ。

● 石榴皮 Cortex Granati,

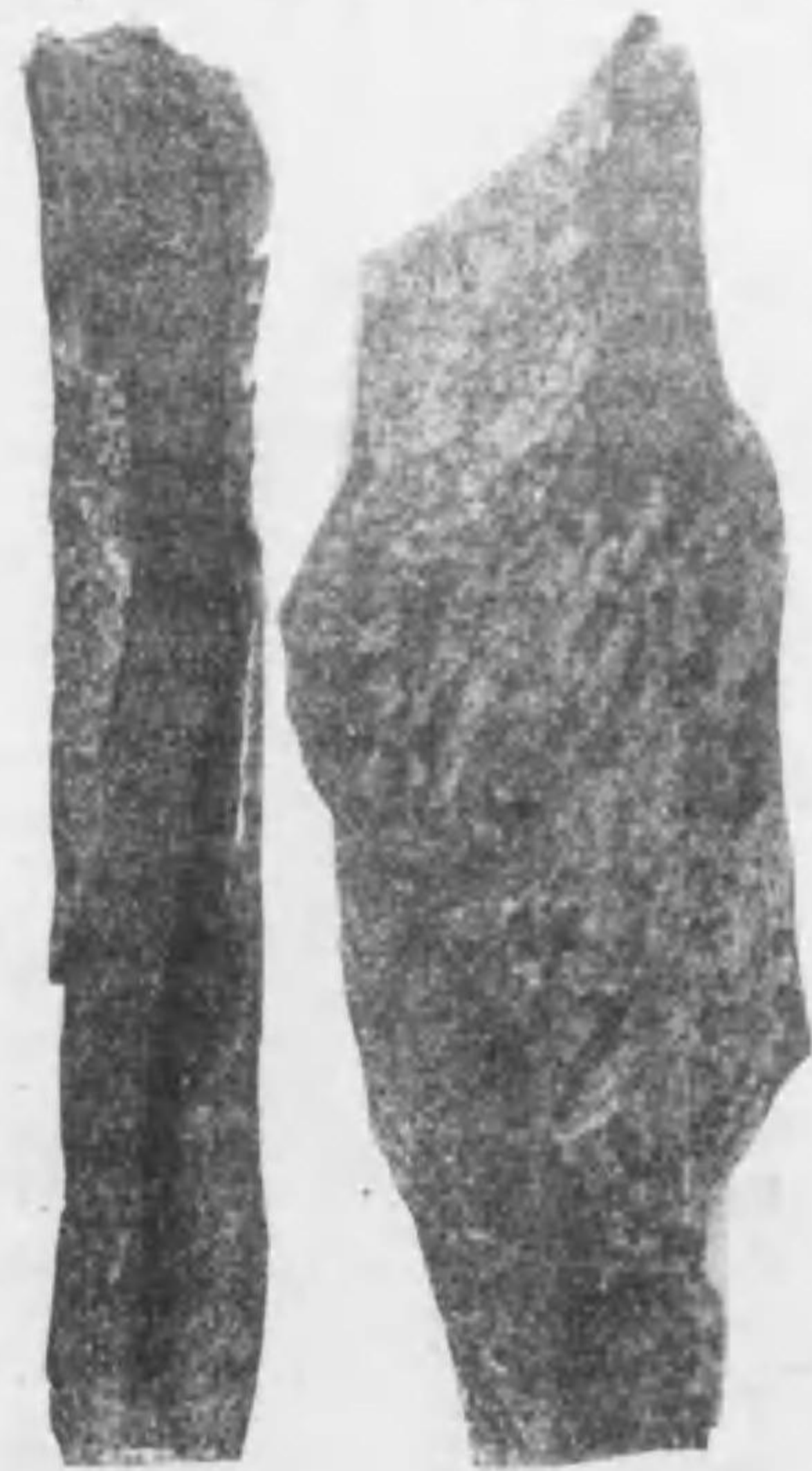
(獨) Granatrinde.
(英) Pomegranate bark.
(佛) Ecorce de grénadier.

(基原) 石榴皮ハ支那ニ於テ往古ヨリ殺蟲薬トシテ應用セラレ歐洲ニ於テモ已ニ羅馬時代ヨリ之ヲ殺蟲薬ニ供用シタレトモ當時ハ殊ニ石榴ノ果皮ヲ撰用シ第十九世紀ノ初期ヨリ復々根皮及幹皮ノ二皮ヲ應用スルニ至レリ石榴皮ハ石榴科(Myrtaceae)ニ屬スル *Punica Granatum L.* (石榴)ノ皮ナリ而シテ石榴ハ百兒矢亞及高加索山地方ニ産シ方今處々ニ移植セリ中央歐洲ニハ發育セズ、本邦ニ於テハ人家庭園ニ培植ス。

(形状) 前薬局方ニ於テハ専ラ根皮ヲ以テ薬用品ト規定シタレトモ第三改正日本薬局方ニ於テハ幹枝及根ノ區別ナク皮ハ總テ應用シ得ルコト、ナセリ。

幹及枝ノ皮ハ管狀或ハ槌狀ヲテシ長サ一dmニ至リ厚サハ年齢ニ由リ一定ナ

圖 二百二十二第



ラス屢彎曲ス外面ハ
帶綠黃灰褐色ヲ有シ
淡明ノ枹條アリテ縱
形ニ通走シ屢地衣ヲ
附着ス新鮮ノ皮片ハ
刀ニテ表皮ヲ剝取ス
ルノ際必ス綠色ヲ現
ハス。

根皮ハ其外面墨灰色ヨリモ寧ろ褐色ニ類シ巨大ナル皮片ニ在テハ外面ニ坦
盆狀ノ凹窩ヲ現ハシ表皮ヲ剝除スルモ綠色ヲ呈セス決シテ地衣ヲ附着セス、
第二百二十二圖ハ石榴根皮ノ自然大寫眞圖ナリ。
石榴皮ノ破折面ハ平坦ニシテ類黃色ヲ呈シルーペヲ以テ檢視スルトキハ細
微ナル井畫ヲ現ハス。

石榴皮ハ石灰水ヲ以テ之ヲ潤ホセバ鮮黃色ヲ呈シ其水煎汁ニ硫酸亞酸化鐵
溶液ヲ加フレバ褐色ノ沈澱(鞣酸ニ係ル)ヲ生シ又之ニ過クロール鐵溶液ヲ加

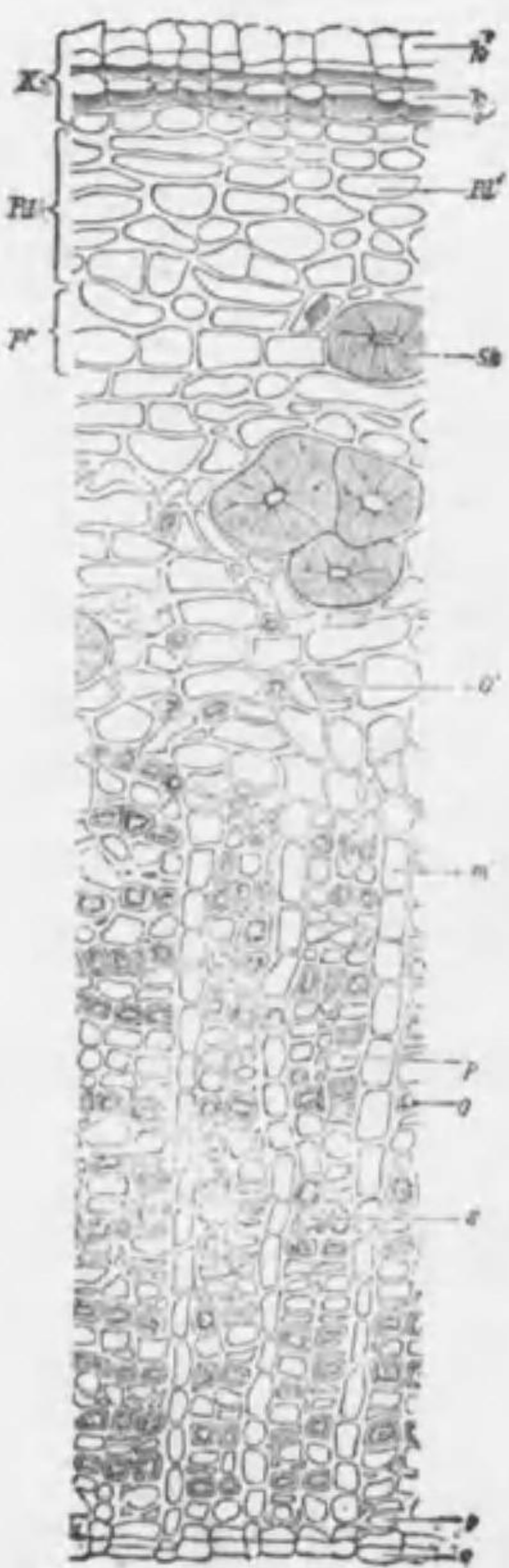
フレバ其煎液ノ稠度ニ由リ黑色或ハ帶黑藍色ノ沈澱ヲ生ス。

石榴皮ハ收斂性ノ味ヲ有ス。

(顯微鏡的構造)

石榴幹皮ノ橫断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ枹層(第二
百二十三圖K)ハ内壁著ク厚化セル枹細胞(K)ノ三四層ヨリ成リ薄壁性枹細胞ノ

圖 二百二十三第



一層アリテ其
上ニ附着ス此
枹層ニ次ケル
擬枹層(pd)ハ澱
粉及葉綠ヲ包
藏シ横徑ニ延

長セル不整形ノ細胞層ヨリ成ル其下部ニ位スル二三ノ細胞層(P)ハ是レ亦第
一期皮部ニ屬シ不整形ノ細胞ヨリ成レル第二期皮部組織ノ外邊之ニ連接ス
第二期皮部ハ髓線(m)ヨリ通過セラレ其髓線ハ廣サ概シテ一列稀ニハ二列ニ
シテ高サ一乃至十四層トス、此髓線ノ間ニ於ケル皮條ハ鞣酸鹽簇品ヲ包藏シ
觸線列ニ配置セラレタル細胞ト澱粉ヲ包有セル細胞列ト交互ニ排列シテ甚

タ特異ナル觀ヲ呈ス而シテ此澱粉ヲ包有セル細胞ニハ篩脈管(s)ノ隨伴スルヲ見ル、擬杓層及殊ニ第二期皮部ノ外邊ニハ甚タシク厚化セル石核細胞(sk)ヲ筈在ス。

第二百二十三圖ハ石榴幹皮ノ橫斷面(二百十倍)ヲ示ス、(K)ハ杓層、(pd)ハ擬杓層

(k)ハ薄壁性杓細胞、(k)ハ厚壁性杓細胞、(pr)ハ第一期皮部ノ内邊、(sk)ハ石核細胞、

(o)ハ棧酸鹽單品、(o)ハ棧酸鹽簇品、(m)ハ髓線、(s)ハ篩脈管、(p)ハ澱粉ヲ包有セル

細胞、(c)ハ新生組織トス。

根皮ノ解剖學的構造ハ概

シテ幹皮ト異ナルコトナ

シ、根皮ハ其皮條幹皮ニ比

スレバ常ニ稍、狭ク老皮ニ

在テハ細小ナル石核細胞

ノ多數ヲ包藏ス、殊ニ根皮

ノ特徴ト稱スベキハ擬杓

層極メテ薄ク葉綠ヲ含有

圖四十二百二第



(L. Ksch 氏ニ據ル)

セス、内皮部ノ外邊ニ石核細胞ヲ缺如シ髓線ノ殆ト杓層迄通達スルニ在リ。

石榴皮末ヲ顯微鏡的ニ検査スルニハ「グリセリン水ヲ以テス、第二百二十四圖

ハ其粉末ヲ鏡檢セルモノニシテKfハ内皮部ニ於ケル棧酸鹽簇品ヲ包藏セル

組織(結晶室纖維)PPハ澱粉ヲ包藏セル組織、PC及PC₁ハ棧酸鹽簇品ヲ包藏セル細

胞ト澱粉ヲ包有セル細胞ノ交互ニ列置セル狀、Kハ杓層ニシテ其ハ表面ヨ

リ看視セルモノ、2及3ハ其側面ニシテ4ハ其杓細胞ノ散亂セル狀、Phハ擬杓

層、Stハ種々ノ形狀ヲ有スル石核細胞、Kaハ散在セル棧酸鹽簇品、Kiハ棧酸鹽ノ

單品、Sハ單澱粉、S₁ハ複合澱粉トス(二百倍)。

(成分) 石榴鞣酸 (Granatgerbsäure) ノ外恐クハ沒食子鞣酸ト同質ナル鞣酸ヲ

含有ス此二種鞣酸ノ含量ハ併セテ二十%ノ多キニ至ル石榴皮ノ有效成分ハ

Pelliclerin (C₈H₁₅NO) ナル液狀アルカロイドトス其他 Isopelliclerin (記號前者) Methy-

pelliclerin (C₈H₁₁(OH)₂NO) 及 Pseudopelliclerin (C₈H₁₅NO) ナル三種ノ「アルカロイド」ヲ傍

有ス、本生藥ノ殺蟲ノ效力アル成分ハ素ヨリ右諸種ノ「アルカロイド」ナレトモ

鞣酸モ亦與リテ力アルモノナルヘシ。

(應用) 各種蠱毒ヲ驅除スルニ用ユ、藥局方ニ於テハ石榴皮越邊斯ヲ製スルニ用ユ。

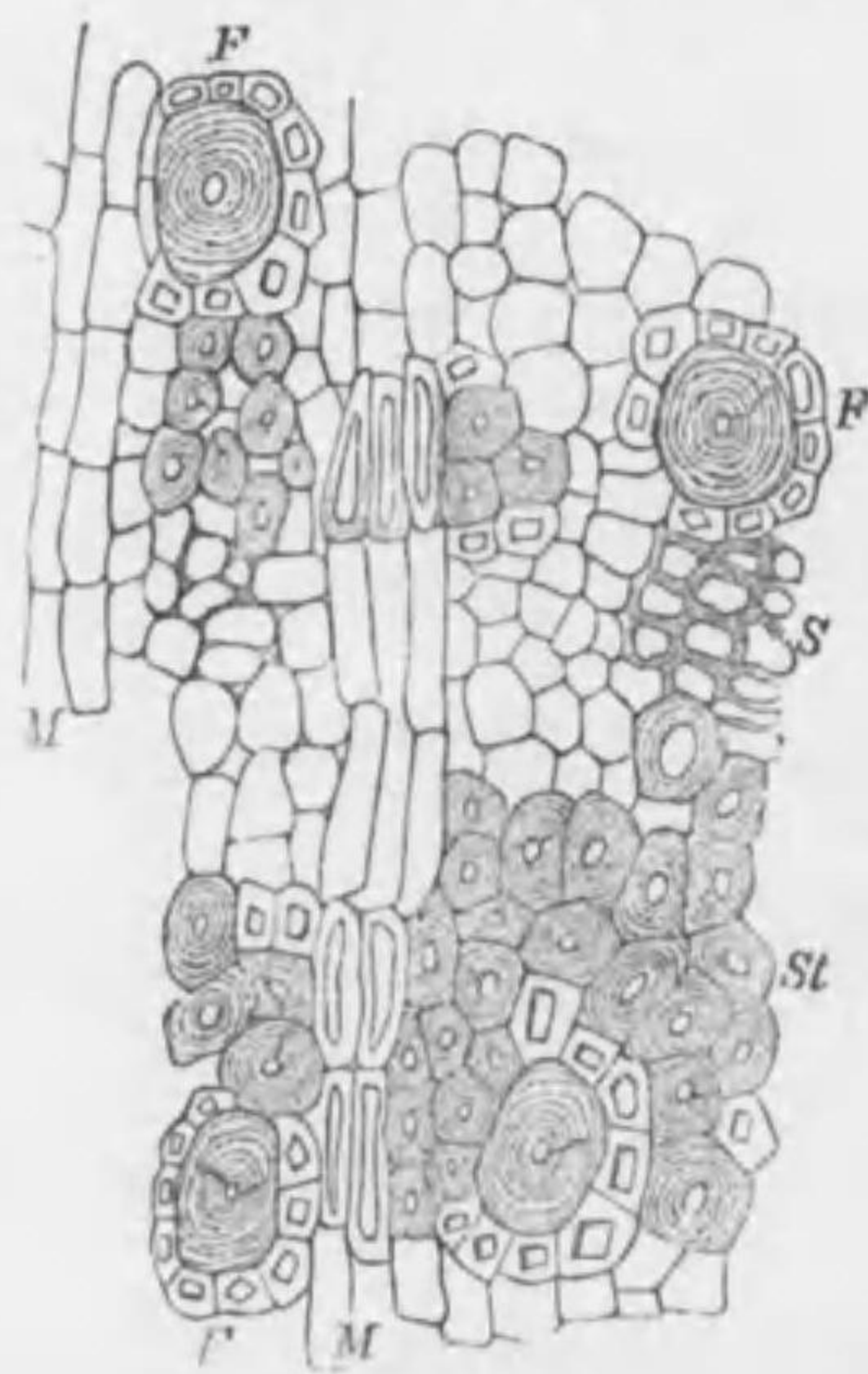
(獨) Quebrachorinde.
(英) Quebracho bark.
(佛) Écorce de Quebracho.

● クエブラチョー皮 Cortex Quebracho.

(基原) クエブラチョー皮ノ原植物ハ一千八百六十一年シユレヒテンダール氏之ヲ *Aspidosperma Quebracho* ト名ケ之ガ形状ヲ記載シ一千八百七十九年獨乙エルランゲン市ニ於テ始メテ醫藥ニ試用セリ此植物ハ夾竹桃科 (*Apocynaceae*) ニ屬シ南米アルジコンチン聯邦ノ西部ニ於ケル諸洲、カタマルカ及サンチアゴ其他コルダワ等ニ播布セルモノナリ。

(形状) 坊間ニ販賣セル品ハ老樹ヨリ剝採シ、甚タ著大ナル皮鱗ヲ着ケ、扁平ナル皮片ヲ爲シ、厚サ三 cm ニ至リ深サ往々二 cm ニ達スル巨大ノ縦溝及外面灰色内部褐色ナル廣皺及屢斜メニ排列セル横裂アリテ不整ニ非割セラル、横断面ニハ甚タ細微ナル暗色ノ胞層帶ヨリ波濤狀ニ横過セラル、褐色ノ皮鱗組織ト類黃色或ハ類赤色ノ内皮組織ト較然分割セルヲ見ル、其内皮部ニ於ケル横折面ハ短纖維形刺棘狀ニシテ皮鱗ノ横折面ヨリ長キ纖維形ヲ現ハス、クエブラチョー皮ノ全横断面ニハ淡明ニシテ周圍ノ判明ナラザル多數ノ斑紋ヲ見ル其斑紋ハ水ヲ以テ之ヲ潤ホセバ愈著明トナリ且ツ細微ナル類褐色ノ小點ヲ現ハスニ至ル又其類褐色ノ小點ハ斑紋ノ外部ニ於ケル組織中ニモ多ク筈

第 二百二十五 圖



(Hager 氏ニ據ル)

在ス而シテ此淡明ナル斑紋ハ短クシテ屢略球形ヲ爲セル石核細胞ニ係リ類褐色ノ小點ハ細小ニシテ全ク木化セル石核細胞ヨリ成レル包鞘ヨリ圍繞セラル、長キ内皮纖維ノ横断面ニ係ル而シテ其包鞘ノ各細胞中ニハ檸檬酸カルチウムノ結晶一箇ヲ包藏ス、稚皮ハ未タ石核細胞及皮鱗ノ發育充分ナラザルガ故ニ上文ニ記載セル所ト全ク異ナレル外觀ヲ有ス、**第二百二十五圖**ハ内皮ノ顯微鏡的

廓大圖ニシテ(M)ハ髓線、(S)ハ篩管、(St)ハ石核細胞、(F)ハ結晶鞘ヲ有スル纖維ナリ。

(成分)

クエブラチョー皮ハ數種ノ「アルカロイド」ヲ含有ス其中結晶性ヲ有スルモノハ *Aspidospermin* $C_{22}H_{26}N_2O_2$ 、*Quebrachin* $C_{21}H_{26}N_2O_2$ 、*Quebrachamin* (*Aspidospermin*) $C_{22}H_{28}N_2O_2$ ノ三種ニシテ他ノ二種即チ *Aspidosamin* $C_{21}H_{26}N_2O_2$ 及 *Eypoquebrachin* $C_{20}H_{26}N_2O_2$ ハ結晶性ヲ有セズ其他鞣酸(三五%)ヲ含ム。

(應用) レタリシ

クエナフチコロ皮ハメンツェルト氏ニ由リ喘息呼吸困難等ニ偉効アリトシテ稱用セラ

● コンヂュランゴ皮 Cortex Condurango.

(基原)

コンヂュランゴ皮ハ一千八百七十一年以來癌腫ニ偉効アリトシテ世ニ知ラレタリ従前ハ白前科 (Asclepiadaceae) ノ植物 Gonolobus Condurango *Tyria* ヲ

第百二十六圖



部ノ山嶺地ニ産スト云フ。

(形狀)

コンヂュランゴ皮ハ幹皮ヨリ成リ其厚サ二乃至七mmニシテ通常ハ多少彎曲ス外面ハ大抵帶褐灰色ナリ破折面ハ淡類黃灰色ニシテ概シテ顆粒狀ヲ呈シ只稚皮ノ外邊ニ於テ長キ纖維ヲ出スノミ 第百二十六圖ハコンヂュラ

テ本植物ハ南米エクタドル西基本植物ト認ムルニ至レリ而シCondurango *Reichenbach* ヲ以テ之ガ

皮 (獨) Kondurangerinde.
(英) Condurango bark.
(佛) Écorce de condurango.

ンゴ皮ノ自然大寫真圖ナリ。

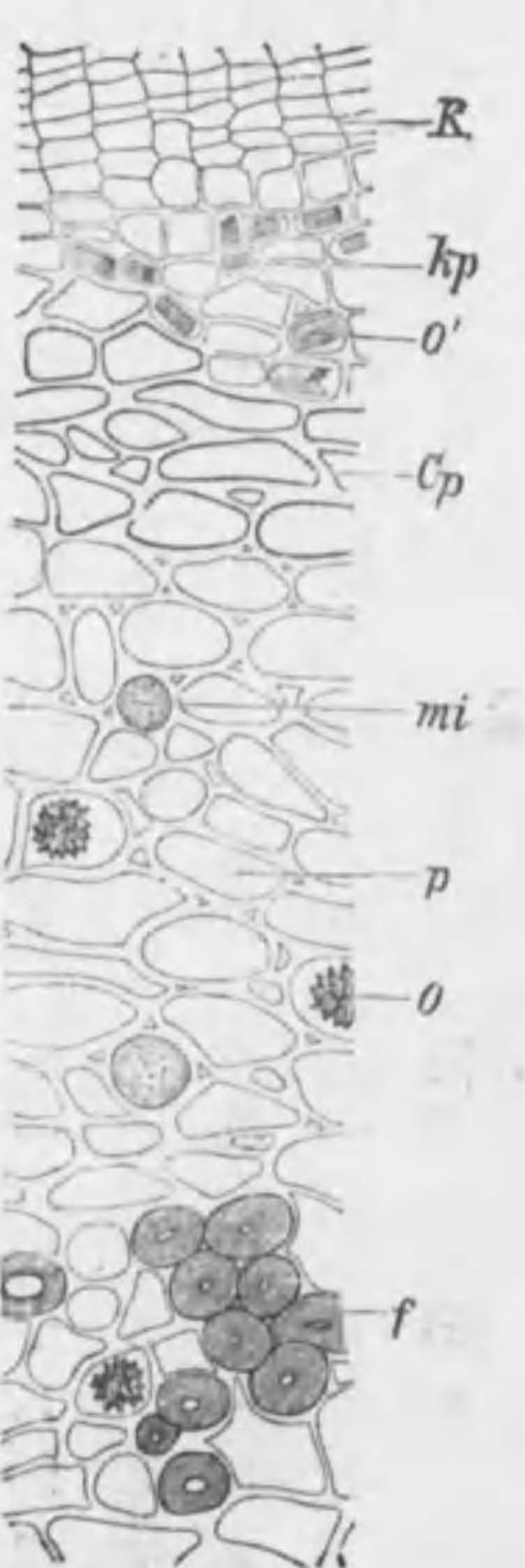
(顯微鏡的構造)

コンヂュランゴ皮ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ内皮

第百二十七圖



第百二十八圖

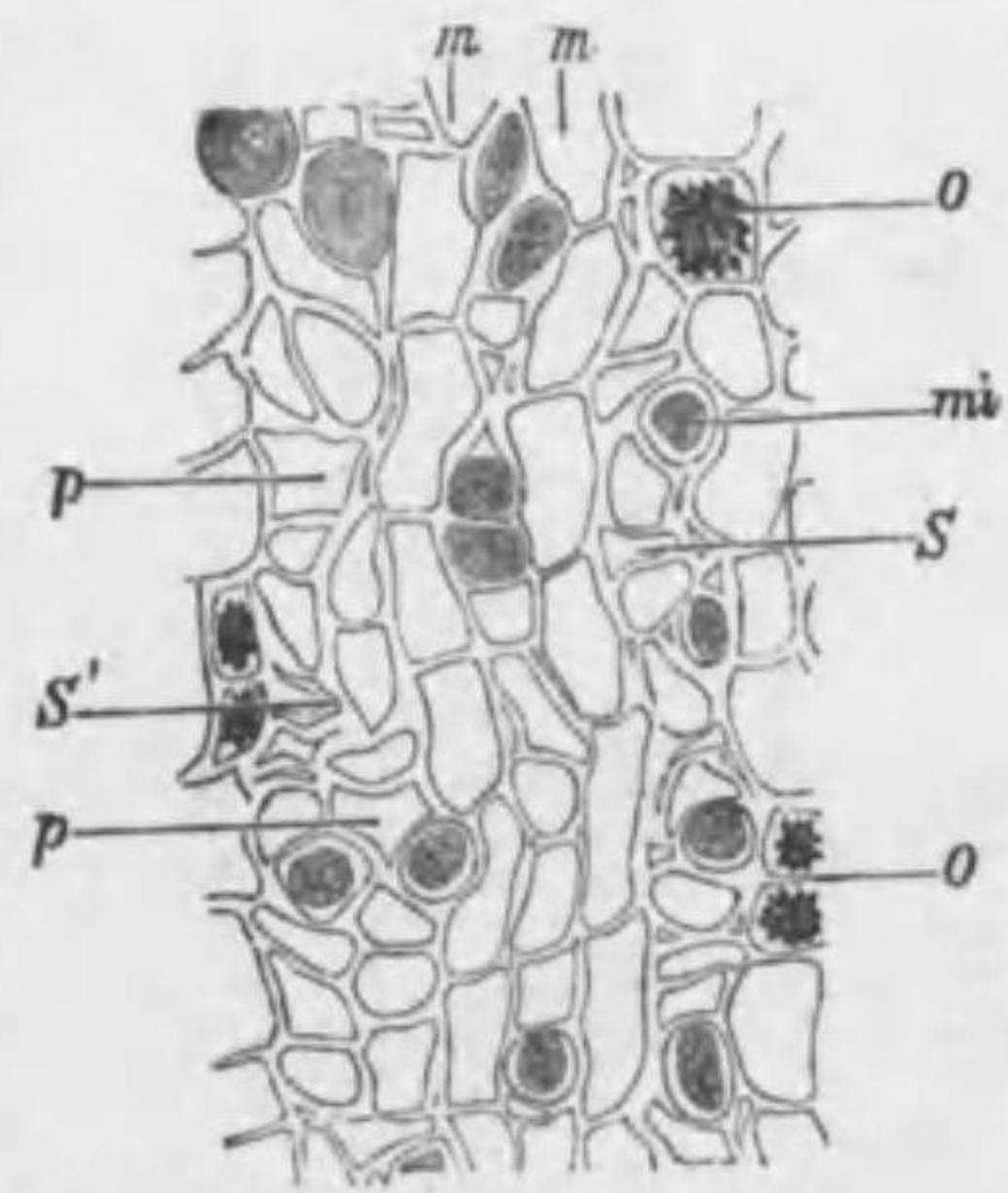


部ニ於テ第二期髓線ヲ見ル其第二期髓線ハ一列ヨリ成リ又二列ヲナスコトアレトモ甚タ稀ナリ其高サハ十乃至四十層ナレトモ概シテ十五層ヲナス髓線ノ細胞ハ一部分ハ捲酸鹽ノ結晶簇ヲ含有ス内皮層ニハ乳脈管ト主軸ノ方向ニ延長セル石核細胞簇アリ後者ハ觸線ノ方向ヲ取り疎ラニ排列ス内皮部(第二期ノ皮部)ノ組織ハ澱粉ニ富メリ外皮部第一期ノ皮部下内皮部ノ境界ニハ大小不同ノ纖維束アリテ一列或ハ二列ヲナシ觸線ノ方向ニ占居ス胞層ハ

圖九十二百二第



圖十三百二第

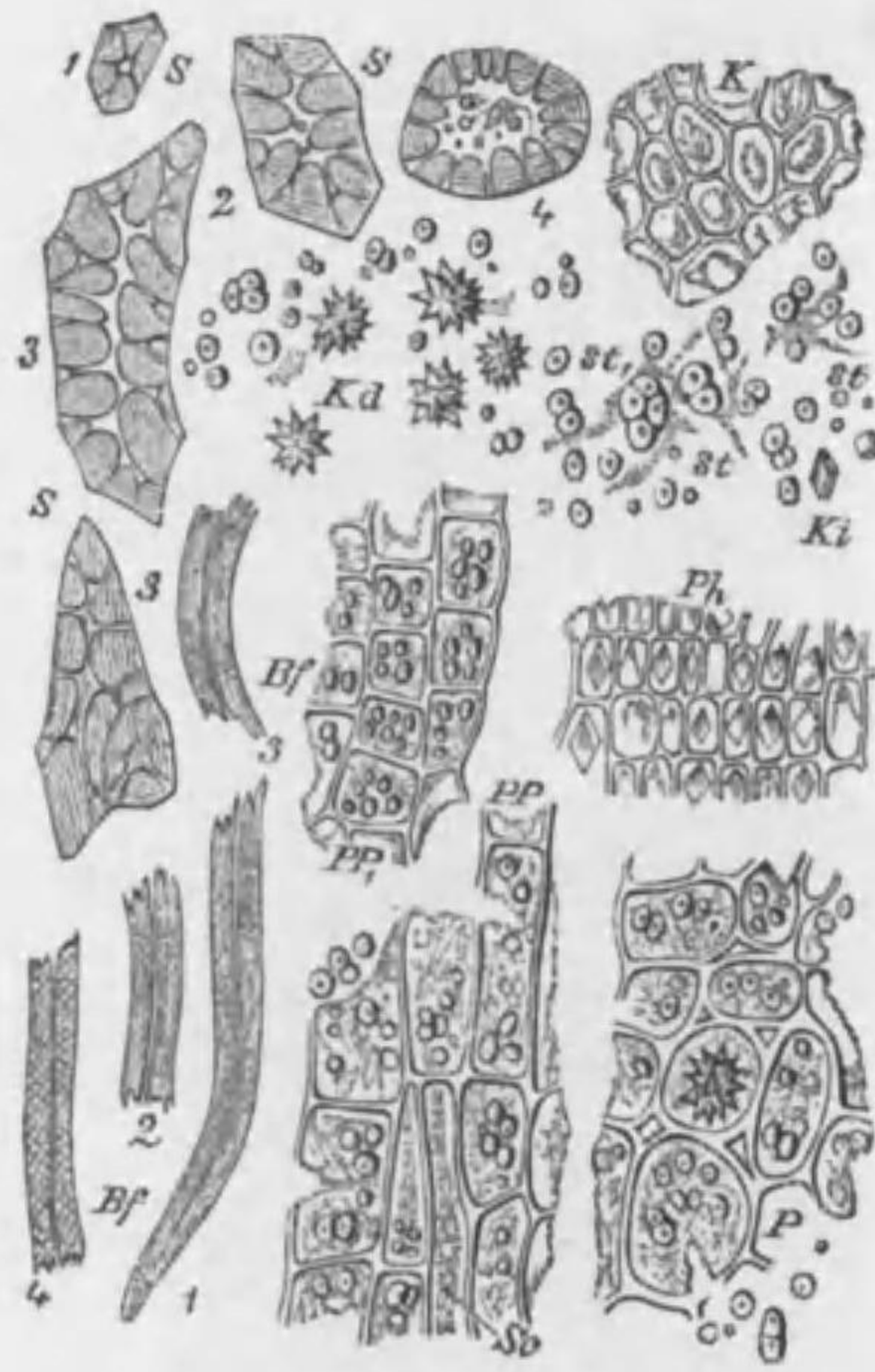


非薄ノ細胞ヨリ成ル。

第二百二十七圖ハ本品ノ横断面ヲ廓大視セルモノニシテ其Kハ枹層

Pハ外皮部、Sハ内皮部、Fハ纖維束、Stハ石核細胞簇トス、第二百二十八圖ハ「コンヂユランゴ皮」ノ横断面ヲ二百二十倍ニ廓大示セルモノニシテKハ枹細胞、kpハ擬枹層、oハ糖酸カルチウムノ單品、oハ其簇品、miハ乳脈管、fハ纖維束トス、第二百二十九圖ハ特ニ石核細胞簇ヲ示ス、第二百三十圖ハ第二期皮部ノ中央部ヲ二百二十倍ニ廓大示セルモノニシテoハ糖酸カルチウムノ簇品、miハ乳脈管、S、S'ハ頤敗篩脈管、Pハ内皮組織、mハ髓線トス。
第二百三十一圖ハ「コンヂユランゴ皮」末ヲ「グリセリン」ト水トヲ用キテ顯微鏡下ニ檢視セルモノナリ、Pハ縦断面ニ於ケル皮部組織、PP及PP₁ハ是レ亦同様ノ位置

圖一十三百二第



(L. Koch 氏ニ據ル)

ニ於ケル皮部組織ニシテ其ニ澱粉及單一ナル糖酸鹽簇品ヲ包藏スルヲ見ル、Scハ乳脈管ノ一部分、Phハ單一ノ糖酸鹽品ヲ包藏セル縦断面ニ於ケル「フエロデルム」組織(擬枹層)、Kハ表面ヨリ看視セル枹層、Bf(「ヨリ」

ニ至ル)ハ内皮纖維、S(「ヨリ」ニ至ル)ハ總テ石核細胞、Kaハ糖酸鹽ノ簇品、Kiハ糖酸鹽單品ノ散在セル者、st及st₁ハ單澱粉及複合澱粉トス(二百倍)。

(成分) 畧確實ニ知ラレタル成分ハ二種ノ配糖體即チ α -Kondurangin $C_{18}H_{32}O_{16}$ 及 β -Kondurangin $C_{18}H_{32}O_{16}$ トス而シテ「ベタ・コンヅランギン」ハ冷水ニハ能ク溶解

スレトモ熱湯ニ溶解セス故ニ本生藥ニ水四分ヲ和シ冷浸シテ得タル澄明ノ液ハ熱スレバ著シク混濁シ冷ユレバ澄明トナル。

(應用) コンゲラニンゴ皮ハ胃ノ痙攣ニ特效アリトシテ應用セラレ、又廣ク病原ノ詳ナラサル慢性胃病ニ健胃薬トシテ用ユ。

● **キラヤ皮** Cortex Quillajae.

(來歴及基原)

キラヤ皮ハ智利ニ於テハ古代ヨリ洗料ニ應用セシガ之ヲ歐洲ニ齎ラセシハ今ヲ去ルコト大約四五十年前トス而シテキラヤ皮ハ南米ノ百露智利及ボリウエアニ産スル薔薇科 (Rosaceae) ノ常綠樹 Quillaja Saponaria Molina ノ皮ナリ。

(獨) Seifenrinde.
(英) Quillaja bark.
(佛) Bois de Panama.

圖二十三百二第



至ル其外面ニ被ムレル褐色ノ皮鱗ハ除去セリ故ニ本生薬ハ主トシテ内皮部

(形状)

坊間ニ販賣スル品ハ重キ板狀ヲナシ或ハ薄キ削屑又ハ鋸屑トナセリ藥用ニハ板狀ヲナスモノヲ用ユ此皮ハ長サ一m、廣サ十cm、厚サ一cm(概シテ六乃至七mm)ニ

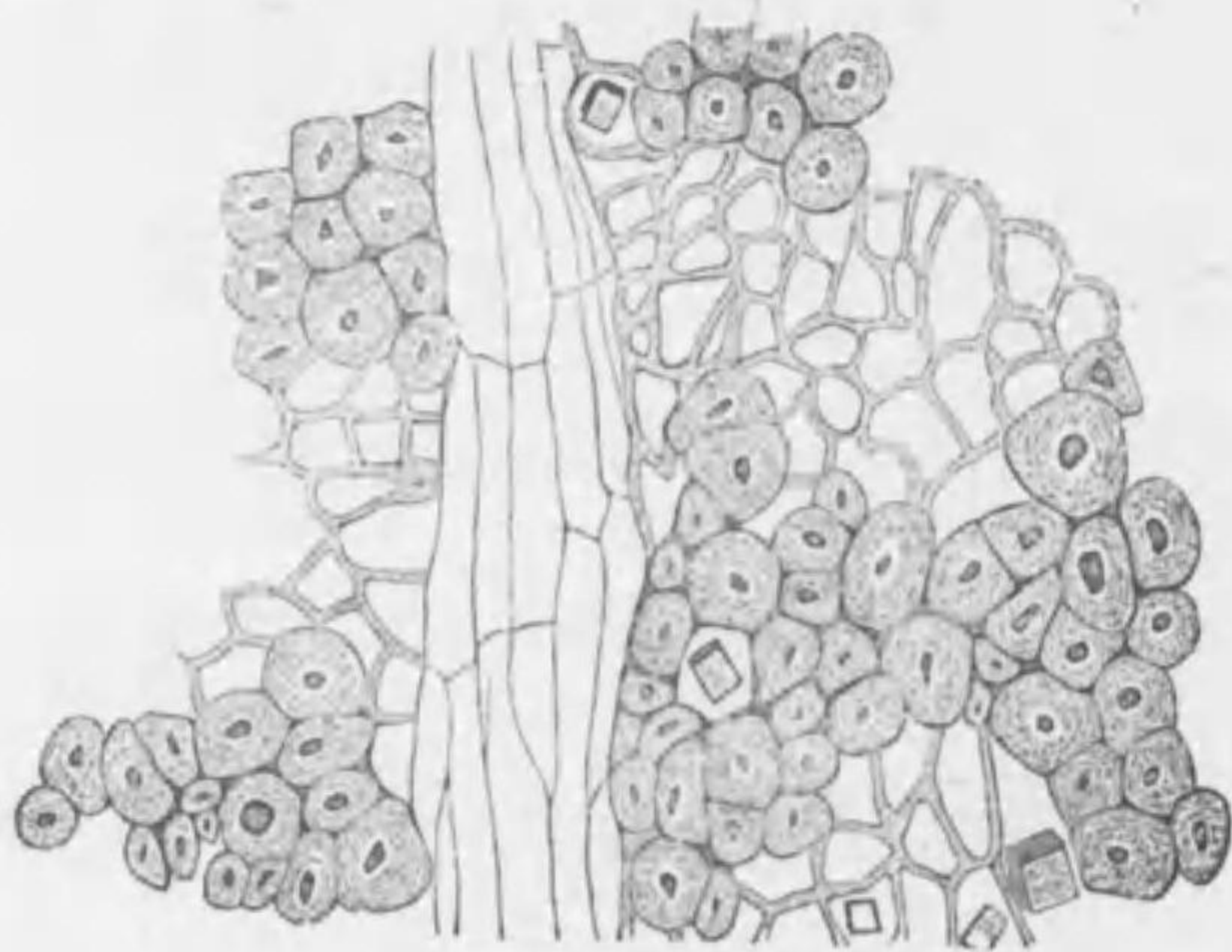
(第二期ノ皮)ヨリ成リ其色殆ト純白ナリ、第二百三十二圖ハキラヤ皮ノ自然大

寫真圖ナリ。

(顯微鏡的構造)

横断面ハ單顯微鏡(ルーペ)ヲ以テ之ヲ檢スレバ略、平方形ニ井割セラル、顯微鏡下ニ之ヲ檢視スレバ内皮部中ニハ單獨ニ存在セル纖維束ト横徑不整ニ排列シテ左右ノ髓線ニ連接セル纖維束ヲ見ル又内部ニ於ケル多數ナル細胞中ニハ稜柱形ノ結晶(尿酸カルチウム)ヲ包藏ス是レ本品ニ特異ナル標徴トス。

圖三十三百二第



チウム結晶ヲ包裏セル細胞ヲ明視スルヲ得ベシ。

顯微鏡ニ檢視セルモノニシテ横徑不整ニ列在セル纖維束及尿酸カル

(成分) 販賣ノ「サポニン」(Saponin)ハ専ラ本生薬ヨリ製出シ其收穫量九%ノ多キニ至ル此サポニン「ハ左ニ掲クル諸質ノ混合物トス。

(一)純サポニン(毫モ毒性ヲ有セス)⁽¹⁾キラヤ酸 Quillajasäure $C_{16}H_{26}O_{10}$ (但シメルク氏ノ製品ハ $C_{16}H_{26}O_{10}$ ナル集成ニシテ、毒性ヲ有ス)⁽²⁾Sapotoxin $C_{17}H_{28}O_{11}$ (メルク氏製品ハ $C_{17}H_{28}O_{11}$ ナル集成ニシテ、亦毒性ヲ有ス)⁽³⁾Laktolin (一種ノ含水炭素)。

本品ハ頗ル價貴キガ故ニ「サポニン」ヲ含有スル他ノ廉價ノ皮ヲ輸出スルニ至レリマラカイボ産石鹼皮是ナリ、此皮ハ其外見稍、真正石鹼皮(キラヤ皮)ニ類スレトモ全ク其内部ノ構造ヲ異ニセリ錯誤ヲ來スノ恐レナシ。

(應用) 本品ハ浸劑又ハ煎劑トナシ「セネガ根」ニ換ヘテ祛痰薬トナス、コーベルト氏ハ本生薬ヲ以テ「セネガ根」ニ優レリトセリ、外用トシテハ磨齒粉、含嗽料、頭毛ノ洗料トナシ又ハ惡臭アル分泌物、濕疹等ヲ洗滌スルニ用ユ、然レトモ其主要ノ用途ハ普通石鹼ノ代用品トナシ色澤ヲ損傷スルノ恐レアル絹布等ヲ洗滌スルニ在リ其他古書書類ノ洗滌ニ適スル洗料トス此目的ニハ本品ノ越幾斯又ハ丁幾ヲ用ユルコトアリ。

本邦ニ産スル無息子(Sapindus Mukurosi Gaert. ノ果皮)即チ延命皮ハ其成分本條ノ生薬ニ類ス。

● キナ皮 Cortex Chinae.

(基原) China (即チ Kina-kina 或ハ Quina-quina ナル名稱ノ約語)ハ素ト南米ヨリ傳來セルモノニシテ百露人ハ已ニ太古ノ時代ヨリ「キナ皮」アルコトヲ知レル

ヤ疑ナキニ似タリト雖トモ未タ確然タル證據ヲ認メス而シテ西班牙人ノ始メテ「キナ皮」ニ關スル報告ヲナセシモ亦近ク一千六百三十年代ニ在リ、一千六百三十八年百露副王ノ夫人シモン氏リマ市ニ於テ偶、熱病ニ罹リ「キナ皮」ニ因テ快癒スルコトヲ得シヨリ以來世人始メテ其靈藥タルコトヲ知レリ、一

千六百四十年シンシオン夫人西班牙ニ歸リ醫師ニ囑シテ「キナ皮」ヲ廣播セシメタリ又カトリック教會々員ハ「キナ皮」ヲ知り之ヲ舶齎シテ羅馬ノ藥舖ニ販賣セ

リ、然レトモ當時キナ皮ハ無効ナリトノ説ヲ唱フレモノアリテ大ニ之ガ播布ヲ妨碍セリ、獨乙ニ於テハ一千六百九十六年始メテ之ヲ China Cinnae ト稱シテ

藥舖ニ販賣セリ、爾後幾クモナクシテ China nova カスカリルラ皮ノ條ヲ見ヨト稱シ毫モ「アルカロイド」ヲ含有セザル賈種ノ「キナ皮」世上ニ現出セリ、一千七百三十年ヨリ一

千七百四十年ニ至ルノ際巴里市ニ於テ一種ノ「キナ樹」ノ記載及其圖書ヲ世ニ公ニセリ而ノ一千七百四十二年林那氏チンシヨナ(Cinchona)ナル植物屬ヲ設ケタリ然レトモ同氏ハ標本ニ乏シク其所有セル Cinchona officinalis 樹ニ就キ詳細

(獨) Chinarinde.
キナ皮
(英) Cinchona bark.
(佛) Écorce de Quinquina.

ナル記載ヲナスコト能ハサリキ、一千七百七十六年ニ至リ *Cinchona lancifolia* ノ
 発見アリ、次テリ^{Paris}イヌ及バウ^{Pavon}ンノ兩氏ハ一千七百七十八年ヨリ一千七百八十
 八年ニ至ルノ間ニ百露ニ於テ多數ノ^{Chin}シナ樹ヲ発見シ一千八百四十七年
 ウ^{Verhelt}デル氏始メテ王キナ皮ノ原植物ナル *Cinchona Calysaya* ヲ種別セリ、キニーネ
 及シンコニン^{Verhelt}ヲ創製シタルハ佛國巴里市ノ藥劑師^{Pelletier}ペレチエー及カウ^{Caventon}ンツ
 兩氏ノ(一千八百二十年)ノ功績トス。

一千八百五十四年印度瓜哇島ニキナ樹ノ移植ヲ試ミタルハ實ニハ^{Haskell}ハスカル、
 氏ニシテ其功甚タ大ナリ次テ^{Howard}一千八百五十九年ヨリ一千八百六十一年ノ間
 ニ於テ殊ニ^{Marikani}マルカム氏ハ英國政府ノ囑託ヲ奉シ^{Howard}ハワード氏ノ保護ヲ受ケ專
 ラ東印度ニ於テキナ樹ノ培植ニ從事セリ而シテ一千八百五十九年蘭人^{Howe}イ・エ・デ
 フライ氏瓜哇島ニ培養セル^{Howe}キナ皮ヨリ始メテ硫酸キニーネヲ製出セリ、印度
 ニ於ケル^{Howe}キナ樹ノ培養ハ日ヲ追テ盛大トナリ目下印度産キナ皮ハ已ニ南米
 産ヲ壓倒スルニ至レリ、現今印度及南米諸國ニ於テ年々收穫スル^{Howe}キナ皮ノ全
 額ハ大約一千萬キログラムニ超エト云フ、然ルニ南米ニ於テハ從前ハ只天然
 樹ノ皮ヲ收穫スルニ止マリシガ近時ポリウ^{Howe}ア政府ハ往々キナ樹ノ滅盡ヲ豫

防センガ爲メ其亂伐ヲ禁シ一樹ヲ仆ストキハ必ズ五枝ヲ地ニ挿ムベキ法律
 フ規定セリ、又キナ樹ハポリウ^{Howe}アエクタ^{Howe}アドール等ノ諸國ニ培養セラレ其他西
 印度、墨西哥ニ移植セリ。

キナ樹ハ茜草科(Rubiaceae)ノ分科キナ樹科(Cinchoneae)ニ隸スル^{Howe}チンヒ^{Howe}ナ(Cin-
 chona)屬ノ植物ニシテ今其最モ重要ナルモノヲ掲タレバ左ノ如シ。

(I) *Cinchona succirubra* ^{Howe}Purou (赤色キナ皮ノ原植物) 南米ノエクタ^{Howe}アドール及
 百露ノ北部ニ産ス。

(II) *Cinchona Calysaya* ^{Howe}Weddell (王キナ皮ノ原植物) 百露及ポリウ^{Howe}アノ境界ニ
 於ケルチ、カ、湖ノ周岸ニ産ス。

(III) *Cinchona officinalis* ^{Howe}Hooker. エクタ^{Howe}アドール及百露ニ産ス。

(IV) *Cinchona lancifolia* ^{Howe}Mutis. ホルム^{Howe}ピアニ産ス。

以上四種ノ中(一)ヨリ(三)ニ至ルノ三種ハ當時印度ノ錫蘭島マラバールノ沿岸
 印度ノシ^{Howe}キム(英領)其他瓜哇西印度ノジャマイカ等ノ諸島ニ多ク培植セラル、瓜
 哇島ニ於テハ前述ノ植物ノ外殊ニ *C. Laedgeriana* ^{Howe}Morus ヲ培植ス而シテ此植物
 ハ *C. Calysaya* ノ一種或ハ全ク別種ノ植物ト看做スヘキモノトス。

圖 四 十 三 百 二 第



キナ樹 (Cinchona)
 ハ喬木或ハ灌木
 ヲ爲シ、常緑性ノ
 坦縁葉ヲ有シ、華
 本ハ頂立性ノ圓
 錐狀花或ハ平頭
 有梗穂花ナリ、花
 ハ五數性圓筒形
 ニシテ上端五瓣
 A ニ分裂セル花冠
 ヲ有ス、萼ハ甚タ
 短シ、花冠ハ外部
 ニ絨毛ヲ帶ヒ其
 色澤一定ナラス
 白色類白色、紫紅

圖 五 十 三 百 二 第



色淡紅色、或ハ淡紫色、ナルアリ、實礎ハ
 下立性ニシテ二房ヲ存シ熟スルニ至
 テ覆果トナリ下部ヨリ上部ニ向ヒ房
 壁分離シテ二箇ノ分果トナル、各分果



中ニハ屋
 瓦狀ニ排
 列シテ翼
 片ヲ有ス
 ル多數ノ
 種子ヲ包
 藏ス。
 Cinchona
 Calysaya ハ
 其覆果卵
 圓形ヲ有

圖 六 十 三 百 二 第

スルヲ以テ本種ノ特徴トス、第二百三十四圖Aハ天然大ニ於ケル本植物ノ一
 枝ヲ寫セルモノニシテBハ花、Cハ花冠ヲ擴開セル狀ヲ示シ、Dハ覆果ノ破綻
 セル狀ヲ示ス、Eハ各分果中ニ屋瓦狀ニ排列セル種子ヲ包藏セル形狀ニシテ
 Fハ其廓大視セル覆果ノ横斷面トス而シテ**第二百三十五圖**ハ著シク廓大視

圖七十三百二第



セル種子ノ縦斷面ニシテGハ其翼片トス。
Cinchona succirubra (即チ赤色キナ皮ノ原植物)ハ高サ二十五mニ至ル喬木ニシテ頗ル廣大ノ葉ヲ有ス即チ其葉ノ長サ大約半m幅屢二十五cmニ至リ圓形或ハ卵圓形ヲ有シ菲薄ニシテ上端殆ン

ト尖銳ナラス、**第二百三十六圖**ハ花ヲ帶ブル本植物ノ一枝ヲ大約三分一ニ縮寫セルモノトス。

Cinchona officinalis ハ特異ノ微候ヲ闕如ス、花ハ細小ニシテ洋紅色ヲ有シ覆果ハ長形ニシテ長サ屢十二mmヲ超ユ、**第二百三十七圖**ハ大約三分一ニ縮小セル本種植物ノ一枝ヲ示スモノナリ。

南米ニ於テ「キナ皮ヲ收穫スルニハ甚ダ粗野ナル方法ヲ用ユ即チ土人單ニ「キナ樹ヲ仆シ皮ヲ剝除シ或ル地方ニ於テハ直火ニ乾燥ス而シテ皮鱗發育ノ盛シナル皮ニ在テハ之ヲ剝除シ其内皮ノミヲ市場ニ出ス。

印度地方ニ於テハ剝皮法及伐仆法ノ二法ヲ以テ「キナ皮ヲ採集ス、剝皮法ハ專ラ瓜哇島ニ行ハル、所ニシテ「キナ樹ヲ伐仆スルコトナク皮ヲ搔取シ或ハ其一部分ヲ剝離スルモノナリ而シテ其皮部ヲ剝離シタル部分ハ青苔或ハ藁若クハ粘土等ヲ以テ之ヲ被覆シ以テ更ニ樹皮ノ發育ヲ促ス、此方法ニ由ルトキハ「キナ樹枯死スルコトナク盛ニ發育シ其皮ヲ剝離セル部分ニハ新皮ヲ生ジ兩三年ノ後更ニ之ヲ採集スルヲ得ルニ至ル而シテ茲ニ新規ニ發育セル稚皮ハ従前ノ皮ヨリハ「アルカロイド」ニ富メルヲ常トス、伐仆法ハ「キナ樹發育後

大約八年ニ至ルヲ待チ之ヲ伐採シ皮ヲ剝離スルニ在リ此方法ハ甚ダ利潤多
 キモノニシテ其殘株ヨリ新芽ヲ出シ數年ヲ閱スルトキハ再ビ又樹皮ヲ收穫
 スルヲ得ベシ又根ヲ掘採スルモ大ニ利潤アリト云フ是レ根皮ハ幹皮ヨリ多
 ク有効成分ヲ含有スレバナリ、キナ皮ノ乾燥ハ決シテ等閑ニ附ス可カラザル
 ノ要件ニシテ永ク之ヲ森林中ニ放置スルトキハ自然アルカロイド分ノ減却
 ヲ來スモノナリ、上文ニ記載セルキナ皮收穫法中何レノ方法ヲ以テ適切トナ
 スベキカニ至テハ其說未ダ一定ニ歸セザレドモ現今キナ樹ノ培養法大ニ進
 歩シ管ニ外見ヲ齊シウスルノミナラズ亦多量ノ「アルカロイド」ヲ含有スル樹
 皮ヲ得ルニ至レリ。

(形狀)

キナ皮トシテ普通藥用ニ供セラル、ハ南米原産ノモノハ妙ナク多

圖八十三百二第



クハ蘭領印度群島殊ニ瓜哇、英領印度殊ニ
 錫蘭島ニ最モ汎ク培植セル *Cinchona* 屬殊
 ニ *Cinchona succirubra* Pav. ノ皮ニシテ其アル
 カロイドノ含量ニ關シテモキナ皮中首要
 ノ位置ヲ占メ現今多ク歐米ノ藥品市場ニ

圖九十三百二第



圖十四百二第



ハシ帶褐赤色ノ皮部ト固着ス而シテ皮部ハ之ヲ破折スルトキハ其内皮部ニ
 於テ纖維形ノ破折面ヲ現ハス即チ第二百三十八圖ニ於テ示ス所ノキナ皮ノ
 一片ノ上端ニ見ルガ如シ、第二百三十九圖ハ赤色キナ皮、第二百四十圖ハ黄色
 キナ皮共ニ特撰良品ノ自然大寫真圖ニシテ上ニ其横截面ヲ現ハス。

於テ現ハル、
 モノナリ、管狀
 或ハ半管狀ヲ
 爲シ長サ大約
 六十cm、直徑一
 乃至四cm、厚サ
 三四mmニ過ギ
 ズ、其帶灰褐色
 ニシテ縦皺ヲ
 有スル枹層ハ
 短キ横裂ヲ現

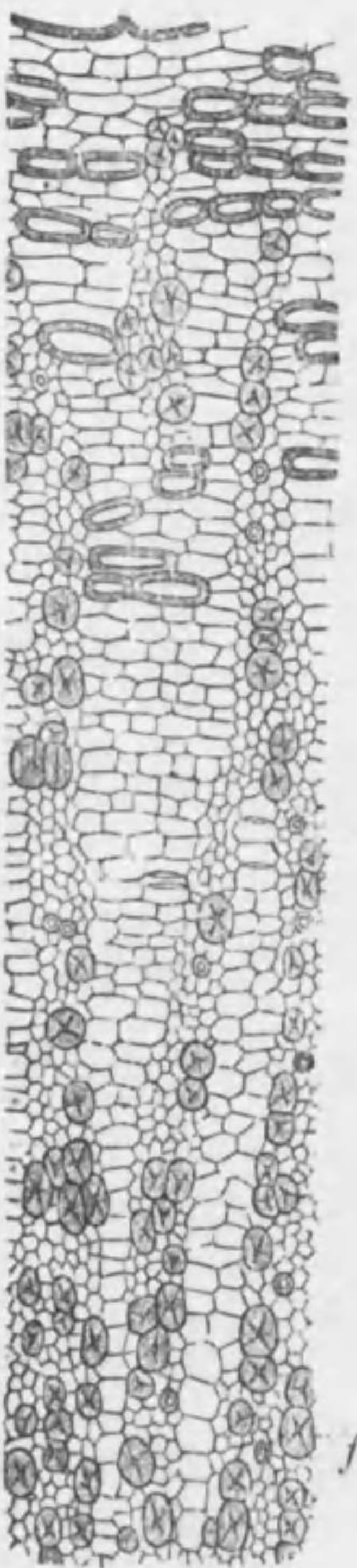
キナ皮ノ色澤ハ年ヲ經ルニ從ヒ大ニ變換スルモノニシテ赤褐色乃至褐色トナリ或ハ又著シク黄色トナルモノアリ南米ノキナ皮商ハ其色澤ニ由テ「キナ皮ヲ區別ス、然レモ印度ノ培養キナ皮ニ在テハ色澤ニ由テ品種ヲ分ツ」稍、困難ナリ、是レ印度産キナ皮ハ皆稚皮ニシテ其色澤ノ差異顯著ナラズ且ツ此キナ皮ハ前條ニ述ブル如ク僅々二三ノ *Cinchona* 樹ヨリ收穫セラルレバナリ、其他 *Cinchona Calysaya* 稚皮ノ *Cinchona succirubra* ニ異ナルノ點ハ其内部ノ組織赤褐色ヨリモ寧ロ黄褐色ニ近ク早ク乳脈管ヲ消失シ頗ル端整ノ井割ヲ有スル枹層ヲ被ムリ殊ニ其内部ノ組織中ニ枹層帶ヲ發育スルニ在リ(第二百四十三圖ノトヲ見ヨ)而シテ斯ノ如ク枹層帶ヲ發育シ皮鱗ヲ生スルハ *Cinchona Calysaya* ノ老幹ノ特異ナル性徴ニシテ其扁平ナル皮ヲ扁平カリサヤキナ皮 (*Cortex Chinae Calysayae planus*) 又扁平王キナ皮 (*Cortex Chinae regius planus*) ト稱シテ從前南米ヨリ輸出セリ、此キナ皮ノ表面ハ皮鱗ノ剝落セルニ由リテ蟹殻狀ノ凹窪ヲ現ハス而ノ常ニ其老皮ニ於テ見ル如ク皮部ノ内層ニ著シク枹層帶ヲ生ズルトキハ其枹層帶ノ外ニ位スル皮部ハ皮鱗トナリテ剝落シ其キナ皮ハ内皮ノミヨリ成リ唯其表面ノ處々ニ外皮ノ殘餘ヲ存スルノミ、*Cinchona succirubra* ノ

皮ハカリサヤキナ皮ニ反シテ老皮ト雖ドモ依然トシテ枹層ヲ被ムリ皮鱗ヲ生ズルコトナシ此皮ハ即チ赤色キナ皮 (*China rubra*) ト稱シ現今尙ホ稀ニ南米ヨリ之ヲ輸出ス而シテ印度ニ於テ培植セル (*Cinchona succirubra* ハ稚樹ニシテ南米ヨリ輸出セル如キ著大ノ赤色キナ皮ヲ生セズ、印度ニ培養セル *Cinchona officinalis* ノ皮ハ特異ノ鑑徴ヲ闕如ス只其内部ノ組織 *C. succirubra* 皮及 *C. Calysaya* 皮ニ比スレバ稍、褐色ヲ帶ブルノミ。

幼稚ナルキナ皮ノ味ハ不快ナラズ收斂性ニシテ苦シ、老皮ノ味ハ純苦味ニ近シ。

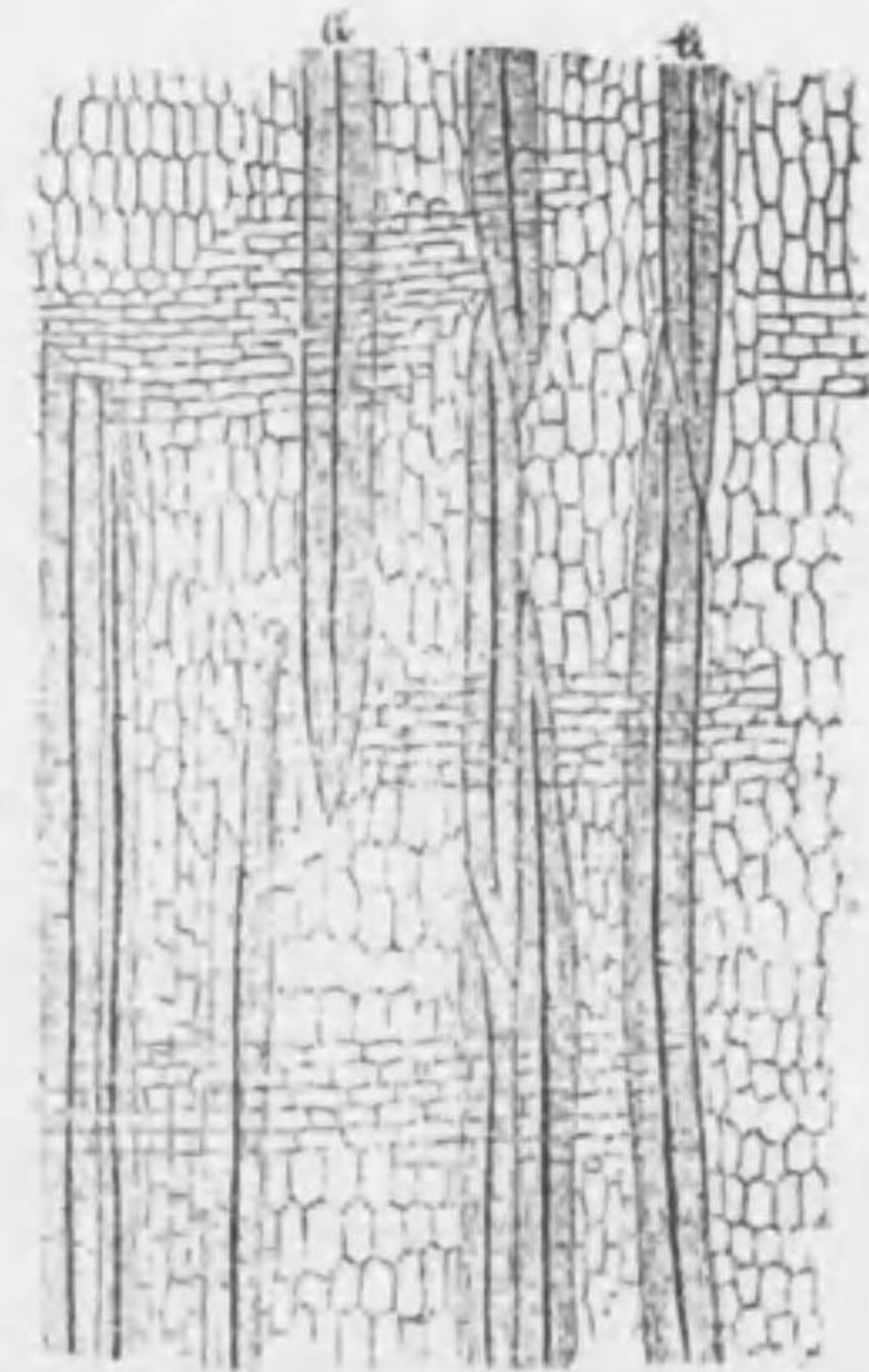
(顯微鏡的構造) 赤キナ皮ノ横断面ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ其組織中處々ニ多クハ周圍ノ細胞ヨリ遙ニ大ナル乳脈管(第二百四十一圖ノクヲ) 箝在ス

圖一十四百二第



而シテ此乳液囊即チ乳脈管ハ疎ラニ輪帶狀ヲ排布シテ外皮部ト内皮部トノ境界ニ存在ス而シテ内皮部ハ組織中ニハ皮壁頗ル厚化シ内空甚ダ狹隘ニシテ光澤ヲ帶ブル纖維**第二百四十一圖**ノフヲ散在ス此内皮纖維ハ其縱断面ニ

圖二百四十四第



於テ兩端尖銳ニ走り決シテ分岐セザル所ノ縱直ナル纖維或ハ只洋刀形ニ曲レル紡錘形ノ纖維ヲナシ其皮壁ニハ溝ヲ有ス**第二百四十二圖**ノリ而シテ此纖維ハ本キノ皮殊ニ扁平ナルカリサヤキノ皮ノ内皮部ヨリ輒ク之ヲ搔取

スルヲ得ベクシテ長サ三mm、直徑〇・二三mmニ至ルモノアリ**第二百四十四圖**ノ1及2ヲ見ヨ各種キノ皮中ニ存スル内皮纖維ハ概シテ其形狀ヲ同ウス例之バ前述ノキノ皮即チ *Cinchona succirubra* ニ於ケル如ク夥多ニ存在スルトキハ横断面ニ於テハ屢一定ノ規律ヲ以テ半徑ノ方向ニ排列スルヲ常トス斯クキノ皮ノ横断面ニ於ケル構造ハ極メテ特異ナルガ故ニキノ皮ハ決シテ他ノ皮

類ト錯誤セラル、コト無カルベシ。

凡ソキノ皮ノ構造ハ其年齡ノ均シキモノニ就キテ之ヲ比較スルトキハ概シテ前述ノ記載ニ適應シ大差アルコトナシ例之バ *Cinchona lancifolia* ニ於テハ其外皮部ノ組織中ニ於ケル多數ノ細胞ハ年ヲ經ルニ從ヒ石核性トナリ又諸多ノキノ皮ニ在テハ稚皮ニハ乳脈管ヲ見レドモ稍老皮トナレル者ニ在テハ之ヲ發見セズ又 *Cinchona*

Calycaya 及他ノキノ皮ニ

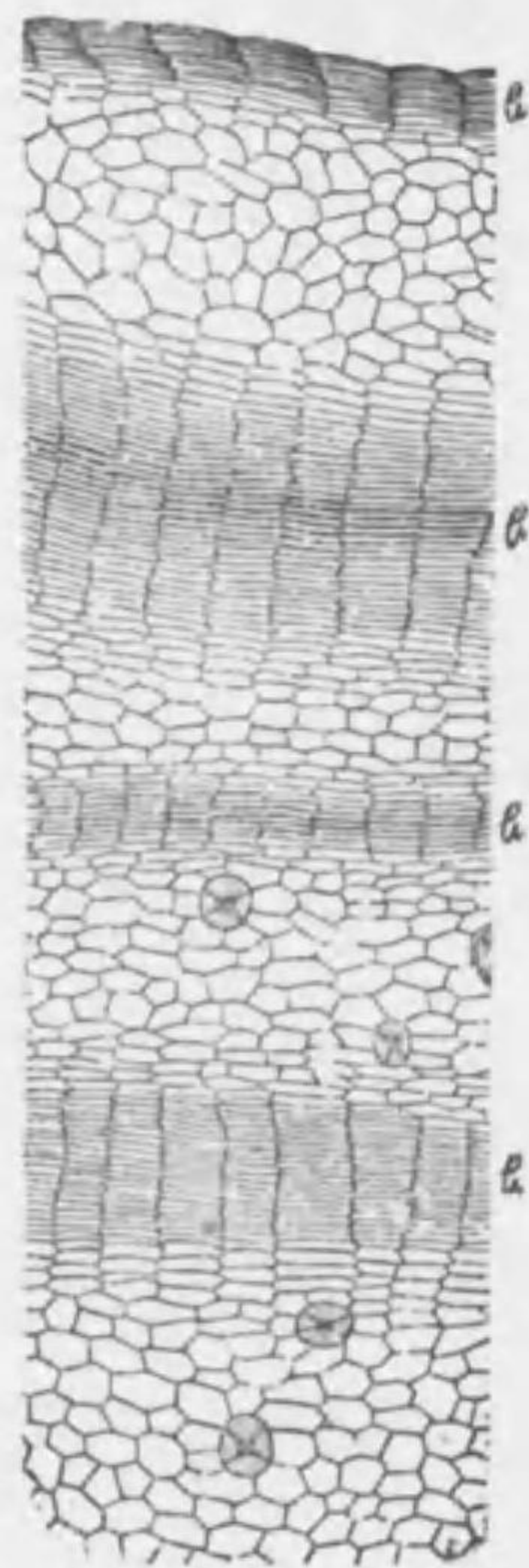
於テハ其内部ノ組織中

ニ胞層帶**第二百四十三**

圖ノリヲ發見スル等ノ

差アルノミ。

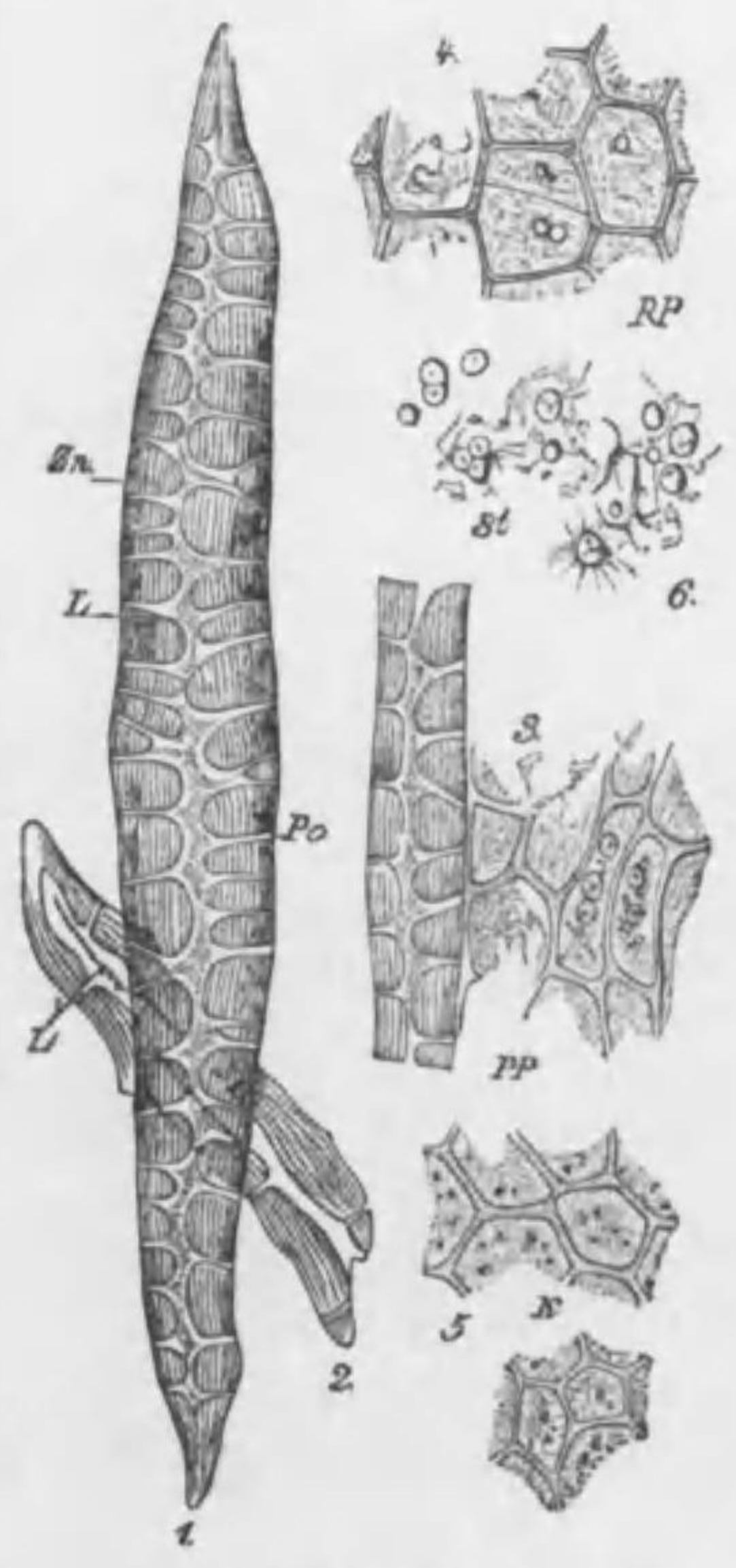
圖三十四百二第



第二百四十四圖ハキノ皮即チ *Succirubra* 皮ノ粉末ヲ顯微鏡下ニ檢視セルモノ

ニノ左ノ諸質ヲ見ル、(1)ハキノ皮特有ノ内皮纖維、(2)ハ石核狀内皮纖維ノ一小部分ニノ其Znハ細胞壁、Lハ空間、P₀ハ胞孔ナリ、(3)ハ皮部組織PPト連接セル内皮纖維、(4)ハ皮部組織RP、(5)ハ胞層Kヲ表面ヨリ看視セルモノ、(6)ハ澱粉粒Stナ

圖四十四百二第



(L. Kuhn 氏ニ據ル)

織中處々ニ顯著ナラザル結晶(糖酸カルチウム)ヲ包藏スレドモ其糖酸カルチウムハ端整ノ結晶或ハ結晶腺ヲ成シテ發見セズ而シテ(キナ皮ノ幼稚ナル者ニ在テハ夥シク澱粉ヲ含有ス、キナ皮ノ主成分タルアルカロイドハ「キナ皮ヲ顯微鏡下ニ檢視スルモ之ヲ認取シ難シ然レドモ」キナ皮ノ薄キ切片ニ「ナトロシ」澱液(比重一・一六)ヲ加ヘ瞬時微温ヲ施シ爾後其ナトロシ澱液ヲ傾瀉シ之ニ代フルニ「グリセリン」ヲ以テスルトキハ能ク結晶ヲ見ルニ至ル蓋シ此結晶ハ其酸類ヨリ遊離セラレタル「アルカロイド」ヨリ來ルモノナラン。

キナ皮ノ組織ハ赤色或ハ褐色ノ色素ヲ含有ス、此色素ハ唯アルカリニ著シク溶解スルノミ又其組

以上掲ケル所ハ主トシテ「キナ皮普通ノ性徴ヲ記述セルモノナリ、今左ニ原ト南米ヨリ輸出シタル各種キナ皮ノ性徴ヲ列記スベシ。

黄色キナ皮即チ「王」キナ皮 (Cortex Chinae Flavus) ハ Cinchona Calysaya ノ幹皮ニシテ之ヲ扁平カリサヤキナ皮 (Cortex Chinae Calysayae planus) 又扁平王キナ皮 (Cortex Chinae regius planus) ト云フ此キナ皮ハ長サ二十乃至三十cm 幅五乃至十五cm 厚サ一・五乃至二cm ニシテ扁平ナル皮板チナシ其外面ハ桂褐色ヲ有シ平坦ナラス蟹甲様ノ凹窪チ有ス、内面ハ外面ニ比スレバ稍褐褐色チ帯ヒ波濤様ノ縱紋チ有シ、縦隙チ現ハス、破折面ハ短キ纖維形チ爲ス。

Cina Calysaya sive epidermide ナル「キナ皮」上皮ヲ剥除セル「キナ皮」アリ皮隣チ除去セル種々ノ *Cin-ahoua* 屬植物ノ皮ニシテ又之ヲ扁平カリサヤキナ皮ト稱シテ販賣シ或ハ之ヲ扁平カリサヤキナ皮中ニ混交セルコトアリ。

南米産 *Cinchona Calysaya* ノ枝皮 (*Cinchona regia convolta s. omni epidermide*) ハ單管狀或ハ疊卷セル管狀チ爲シ長サ三十乃至六十cm 直径二乃至五cm 厚サ五乃至六mm トス、外面ハ帶黄灰褐色ニシテ處々ニ白色ノ斑紋チ着ケ縱溝チ有シ縱横ニ龜裂シ内面ハ桂褐色ニシテ細微ノ縱紋チ有ス。

灰色キナ皮 (Cortex Chinae Ericus s. fuscus) ハ南米ノ百露及エグアドール地方ニ産スル諸種キナ樹枝ノ皮ニシテ直径一乃至三cm 厚サ一乃至三mm ノ管條チナシ長サ一定ナラス、外面ハ灰色、黒色、或ハ灰褐色等ノ不同アリテ、白色ノ斑紋チ有シ又地表チ着ケ縱横ニ龜裂ス、内面ハ桂褐色或ハ

淡褐色ニシテ細微ノ縱紋アリ、之ニ數種アリ最モ重要ナルヲアマニコキナ皮(百露産)及ロクサキナ皮(エクアドール産)トス。

Huanuco

Loxa

赤色キナ皮 (Cortex Cirina rubra) 及 Cinchona succubana ノ枝皮及幹皮ナリ方今ハ市場ニ出ツルコト極メテ稀ナリ通例販賣ニ供スルモノハ印度移植ノ樹ヨリ取レルモノトス、直径五乃至七cm、厚サ一cm以上ニ至ル管條ヲナシ常ニ外皮(樹層)ヲ被ムリ内部ハ赤褐色ヲ有ス(上文ヲ参照スベシ)。

従前南米原産地ノ品種ヲ用非タル時代ニ於テハ、キナ皮ノ價格ヲ評スルニ其外見ヲ以テシ又其産地或ハ輸出地ノ名稱ヲ附シ品種ヲ鑑定スルコト頗ル困難ナリシト雖トモ現今移植印度産キナ皮ヲ専用スルニ至テハ外觀ニ憑據セズ専ラアルカロイド含有量ノ多少ニ由テ品價ヲ評定スルニ至レリ。

(成分)

キナ皮即チ Cinchona 屬及之ニ近似セル Remjia 屬植物ノ皮中ニハ他ノ植物中ニハ未タ曾テ發見セラレザルアルカロイドヲ含有シ之ヲ總稱シテキナアルカロイドト云フ此キナアルカロイド中ノ四種即チキニーネ(ヒニーン Chinin)、キニヂン (Chinidin)、シンコニン (Cinchonin)、シンコニヂン (Cinchonidin) ハ最モ多クキナ皮中ニ存在シ其解熱ノ効アルハ此等ノアルカロイドヲ含有スルニ職由ス、キニーネ及其イソメール體キニヂンハ共ニ $C_{20}H_{27}NO_8$ ナル集成ヲ有ス、シンコニン及シンコニヂンノ二種モ亦互ニイソメール體ヲナシ其集成

ハ $C_{20}H_{27}NO_8$ ナリ而シテ此四種ノアルカロイドハ總テ結晶性ヲ有ス又キナ皮中ニハ他ノ結晶性アルカロイドヲ含有スレドモ其含量極メテ些少ニシテ茲ニ枚擧スルヲ要セズ其他無晶形ノアルカロイドヲ存スレドモ是レ亦重要ナル化合物ニ非ズ。

キニーネ及キニヂン(又 Conchinin ト名ク)ハ「エーテル」ニ溶解シ結晶水ヲ抱有スル所ノ柱狀結晶ヲナシ其硫酸ヲ加ヘテ酸性ト爲セル水溶液ハ藍色ノ螢石彩ヲ呈シ其溶液ニクロール水及アムモニア水ヲ加フレバ綠色即チタルレイオヒン反應 (Thalleiochin-Reaktion) ヲ呈ス、シンコニン及シンコニヂンノ二種ハ「エーテル」ニハ甚タ僅ニ溶解シ結晶水ヲ攝取スルノ機能ナク其鹽類ノ水溶液ハ螢石彩ヲ現ハサス又タルレイオヒン反應ヲ闕如ス而シテ此四種ノアルカロイドハ分極光線ニ對シテハ之ト異ナル列序ヲ有ス即チキニーネ及シンコニヂンハ共ニ其鹽類ノ溶液ハ分極光線ノ平面ヲ左旋シ他ノ二種ノ鹽基即チシンコニン及キニヂン(及其鹽類ハ之ヲ右旋)ス。

キナ皮中アルカロイドノ含有量ハ大ニ不同アルノミナラズ又キナ皮ニシテアルカロイドヲ含有セザルモノアリ之ニ反シ印度ニ培養セルキナ皮中キニ

「ネ」ノ含有量十三%ノ多キニ至ルモノアリ又上文ニ掲クル *Cinchona Ledgeriana* ノ乾燥セル皮中ニハ十三・六%ノ「アルカロイド」(四種ノ混和物)ヲ發見セリ。
 印度産 *Cinchona succirubra* ノ樹皮ハ六乃至十%ノ總アルカロイドヲ含有シ屢キ ニーチ一%稀ニハ其四%ヲ含ミ、シンコニヂン「ハ三乃至四%ヲ含有スルヲ常 トス、枝皮ハ通常幹皮ヨリ遙ニ少量ノ「アルカロイド」ヲ含有スルモノトス、シン コニン及シンコニヂン「ハキニーネ」ニ續キテ汎ク發見セラル、モノニシテ或 ル「キナ皮」ハキニーネヨリ多ク之ヲ含有ス而シテ「キニーネ」ハ間、其含量十%ニ 至ルコトアレドモ以上二種ノ「アルカロイド」ハ決シテ斯ノ如ク多量ニ存在ス ルコトナキモノトス、キニヂン「ハ其四%以上ヲ發見スルコト甚タ稀ナリ。
 デニース及マルチネルレ兩氏ノ一千八百八十四年ニ於ケル瓜哇産キナ皮分 析ノ報告ハ左ノ如シ。

スウチルバノ根皮	キニーネ ノ%量	他ノ「アルカ ロイド」ノ%量	ハスカリアナ <i>Huskaria</i> ノ根皮	キニーネ ノ%量	他ノ「アルカ ロイド」ノ%量
キナイキナリス Officialis 同	一・〇	九・三	ラヂゲリアナ <i>Ladgeriana</i> 同	一・五	六・〇
Succirubra ノ再生皮	三・九	九・二	Officialis ノ同	四・九	七・七
Ladgeriana ノ同	二・三	七・八	Ladgeriana ノ同	三・九	六・〇
	六・九	八・七	Ladgeriana ノ挿木	二・七	四・四

Succirubra ノ幹皮及枝皮 一・二 八・三 *Huskaria* ノ同 〇・九 三・三

印度ニ於テハ頻ニ多量ノ「アルカロイド」ヲ含有シ且ツ其含量ニ不同ナキ所ノ キナ皮ヲ培養スル方法ヲ考究スレトモ未タ其目的ヲ果スコト能ハス「*Cinchona Ledgeriana*」ハ「アルカロイド」ヲ含有スルノ多キ實ニ比類ナキ樹ニシテ最モ望ヲ 屬スヘキモノナレトモ往々又其含量少ナキモノアリ而シテ「キナ皮中アルカ ロイド」ノ含量ニ多少アルハ地質肥料等ニ關スルカ將タ他ノ原因ニ由ルカ仍 ホ不明ニ屬ス。

總テ「キナアルカロイド鹽類」殊ニ其揮發性酸ノ鹽類「ハ之ヲ熱灼スルノ際其本 性未タ明白ナラサル所ノ洋紅色ナル分解成績體(タール)ヲ生成ス而シテ「キナ 皮ニシテ「キナ鹽基」ヲ含有スルモノハ之ヲ熱灼スルトキハ亦能ク赤色ノ「ター ル」ヲ生ス故ニ此反應即チ「グラーヘ」氏ノ反應ヲ以テ最モ簡便ニ「キナ皮中アル カロイド」ノ存否ヲ鑑別スルコトヲ得、其法ハ検査スベキ「キナ皮」大約一デシグ ラムヲ取り之ヲ粉碎シテ細キ試験管ニ容レ熱灼スベシ茲ニ前條ニ列セル四 種ノ「キナ鹽基」中ノ一種ガモ存在スルトキハ必ス赤色ノ「タール」ヲ生スヘシ而 シテ「キナ皮ニシテ「アルカロイド」ヲ含有セザルモノ所謂擬キナ皮ハ決シテ此

反應ヲ微セズ、今宜シク「キナアルカロイド」ノ定量法ヲモ記載スベキガ如シト雖トモ日本藥局方及予ノ註解ニ譲リ茲ニ之ヲ畧ス。

キナ皮ノ苦味ハ昔ニ「キナ鹽基ニ基由スル」ノミナラス亦 Chinovin $C_{16}H_{16}O_8$ ナル配糖體ニモ關スルモノナリ而シテ「ヒノウイン」ハ「キナ鹽基ヲ含有セザル」キナ皮即チ擬キナ皮中ニモ亦發見セラル、モノトス、キナ皮ヲ稀薄アルカリ溶液ト共ニ温浸シ稀釋鹽酸ヲ以テ其溶液ヲ飽和スレバ「ヒノウイン」ヲ沈澱ス更ニ之ヲ石灰乳ニ溶解シ鹽酸ヲ以テ沈澱セシメ酒精ニ溶解シ之ニ水ヲ加フレバ「ヒノウイン」ハ鱗片狀ノ結晶ヲナシテ析出ス「ヒノウイン」ノ酒精溶液ニ「クロール水素」ヲ通シ飽和セシムレバ「ヒノウイン」酸 Chinovasin $C_{15}H_{16}O_8$ 及葡萄糖トナル。

キナ皮ノ水煎液ニ酸性ヲ微スルハ「キナ酸 Chinassure $C_6H_5(OH)_4 COOH$ 」ニ係リ而シテ其煎液ニ石灰乳ヲ加ヘ攪拌シテ濾過シ其濾液ヲ蒸發シテ濃厚トナストキハ漸次キナ酸ノ「カルチウム鹽」ヲ析出ス「キナ酸」ヲ以テ之ヲ分解スレバ「キナ酸」ヲ遊離セシムルコトヲ得、キナ酸ハ水ニ溶解シ易キ著大ノ結晶ヲ爲シ純酸味ヲ有ス又「コフィー」豆中ニモ存在ス。

キナ皮中ニハ「キナ鞣酸 (Chinagerbstann, $C_{12}H_{16}O_6$)」ナル一種ノ鞣酸ヲ含有ス「キナ

皮中ニ存スル所ノ「キナ赤色素 (Chinaroth, $C_{22}H_{22}O_{10})$ 」ハ「キナ鞣酸」ヨリ生成スルモノトス。

(應用)

キナ皮及其鹽類ハ解熱藥健胃強壯藥等トシテ用ユ其他用途頗ル汎シ、日本藥局方ノ「キナ越費斯」キナ丁幾前々藥局方ノ瘦方サルサ舍利別キナ酒等ヲ製スルニ用ユ。

一千八百八十年ヨリ以來歐洲ニ於テハ China cuprea (銅色キナ皮)ナル一種ノ「キナ皮」ヲ「キニ」トシテ製造ニ用ユ是レ此キナ皮ハ大約二%ノ硫酸キニ「キニ」トシテ與フレバナリ、從前本邦ニ於テモ「キニ」トシテ此種ノ「キナ皮」ヲ見シコトアリ、此キナ皮ハ銅色ヲ有シ茜草科ノ植物 Raminia palmiculata Yucca ナル植物ニ基原シ昔ニ其色澤ノ「キナ皮」ニ異ナルノ「ミナラズ」亦大ニ之ト異ナル解剖的構造ヲ有ス蓋シ銅色キナ皮ハ眞正キナ皮ニ固有ナル著シク厚化セル内皮纖維ヲ圍ハス即チ其内皮纖維ノ皮壁ハ著シク厚化セシキナ皮ノ纖維ニ比スレバ途ニ短クシテ、狭ク、兩端尖銳ナラス、而シテ化學的ノ關係ニ於テモ亦眞正キナ皮ト異ニシテ「キニ」トシテ「キニ」ノ傍ヲ固有ノ「アルカロイド」ヲ含有シ又眞正キナ皮中ニ含有スル所ト異ナル鞣酸及キノワインヲ含有ス。

● 白瑞香皮 Cortex Mezerei.

(基原) 白瑞香皮ハ瑞香科 (Thymelaeaceae) ニ屬スル Daphne Mezereum L. (おんじばりノ類)ノ幹及枝ノ皮ヲ剝離セルモノナリ、本植物ハ歐洲及亞細亞ノ西部カウカズスヨリアルタイニ至ル地方ニ産シ立春葉ヲ出タス前ニ花ヲ開ク、葉

白瑞香皮 (獨) Scidelbastrinde.
(英) Mezerion bark.
(佛) Écorce de mézercon.

ハ長形倒披針形ニシテ葉柄ニ沿フテ狭細トナレリ、花本ハ擬繖花ニシテ前年發生セル葉ノ腋ヨリ出ツ、萼ハ花冠ニ類シ淡紫紅色ヲ有ス、雄蕊ハ八條アリテ雌蕊頭ハ頭狀ヲナス、果實ハ卵圓形ニシテ猩紅色ヲ有ス。

(形狀) 白瑞香皮ハ甚タ長キ皮條ヲナシ廣サ三cmニ至リ厚サ一mmニ過キス甚タ柔撓性ニシテ普通ハ裏向ニ卷疊シテ把束トナセリ外面ハ淡褐色滑澤ニシテ赤色ヲ帶ヒ光澤アリ



ヲ稍縮小シテ示セル寫真圖ナリ。

萌芽及褐色ノ葉痕ハ細小類黑色ノ胞疣ヲ着ケ其胞層ハ中皮ト共ニ容易ニ内皮ト分離セシムルヲ得ベシ、内面ハ帶黃白色ニシテ微ニ光澤アリ、**第二百四十五圖**ノ(1)ハ佛國產白瑞香皮、(2)ハ獨乙國產白瑞香皮

圖五十四百二第

(顯微鏡的構造)

白瑞香皮ヲ顯微鏡下ニ檢視スレバ胞層ハ稍巨大空洞ノ細胞ヨリ成リ厚角性細胞組織ヨリ成レル中皮之ニ連接シ此組織中ニハ著シク厚化セル第一期纖維ノ存在セルヲ見ル内皮部ハ外邊ニ至ルニ從ヒ擴張セル髓線及皮條ヨリ成リ只皮條中ニハ稍厚化セル第二期纖維ヲ見ル其纖維ハ長サ三四mm、廣サ〇〇一二mmニ至リ而シテ往々分岐セルモノアリ。本品ハ味ハ苛烈ニシテ灼クガ如シ。

(成分)

ダフニン (Daphnin $C_{15}H_{16}O_6 + 2H_2O$) ナル配糖體ヲ含有ス、此物質ハ酸類又ハ「エムルジン」ニ逢フトキハ「ダフネチン (Daphnetin $C_8H_8O_4$)」ト糖トニ分解ス、本品ノ刺激性ヲ有スル成分ハ「メツェリン酸 (Mezerinsäure)」ト稱スル酸ノ無水物トス。

(應用)

本品ハ專ラ發泡刺戟ノ作用ヲ期スル外用藥トナシ慢性皮膚病、假麻質新性瘡、瘡、痛風等ニ用ユ製劑ハ白瑞香越幾斯、白瑞香軟膏、白瑞香カンタリス、硬膏等ナリ。本邦ニ産スルおにしばり (Daphnis Pseudo-nezezerum, A. N. S.) ノ皮ハ本品ニ代用スルヲ得ヘキヤ否ヤ未タ調査ナ經ス。

● 沒食子

アレッポ産沒食子

Gallae halepenses.

(基原)

小亞細亞産沒食子ハ已ニプリニウス氏時代ノ已前ヨリ世人ノ知ル

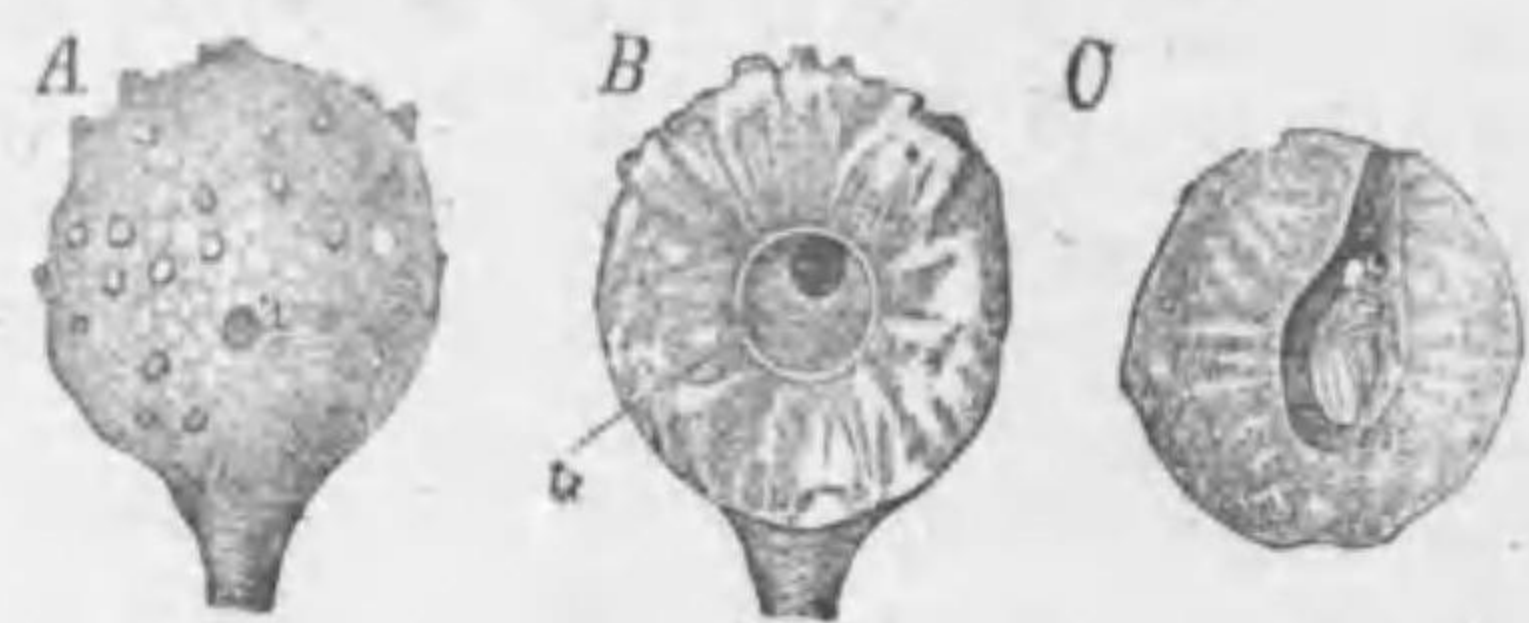
Plinius

沒食子 (獨) Aleppo-Galläpfel.
 (英) Galls (Nutgalls).
 (佛) Noix de galle (Galle d' Alep.)

所ニシテ同氏ハ沒食子ノ水煎液ハ綠礬(硫酸鐵)ニ逢フトキハ黑色ヲ生シ銅鹽ニ逢フモ染色ヲ起サ、ルコトヲ説明セリ。
 沒食子ハ櫛科(Cupuliferae)ノ樹 *Quercus Iusitanica Linnæus* (*Quercus ilectoria Olivier*)ノ稚枝ニ所謂沒食子蜂 *Cynips(Gallae) tinctoriae Olivier*ノ刺傷スルヨリ生スル贅生物ナリ、春季沒食子蜂來リテ其刺鍼ヲ以テ前述櫛樹ノ稚枝ヲ蟄傷シ卵ヲ置テ去リ其卵自然ニ孵化シ稚蜂ノ發育スルニ從ヒ其刺傷部漸ク膨起シテ沒食子トナル、稚蜂爰ニ成長スルトキハ沒食子ノ皮壁ニ小孔ヲ穿テ飛去スルナリ而シテ沒食子ハ小亞細亞、ジリヤ、メソポタニヤヨリ百兒矢亞ニ至ル諸地ニ産ス。

(形狀) 沒食子ハ球形或ハ梨子形ヲ爲シ短徑ヲ有シ直徑一乃至二五cm、重サ三乃至四グラムニシテ其中央ヨリ上部ニハ棘狀ノ隆起アリ、凡ソ其中央ニ當ル部位ニ小孔即チ沒食子蜂ノ逸去セシ孔空ヲ具有スルモノアリ、沒食子ハ堅硬ニシテ淡黄色或ハ帶灰綠色ヲ有ス、商品トシテハ其質重ク孔空ヲ存セス帶灰綠色ナルモノヲ貴フ之ヲ橫斷スレバ内部ニ空間即チ沒食子蜂ノ棲息セシ洞室ヲ有ス孔空ヲ有セザル沒食子ニ在テハ往々斃死セル沒食子蜂ヲ存スル

圖六十四百二第



圖七十四百二第



コトアリ、第二百四十六圖ハ天然大ニ於ケル沒食子ニシテ其aハ沒食子蜂ノ逸去セシ孔空トス、Bハ沒食子ノ橫斷面ニシテcハ空間トス、Cモ亦沒食子ノ橫斷面ニシテ稚蜂ノ棲息セル狀ヲ示ス、第二百四十七圖ハ成長セル沒食子蜂ナリ、沒食子ノ皮壁細胞中ニハ有角性ノ凝塊ヲ爲セル鞣酸ヲ含有ス、其鞣酸ハ水及酒精ニハ極ク溶解シグリセリンニハ溶解シ易カラス、過クロール鐵ニ逢ヘバ黒藍色ヲ徴ス而シテ澱粉ハ唯沒食子中最モ内部ノ皮壁細胞中ニ存在セルノミ、沒食子ハ大ニ收斂性ノ味ヲ有ス。

(成分) 沒食子ハ鞣酸(*Gallus, substance C₁₂H₁₀O₆*)ノ含量七十%ニ至ル。
(應用) 收斂藥トシテ用ユルコトアリ、又タンニン酸ヲ製スルノ原料トナス、其製品中目下尙ホ藥用ニ供スルモノハ特リ沒食子丁幾ノミ。

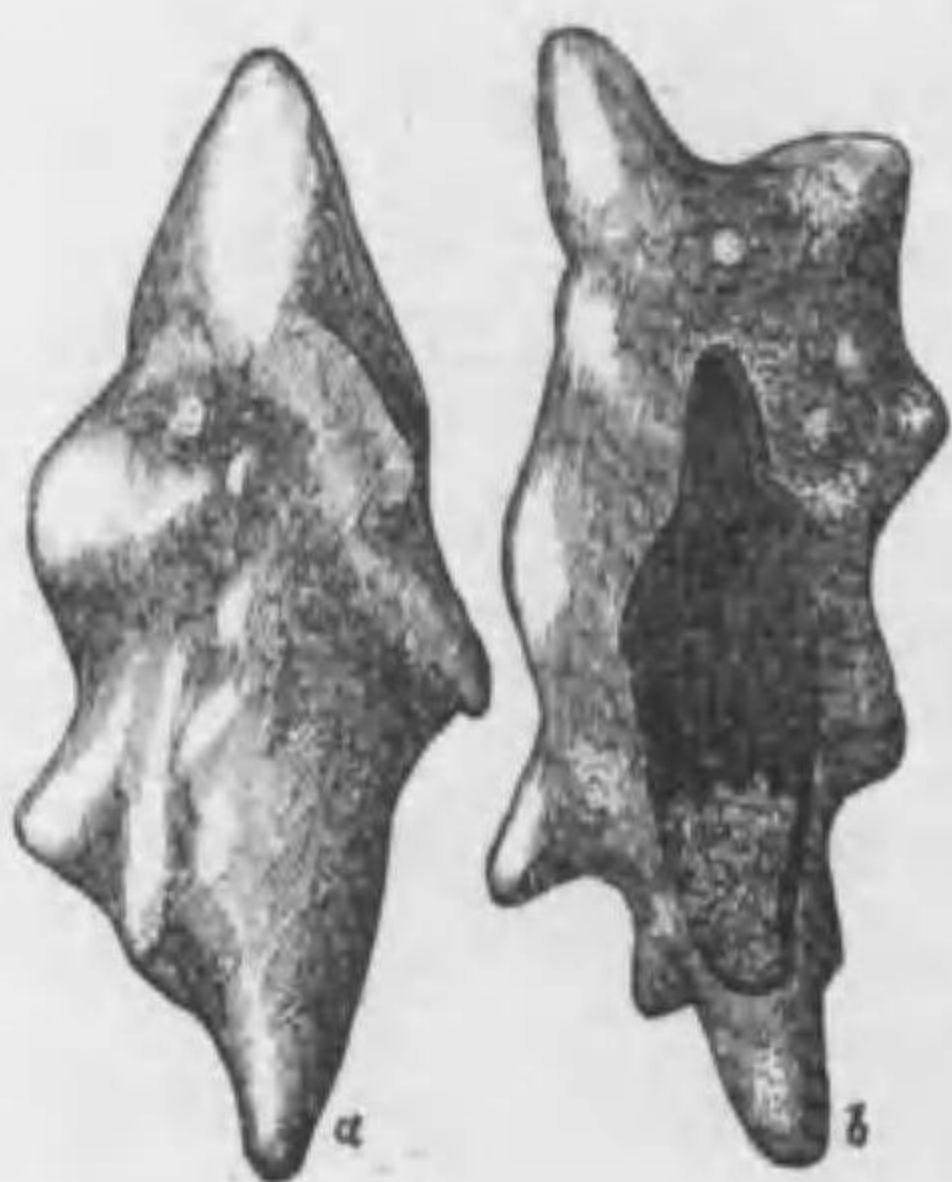
(英) Chinese oder japanische Galläpfel,
 (獨) Chinese or Japanese galls.
 (佛) Galles de Chine ou du Japon.

● 五倍子 *Gallae chinenses et japonicae.*

(基原) 漆樹科 (*Anacardiaceae*) ノ喬木即チ *Rhus semialata Murray* (鹽膚木) ノ稚芽或ハ葉柄ニ *Aphis chinensis J. Ball.* ナル一種ノ葉蝨ガ之ヲ刺傷シテ其卵子ヲ容ル、ヨリ生スル養生物ナリ、此刺傷部ノ組織自然ニ膨起シテ養生物即チ五倍子ヲ生成スルニ至ル、此際五倍子中ニ發育セル葉蝨ハ其皮壁ヲ蝕破シテ逸去スルモノナリ而シテ支那ニ於テハ尙ホ五倍子中ニ生存セル葉蝨ヲ殺サンガ爲メ之ヲ水蒸氣ニ蒸セトモ本邦ニ於テハ行ハス、支那ハ上海及廣東ヨリ五倍子ヲ輸出シ本邦ニ於テハ長州、新潟地方ヨリ多ク之ヲ出ス。

(形状) 五倍子ハ長サ八cm、直徑五cmニ至リ其形状甚タ不同ニシテ梨子形又ハ卵形ヲ爲シ不整ノ突起アリ又凹窪アリ或ハ瓣裂ス、内部ハ空洞ニシテ往々死蝨ヲ存スルコトアリ其皮壁ハ類黃色或ハ褐色ヲ有シ灰色ノ絨毛ヲ被ムリ厚サ二mmニ至リ角質様ヲナシ破碎シ易シ内面ハ滑坦ナリ、**第二百四十八圖**ハ五倍子ノ全形ヲ示ス、本邦産五倍子ハ支那産ニ比スレバ稍細小ニシテ其色稍淺淡ナリ、五倍子ノ組織中ニハ脈管、乳脈管アリ又處々ニ樹脂ヲ包有スル細胞

圖八十四百二第



圖九十四百二第



ア	リ	自	餘	ノ	組	織	ハ	鞣	酸
支	那	産	ム	又	澱	粉	ヲ	含	ム
支	那	産	所	ノ	細	胞	ア	リ	而
支	那	産	五	倍	子	ハ	蒸	熱	セ
日	本	産	セ	ル	ガ	故	ニ	其	澱
日	本	産	粉	常	ニ	糊	化	セ	リ
日	本	産	第	二	百	四	十	九	第

圖ノ右ハ支那産、左ハ日本産五倍子ノ自然大寫眞圖ナリ。
(成分) 五倍子ハ鞣酸ノ含量七十%ニ超ユルモノアリ然レトモ實際五倍子ヨリ六十%以上ノ鞣酸ヲ抽出スルコト容易ナラス此鞣酸ハ沒食子ニ含有ス

ル鞣酸ト同一質ナリ、其他五倍子ハ他ノ鞣酸及沒食子酸ノ少量ヲ含有ス。

(應用) 現今歐洲ニ於テ、タンニン酸ヲ製出スルニハ主トシテ五倍子ヲ使用ス。是レ五倍子ハ製造上ニ便宜アレバナリ、藥局方ニ於テハ五倍子丁酸ヲ製スルニ用ユ。

● 枹 クニク *Suber quercinum.*

枹 (英) *Starf.*
(獨) *Cork.*
(佛) *Liège.*

(基原) 枹ハ己ニ太古ヨリ世人ノ知ル所ナレトモ世上汎用ノ需用品トナリシハ近代ニ在ルモノトス而シテ枹ハ葡萄牙、西班牙及アルゼリアノ諸地ニ産スル枹樹 *Quercus Suber L.* 及 *Quercus occidentalis Gay.* ヨリ採集セルモノナリ其他ノ樹木モ亦枹ヲ生スレトモ菲薄ニシテ實用ニ堪ヘズ而シテ本邦ニ産スル *Quercus variabilis Bl.* (あぶまき) ハ厚大ノ枹層ヲ生シ枹ノ收穫ニ適用スルヲ得ルナラン、今亞弗利加洲、ノアルゼリア地方ニ於テ枹ヲ採集スル方法ノ大要ヲ左ニ掲ク。

枹樹ハ發芽後大約三年ニ至ル迄ハ上皮下^{エピゲルミス}被ムレリ是ヨリ前己ニ其上皮下ニ枹皮層ヲ生シ漸次増厚スルヲ以テ其枹樹三年乃至四年ニ至レバ其上皮下内部ノ發育ニ伴フテ成長スルコト能ハザルガ故ニ自カラ縦裂剝落シ枹層ヲ露出スルニ至ル此枹層ハ所謂雄枹ニシテ樹ノ周色大約三十 cmニ至レバ春季

ヨリ秋季ニ至ルノ際津液ノ循環旺盛ナル時ニ於テ之ヲ剝除ス、雄枹ハ實用ニ堪ヘサルガ故ニアルゼリアニ於テハ之ヲ薪材トナシ又ハ家屋ヲ被覆スルノ料トナス而シテ雄枹ヲ剝除シタル樹ノ幹ニハ内皮及新生組織ヲ存ス之ヲ枹母ト稱ス雄枹ノ剝除後己ニ數月ヲ閱スレバ其枹母ヨリ更ニ枹層ヲ生スルモノナリ之ヲ雌枹ト云フ、雌枹ノ發育ハ頗ル旺盛ニシテ樹ノ大約十五年ニ至レバ之ヲ採集スルヲ得ヘシ、而シテ其雌枹ヲ採シタル部位ニハ新規ニ枹層ヲ生シ爾後八年乃至十年毎ニ之ヲ採集シ枹樹大約百五十年ニ至ル迄之ヲ保續スルヲ得ヘシ最モ佳良ノ枹ハ五十年乃至百年ノ樹ヨリ採集スルモノトス茲ニ採集シタル枹ハ暫時之ヲ沸湯ニ浸シ壓扁シ其枹板ノ大小厚薄ニ應シテ大小種々ノ枹栓ヲ製ス。

(形狀及成分)

雌枹ハ其新鮮ナルニ當リ厚サ二 dmニ至ルモノアレトモ之ヨリ壓製シタルモノハ厚サ五 cmニ超エズ上面ハ褐色ヲ呈シテ縦裂シ或ハ皺紋ヲ有シ下面ハ其色淺淡ニシテ平坦或ハ處々ニ凹陷ス、枹ハ密ニ連接シテ間隙ヲ存セザル所ノ細胞組織ヨリ成リ此細胞ハ略、散子形ヲナシ唯大氣ヲ含有スルノミ而シテ枹中ニ箝在セル石核細胞ハ表皮ニ存スル裂孔細胞(Tenüzellen)

ヨリ生成セシモノトス。胞細胞ノ皮壁ハ木質層、胞質層及纖維素層ノ三層ヨリ成ル。胞栓ガ外氣ノ侵襲ニ抗シ又諸多劇烈ノ化合藥ニ侵サレヌ。水液蒸氣等ノ竄透ニ抵抗スル性アルハ職トシテ其皮壁ノ中層即チ胞質層中ニスメリン Suberin ナル脂肪樣體ヲ蓄積スルニ由ル。其他胞栓ニ固有ナル性質ハ大ニ彈力性ヲ有シ温熱ヲ誘導スル機能弱ク比重ノ輕キニ在リ。胞栓ハ之ヲ煮沸シテ其含有スル所ノ大氣ヲ驅逐スルニ非サレバ水中ニ沈下セズ。

(應用) 普知ノ如ク胞栓トシテ應用セラル、ノ外靴刷床板等ノ製造ニ汎用セラル。

第七章 草卉類 *Herbae, Kräuter.*

生藥學ニ所謂草卉ハ一年性或ハ越年性有花植物ニシテ葉及軟弱ナル幹莖ノ諸部ノ外箇、タノ花實或ハ全華木及果木ヲ帶フルモノヲ指ス。幹莖ハ往々之ヲ除去シテ用ユ。

凡ソ草卉ヲ辨別スルニ當リ、其分枝ノ形狀ヲ以テ鑑微トナスコトアリ故ニ今草卉ノ分枝系統ノ大要ヲ左ニ論述スベシ。

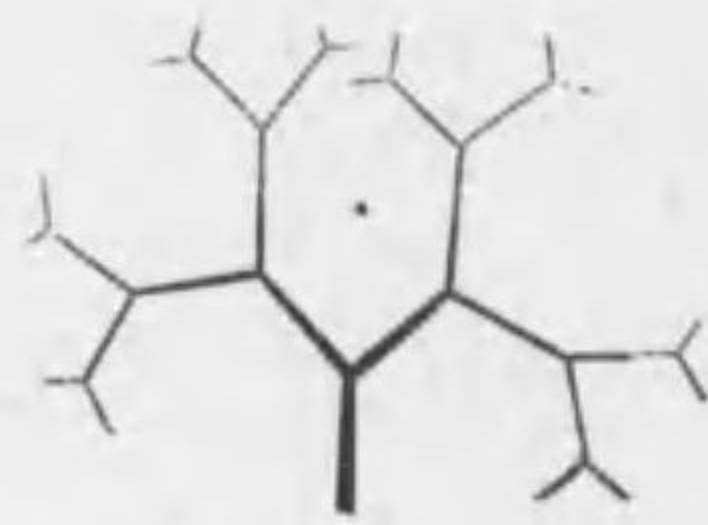
分枝トハ類似ノ枝節ヲ分生スルヲ云ヒ分枝系統トハ枝節ノ分岐セル形狀ヲ云フ。而シテ分枝系統ニ二種ノ主形アルコト左ノ如シ。

(甲) 二分枝系統

Das dichotomische System. 此系統ハ天然主軸ノ頂端發育セサルモノ

ニシテ更ニ之ヲ小別シテ又狀二分枝系統及假軸性二分枝系統トナス。

圖十五百二第

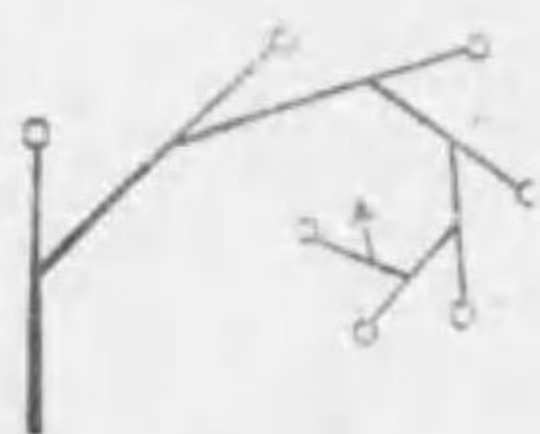


(1) 又狀二分枝 *Gabelige Dichotomie* ニ於テハ發育停止セル主軸ノ頂端ノ側方ヨリ均同ニ發育セル二箇ノ枝節ヲ發生シ其各枝節ハ更ニ反覆二分セルモノナリ(第百五十圖)。

(1D) 假軸性二分枝 *Symplokium* ハ亦二分枝ニシテ其二枝ノ一ハ肥大ニ發育シ他ノ一枝ハ發育ヲ休止セルモノナリ故ニ此二分枝中

ノ一枝ハ主軸ノ狀ヲ爲シ發育ノ停止セル他ノ一枝ハ側芽ノ狀ヲ爲シテ其頂端ニ附着ス。而シテ其一枝常ニ主軸ノ一方ニ於テノミ發育スルトキハ之ヲ名ケテ一側假軸性二分枝 *Schraubzweig*

圖一十五百二第



第二百五十二圖



(第百五十一圖)ト云ヒ交五左右兩側ニ於テスルトキハ兩側假軸性二分枝 *Winkel* (第百五十二圖)ト云フ。

(六) 周擴分枝系統

Das monopodiale System. 此系統ニ於テハ主軸發育ヲ保護シ其頂端

ノ下部ヨリ側枝ヲ生スルモノナリ。而シテ主軸常ニ最モ強大ニ發育スルトキハ之ヲ有梗穗狀

第二百五十三圖



卷花類總論ノ條ヲ參照スベシ。

(Cannabis) 分枝第二百五十三圖ト云ヒ側枝主軸ノ頂端ノ部位ヲ占ムルトキハ之ヲ聚傘狀 Cannabis 分枝ト云フ此場合ニ於テハ假軸ヲ生スルコトアリ宜シク本書下

● 印度大麻草 Herba Cannabis indicae.

(獨) Indischer Hanf
(英) Indian hemp.
(佛) Chauvre indien.

(基原) 大麻即チ Cannabis sativa L. ヲ大麻科 (Urticaceae) ニ屬スル二家性ノ一年草トス而シテ素ト東印度ノ産ニシテ其纖維麻ヲ利用スルノ目的ヲ以テ現今諸國ニ培養ス、東印度ニ培養スル大麻ハ其植物學的ノ形狀ニ關シテハ歐洲本邦等ニ培植スルモノト毫末ノ差異アルヲ見サレドモ其雌性植物ハ夥シク樹脂ヲ分泌シ大ニ麻醉性ヲ有ス、印度大麻ノ麻醉性ヲ有スルハ印度及支那ニ於テハ太古ヨリ世ニ知ラレ其麻醉藥タル應用ハ回教徒ニ始マレリト云フ而シテ獨逸ニ於テハ一千六百年代始メテ之ヲ藥用ニ供セリ。
本條ノ藥品ハ即チ印度大麻ヲ果實稔熟ノ初期ニ採集セルモノナリ(宜ク性狀ノ項ヲ參照スベシ)。

(性狀) 印度大麻ハ三瓣乃至五瓣ニ分裂セル手掌狀ノ複葉ヲ有ス其各分葉

圖四十五百二第



ハ狭キ鋸齒形ヲナシ上端尖銳下部ハ狹隘トナリ邊緣ニ粗キ鋸齒ヲ有ス莖及分枝ノ上邊ニ附着スルモノハ單葉ヲナス雌性植物ノ華本ハ葉腋ニ占居シ直立性擬穗花ヲナシ(第二五十四圖) 雌性植物ニ在テハ其華本稀疎ナル圓錐狀花ヲ爲ス

第二百五十五圖、葉ハ殊

ニ其下面ニ於テ弧曲セル尖銳ノ剛毛ヲ帶フ之ヲ薄截シテ顯微鏡下ニ檢視スレバ剛毛ノ擴張セル基礎部ニハ葡萄狀

圖五十五百二第



ニ團結セル結晶(炭酸カルチウム)ヨリ成ヲ包有スルヲ見ル所謂蕁麻科ノ細胞

圖六十五百二第



石 (Cystolith) 是レナリ又葉面ニハ腺毛(第二百五十六圖B)ヲ具有シ葉體ノ組織中ニハ結晶團(糖ニ係ル)ヲ箝在スルヲ見ルベシ。

印度大麻ハ峻烈

特異麻酔性ノ臭氣ヲ有シ其味ハ顯著ナラズ。

本條ノ藥品ハ東印度地方ニ於テ Bhang ト唱フルモノナリ而シテ本品ハ多クハ落花セル華本ヨリ成リ樹脂ニ由テ粘着シ壓縮シテ扁形ノ塊トナセリ之ヲ稀酒精ニ浸漬シテ軟化スレバ上文ニ掲クル葉片ヲ明別スルヲ得ベシ、藥用品ハ成ルベク綠色ヲ有スルヲ佳トス著シク褐色ヲ帶フルモノハ陳舊ニシテ用ニ堪ヘズ又成ルベク莖及果實ヲ混有セサルヲ要ス、昆蟲ノ潜在スル品ハ之ヲ

擯棄スベシ。

印度大麻ノ最佳品ヲ Ganjah ト稱ス印度ニ於テハ亦之ヲ Charas ト唱ヘ麻酔性ノ喫烟料トナシテ嗜好ス而シテ英國ニ於テハ之ヲ Guaza ト通稱スレドモ目下前條ニ掲クル廉價ナル Bhang ヲモ亦グアザト稱ス而シテ「グアザ」ハ葉ヲ除去スルノ後採收セル雌性華本ヨリモ樹脂ニ富ミ麻酔性强シ、坊間稀有ノ品ニ屬ス。

(成分)

印度大麻ノ臭氣ハ甚タ少量ニ存在セル揮發油ニ係ル而シテ其麻酔性ノ基因スル成分ハ樹脂トス、坊間ニ「カンナビン」(Kannabin) 又ハ「ヘカシン」(Haschisin) ト稱スルモノハ催眠ノ効ヲ有スル樹脂樣體ヨリ成レル混合物ニシテ「カンナキノン」(Kannabinon, $C_{21}H_{36}O$) ハ亦催眠ノ効力アル油狀體トス、又印度大麻中ニハ Kannabinin ナル「アルカロイド」ヲ含有スト云フ者アレトモ確實ニ發見セラレタルハ Muscarin, Trigonellin 及 Cholin ナリ。

印度地方ニ於テ Haschish ト唱フルモノハ印度大麻ヲ調和シテ製出セル喫烟料嗜好品等ノ通稱ナリ。

(應用)

内用ニハ鎮靜藥及催眠藥トシテ應用ス、〇・五乃至三・〇ヲ散劑或ハ丸劑トシテ與フ、外

用ニハ膏烟劑及紙卷煙草トシテ喘息等ニ吸引セシム、藥局方ノ製品ハ印度大麻越幾斯ナリ。

● コニウム草 Herba Conii.

(基原) 往古希臘人ノ所謂 *Koneion* 及羅馬人ノ *Cicuta* ハ普ク世人ノ知ル所ニシテ太古希臘ニハ彼ノ毒梔ノ刑アリテ人ハ之ヲ以テ毒梔ヲ調製スルノ料トナセリ、從前藥劑師ハ「コニウム草ヲ *Cicuta* (矢鳩答音譯名) ト稱シタルニ *Linne* 氏ハ *Cicuta* ナル名稱ヲ以テ

第 二百五十七 圖



「コニウム草ト其形狀ヲ異ニシ沼澤ニ産スル繖形科植物即チ現今ノ *Cicuta virosa* L. ノ稱トナシ之ヲ本條ノ *Conium maculatum* L. ト區別セリ、而ノ共ニ繖形科 (*Umbelliferae*) 植物ナリ、第 二百五十七 圖ハ花ヲ

帶フル「コニウム草ヲ縮小シテ現ハス。

コニウム草ハ歐洲及中央亞細亞ノ殆ト各地ニ産ス然レトモ北方ノ地ニハ産

(獨) Schierling.
(英) Hemlock leaves.
(佛) Feuilles de grande ciguë.

セズ本邦ニモ産出セズ。

(形状)

コニウム草ハ初年ニハ唯葉ヲ出スニ止マリ翌年夏季ニ至リ一年性ノ莖幹ヲ抽キ分岐シテ甚タ著大ナラザル多數ノ繖形華本ヲ帶フ、初年ニ生シタル最大葉ハ廣卵圓形ノ周邊ヲ有シ長サ二 dm ニ超ユ、幅之ニ副ヒ三層ニ鱗裂ス、莖立葉着セル葉ハ單純ニシテ二葉或ハ三乃至五葉對生ス、莖及葉柄ハ空洞ニシテ殊ニ莖ハ往々褐赤色ノ斑點ヲ帶フルコトアリ、華木ハ複傘花ヲ爲シ其華本ノ基礎部ニ於ケル總苞ハ落下シ易ク其小傘形花ノ基本ニ附着セル小總苞ハ稍廣ケレトモ短ク基礎部ニ癒着ス、凡ソ「コニウム草ノ他ノ類似ノ植物ト異ナルノ點ハ其葉滑澤ニシテ毛茸ヲ帶ヒズ葉柄空洞ナルト一種不快ノ臭氣ヲ有スルトニ在リ、コニウム草ノ果實ハ畧球圓形ヲ爲シ各分果ニ存スル肋脈ハ其中央ヨリ上部ニハ鋸齒樣ニ缺損シ肋脈ノ間及接合面ニ油脈ヲ存セズ、又コニウム草ノ果實ハ彎曲セル胚乳ヲ有シ其胚乳(内卵白)ハ圓筒形ナラス其接合面ニ縱溝ヲ有シ之ヲ横斷スレハ腎臟形ヲ現ハス是レ又コニウム草ニ特異ナル標徴トス、コニウム草ノ味ハ不快ニシテ鹹ク微ニ苦ク苛劇ナリ其臭氣モ亦不快ニシテアルカリ(例之バ石灰水ヲ注クトキハ著シク發生ス。

(成分) コニウム草ノ有力成分ハ Konin (C₉H₁₇N) 即チ六水素プロピールピリジン CH₃ < CH₂-CH₂-CH₂ > NH ナル揮發性アルカロイドナリ其含量ハ甚タ些少ニシテ多キモ 〇・〇九%ニ過キス又揮發性アルカロイド Konhydrin 即チ Methylkonin C₉H₁₆(CH₃)N ノ少量ヲ含ム。

(應用) 麻醉性ノ鎮痙藥及解熱藥トシテ應用スルコトアリ其製品ハ「コニウム越幾斯」コニウム硬膏等ナリ、コニウム草ハ極メテ猛毒ナリ注意シテ貯フベシ。

● **メリロート草** *Herba Meliloti.*

(獨) Steinflee.
(英) Shop melilot.
(佛) Mélilot.
メリロート草

(基原) メリロート草ハ歐洲ニ於テハ羅馬時代ヨリ藥用ニ供シ現時尙ホ外用藥トシテ應用セラル、モノニシテ汎ク歐洲及亞細亞中部ニ天生スル蝴蝶形科 (Papilionaceae) ノ草 *Melilotus officinalis Desrousseaux* 及 *Melilotus altissimus Thunberg* ヲ花時ニ採集セルモノナリ。

(形状) メリロート草ハ其莖空洞ニシテ木質性ヲナシ長キ葉柄ヲ有スル三分性ノ葉**第二百五十八圖**ノレヲ散生シ其葉ハ殆ト無柄ナル翼葉ノ一對ト之ヨリモ甚シク大ナラサル長サ大約四 cm ノ端葉トヨリ成ル、此三小葉ハ短皺皺形乃至卵圓形ニシテ邊緣ハ尖鋸齒狀ヲナシ副葉**同圖**ノ v) ハ細小鑽狀ニシテ

第 二 百 五 十 八 圖



其邊緣ニハ缺裂ナシ、花(c)ハ蝴蝶形ニシテ黄色ヲ呈シ疎ナル腋立性ノ穂花ヲ

ナス、其莢果ハ細小ニシテ稍、球圓狀ニ類シ一乃至三種子ヲ有シ *M. officinalis* ニ於テハ褐色ニシテ毛茸ナク横皺ヲ帯ヒ(b)、*M. altissima* ニ於テハ類黑色ニシテ毛茸ヲ有シ著シク尖形ヲナシ外面網皺ヲ現ハス(f)本邦ニハ *Melilotus suaveolens Ledeb.* (しながわはぎ)ナルモノアリ亦クマリン)ヲ含有ス本條ノ生藥ニ代用スルヲ得ヘシ。メリロート草ノ香氣ハ佳快ナリ(Kumarin)

ヲ含ムニ由ル味ハ稍、鹹苦ニシテ著シカラス。
(成分) *Kumarin* C₉H₆ < C₆H₂ > CO₂ クマリン酸 C₉H₆ < OH > C₆H₄COOH^{メリロート酸}
及 *Melilotol* C₉H₁₀O₂ ヲ含有ス。

(應用) 往時ハ種々ノ目的ニ之ヲ内用シメレトモ現今ハ主トシテ只醫布劑トシテ外用セラ

(獨) *Tausendgüldenkrout.*
(英) *Centaury tops.*
(佛) *Petite centauree.*

● センタウリウム草 *Herba Centaurii.*

(基原) センタウリウム草ハ上古ヨリ薬用ニ供セラレ獨逸ニ於テハ中古已ニ之ヲ醫藥トシテ應用セルモノアリキ、歐洲ノ大部分及前亞細亞ニ天生スル龍膽科 (*Gentianaceae*) ノ二年生草 *Epipactis Centaurium* ヲ花時ニ採集セルモノナリ。

(形状) センタウリウム草ハ其莖高サ大約三 cm ニ至リ四稜空洞ニシテ多枝ヲ出タシ以テ平頭有極緻房花ノ華本ヲ形成ス、基立葉ハ倒卵圓形ニシテ短キ尖端ヲ有シ下部狹隘トナリテ短キ葉柄ニ移行ス、莖ノ下部ニ位スル葉ハ稍之ヨリモ小ニシテ長サ四 cm、幅二 cm ニ至リ莖ノ上部ニ至ルニ隨テ葉形益々尖狹ト



圖九十五百二第



ナリ華本ニ於テハ線狀ヲ有ス、莖ニ在テハ各二葉對生シ各對交互ニ交叉ノ位置ヲ取ル、凡ソ葉ハ邊緣缺裂ナク光澤

ヲ有シ稍硬厚ニシテ毛茸ヲ帶ヒス、尖銳ニ五裂セル萼ヨリ長サ一 cm 淡色ノ花管ヲ出タシ、花冠ハ五瓣ニ分レ薔薇紅色ヲ有シ間、白色ナルモノアリ、雄蕊ハ螺旋形ニ回轉ス、**第二百五十九圖**ハ其華本ヲ示シ、**第二百六十圖**ノ A ハ全花、B ハ雄蕊、C ハ實礎ノ横截面ヲ示ス。

(成分) 主成分タル苦味質ハ *Erythrocentaurin* ($C_{27}H_{41}O_8$) ナル中性無色ノ結晶體ニシテ光ニ逢フテ赤變ス。

(應用) 苦味藥トシテ實用シ獨逸藥局方等ノ苦味丁幾ニ入ル。

● 當藥 *せんぶり草 Herba Opheliae.*

(獨) *Opheliafrout.*
(英) *Ophelia.*
(佛) *Ophelia.*

(基原) 當藥ハ古來漢方醫流ヨリ健胃藥トシテ應用セラレタル者ニシテ龍膽科 (*Gentianaceae*) ノ植物 *Ophelia dilatata* Led. (*Swertia chinensis* Franch.) ノ全草ヲ十一月帶花ノ期節ニ採集シ陰乾セルモノナリ而シテ該草ハ原野森林ニ自生ス余ハ東京近傍ニ於テハ北豐島郡板橋在字戸田原及河口ノ山中、埼玉縣下新座郡字座山等ニ之ヲ發見セリ、東京藥舖ニ於テ販賣スルモノハ茨城縣下ノ産最も多キニ居ルト云フ、前日本藥局方ニハ龍膽ニ換用スルヲ得ルモノトシテ之ヲ收載セリ。

(形状) 當藥ハ高サ大約二十cmニ至レル草本ニシテ根ハ細クシテ下部ニ分岐ス莖ハ方形ニシテ暗紫綠色ヲ帯ヒ交互ニ枝ヲ對生シ葉ハ互生ス其葉ハ狭披針形ニシテ柄ヲ缺キ邊緣ハ平坦ナリ十月乃至十一月ニ至リ葉腋ニ長柄ヲ具フル花ヲ開ク色ハ白色ニシテ紫紅色ヲ帯ヒ綠色ノ條アリ萼ハ殆ト基礎部ニ至ル迄五瓣ニ分レ花冠モ亦深ク五瓣ニ分レ花瓣ノ基礎部ニ睫毛ヲ帶フル二箇ノ蜜窩ヲ具有ス是レ本屬植物ノ特標トス雄蕊ハ五箇花冠ノ基礎部ニ附着ス、實礎ハ上立性ニシテ二箇ノ果葉ノ癒合ニ由テ成リ中ニ一房ヲ有シ多數ノ壁立

圖一十六百二第



性種子ヲ包藏ス、**第二百六十一圖**ハ本植物ヲ大約三分一ニ縮示セルモノトス。當藥ハ臭氣ナク味極メテ苦シ。

(成分) 苦味ノ原因タル成分ハ未タ詳ナラス、恐クハ歐洲産ゲンチヤナ根中

ニ存スル苦味成分ニ類スル化合物ヲ含有スルナラン。

(應用) 苦味健胃藥トシテ應用ス、通常ハ俗間ニ使用セラル、藥品ナレドモ龍膽ニ換ヘテ諸製劑ヲ製スルヲ得メシ。

● **莨菪草** *Herba Scopoliae.*

(獨) Scopoliafraut.
(英) Scopolia.
(佛) Scopolia.

(基原) 莨菪草ハ長井長義氏及エ・シ・ハント氏其アトロピン・ヒオスチアミン等ヲ含有スルコトヲ檢明セシヨリ以來之ヲ「ペラドンナ」ニ代用スベキコトヲ確知スルニ至レリ。

莨菪(はしり *ハコウ*) *Scopolia japonica Maxim.* ハ茄科 (*Solanaceae*) ノ宿根草ニシテ甲斐、紀伊、伊豆、秩父、伊吹山、信濃御嶽等ニ産ス。

(形状) 莨菪草ハ其越年性根莖ヨリ抽出セル高サ大約三dmニ至ル草本ニシテ其莖ノ下部ニ附着セル葉ハ卵圓形ヲ有シ長サ大約十八cm、幅七cmニ至リ下部ハ楔狀ニシテ漸ク葉柄ニ沿フテ狭細トナリ邊緣ハ少ク波濤狀ヲナシ枝梢ニハ大小二種ノ葉ヲ連生ス此葉ハ尖卵圓形ヲ有シ狭細トナリ下部ハ短キ葉柄ニ移ル、四月ヨリ五月ニ至ルノ際葉腋ヨリ花ヲ出タス其花ハ鐘狀ニシテ暗紫色ヲ有シ暗色ノ網脈アリ上端五瓣ニ分ル、果實ハ覆果ニシテ熟スルニ從ヒ

「ヒヨス草ノ如ク其下部ノ周圍ヨリ盆狀ニ破綻ス、莨菪草ハ新鮮ノ狀ニ於テハ稍不快ノ臭氣アリ乾燥スレハ微ニ芳香ヲ發スルニ至ル、味ハ不快ニノ稍、苦シ。
第二百六十二圖ハ花ヲ帶フル其枝端ヲ示ス。

圖二十六百二第



(應用)

莨菪草ハ鎮痙藥及鎮痛藥トシテ「マラド」ナ藥ニ同シク用ユ、前日本藥局方ニ於テハ

莨菪草ハ五月ノ候花ヲ帶フル草ヲ採集シ乾燥シテ貯フヘシ、培養セル草ハ自然生ノモノニ比シテ「アルカロイド」ノ含量稍、少ナキガ如シ。
(成分) 有力成分ハ「アトロピン・ヒオスチアミン及スコポラミン」ナリ、其他スコポレチン「ナル藍色螢石彩ヲ呈スル所ノ物質ヲ含有ス、仍ホ前文莨菪根ノ條ヲ見ルヘシ。

(獨) Bilfenkraut.
ヒヨス草 (英) Henbane leaves.
(佛) Feuilles de jusquiame.

圖三十六百二第



(基原)

● ヒヨス草 Herba Hyoscyami.

莨菪越幾斯ヲ製スルノ料トナシタレドモ第三改正日本藥局方ニ於テハ莨菪草ヲ削除シ莨菪越幾斯ハ莨菪根ヲ以テ製スルコト、ナセリ。

誕ノ時代已ニ藥用ニ供セラレタルヤ疑ナシ。
ヒヨス草ハ茄科 (Solana-ceae) ノ植物 Hyoscyamus niger L. (第二百六十三圖) ノ葉ニシテ熱帶地方及最北部ノ地ヲ除クノ外歐米諸國ニ産ス而シテ藥局方ノ規定ニ由レバ花ヲ帶フル草ヨリ採集セザル可カラズ。

(形状) ヒヨス草ハ初年ニハ單一ナル短莖ヲ出タシ第二年ニ至リ高サ一m以上ニ達シ分枝ス、基立葉ハ廣キ卵圓形ヲ有シ長サ3dm、幅7cmニ至リ其邊縁ニ淺キ大鋸齒ヲ有シ基礎部ハ長サ5cmニ至ル所ノ葉柄ニ沿フテ漸ク狹細トナル、莖立葉ハ葉柄ヲ闊如シ其各邊縁ニ大抵四齒ノ大鋸齒ヲ有シ其頂端ノ葉瓣展、甚タ尖銳ナルモノアリ、莖ノ最モ上部ニ位スル葉ハ其形狀稍單純ニシテ莖周ノ半バヲ圍擁ス、葉ハ總テ數齒ノ細胞ヨリ成レル圓錐體形ト毛茸ト腺性頭毛ヲ帶フ。

圖四十六百二第



シ大約三百箇ノ種子ヲ包藏ス、ヒヨス葉中ニハ甚タ完整ノ形狀ヲ有スル植酸カルチウムノ單品或ハ雙仔品ヲ見ル(第二百六十七圖K)。

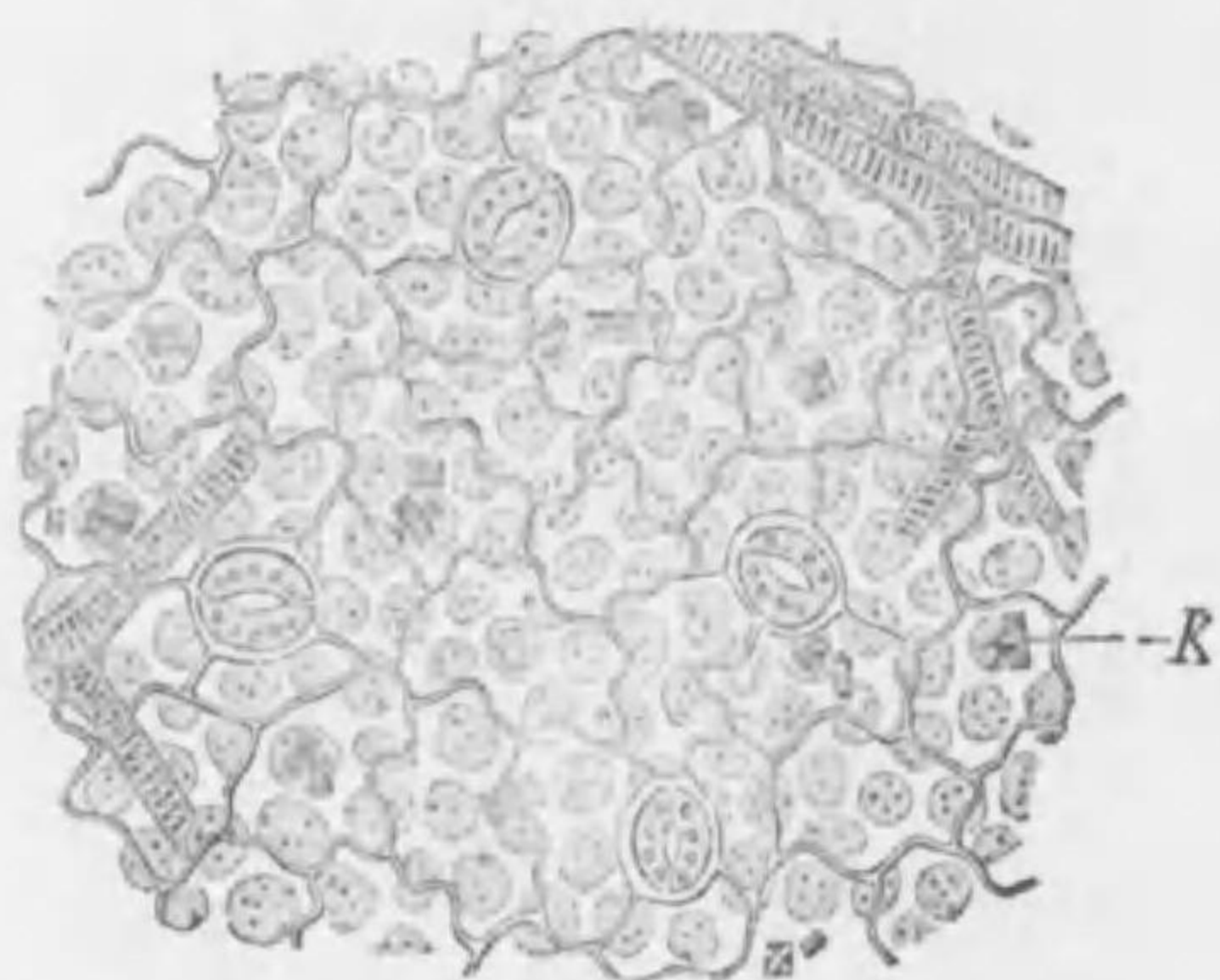
レトモ之ヲ乾燥スルトキハ粘着性ヲ失フ、花冠ハ皿狀ニシテ五裂シ黃色ヲ有シ鮮麗ナル紫色ノ斑紋ヲ帶フ、萼ハ亦五齒ヲ有シ落花後著シク發育シ覆果ヲ被包スルニ至ル、其覆果ハ稔熟スルニ當リ上部稍穹窿セル蓋トナリテ開離シ中ニ二房ヲ有

第二百六十三圖ハ花ヲ帶フルヒヨス草ノ一枝ヲ天然大ノ大約二分一ニ縮寫

圖五十六百二第



圖七十六百二第



セルモノニシテ第二百六十五圖ハ覆果ノ橫斷面、第二百六十六圖ハ覆果ヲ示シ其(b)ハ覆果ノ開綻セル狀ヲ示ス。

第二百六十七圖ハ葉ノ上面ノ表皮ヲ示ス其下部ニ單品及雙仔品ヲ見ルベシ。本生葉ハ大ニ麻酔性ノ臭氣ヲ有ス乾葉ハ其臭氣顯著ナラス味ハ微ニ苦シ。

(成分) ヒヨス葉ハ Hyoscyamin ($C_{17}H_{23}NO_2$) ナルアルカロイドヲ含有シ甚タ多量ノ硝石ヲ含ム其量乾燥葉ニ比シニ%ノ多キニ居ル又ヒヨスチアミント同質異性ナルアルカロイド即チ Scopolamin ($C_{17}H_{25}NO_2$) ヲ含有ス、是レ往時 Hyoscin ノ

(獨) Thymian.
(英) Garden thyme.
(佛) Thyme.
チームス草

名ヲ以テ知ラレタルモノナリ。

(應用) ヒヨス葉ハ其生薬ヲ應用スルハ極メテ稀ニシテ鎮痙及鎮痛薬トシテ内用セシコアレ
モ今ハ殆ト只越龍斯トナシ種々ナル氣管枝疾患ノ經過中ニ於ケル咳嗽及咳嗽刺戟等ニ實用ス。

● チームス草 立麝香草 Herba Thymi.

(基原) チームス草ハ上古ヨリ香味料並ニ藥物トシテ世ニ知ラレ今尙ホ同

第二百六十八圖



一ノ目的ニ供用セ
ラル、モノニシテ
地中海濱地方及本
邦ニモ産スル唇形
科 (Labiatae) ノ草卉
狀小灌木 Thymus
vulgaris L. (第二百六

十八圖)ノ同地上部ヲ開花ノ候採收セルモノナリ。

(形状) チームス草ノ葉ハ狭ク線狀ニシテ硬厚ナリ長サ九mm幅其半バニ
足ラズ其邊緣ニ於テ卷轉シ下部ハ漸ク狹隘トナリ短キ葉柄ニ移行シ葉面總

(獨) Quendel.
(英) Wild thyme.
(佛) Serpolet.
セルビルム

テ短毛ヲ以テ被ハレ其間ニ著大ノ油腺ヲ散在ス、本品ニハ葉ト共ニ其嫩莖及
華本ヲ雜ユ、其莖モ亦腺ニ富ミ鑽狀ニ裂性ノ下瓣ヲ有シ十條ノ線ヲ現ハス、花
冠ハ淡紅藍色ヲ呈シ上唇ハ直立シ殆ト扁平ニ展敷ス、葉ノ油腺ハ殊ニ葉ノ上
面ノ凹點ニ位シ殆ト其平面ヨリ隆起セズ、巨大ナル腺ノ直徑ハ殆ト葉ノ全厚
ニ亘ルモノアレトモ又細小單胞性ノモノアリ。

(成分) 揮發油大約一%ヲ含有シ之ヲ「チームス油 (Oleum Thymi)」ト稱ス、而シ
テ $\text{Thymen C}_{10}\text{H}_{16}$ 、 $\text{Cymen C}_{10}\text{H}_{14}$ 及 $\text{Thymol C}_9\text{H}_{14}(\text{OH})$ ヨリ成ル。

● セルビルム草 百里香、伊吹麝香草 Herba Serpylli.

(基原) チームス草ト齊シク歐洲ニ於テハ上古ヨリ香味料及藥物トシテ應
用セラル、モノニシテ全歐洲亞細亞中部北米稀ニ本邦ニモ生スル唇形科
(Labiatae) ノ小灌木 Thymus Serpyllum Linn. ノ枝ヲ開花ノ候ニ採集セルモノナリ。

圖九十六百二第



形乃至狭線針形ヲナシ邊緣缺裂セズ長サ一cm幅七mmニ至リ短キ葉柄ヲ有シ多クハ毛茸ナク主トシテ下面ニ於テ前條ノ「チーム」草ニ於ケルト同様ノ油腺ヲ帶フ其油腺ハ葉體中ニ深在シ反對ノ葉面ヨリ著シク之ヲ透視シ得ベシ、萼及花冠ハ「チーム」草ニ類シ其色紫乃至白ナリ、第二百六十九圖ハ「セルピルム」草ノ全形ヲ縮示ス。

香味ハ共ニ芳香性ナレトモ稍チ「チーム」草ニ異ナレリ。

(成分) 揮發油ノ含量半%已下ニシテ主トシテ Cymen C₁₀H₁₄ ヨリ成リ少量ノ

Thymol 及 Carvone C₁₀H₁₄O (OH) 11 ヲ含有ス。

(應用) 香味料トナシ又芳香薬トシテ供用スルコト前條ノ「チーム」草ニ同シ。

(獨) Lobelienkraut.
(英) Indian tobacco.
(佛) Lobelia enflée.
ロベリア草

圖十七百二第



Campanula trachelium

或ハ遙ニ之ヨリ前ニ民間薬トシテ使用セラレタルヤ疑ヒナシ而シテ

(基原)

●ロベリア草 Herba Lobeliae.

ロベリア草(インデヤン煙草)ハ其產地即チ北米ニ於テ已ニ一百年前

Campanula trachelium

一千八百三十

年ニ始メテ之ヲ英國及獨逸ニ齎致セリ、ロベリア草ハ山梗菜科 (Lobeliaceae) 山梗菜(さわぎ、よう)屬ニ隸スル Lobelia inflata L. ナル草本植物(第二百七十圖)ニ

シテ北米東部ノ諸地ニ繁殖ス目下紐育州ニ於テ培養シ帯花ノ季節ニ採集乾燥シ方形ノ小包ト爲シテ市場ニ出タス。

圖一十七百二第



(形状) ロベリア草ノ葉ハ卵圓形ヲ爲シ長サ六cmニ至リ幅モ亦六cmニ至ルモノアリ、葉柄甚

タ短ク或ハ葉柄ナク其顯著ナラサル鈍鋸齒ニハ類白色ノ腺及硬毛ヲ帶フ、硬毛ハ亦殊ニ葉面網脈ノ著シク露出セル部位及莖ニ附着ス、花冠ハ淡紫藍色ヲ有シ一方ハ基礎部迄開裂シ縱直ナラズ或ハ弧曲シ上下ノ二層ニ分裂ス上層ハ二瓣ヨリ成リ下層ハ廣キ三瓣ヨリ成ル(第二百七十一圖)萼ハ五裂シ其尖鋭ナル裂瓣ハ其長サ花冠ニ均シク花冠ト隔立シ果實稔熟ノ後ト雖トモ亦其頂端ニ殘存ス、果實ハ腹狀ニ膨脹セル覆果ニシテ十條ノ肋線ヲ現ハシ(第二百七十二圖)其皮壁ハ非薄ニシテ中ニ肥大壁立性ノ胎盤ヲ具有スル二房或ハ三房ヲ存ス、種子ハ甚タ多數アリテ卵圓形ヲ爲シ褐色ヲ有シ長サ半mmニ過キス之ヲ廓大視スレバ鮮麗ナル網眼狀ノ斑紋ヲ呈ス種子ノ味ハ「ロベリア草ヨリモ適ニ不快峻烈ニシテ苛辣ナリ。

第二百七十二圖



第二百七十圖ハ「ロベリア草ヲ稍縮寫セルモノナリ而シテ第二百七十一圖ハ廓大セル花、第二百七十二圖ハ腹狀ニ膨脹セル覆果ヲ廓大シテ示ス。

(成分) ロベリア草ノ有効成分ハ Lobelin 又 Trobin (C₁₂H₁₇N₃O₂)ト稱スル「アルカロイド」ニシテ仍ホ別ニ Indulin ト稱スル無効ノ「アルカロイド」ヲ含ムト稱スル

モノアリ其他又一種ノ酸ト即チ「ロベリア酸」及「ロベラクリン」(Lobelakrin)ナル配糖體ヲ含有スト云フ者アレトモ未タ精査ヲ經ス。

(應用)

喘息症ニ麻酔藥トシテ用ユ又嘔吐藥トナス藥局方ノ製劑ハ「ロベリア」丁幾ナリ。

● 苦艾 アブシント草 Herba Absinthii.

(基原) 太古ノ希臘人ハ恐クハ昔ニ本條ノ品ノミナラス類似ノ植物ヲモ苦艾ト稱セシナラン而シテ苦艾ハ獨逸ニ於テハ中古ノ時代ヨリ世ニ知ラレタリ、苦艾ハ菊科 (Compositae)ノ植物 Artemisia Absinthium L.ナル草芥ニシテ歐洲中部ノ殆ント全地ニ産シ歐洲南部ニ於テハ殊ニ山嶺地ニ産ス又處々ニ培植ス。

圖三百七十三第



(形狀) 苦艾ノ莖立葉ハ廣キ鈍三角形ノ周邊ヲ有シ長サ二十五cm葉柄ノ長サ屢一dmニ至リ二層ニ鋸裂シ兩面

苦艾 (獨) Vermutkraut.
(英) Worm. wood.
(佛) Absinthe commune.

圖 四 十 七 百 二 第



圖 五 十 七 百 二 第



ニ灰色ノ絨毛ヲ帶フ、其莖立葉基ニ附葉ハ二層錯裂葉ヲナシ葉柄短シ、華本ニ附着セル葉ハ更ニ單純ニシテ狭キ三瓣ヲ有シ其上部ニ位スルモノハ單ニ鼓針形ヲナス、有梗穗花狀ノ華本ハ分枝ノ上部ニ位スル葉腋ニ一箇或ハ二箇ツ、附着スル所ノ小華頭ヨリ成ル、各小花頭ハ略球圓狀ヲ爲シ黄色ヲ有シ直徑三mmニ過キズ、其剛キ總萼ハ細小ニシテ雌性管狀ノ邊緣花及甚タ多數ニシテ之ヨリモ稍大ナル兩性花ヲ圍擁シ花床ハ細小ニシテ著シク穹窿シ毛茸ヲ帶フ、果實ハ類褐色ニシテ長サ一mmニ過キズ毛冠ヲ戴カズ。

第二百七十三圖ハ本植物ノ縮小セル一枝ヲ示ス、葉ノ兩面ヲ被覆セル毛茸ハ甚タ特異ノ形狀ヲ有ス、第二百

七十四圖ハ其毛茸ヲ著シク廓大視セルモノナリ、此毛茸ハ他ノ艾(Artemisia)屬植物ニモ亦之ヲ見ル、苦艾葉ノ兩面ニハ此毛茸ノ外其凹陷アル部位ニ數箇ノ油胞ヨリ成レル細腺ヲ具有ス、第二百七十五圖ハ其油腺ヲ著シク廓大視セルモノトス、苦艾ハ佳快ナラザル臭氣ト強キ苦味トヲ有ス。

(成分) 苦艾ノ揮發油含量ハ二%ニ至ル、此揮發油ハ類綠色ヲ有シ Absinthol $C_{15}H_{16}O$ 及其エステル並ニ少量ノ Terpen, Kadinen 及二百度ニ沸騰スル藍色ノ油分ヨリ成ル、而シテ又苦艾中ニハ苦味質 (Absinthin $C_{40}H_{56}O_8 \cdot H_2O$) ヲ含有ス。

(應用) 芳香性ノ健胃藥トシテ用ユルコトアリ、其製品ハ越幾斯及丁幾等ナリ。

● カ ル ド ベ ネ チ タ ト 草 苦薊

Herba Cardui benedicti.

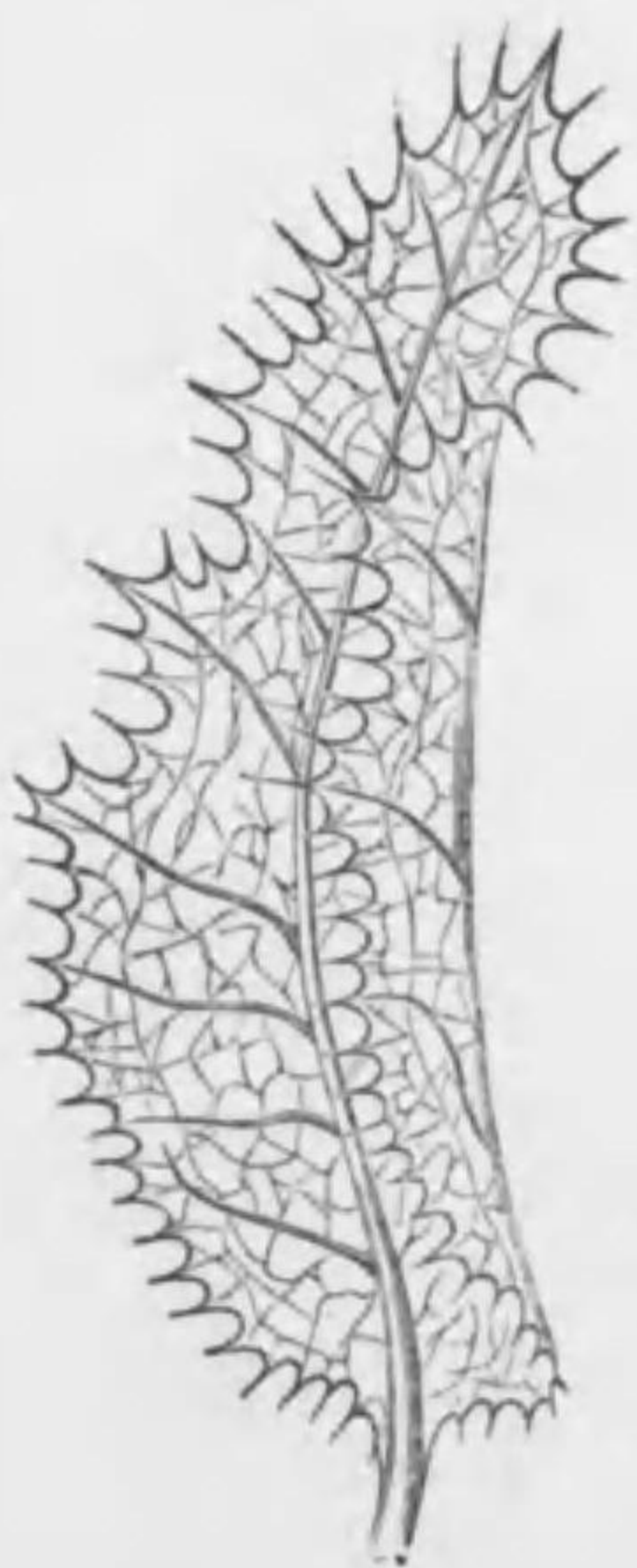
(基原) カルドベネチクト草ハ上古希臘ノ時代ヨリ藥用ニ供セラレ中歐ニ在テハ千四百年代ヨリ醫藥トシテ應用セラレタルノ記載アルモノニシテ北亞弗利加ノ地中海沿岸地方ヨリ前亞細亞ニ亘リ又南歐ニ天生シ歐洲各地ニ培植スル菊科 (Compositae) 分科矢車菊科 (Centaureae) 薊屬 (Unicus) ノ一年草 Unicus

(獨) Kardobenediktenfraut.
(英) Blessed thistle.
(佛) Chardon bénit.

Benedictus Linn. ヲ其開花季ニ採集セルモノナリ。

(形状)

薬用ニ供スル部分ハ帶花枝及葉ニシテ基立葉ハ長サ二十五cmニ至



圖六十七百二第

リ下部狹隘トナリテ有翼性ノ葉柄ニ移行シ灣狀ニ鱗裂シ棘齒ヲ帶ブル分蘗ヲ有ス、莖葉ハ上部ニ至ルニ隨テ小形且ツ單一トナリ莖ヲ抱擁シ遂ニハ心藏



圖七十七百二第

形ノ包葉トナリテ華頭ヲ包裹ス、凡ソ葉ハ毛茸ヲ有シ其毛ハ基趾ニ向テ硬疎トナリ幼新ナル際ニハ腺性ナリ**(第二百七十六圖)**華頭ハ巨大黄色ニシテ屋瓦様ノ總萼ヲ有シ其萼葉ハ單一ニ或ハ櫛狀ノ刺棘アリ、花床ハ扁坦ニシテ白色ノ硬毛ヲ有シ、

閉果ハ四肋線ヲ帶ビ毛茸ナク三列性ノ毛茸ヲ有ス其花ハ總テ管狀ナリ**第二百七十七圖**ノAハ一箇ノ管狀花ニシテBハ廓大セル閉果ニ三列(a b c)ノ毛茸ヲ具有スルモノヲ示ス。

新鮮ナルモノハ不快ノ臭氣ヲ有スレドモ乾燥スレバ消失シ味ハ苦ク鹹味ヲ帶ブ。

(成分)

其主成分タル苦味質ハ化學上ノ無力ナル結晶性ノ $\text{Knuzin C}_{14}\text{H}_{16}\text{O}_4$ ニシテ「アルコホル」ニ能ク溶解ス、其灰分ハ頗ル多量ナリ。

(應用)

古代ヨリ苦味薬トシテ應用セラレ、カルドベネザクト越幾斯及苦味丁薺等ヲ製スルノ用ニ供ス。

次ノ「サビナ」ハ適當ニ本章ノ草卉類ニ屬スル者ニアラサルモ其細枝ヲ葉ト共ニ藥用ニ供スルヲ以テ之ヲ *Herba* ト稱スルヲ常トス故ニ本章ニ附載ス。

● **サビナ** *Herba Sabinae, Summitates Sabinae.*

(基原) サビナハ紀元前三百年ノ時代ヨリ羅馬ニ於テ獸醫術上ニ應用セラレ八百十二年已後カル、大帝ノ推獎ニ由リ歐洲各地ニ行ハレ爾後墮胎ニ濫

サビナ (獨) *Sabebannu.*
(英) *Sabine.*
(佛) *Savine.*

用セラル、ニ至リシモノニシテ歐洲各地西伯利亞、小亞細亞等ニ産スル松柏科 (Coniferae) 分科タル柏科 (Cupressineae) ノ杜松 (Juniperus) 屬ニ隸シ高サ一乃至三 m ナルニ家性灌木 *Juniperus Sabina* L. (*Sabina officinalis* Gussone) ノ枝尖ナリ。

(形状) サビナハ前記植物ノ枝梢ノ萌尖ニシテ其小葉ハ或ハ鈍端ヲ有シ厚ク長サ三 mm ニ至リ四列ニ排序シ密ニ枝ヲ包擁シ或ハ尖端ヲ有シ長サ八 mm ニ至リ三列ニ排斥シ相隔離シ且ツ少シク枝ヨリ離立スルモノアリ、小葉背面ノ中央ニ

圖八十七百二第



ハ葉ノ組織内ニ存スル油室ヲ表スル一ノ隆起若クハ凹窪ヲ有ス、雌性樹ノ屈曲セル短キ萌枝ニ於ケル最上位ノ四乃至六葉ハ芽子ノ胚胎セル後自カラ相癒着厚化シテ之ヲ包裹シ以テ藍色或ハ褐色ニシテ灰色ノ粉霜ヲ帶フル漿果狀物ヲ形成ス。

第二百七十八圖 A ハ其萌尖ニシテ B ハ一ノ小萌尖ノ廓大セルモノヲ示ス。

本品ハ氣味強烈芳香性ニシテ稍々麻酔臭ヲ帶ブ。

(成分) 主成分ハ揮發油大約四%ニシテ其大部分ハ百五十五度乃至百六十六度ニ沸騰スル^ニテルペン^ニ C₁₀H₁₆ 及カヂネーン C₁₅H₂₄ ヨリ成リ其二百度以上ニ沸騰スル部分ニハ主トノ Sabinol C₁₅H₂₆O 及醋酸サビノール C₁₆H₂₂·OC₂H₃O ヲ含ム。此揮發油ハ強キ刺戟性ヲ有シ右旋性ナリ。

(應用) 強力ノ通經藥トシテ其浸劑ヲ與ヘ又越幾ストナス其作刺戟性ノ外用藥トシテ軟膏ノ狀ニ於テ用ユ、應々墮胎藥トシテ濫用セラレタルコトアリ。

附 録 第 一

和 漢 藥 略 目。

本邦ニ於ケル生薬學ハ舊來日本ニ行ハレタル和漢藥ノ首要ナル者ヲ併論ス
ルニ非サレバ其能事畢レリト云フ可カラズ著者ハ夙ニ自己及佗人ノ手ニ成
レル和漢藥研究ノ結果ヲ蒐集シテ特ニ和漢生薬學ノ一篇ヲ著ハスノ業ニ着
手シタレドモ未ダ之ヲ世ニ公ニスルノ機會ニ達セズ依テ茲ニ先ヅ元醫科大
學助手澤田駒次郎君ノ筆録セル略目ニ據テ之ヲ訂正加除シ更ニ其母植ノ和
名ヲ加ヘ以テ初學者ノ指鍼ニ供ス。

(一) 隱花植物類。

- 茯苓(ふくれう通名まつほら) *Pachyma Cocos Fr.*
- 茯神(ふくじん通名) 茯苓ノ生ゼシ松樹ノ根ナリ
- 馬勃(ほこりたけ) *Lycopodon gemmatum Batsch.*
- 獼猴眼(さるのこしかけ) *Fomes glaucatus Cooke.*
- 落葉松寄生(ゑぶりこ) *Polyporus officinalis Fr.*
- 海藻(ほんだわら) *Sargassum enerve C.Ag.*

- 鵝鴝菜(海人草)(まくり) *Digenia simplex Ag.*
- 松蘿(金線艸)(さるのおがせ) *Usnea longissima Ach.*
- 海金砂(かにくさ) *Lygodium japonicum Sw.*
- 石章(ひとつば) *Polypodium lingua Sw.*
- 石長生(はこねさう) *Adiantum venustum Don. var. Veitchii Bak.*
- 問荆(和麻黄)(すぎな) *Equisetum arvense L.*

(二) 根類及根莖類。

- 黄精(わうせい通名なるこゆり) *Polygonatum canaliculatum Persk.*
- 葶藶(いすい通名あまごころ) *Polygonatum officinale M.*
- 百部根(ひやくぶ通名ほとつら古和名) *Roxburghia sessilifolia Miq.*
- 天門冬(てんもんとう通名くさすぎかつら) *Asparagus lucidus Lindl.*
- 天麻(おにのやがら) *Gastrodia elata Blume.*
- 藜蘆(しゆろさう) *Veratrum nigrum L.*

慈苳根(はごむぎ) 射干(ひあぶぎ) 山藥(薯蕷)(やまのいも) 草薢(ごころ) 芭蕉根(はせう) 知母(ちも名通はなすげ) 茅根(ちがや) 蘆根(あし) 香附子(はますげ) 蓮根(はす) 山豆根(みやまごぞら) 蒼朮(さうじゆつ名通おけら) 白朮(びやくじゆつ名通) 細葉蒼朮(ほそばのおけら) 芍藥(しやくやく名通かはよぐさ古和) 濱防風(はまぼうふう) 水楊梅根(たいこんさう)

Coix lacryma L. Belamacanda chinensis Adams. Dioscorea japonica Thunb. Dioscorea quinqueloba Thunb. Musa Basjoo Sieb. Anemarrhena asphodeloides Bunge. Imperata arundinacea Cyrill. Phragmites communis Trin. Cyperus rotundus L. Nelumbium speciosum Willd. Euchresta japonica Benth. Atractylis ovata Thunb. " " " " Atractylis lancea. Thunb. Paeonia albiflora Pall. Phellopterus littoralis Fr. Schum. Geum japonicum Thunb.

藜本(かさもち) 升麻(眞升麻)(みつばししょうち) 赤升麻(あかししょうち) 虎杖根(いたごり) 葛根(くず) 烏藥(和烏藥)(うやく名通) 當歸(とうき名通やませり) 防風(眞防風)(ぼうふう名通はまむね古和) 獨活(しゅうご) 羌活(きやうくわつ名通) 白芷(和白芷)(びやくし名通よひぐせ) 柴胡(さいこ名通はたるちう) 野芍藥(やましやくやく) 紫草根(むらねあ) 茜草根(あかね) 桔梗(ききやう名通) 鈴子香(じやかう名通)

Nothosmyrnum japonicum Miq. Cimicifuga foetida L. var. simplex. Harth. Astilbe Thunbergii Miq. Polygonum cuspidatum Sieb. et Zucc. Paeraria Thunbergiana Benth. Lindera strychnifolia Benth. et Hook. Ligusticum acutlobum Sieb. et Zucc. Silix divaricatum Benth. et Hook. Coelopleurum Gmelini Ledeb. " " Angelica anomala Pall. Bupleurum falcatum L. Paeonia obovata Maxim. Lithospermum erythrorhizon Sieb. et Zucc. Rubia cordifolia L. var. mungista Miq. Platycodon grandiflorus DC. Chelonepsis moschata Miq.

商陸(やまごぼう)	<i>Phytolacca acinosa</i> Rox. var. <i>esculenta</i> Maxim.
土青木香(馬兜鈴)(うまのすいごろ)	<i>Aristolochia debilis</i> Sieb. et Zucc.
地黄(ぢわう <small>通名をひめ</small>)	<i>Rehmannia lutea</i> Maxim.
川芎(苜蓿)(せんきう <small>通名おひなかつら<small>古和名</small></small>)	<i>Conioselinum japonicum</i> Maxim.
黄芩(わうごん <small>通名かねやなぎ</small>)	<i>Scutellaria macrantha</i> Fisch.
黄耆(眞黄耆)(わうぎ <small>通名わらぐろ</small>)	<i>Astragalus Henryi</i> Oliv.
前胡(せんこ <small>通名せり<small>古和名</small></small>)	<i>Angelica decursiva</i> Miq.
玄參(ごまのはぐろ)	<i>Scrophularia Oldhami</i> Oliv.
牛膝(いのごづち)	<i>Achyranthes bidentata</i> Bl. var. <i>japonica</i> Miq.
竹節人參(土參)(ちくせつにんじん)	<i>Aralia repens</i> Maxim.
括蕒根(きからすうり)	<i>Trichosanthes japonica</i> Regel.
延胡索(眞延胡索)(えんごさく <small>通名つぶて</small>)	<i>Corydalis ambigua</i> Cham. et Schlecht.
木防己(ついらふじ)	<i>Cocculus Thunbergii</i> DC.
續斷(ぢりこまう)	<i>Lamium album</i> L.
威靈仙(くがいさう)	<i>Veronica virginica</i> L.
人參(にんじん <small>通名のにびぐさ</small>)	<i>Aralia quinquefolia</i> A. Gray. var. <i>Ginseng</i> Regel. et Mack.

細辛(うすばさいしん)	<i>Asarum Sieboldi</i> Miq.
土細辛(かんあふい)	<i>Asarum Blunnei</i> Duch.
酸漿根(ほうづき)	<i>Physalis Alkekengi</i> L.
地榆(われもかう)	<i>Poterium officinalis</i> L.
葎蓬草根(かうほね)	<i>Nuphar japonicum</i> DC.
白頭翁(おきなぐさ)	<i>Anemone cernua</i> Thunb.
石菖蒲根(せきしやう)	<i>Acorus gramineus</i> Ait.
和大黄(わだいおう <small>通名</small>)	<i>Rheum undulatum</i> L.
和良薑(わりやうきやう)	<i>Alpinia Galanga</i> Sw.
百合(ゆり)	<i>Lilium japonicum</i> Thunb.
白及(しらん)	<i>Bletia hyacinthina</i> R. Br.
貝母(はるゆり)	<i>Fritillaria verticillata</i> Willd. var. <i>Thunbergii</i> Baker.
澤瀉(さじをまだか)	<i>Alisma Plantago</i> L. var. <i>parviflorum</i> Torii.
天南星(てんなんしやう <small>通名らのを</small>)	<i>Arisaema japonicum</i> Blume.
半夏(はんげ <small>通名からすびしやく</small>)	<i>Pinellia tuberifera</i> Zen.
韭白(にら)	<i>Allium odorum</i> L.

(三) 木類。

- 常山(こくそぎ)
- 木通(あけび)
- 杜松木(ねず)
- 接骨木(にはこい)
- 土藤蕪(ふうとうかづら)
- 蜀羊泉(ひよどりじょうご)
- 小柏(いばた)

- Orixa japonica Thunb.*
- Akebia quinata Decne.*
- Juniperus rigida Sieb. et Zucc.*
- Sambucus racemosa L. var Sieboldiana Miq.*
- Piper Futo-Kadsura Sieb. et Zucc.*
- Solanum lyratum Thunb.*
- Ligustrum Iboota Sieb.*

(四) 刺棘類。

- 釣藤鈎(かぎかづら)
- 皂莢刺(皂角刺)(さいかち)

- Uncaria rhyneophylla Miq.*
- Gleditschia japonica Miq.*

(五) 皮類。

- 地骨皮
- 樸楸(榭皮)(かしは)
- 杜仲(和杜仲)(ちちゅう)
- 海桐皮(とべらのち)
- 合歡皮(ねむのち)
- 五加皮(うごき)
- 苦楝皮(せんだん)
- 黃柏(きはだ)
- 厚朴(ほうのき)
- 柔白皮(くわ)

- Lycium chinensis Mill.*
- Quercus dentata Thunb.*
- Evonymus japonicum Thunb.*
- Pitosporum Tobira Ait.*
- Albizia julibrissin Boiv.*
- Acanthopanax aculeatum Seem.*
- Melia azedarach L. var subtipinnata Miq.*
- Phellodendron amurense Rupr.*
- Magnolia hypoleuca Sieb. et Zucc.*
- Morus alba L. var. styloga Bur.*

牡丹皮(ぼたん名通はつかぐさ古和)
 水楊皮(かはやなぎ)
 陳皮(みかん)
 青皮(同)
 橘皮(かうじ)
 橙皮(だいたい)
 香橙皮(くねんぼ)
 枳殼(からたち)
 延命皮(とちのき)
 李根皮(すもも)
 秦皮(とねりこ)

Paeonia Moutan Sims.
Salix purpurea L.
Citrus nobilis Lour.
 " " "
 " " "
Citrus bigaradia Dulac.
Citrus aurantium L.
Citrus trifoliata L.
Aesculus turbinata Blume.
Prunus domestica L.
Fraxinus Bungeana DC. var. pubinervis Wg.

(六) 草類。

石斛(せきこく通名)
 穀精草(はしくさ)

Dendrobium moniliforme Sie.
Ericaulon sexangulare L.

淫羊藿(いかりさう)
 萊菔葉(だいこん)
 梅田薦(なはしろいさう)
 小連翹(をぞざりさう)
 馬鞭草(くまづら)
 山扁豆(かはらけつめい)
 滁州夏枯草(うつぼぐさ)
 紫蘇莖(しそ)
 益母草(荒蔚)(めはじら)
 當藥(せんぷり)
 芎藭(にはやなぎ)
 繁縷(はこび)
 蒼草(のこざりさう)
 浮萍(うきくさ)
 天童草(あまばも)
 麻黃(まわう通名)

Epimedium macranthum Murr. et Decne.
Raphanus sativus L.
Rubus parvifolius L.
Hypericum erectum Th.
Verbena officinalis L.
Cassia mimosoides L.
Prunella vulgaris L.
Perilla arguta Benth.
Leonurus sibiricus L.
Swertia chinensis Franch.
Polygonum aviculare L.
Stellaria media L.
Achillea sibirica Ledeb.
Lemna minor L.
Potamogeton tretocarpus Maxim.
Ephedra vulgaris Rich.

(七) 葉類。

- 竹葉(たけ)
- 芭蕉葉(ばせう)
- 蓮葉(はす)
- 淫羊藿葉(いかりさう)
- 橙葉(だいたい)
- 蜀葵葉(たちあふひ)
- 錦葵葉(せにあふひ)
- 枇杷葉(びは通名)
- 土常山(あまぢや)
- 參葉(にんじん)
- 排草香(かはみどり)
- 忍冬葉(にんどう通名すいかづら)
- 接骨木葉(にはとこ)
- 艾葉(よもぎ)

- Phyllostachys bambusoides Sieb, et Zucc.*
- Musa Basjoo Sieb.*
- Nelumbium speciosum Willd.*
- Epimedium sinense Sieb.*
- Citrus bigaradia DuRoi.*
- Althaea rosea Cav.*
- Malva sylvestris L.*
- Photinia japonica Th.*
- Hydrangea Thunbergii Sieb.*
- Aralia quinquefolia A.G var. Ginseng.*
- Lophanthus rugosus Fisch.*
- Lonicera japonica Th.*
- Sambucus racemosa L. var. sieboldiana Miq.*
- Artemisia vulgaris Nees.*

- 蒼耳葉(をなもみ)
- 天名精葉(鶴蝟草)(やぶたばこ)
- 連錢草(かきごぼし)
- 香葉(なぎなたかうじゆ)
- 藍葉(たであい)
- 車前葉(をぼこ)
- 葎菜葉(重藥)(ごくだみ)
- 枸杞葉(くこ通名)

- Xanthium strumarium L.*
- Carpesium abrotanoides L.*
- Nepeta glechoma Benth.*
- Elscholtzia cristata Willd.*
- Polygonum tinctorium Lour.*
- Plantago asiatica L.*
- Houttaysia cordata Th.*
- Lycium chinensis Mill.*

(八) 花類。

- 蒲黃(がま)
- 辛荳(こぶし)
- 槐花(えんじゆ)
- 蜀葵花(たちあふひ)

- Typha japonica Miq.*
- Magnolia Kobus Dc.*
- Sophora japonica L.*
- Althaea rosea Cav.*

木槿花(むくげ)
 玫瑰花(はまなす)
 野薔薇花(のいばら)
 接骨木花(にはちこ)
 旋覆花(をぐるま)
 鼠麴草(はこごさ)
 款冬花(ふき)
 天名精花(鶴蝨花)(やぶたばこ)
 菊花(きく通名)
 金銀花(忍冬花)(すいかづら)

Hibiscus syriacus L.
Rosa rugosa Th.
Rosa multiflora Th.
Sambucus racemosa L. var. Sieboldiana Miq.
Inula britannica DC. var. vulgaris Led.
Guaphalium multiceps Willd.
Petasites japonicus Miq.
Carpesium abrotanoides L.
Chrysanthemum sinense Sab.
Lonicera japonica Thunb.

(九) 果類及子類。

伊豆縮砂(白縮砂)(はなめうが)
 山珊瑚(つちあけび)

Alpinia japonica Th.
Galeola septentrionalis Reichb.

野山藥實(やまのいも)
 川棟子(たうせんだん)
 大棗(なつめ)
 木瓜(くわりん)
 曼陀羅華實(とうせんあさかは)
 山梔子(くちなし)
 枳實(からたち)
 山楂子(さんざし通名)
 山茱萸(さんしゆ通名)
 皂莢(さいかち)
 吳茱萸(眞吳茱萸)(ごしゆ通名)
 曼荊子(はまごう)
 無花果實(いちじく)
 南五味子(赤五味子)(さねかづら)
 梓實(さっし通名)
 枸杞(くこ通名)
 乾葡萄(ぶたう)

Dioscorea japonica Th.
Melia Toosendan Sieb. et Zucc.
Zizyphus vulgaris Lam. var. inermis Bunge.
Oxydonia sinensis Thoin.
Datura tatula L.
Gardenia Florida L.
Citrus trifoliata L.
Crataegus cuneata Sieb. et Zucc.
Cornus officinalis Sieb. et Zucc.
Gleditschia japonica Miq.
Evodia rautaeacarpa Hook. et Thoin.
Vitex trifolia L. var. unifoliolata Schauer.
Ficus carica L.
Kadsura japonica L.
Catalpa Kaempferi Sieb. et Zucc.
Lycium chinensis Mill.
Vitis vinifera L.

柿蒂(かき)
 茄蒂(なすび)
 厚朴實(ほうのき)
 水天蓼(またゝび)
 南天實(南天果)(なんてん)
 烏梅(うめ)
 松杜子(ねす)
 枳椇子(けんぼなし)
 覆盆子(とつくりいちご)
 鼠李子(くろむめも^{ウチカ})
 女貞(ねすみもち)
 和木瓜(くさぼけ)
 營實(のいばら)
 旌節花實(まめふじ)
 罌粟殼(けし)
 桃仁(もも)
 青箱子(のげいとう)

Diospyros Kaki L.
Solanum melongena L.
Magnolia hypoleuca Sieb. et Zucc.
Actinidia polygama Planch.
Nandina domestica Th.
Prunus Mume Sieb. et Zucc.
Juniperus rigida Sieb. et Zucc.
Hovenia dulcis Th.
Rubus Tokkura Sieb.
Rhamnus japonicus Maxim. var. genuina Maxim.
Ligustrum japonicum Th.
Cydonia japonica Pers. var. pygmaea Maxim.
Rosa multiflora Th.
Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.
Papaver somniferum L.
Prunus persica L.
Celosia argentea L.

地膚子(はゞき)
 車前子(をほばこ)
 紫蘇子(しそ)
 白牽牛子(あさがほ)
 黑牽牛子(同)
 午莠子(ごぼう^{名通})
 冬葵子(ふゆあふひ)
 薏苡仁(川穀)(はとむぎ)
 瞿麥子(なでしこ)
 荊芥(假蘇)(けいがひ^{名通}ありたごう)
 菟絲子(ねなしかづら)
 皂角子(さいかち)
 蓮子(はす)
 蒺藜子(はまびし)
 冬瓜子(とうぐわ)
 括萎仁(きからすうり)
 王瓜仁(平瓜呂仁)(からすうり)

Kochia scoparia Schrad.
Plantago asiatica L.
Perilla arguta Benth.
Pharbitis hederacea L.
 “ “ “
Arctium Lappa L.
Malva pulchella Benth.
Coix agrestis Lour.
Dianthus superbus L.
Nepeta japonica Maxim.
Cuscuta chinensis Lam.
Gleditschia japonica Miq.
Nelumbium speciosum Willd.
Tribulus terrestris L.
Lagenaria dasistemon Miq.
Trichosanthes japonica Regel.
Trichosanthes cucumeroides Ser.

海松子(てうせんまつ)
 橡實(もちのき)
 胡蘆巴(ころは名通)
 白刀豆(なたまめ)
 苦(いぬがらし)
 萊菔子(だいこん)
 補骨脂(おらんだびゆ)
 蛇牀子(じやじようし名通)
 茵陳子(かはらよまぢ)
 葦子(にら)
 扁豆(ふぢまめ)

Pinus Koraiensis Sieb. et Zucc.
Aesculus turbinata Bl.
Trigonella foenum-graecum L.
Canavalia ensiformis D.C.
Nasturtium montanum Wall.
Raphanus sativus L.
Psoralea corylifolia L.
Selinum Monnierii Cass.
Artemisia capillaris Th.
Allium odorum L.
Dolichos Lablab L.

附録 第二

稀用生薬 (上)

稀ニ應用セラル、新舊生薬ノ畧目ヲ掲ケ本篇ノ缺ヲ補フノ資料トナス。

(一) 隠花植物。

- オイケウマ *Eucheuma*. 南濠新太拉利洲ヨリ出ツル紅藻科 Rhodophyceae ノ海藻 *Eucheuma speciosum J. Ag.* ニシテ亦カラゲーンノ如キ粘漿ヲ供給スルニ由リテ之ヲ粘着性緩和薬トシテ應用ス。
- ケルプ藻 *Fucus Kelpware*. 歐洲其佐ニ産スルヨリヨメ科 Fucoaceae ノ海藻 *Fucus vesiculosus L.* ニシテ「ローム」ノ原質タル海藻灰(ケルプ)ヲ製造スルノ材料タルモノナリ、近時腺病ニ之ヲ稱用ス。
- ポリボルス *Polyporus*. 智利國ニ産スル *Polyporus senex* ニシテ肺学家ノ止汗薬トシテ應用セルモノナリ。
- 玉蜀黍ウスチラゴ *Ustilago Maydis*. 玉蜀黍ニ寄生スルくろんじん科 Ustilaginaceae ノ菌ニシテ麥角ト同様ノ効力アリトシテ用ユルモノアレド決シテ麥角ト同様ノ効アルモノニアラス、往時ハ麥角ト麥ノくろんじんは *Ustilago* 即チ麥奴トチ名稱上ニ混同セリ。
- ヘルミントヒモルトン *Helminthochorton*. 地中海其他各地ニ産スル紅藻科 Rhodophyceae ノ海藻 *Aloidium Helminthochorton Krz.* 及之ニ類スル同属海藻ノ混和物ニシテ特ニ小兒ニ應用セラル、蛔蟲驅除薬ナリ。

(二) 根類及根莖類。

- コルヒクム根 *Bulbus Colchici*. 歐洲ニ産スル藜蘆科 Melanthaceae ノ植物 *Colchicum autumnale L.* ノ根ニシ

テ「コレヒチン Colchicin」ヲ有効成分トナス、健麻質斯及痛風ニ用ユ。

●アルカンナ根 Radix Alkanna. 南歐羅巴・阿弗利加・小亞細亞等ニ産スル紫草科 Boraginaceae ノ植物 Alkanna tinctoria Tausch. (Anchusa tinctoria L.) ノ根ニシテ專ラ種々ノ製劑殊ニ脂油・軟膏・髮膏・含嗽劑・丁燒劑等ヲ紅染スルニ用ユ。

●艾根 Radix Artemisiae. 亞細亞及歐洲ニ産スル菊科 Compositae ノ宿根草 Artemisia vulgaris L. (アモギ) ノ根ニシテ癩癩及舞踏病ニ内用ス。

●アザルム根 細辛根 Radix Asari. 歐洲ニ産スル馬兜鈴科 Aristolochiaceae ノ宿根草 Asarum europaeum L. ノ根莖ニシテ其粉末ハ噴嚏ヲ起スノ作用アルヲ以テ頭痛ノ民間業トシテ用井又酒客ノ斷飲藥トシテ内用ス。

●午芳根 Radix Bardanae. 歐洲及亞細亞ノ各地ニ天生シ又ハ培植セラル、菊科 Compositae ノ二年生草 Arctium Lappa L. (Tappa vulgaris Nees) ノ根ニシテ利尿及瀉下ノ効アリトシテ多クハ佗ノ同効藥セナン葉・レウイヌナクム根等ニ伍用ス。

●アルチシマク根 Radix Carinae. 歐洲ニ産スル菊科植物 Carthamus acutis L. ノ野生セルモノ(培養物ハ蔬菜トシテ嗜食セラル)ノ根ニシテ發汗・利尿及興奮ノ効アリトシテ皮膚病熱性病等ニ用ユ。

●ヘレボル根 Radix Hellebori viridis. 歐洲ニ産スル毛茛科 Ranunculaceae ノ宿根草 Helleborus viridis L. ノ根莖及副根ニシテ噴嚏粉劑トナシ又精神病・水腫・月經不調等ニ内用ス。

●ナレガミア根 Radix Naregamiae. 東印度ニ産スル棟科 Meliaceae ノ植物 Naegannia alata W. et A. ノ根ニシテ吐根ニ同シク大量ニテハ催吐藥トナシ少量ニテハ祛痰藥トシテ用ユ。

●サボナリア根 Radix Saponariae. 歐洲ニ産スル石竹科 Caryophyllaceae ノ植物 Saponaria officinalis L. ノ根ニシテ梅毒・腺病・慢性皮膚病等ニ變質藥トシテ用ユ。

●レウイヌナクム根 Radix Levistici. 南歐ニ産スル繖形科 Umbelliferae ノ植物 Levisticum officinale Koch. ノ根ニシテ利尿驅梅ノ目的ヲ以テ佗藥ニ配伍シ藥茶劑ニ供ス。

●アポチヌム根 Radix Apocyni. (加那陀大麻根) 北米ニ産スル夾竹桃科 Apocynaceae ノ植物 Apocynum cannabinum L. ノ根ニシテ水腫・腎臟病等ノ利尿藥及瀉下藥トシテ用ユ。

●土木香根 Radix Helenii. 各地ニ産スル菊科 Compositae ノ植物 Inula Helenium L. ノ根ニシテ緩和藥並ニ利尿

發汗藥トシテ用ユ、有力成分ハヘレンニン Helenin 即チ土木香腦、アラントール Alantol (防腐消毒ノ效アリ)ナリ。

●ピレトリューム根 Radix Pyrethri. 歐洲ニ産スル菊科植物 Pyrethrum officinalis L. (Anacyelus officinarum Hay.)ノ根ニシテ其浸劑チ口齒諸病ノ含嗽藥トナシ又痲瘋質斯ニ内用ス。

●ピムピネルラ根 Radix Pimpinellae. 歐洲産微形科 Umbelliferae だけざり屬ノ植物 Pimpinella s. xifraga L. 及 Pimpinella magna L. ノ根ニシテ其丁幾チ胃加答兒ニ用井又浸劑チ咽喉及口腔病ノ含嗽劑トナス。

●イムペラトリア根 Rhizoma Imperatoriae. 歐産微形科植物 Imperatoria Oshut'ann L. ノ根ニシテ利尿發汗強壯藥トシテ用ユ、多ク佗藥ト共ニ藥茶劑トナス。

●トルメンチルラ根 Rhizoma Tormentillae. 歐産薔薇科 Rosaceae 蛇莓屬植物 Potentilla Tormentilla L. ノ根ニシテ赤痢及其佗下利症ニ用井又口腔病ノ含嗽劑トナス。

●菅根 Rhizoma Caricis. 莎艸科 Cyperaceae くわすげ屬ノ植物 Carex arenaria L. ノ根莖ニシテ利尿又發汗藥トシテ用ユ。

●茅根 Rhizoma Graminis. 禾本科 Gramineae はまむぎ屬ノ植物 Tritium repens L. ノ根莖ニシテ舊來之ヲ和産ノ茅根ト混同シ此譯名ヲ附シ來リタレトモ本邦ノ茅根ハ白茅(らむぎ) Imperata arundinacea Crg. ノ根ナリ然レトモ茲ニハ尙ホ通名ヲ僱用ス、尿管病ノ緩和藥トシテ用ユ。

●土茯苓根 山歸來 Rhizoma Chinae. 本邦及歐洲ニ産スル百合科 Liliaceae ノ植物菝葜(わさづきいばら) Smilax China L. ノ根莖ニシテ梅毒痛風ニ用ユ。

(三) 皮類。

●アングスツラ皮 Cortex Angusturae. 南米ノ熱帶地方ニ産スル芸香料 Rutaceae ノ植物 Galipea Ospania DC. ノ樹皮ニシテ消化不長又ハ赤痢ニ用ユ。

●アゼダラック皮 マルゴザ皮 Cortex Azedarach. 楝科 Meliaceae ノ植物 Melia Azedarach L. ノ樹皮ニシテ蠅蟲類ニ對スル驅蟲藥トシテ用ユ、有効成分ハ一種ノ苦味質アルヒミン Margosin C₁₅H₁₆O₁₁ ナリ。

- 白桂皮 *Cortex Caneliae*. 西印度ニ産スル「ウイメントレナ科 *Winteraceae* ノ植物 *Canella alba Murray* ノ樹皮ニシテ芳香性ノ興奮薬トシテ用ユ。
- コト皮 *Cortex Coto*. 南米ボリヴィア國ニ産スル樟科 *Lauraceae* (恐クハ *Cryptocarya* 屬) ノ仍ホ不明ナル植物ヨリ取レル樹皮ニシテ別ニパラコト皮ト名クル一種アリ蓋シ同屬他種ノ樹ヨリ得ルモノナラン。各ニ有効成分コトイン *Kotuin* 若クハ「パラコトイン *Parakotoin*」ヲ含有ス、急性及慢性下利ニ止瀉薬トシテ用ユ。
- 胡桃皮 *Cortex Juglandis*. 胡桃科 *Juglandaceae* ノ植物胡桃 (くるみ) *Juglans regia L.* ノ果皮ニシテ腺病梅毒等ノ淨血薬トシテ民間ニ用ユ。
- 綿根皮 *Cortex Gossypii*. 錦葵科 *Malvaceae* ノ植物紳綿(わた) *Gossypium herbaceum L.* ノ根皮ニシテ止血薬トシテ用ユ。
- ムゼナ皮 *Cortex Musenae*. 亞弗利加洲アロシニア地方ニ産スル合歡科 *Mimosaceae* ノ樹 *Albizia antelemin-thica Baill.* ノ樹皮ニシテ繼發薬トシテ用ユ。
- ビスチチア皮 *Cortex Piscidie*. 西印度ニ産スル苧科 *Uguminosae* ノ植物 *Piscidia erythrina L.* ノ樹皮ニシテ其樹脂ハ配糖體ビスチゲン *Piscidin GalH₂O₄* ヲ含ム、土人ハ魚類ヲ麻醉セシメテ之ヲ抽流スルノ目的ニ用ユ、麻醉薬及鎮痙薬トシテ咳嗽神經痛等ニ用ユ。
- シマルバ皮 *Cortex Sinarubae*. 中米及西印度ニ産スル「シマルバ科」ノ植物 *Sinaruba officinalis DC.* ノ樹皮ニシテ土人ハ之ヲ赤痢ニ用井爾後他ノ地方ニモ行ハル、ニ至レリ。
- ウイブルスム皮 *Cortex Viburni*. 北米ニ産スル忍冬科 *Caprifoliaceae* 英連 (おますみ) 屬ノ植物 *Viburnum prunifolium L.* ノ樹皮ニシテ運動麻痺ヲ起スノ作用アリ、痙攣鎮靜薬トシテ用ユ。

(四) 草卉類。

- アドニス草 *Herba Adonidis*. 歐産毛茛科 *Ranunculaceae* 福壽草屬ノ植物 *Adonis vernalis L.* ノ全草ニシテ心臓強壯薬トシテ「サギタリス」ニ代用ス。
- 薺草 *Herba Capsellae Bursae Pastoriuae*. 十字科 *Cruciferae* ノ植物薺 (なづな) *Capsella Bursa Pastoris*

Mosch. ノ全草ナリ、一方ニハ止血止瀉、一方ニハ利尿ノ効アリトシテ用ユ。

● **白屈菜** *Herba Chelidonii.* 本邦及歐洲ニ産スル罌粟科 *Papaveraceae* ノ植物白屈菜 (くわいのわう) *Chelidonium majus L.* ノ全草ニシテ往時ハ所謂春季療法ニ用ユル草汁ノ成分ヲナシ近時ハ之ニ含有スル「アルカロイド」ヘリドニン *Chelidonium* ハ胃腸ニ有効ナリト稱セラレ、白屈菜越境新ナモ之ト同シク試用セリ。

● **土薺芥草** *Herba Chenopodii.* 本邦及歐洲ニ産スル藜科 *Chenopodiaceae* ノ植物土薺芥 (ありたせうじ) *Chenopodium ambrosioides L.* ノ全草ニシテ健胃及鎮痙薬トシテ用ユ。

● **コクレアリア草** *Herba Cochleariae.* 歐産十字科ともしりせうじ屬ノ植物 *Cochlearia officinalis L.* ノ地上部ニシテ瀉下及利尿薬トナシ又新鮮ナルモノヲ壞血病者ニ食用セシム、本邦ノ山薺菜 (わさび) *Enthyra Wasabi Martin.* ニ類スル氣味アリ。

● **野幌菊草** *Herba Senecionis.* 歐産菊科植物のほろぎく *Senecio vulgaris L.* ノ根ヲ併セタル全草ニシテ往時ハ解凝薬トシテ之ヲ用井近時ハ月經不調ニ有効ナリト稱セラレ。

● **ガレガ草** *Herba Gallegae.* 歐産蝴蝶形科 *Papilionaceae* ノ植物 *Gallega officinalis L.* ノ全草ニシテ乳汁分泌ヲ促進スルノ効アリトナシ牛乳採取業者モ亦之ヲ牛畜ニ與フ。

● **リナリア草** *Herba Linariae.* 本邦及歐洲ニ産スル玄参科 *Scrophulariaceae* ノ植物うらん *Linaria officinalis Miller* ノ全草ニシテ往時利尿瀉下ノ効アリト應用セリ。

● **マヨラナ草** *Herba Majoranae.* 歐産唇形科 *Labiatae* ノ植物 *Origanum Majorana L.* ノ花ヲ帶フル全草ニシテ微弱ノ刺激性ヲ有シ含嗽劑ニ應用ス。

● **蒼草** *Herba Milfolii.* 菊科ノ植物蒼草屬 *Achillea millefolium L.* ノ全草ニシテ春季療法ニ用ユ。

● **ポリガラ草** *Herba Polygalae.* 歐産遠志科遠志屬ノ植物 *Polygala amara L.* ノ全草ニシテ祛痰及健胃ノ目的ニ用ユ。

● **プルモナリア草** *Herba Pulmonariae.* 歐産紫草科 *Borraginaceae* ノ植物 *Pulmonaria officinalis L.* ノ全草ニテ其名ノ示ス如ク往時肺及呼吸器官ノ疾病ニ應用セラレタリ。

● **ブルサチルラ草** *Herba Pulsatillae.* 歐産毛茛科白頭翁屬ノ植物 *Anemone Pulsatilla L.* ノ全草ニシテ往時瘧毒

及皮膚病ニ應用セラレ洗眼劑トナシタリ。
 ●スピゲリア草 *Herba Spigeliae*. 西印度産馬錢科 *Loganiaceae* ノ植物 *Spigelia anthelmia L.* ノ帶花全草ニシテ
 蟲ヲ驅除スルニ用ユ大量ハ人體ニモ亦有毒ナリ。
 ●芥菊草 *Herba Tanacetii* 歐産菊科 *Compositae* ノ植物トモテテ *Tanacetum vulgare L.* ノ全草ニシテ
 蟲ヲ驅除スルニ用ユ。
 ●三色堇草 *Herba Violae tricoloris* 歐産堇菜科 *Violaceae* ノ植物ニ色すみれ(遊蝶草) *Viola tricoloris L.* ノ帶色
 全草ニシテ往時發汗利尿ノ効アリトシ應用セラレタリ。

(此已下ハ下卷ニ載ス)

附録第三

植物系統ニ從フ生薬ノ序列。

本書ノ植物性生薬ハ主トシテ植物形態學上ノ區別ニ隨テ分類セラレアリト
 雖トモ或ル生薬學家ニ由テハ植物系統ニ據テ之ヲ記述スルコトアリ故ニ今
 重要ナル植物性生薬ヲ植物系統ノ順序ニ據テ之ヲ列舉シ以テ生薬學ト植物
 學トノ關聯ヲ概示セントス而シテ其植物系統ハ拙著藥用植物學ニ採用セル
 所ニ準據ス。

藥用植物(即チ生薬ヲ供給スル植物ヲ包含セサル植物ノ門類族科ハ一切之ヲ省ク)。

隱花植物。

無莖植物門。

褐藻類 *Phaeophyceae.*

ラニナリアン *Laminaria*

紅藻類 *Rhodophyceae.*

カルラゲーン *Carrageen.*

寒天 *Agar-Agra.*

真菌類 *Myricetes.*

地衣類 *Lichenes.*

イスランド苔 *Lichen islandicus.*

ラクムス *Lacca musica.*

羊齒類 *Filicinae.*

綿馬根 *Radix Filicis.*

參角 *Scolec cornutum.*

落葉松菌 *Fungus Laricis.*

止血菌 *Fungus chitrygorum.*

脉管隱花植物門。

羊齒類 *Filicinae.*

綿馬根 *Radix Filicis.*

石松類 *Lycopodiaceae*.

石松子 *Lycopodium*.

顯花植物。

裸子植物門。

松柏類 *Coniferae*.

松柏科 *Pinaceae*.

テマリノマナナ *Terebinthina*.

松脂 *Resina Pini*.

コロノキニウム *Colophonium*.

カナダバルサム *Balsamum Canadense*.

サンダラカ *Sandaraca*.

杜松實 *Fructus Juniperi*.

杜松木 *Ignum Juniperi*.

サビナ *Herba Sabinae*.

麻黄類 *Gnetaceae*.

麻黄 *Herba Ephedrae*.

被子植物門。

單子葉植物類 *Monocotyledones*.

百合科植物族 *Liliiflorae*.

百合科 *Liliaceae*.

海葱 *Radix Scillae*.

蘆薈 *Aloe*.

コレロクム子 *Semen Colchici*.

コレシクム根 *Radix Colchici*.

サバザレ子 *Semen Sabadillae*.

桑蘆根 *Rhizoma Veratri*.

土茯苓科 *Smilacaceae*.

サトサ根 *Radix Sarsaparillae*.

土茯苓根 *Rhizoma Chinae*.

鈴蘭草 *Herba Convallariae*.

鳶尾科 *Iridaceae*.

イリス根 *Radix Iridis*.

サフラン *Crocus*.

鳳梨科 *Bromeliaceae*.

鳳梨 *Fructus Ananase*.

花柱植物族 *Spadiciflorae*.

天南星科 *Araceae*.

萬蒲根 *Rhizoma Calami*.

棕櫚科 *Palmaceae*.

椰子 *Semen Coccos*.

檳榔子 *Semen Arecae*.

禾本科 *Gramineae*.

茅根 *Rhizoma Graminae*.

小麥 *Fructus Tritic*.

大麥 *Fructus Hordei*.

香竈植物族 *Scitamineae*.

薑科 *Zingiberaceae*.

生薑 *Radix Zingiberis*.

小豆蔻 *Fructus Cardamomi*.

縮砂 *Fructus Amomi Xanthioides*.

菝葜 *Radix Zedoariae*.

鬱金 *Rhizoma Curcumae*.

良姜 *Radix Galangae*.

雌雄合蕊植物族 *Gynandryae*.

蘭科 *Orchidaceae*.

サトシノ根 *Radix Salep*.

ワニルヲ *Fructus Vanilla*.

雙子葉植物類 *Dicotyledones*.

離瓣花植物亞類 *Choripetalae*.

殼斗科 *Cupuliferae*.

榲桲皮 *Cortex Quercus*.

榲桲實 *Fructus Quercus*.

榲桲 *Saber*.

沒食子 *Galla lalopensis*.

胡桃科 *Juglandaceae*.

胡桃葉 *Folia Juglandis*.

胡椒植物族 *Piperinae*.

胡椒科 *Piperaceae*.

胡椒 *Fructus Piperi*.

菓澄茄 *Fructus Cubebae*.

マチノ葉 *Folia Matco*.

蕁麻植物族 *Urticinae*.

蕁麻科 *Urticaceae*.

桑實 *Fructus Mori*.

印度大麻 *Herba Cannabis indicae*.

ホトノ膝 *Gnandaba Impati*.

中心子植物族 *Centrospermae*.

蓼科 *Polygonaceae*.

大黃 *Radix Rhei*.

野大黃 *Radix Ranuncis*.

商陸科 *Phytolaccaceae*.

商陸 *Radix Phytolacae*.

非輪花植物類 *Aphanogyticae*.

多果植物亞族 *Polycarpicae*.

毛茛科 *Ranunculaceae*.

ムユニン草 *Herba Adonis*.

黄 連 Radix Coptidis.
 ヘンキク根 Radix Hellebori.
 アロニキク根 Radix Aconiti.
 アロニキク葉 Folia Aconiti.
 ヒドランネン根 Radix Hydrastis.
 芍 薬 Radix Paeoniae.
木蘭科 Magnoliaceae.
 莽草實 Fructus Illicii religiosi.
 大茴香 Fructus Anisi stellati.
防己科 Menispermaceae.
 コロムホ根 Radix Colombo.
 コクタルネ根 Fructus Cocculi.
目木科 Berberidaceae.
 キドナイム根 Radix Podophylli.
樟 科 Lauraceae.
 桂 皮 Cortex Cinnamomi
 錫蘭桂皮 Cortex Cinnamomi Ceylanlei.
 サッサフラン木 Lignum Sassafras.
 ラウリール實 Fructus Lauri.
 ラウリール葉 Folia Lauri.
肉豆蔻科 Myristicaceae.
 肉豆蔻 Semen Myristicace.

肉豆蔻花 Macis.
罌粟様植物亞族 Rhoeadinae
罌粟科 Papaveraceae.
 白風菜 Herba Chelidoni.
 未熟罌粟殼 Fructus Papaveris. immaturi.
 罌粟子 Semen Papaveris.
 阿 片 Opium.
 麗春花 Flores Rhoeados.
十字花科 Cruciferae.
 芥 子 Semen Sinapis.
 白芥子 Semen Erucae.
 コクノアムン種 Herba Cochleariae.
ナスツス花亞族 Cistiferae.
堇菜科 Violaceae.
 三色堇種 Herba Viola tricoloris.
 香堇花 Flores Viola.
山茶科 Ternstroemiaceae.
 茶 葉 Folia Theae.
クルシヤ科 Clusiaceae.
 藤 黄 Gummi Guttii.
デフテロカレン科 Dipterocarpaceae.
 ダムトラ脂 Resina Dammara.

柱果植物亞族 Columniferae.
錦葵科 Malvaceae
 錦葵花 Flores Malvae.
 錦葵葉 Folia Malvae.
 アムテム根 Radix Althaeae.
 蜀葵根 Radix Althaeae roseae.
 黃蜀葵根 Radix Hibisci.
 綿 Gossypium.
菩提樹科 Yuliacae.
 菩提樹花 Flores Yuliae.
梧桐科 Sterculiaceae.
 カノナ子 Semen Cacao.
 コラ實 Semen Colae.
整輪花植物族 Eucalyptaceae.
喙形果植物亞族 Gymnades.
亞麻科 Linaceae.
 亞麻仁 Semen Lini.
漆樹植物亞族 Terebinthinae.
芸香科 Rutaceae.
 ヤホランヤ葉 Folia Jaborandi.
 芸 香 Herba Rutae.
 ブッコ葉 Folia Bucco.

秦 椒 Fructus Xanthoxyli.
 橙 皮 Cortex Aurantii.
 橙 花 Flores Aurantii.
 橙 葉 Folia Aurantii
 未熟橙實 Fructus Aurantii. immaturi.
 枸橼皮 Cortex Citri.
蒺藜科 Zygophyllaceae.
 鹽膚木 Lignum Guajacii.
黄棟樹科 Simarubaceae.
 クワシシマ木 Lignum Quassiae.
ブルゼラ科 Burseraceae.
 ミネラ Myrrha.
 乳 香 Olibanum.
漆樹科 Anacardiaceae.
 マンナタン Mastix.
 五倍子 Gallae Japonicae.
七葉樹植物亞族 Aesculinae.
古加樹科 Erythroxylaceae.
 コカ葉 Folia Coca.
遠志科 Polygalaceae.
 セウカ根 Radix Sauegae.
 キリカラ草 Herba Polygalae amarae
 遠 志 Radix Polygalae chinensis.

鼠李植物亞族 *Frangulinae.*

鼠李科 *Rhamnaceae.*

フラングラ皮 *Cortex Frangulae.*
ラムヌス實 *Fructus Rhamni catharticae.*
カスカラサグラダ *Cascara Sagrada.*

三核果植物族 *Tricoceae.*

大戟科 *Euphorbiaceae.*

蓖麻子 *Semen Ricini.*
巴豆 *Semen Tiglii.*
カスカリラ皮 *Cort. x Cascarillae.*
カイフケルビウム *Euphorbium.*
カヤナ *Kanna.*
弾力ゴム *Catalpa.*

萼花植物族 *Calyciflorae.*

繖形花植物亞族 *Umbelliflorae.*

繖形科 *Umbelliferae.*

茴香 *Fructus Foeniculi.*
アニス實 *Fructus Anisi.*
阿魏 *Asa foetida.*
アムモニアナム *Ammonium.*
ガルバヌム *Galbanum.*
コニウム草 *Herba Conii.*

アンゲリカ根 *Radix Angelicae.*

白芷 *Radix Angelicae anomala.*

胡荽實 *Fructus Coriandri.*

クミン實 *Fructus Cuminii.*

ストロベリウム實 *Fructus Petroselinii.*

カールム實 *Fructus Carvi.*

ボムボネネラ根 *Radix Pimpinelli.*

フェルランドリウム根 *Radix Phellodendri.*

レウイスチクム根 *Radix Levistici.*

イムネラトリウム根 *Rhizoma Imperatoriae.*

當歸 *Radix Bupleuri.*

川芎 *Radix Conioselinii.*

五加科 *Araliaceae.*

人參 *Radix Ginseng.*

虎耳草植物亞族 *Saxifraginae.*

金縷梅科 *Hamamelidaceae.*

ハハメリス葉 *Folia Hamamelidis.*

蘇合香 *Syrinx liquidus.*

西番蓮植物亞族 *Passiflorinae.*

蕃瓜樹科 *Papayaceae.*

パンヤ實 *Fructus Caricae.*

石榴植物亞族 *Myrtiflorae.*

石榴科 *Myrtaceae.*

石榴皮 *Cortex Granati.*

丁香 *Caryophylli.*

瑞香植物亞族 *Thymeleinae.*

瑞香科 *Thymelaeaceae.*

白瑞香皮 *Cort. x Mezerei.*

薔薇植物亞族 *Rosiflorae.*

林檎科 *Pomaceae.*

樞椀子 *Semen Cydoniae.*

薔薇科 *Rosaceae.*

玫瑰花 *Flores Rosae.*

珍珠菜科 *Spirvaceae.*

キラヤ皮 *Cortex Quillajae.*

ドリアス科 *Dryadaceae.*

蓬蘽 *Fructus Rabi Idaei.*

覆盆子 *Fructus Rabi Tokkurae.*

地榆科 *Poteriaceae.*

トナメントラ根 *Rhizoma Tormentillae.*

桃科 *Amygdalaceae.*

苦扁桃 *Amygdalus amarae.*

甘扁桃 *Amygdalus dulces.*

杏仁 *Semen Pruni americanae.*

桃仁 *Semen Pruni Persicae.*

ラウロシエラムス葉 *Folia Lauro Cerasi.*

バナナ葉 *Folia Pruni macrophylla.*

ロン花 *Flores Koso.*

莢果植物亞族 *Leguminosae.*

蝴蝶形科 *Papilionaceae.*

カラバル豆 *Semen Physostigmatis.*

甘草 *Radix Liquiritiae.*

紫檀 *Lignum Santali rubrum.*

トラガカンタ *Tragacantha.*

キノ *Kino.*

チリサロガン *Chrysarobinum.*

ペルーバンサム *Balsamum Peruvianum.*

トルーバルサム *Balsamum toltanum.*

★ニンス根 *Radix Ononidis.*

黄耆 *Radix Astragali Henryi.*

胡蘆巴子 *Semen Faenugraeci.*

メリロー草 *Herba Meliloti.*

決明科 *Caesalpiniaceae.*

センプラ葉 *Folia Sannae.*

★ペラナム *Pulpa Tamarindorum.*

コナイバナサト *Balsamum Copalvae.*

カッシン果泥 *Pulpa Cassiae.*

ツエリトニア實 *Eriactis Ceratoniae.*
 ラタニア根 *Radix Ratanhiae.*
 フェルナムブッコ木 *Lignum Fernambuci.*
 カムベシア木 *Lignum Campechianum.*
合歡科 *Mimosaceae.*
 アラビアゴム *Gummi arabic.*
 阿仙藥 *Catechu.*
單花被植物族 *Hysterophylta.*
馬兜鈴科 *Aristolochiaceae.*
 アザルム根(細辛) *Radix Asari.*
 セルペンタリヤ根 *Radix Serpentariae.*
檀香科 *Santalaceae.*
 白 檀 *Lignum Santali album.*
合瓣花植物亞類 *Sympetalae.*
心皮同數植物族 *Isocarpiaceae.*
二角蕊植物亞族 *Bicornes.*
石南木科 *Ericaceae.*
 ウソウソノ葉 *Folia Uvae Ursi.*
越橘科 *Vacciniaceae.*
 ミネナシノ葉 *Folia Myrtilli.*
柿樹様植物亞族 *Diospyrinae.*

山欖科 *Sapotaceae.*
 グラタケルカ *Guttapercha.*
齊墩果科 *Styracaceae.*
 安息香 *Benzoi.*
心皮異數植物族 *Anisocarpiaceae.*
管狀花植物亞族 *Trubuliflorae.*
旋花科 *Convolvulaceae.*
 ヤラバ根 *Radix Jalapae.*
 牽牛子 *Semen Pharbitidis.*
 オリスノ根 *Radix Oryzihae.*
 トルネロノ根 *Radix Turpethi.*
 スカムモヒノ根 *Radix Scammoniae.*
紫草科 *Boraginaceae.*
 アルカノ根 *Radix Alkannae.*
 プリモナリノ草 *Herba Pulmonariae.*
茄 科 *Solanaceae.*
 ヌラノ根 *Radix Belladonnae.*
 スラドノ葉 *Folia Belladonnae.*
 莨菪根 *Radix Scopoliae.*
 莨菪草 *Herba Scopoliae.*
 曼陀羅葉 *Folia Stramonii.*
 曼陀羅華子 *Semen Stramonii.*

ロヨソ草 *Herba Hyoscyami.*
 ロヨソ子 *Semen Hyoscyami.*
 シルカマラ莖 *Stipites Dulcamarae.*
 番 椒 *Fructus Capsici.*
 烟草葉 *Folia Nicotianae.*
 酸醬草根 *Radix Alkekengi.*
唇形花植物亞族 *Labiatiflorae.*
唇形科 *Labiatae.*
 ラヘンデマ花 *Flores Lavandulae.*
 薄荷葉 *Folia Menthae.*
 サルフィア葉 *Folia Salviae.*
 迷迭香花 *Flores Rosmarini.*
 メリッサ草 *Herba Melissa.*
 ヒソクノ草 *Herba Hysopsi.*
 ナーメノ草 *Herba Thymi.*
 セルビルノ草 *Herba Scorpilli.*
 パチユリ葉 *Folia patchuli.*
 黄 耆 *Radix Senticellariae.*
 菊 芥 *Herba Nepetae.*
玄參科 *Scrophulariaceae.*
 デキタリス葉 *Folia Digitalis.*
 ウエルバスキウム花 *Flores Verbasci.*
 グラチオラ草 *Herba Gratiolae.*

地 黄 *Radix Rehmanniae.*
紫葳科 *Bignoniaceae.*
 胡 麻 *Semen Sesami.*
車前科 *Plantaginaceae.*
 車前子 *Semen Psylli.*
旋振花植物亞族 *Contortae.*
木犀科 *Oleaceae.*
 オリーブ實 *Fructus Olivae.*
 マンナ *Maanna.*
龍膽科 *Gentianaceae.*
 ゲンチアナ根 *Radix Gentianae japonicae.*
 龍 胆 *Radix Gentianae.*
 當 藥 *Herba Swertiae.*
 睡菜葉 *Folia Trifolii fibrini.*
 センタウリウ草 *Herba Centaurii.*
馬錢科 *Loganiaceae.*
 番木鱧子 *Semen Strychni.*
 イグナチウス豆 *Semen Ignati.*
夾竹桃科 *Apocynaceae.*
 ストロファンノ子 *Semen Strophantii.*
 タコアラヒノ皮 *Cortex Quebracho.*
白前科 *Asclepiadaceae.*

生薬学卷上終

- コナンチランナ皮 *Cortex Condamungo*.
- 牛皮消根 *Radix Gynochi*.
- 鐘状花植物亞族 *Campanulaceae*.
- 桔梗科 *Campanulaceae*.
- 桔梗 *Radix Platycodi*.
- 山梗菜科 *Lobeliaceae*.
- ロベリア草 *Herba Lobeliae*.
- 瓜 科 *Cucurbitaceae*.
- コロンボト実 *Fructus Colocynthis*.
- アリオニア根 *Radix Bryoniae*.
- 茜草植物亞族 *Rubiaceae*.
- 茜草科 *Rubiaceae*.
- 茜草根 *Radix Rubiae*.
- ニシキイロ豆 *Semen Coffea*.
- 吐根 *Radix Ipecacuanhae*.
- キナ皮 *Cortex Chiniae*.
- ガムビル 阿仙薬 *Gambir*.
- 山梔子 *Fructus Gardeniae*.
- 忍冬科 *Cayrioliaceae*.
- 接骨木花 *Flores Sambuci*.
- 忍冬 *Herba Lonicerae*.
- 攢集花植物亞族 *Aggregatae*.
- 敗醬科 *Valerianaceae*.
- 顯草根 *Radix Valerianae*.
- 菊 科 *Compositae*.
- アルニカ根 *Radix Arnicae*.
- アルニカ花 *Flores Arnicae*.
- 苦艾 *Herba Absinthii*.
- 艾根 *Radix Artemisiae*.
- カミレ花 *Flores Chamomillae*.
- 羅馬カミレ花 *Flores Chamomillae romanae*.
- フアルフアラ葉 *Folia Furfureae*.
- カルドベネキヤト草 *Herba Cardui benedicti*.
- 除蟲菊 *Flores Pyrethri Dalmatini*.
- 蒲公英 *Herba Taraxaci*.
- 毒高菅 *Herba Iactuosa virose*.
- シナ花 *Flores Cinae*.
- 土木香根 *Radix Helonii*.
- 善草 *Herba Milifolii*.
- カレンヤラ花 *Flores Calendulae*.
- 紅藍花 *Flores Carthami*.

生薬学上卷索引

イスラント苦 イリス根 印度大麻草	ろノ部 露西亞甘草 ロツゲウイ ロベリア草	はノ部 參角 白朮根 白朮根 匈牙利國產大黃 白瑞香皮	にノ部 日本大黃 日本クワツシヤ	ほノ部 蒲公英 ホドフイルム根 没食子
ベラドンナ根	ちノ部 沈香 チムス草	をノ部 龍膽 眞薑	をノ部 遠志 オノニス根 オリアツア根 折廣南桂皮	わノ部 黃蜀葵根 黃連
かノ部 カラゲイン 甘草 甘山附子 海山 義蓬 カンベシア木 廣南桂枝 カスカラザクダ皮 カスカララ皮 カルドベネキヤト草	たノ部 大附子 大黃 唐大黃 檀香 立藥香草	そノ部 蘇木	つノ部 ツエドアリア根	らノ部
うノ部 ウミナリア ウタムス根 ウタムス皮 ウタムス ウタムス ウタムス ウタムス	くノ部 クワツシア木 クエアラチヨイ皮 クイルラヤ皮 灰色キナ皮 苦艾 苦蕒	やノ部 ヤラツバ根	けノ部 ゲンチアナ根 ゲルセミウム根 牽牛子 桂皮	ふノ部

2561-

● 藥學博士 下山順一郎著
改正 日本藥局方註解 增補 第五版 全一冊
正價金五圓六拾錢
小包料 金參拾錢

● 藥學博士 下山順一郎編著
製藥化學 增補 第十二版 全三冊
正價金四圓五拾五錢
小包料 金貳拾四錢

● 藥學博士 下山順一郎 藥學博士 小山哉校閱
製藥化學新篇 增補 第三版 全一冊
正價金貳圓五拾錢
小包料 金拾八錢

● 藥學博士 下山順一郎編著 柴田承桂參訂
藥用植物學 增補 第十三版 全一冊
正價金貳圓貳拾錢
小包料 金拾貳錢

● 藥學博士 下山順一郎 藥學博士 小山哉校閱
藥品製鍊法 增補 第二版 全一冊
正價金壹圓五拾錢
小包料 金拾二錢

● 藥學博士 下山順一郎校閱 藥學博士 慶松勝左衛門譯述
重量分析實驗指導 全一冊
正價金四拾錢
小包料 金八錢

● 藥學博士 下山順一郎 藥學博士 池口慶三同著
日本藥制註解 全一冊
正價金參圓六拾錢
小包料 金拾八錢

● 藥學博士 下山順一郎 藥學博士 山田董 藥學博士 小山哉纂譯
插註第五改正獨逸藥局方 全一冊
正價金貳圓五拾錢
小包料 金拾八錢

終